年末年始の格闘技&プロレスを徹底特集!!

kamipro 紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING

enterbrain MOOK

2009
131

特別定価 940yen



UFC参戦の真実を咆哮三昧!!
ロングインタビュー
石井 慧

キモ強は日本格闘技界を救う!
青木真也×北岡 悟

マット界に男が足りない!
ジャンルを背負える男、出てこいや!!
特集 おまえ男だ!

田村潔司にとっての桜庭和志戦
石井元館長マット界再生論
谷川貞治2009年リベンジ宣言
前田日明 孤独なダンディズム
髙田延彦 団体エースの生き様
天龍源一郎 人生を預かる男
吉田秀彦 柔道界の豪傑
亀田史郎「亀田家の流儀」
掟ポルシェ×杉作J太郎の男道指南
梨本勝の芸能界男気列伝
大槻ケンヂ×マッスル坂井

2009年は"世界最高峰"争奪戦だ!
夢を求めるなら
世界と勝負しろ!!

発表!
kamipro大賞
2008

対談」
今津嘉章
の側」
は!?
08
こ☆雄一郎



扱いブランド：ATAMA / BADBOY / BRAZIL COMBAT / BRAZILIAN FIGHT WEAR / BRAZILIAN TOP TEAM / BULL TERRIER
UTEBOXE / WAND / CLINCH GEAR / DRAGAO / Evolution fight wear / GAMENESS / GRACIEBARRA / KEIKORACA / KF
RAL / KRUGANS / MANTO / MMA GEAR / NAJA / NO GI / OTM / OUANO / 10th Planet / RAGS / PRIDE / Storm Strong
ON / VENUM / Vitamins&Minerals / VULKAN / WAR / Warrior Wear / etc....

プロ格闘家になりたい、体力を付けたい、運動不足解消、シェイプアップ、楽しく格闘技を習いたい...
様々な目的の方が本場ブラジルの格闘技を学べる格闘技ジムが新規オープン！

ブルテリア格闘技ジム

ブラジリアン柔術・総合格闘技・グラップリング・キッズ格闘技



60畳のマットスペース、更衣室完備、冷暖房完備、シャワー完備、ウェイトトレーニングルーム完備、駐車場完備

問い合わせはこちら **053-433-7971**
〒431-3114 静岡県浜松市東区積志町496-1-2F http://www.b-j-j.com/gym
営業時間：平日18時～23時、土曜日13時～20時 休館日：日曜、祝日

kamipro

2009 No.131 CONTENTS

表紙写真／タイコウクニヨシ

全64ページ"男"だらけ!!
特集 おまえ男だ!



MMA&PRO-WRESTLING

OTOKO

kamipro Special

Columns



——石井選手は『ジャングルの王者ターちゃん』がお好きなんですよね？



慧

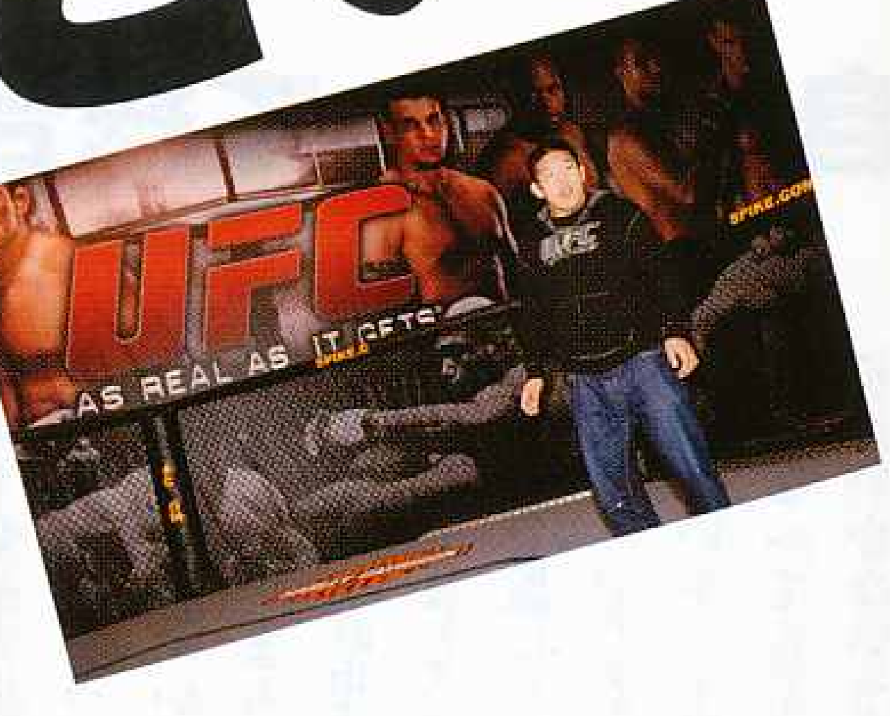
ロングインタビュー UFC至上主義宣言

11月にプロ転向宣言後、DREAM参戦が有力視されながら、その戦場をUFCに定めた石井。年末には12.27『UFC92』ラスベガス大会に来場、ダナ・ホワイトやロレンゾ・フェティータと会談し、UFCとの契約は秒読みに入ったと思われる。しかし、ここまで石井が何を考え、どういった思いでUFC出陣を決意したか、本音の部分はなかなか語られなかったように思う。そこで本誌は石井にロングインタビューをオファー。奔放発言で知られる石井の本音に迫ってみた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／タイコウクニヨシ　写真協力／WOWOW

――石井選手は『ジャングルの王者ターちゃん』がお好きなんですよね？
石井　好きですね。自分は漫画というか、試合前にDVDを借りて観るんですよ。
――オリンピックにも持っていったんですか？
石井　はい。自分、オリンピック最終日だったんで、試合のこと考えてすごすと緊張しちゃうんで、気分転換に観てました。
――金メダル獲得前に『ターちゃん』を観てましたか（笑）。しかも『ターちゃん』に出てくるキャラクターの中で、アナベベが好きだとか？
石井　アナベベ好きですね（笑）。
――それを聞いて「石井慧は信用できる男だな」と思いましたよ（笑）。
石井　アナベベはウポポ族の最強戦士だったのに、金持ちになってハングリー精神を忘れてしまうんですよ。自分にとっての反面教師ですね（笑）。
――そういう部分も含めて、強さへの憧れっていうのは昔からあったんですか？
石井　そうですね。
――では、強さに憧れて柔道を始めたようなところもあるんですか？
石井　柔道は父親の影響で始めて。自分も柔道が好きになったし、柔道やらなかったら、自分は普通の人間なんで。そういうので柔道をやってたんですけど、やっぱり強さへの憧れっていうものはあったんで、総合格闘技に転向して、自分の人生の第一歩を踏み出せる気がします。
――柔道をやってるときは「柔道を究めたい」という気持ちと「最強を極めたい」という二つの気持ちがありましたか？
石井　最強は極める、極めないじゃないと思うんですよ。やっぱり、ルールの制限が一番少ない状態で一番強い人が最強って

ビッグマウスの石井節サク裂!!
DREAMや『戦極』は『TUF』みたいなもんです！



石井

11月
に定
イトや
れる。
か、本
ングイ
聞き手

いうことだと思うし。あと柔道は試合ではオリンピックが最高峰ですけど、柔道を究めるっていうふうになったら、選手のときはそれほど強くなかったのに、指導者では凄い人がいたり、逆に選手としてメチャクチャ強かったのに指導者には向かない人もいるんで。柔道を究めるのは、身体がそれほど動かなくなってからでもできるのかなって思ったら、いましかできないことをやろうと思いましたね。

――いましかできないこと＝総合格闘技ということですか。

石井　あとオリンピックで連覇する難しさっていうのは、凄くわかってるんですよ。相手も研究してくるし、いいコンディションを4年後にもっていかなければならないし、新しく下から上がってくる選手もいるので、凄いことだとはわかってるんです。でも、金メダル以上はないので、たとえ連覇をしても、僕から見たら現状維持になってしまう。だったら一日も早く夢に向かっていったほうがいいだろう、と。

――普通はオリンピックこそが夢で、プロに行くっていうのは、競技者引退後のお金を稼ぐ手段みたいに考えがちだと思いますけど、石井選手はそうじゃない、と。

石井　自分にとって総合格闘技っていうのは、オリンピック以上に夢のまた夢でしたから。

――オリンピックのほうが現実的っていうのが凄いですね（笑）。

石井　ただ、やっぱり総合格闘技は競技人口もまだそこまで多いわけじゃないし、新しいスポーツなんで、技術も確立されてないと思うんですよ。そこで自分が行くことによって、少しでも総合格闘技がメジャーになっていけばいいと思いますね。どんどん柔道家から総合格闘技にくる選手が増えて、ホントの意味で、格闘技の頂点になればいいと思います。

――もともと総合格闘技を意識し始めたのはいつ頃からなんですか？

石井　中学2年生ぐらいですね。

――きっかけは？

石井　ヒクソン（・グレイシー）と船木（誠勝）選手の試合をテレビで観たことですね。当時、自分も柔道をやっていて、父親が柔道の役に立つと思って「寝技をやるなら観とけ」と。



――へぇ、お父さんの勧めなんですか。そこで感銘を受けたわけですか？

石井　強さへの価値観が変わりましたね。それまでは、アンディ・フグとか、K－1戦士が一番強いと思ってたんですよ。でも、ヒクソンの試合を観て、こういう闘い方が一番強いんだなって考えをあらためました。

――それ以降は、ずっと格闘技はご覧になられていたわけですか？

自分にとって総合はオリンピック以上に夢のまた夢でした

石井　リアルタイムで観るだけじゃなくて、第1回のUFCとかもビデオ借りて観ましたね。

――MMAの歴史をさかのぼって。そうやってMMAを観ていく中で、ヒョードルがやはり別格だな、と思うようになったんですか？

石井　はい。PRIDEってどえらいヤツばかりだったじゃないですか。それをヒョードルは、あんな簡単に倒せるものなのかっていうぐらい、簡単に倒してましたから、凄いですよね。あとBJペンも凄いなって。

――ヒョードルもBJも、もともとは柔道やサンボ、柔術の選手だったのが、いまやコンプリートのMMAファイターですからね。そういった面でも参考になるんじゃないですか？

石井　僕が最初にBJペンを観たときは、柔術家だってわかんなかったです。パンチが凄くて、パンチだけでも勝ってたじゃないですか。そつがないな、柔道でいうと国士舘の柔道のような感じですね。

――ヒョードルの場合はどうですか？

石井　全部飛び抜けてるっていうか。昔の山下泰裕先生みたいな（笑）。

――怪物だなって感じですか（笑）。

石井　いったい何連覇するんだっていう。

――いつ止まるんだ、みたいな。ヒョードルと小川（直也）さんがやった試合ってご覧になりましたか？

石井　ご覧になりました。

――どうでした？

石井　いや、小川先輩も自分がホントお世話になってるんで、ここで本音を語るわけにはいかないです（笑）。

――ダハハハハ！　でも、あの小川直也が

石井慧 プロ転向の軌跡



08.10.7 母校でプロ転向報道を否定

10月5日の世界柔道団体戦を欠場。翌６日にはプロ転向が各媒体で報道されたのを受けて、石井が母校・国士舘大学で記者会見。プロ転向が宣言されるかと思いきや「将来的な希望」と、現時点でのプロ転向報道を否定した。



08.11.3 プロ格闘家転向を定式表明

10月31日に全柔連に強化指定選手の辞退届を提出し、11月３日、大阪市内のホテルで記者会見を開き「五輪で勝とうが負けようが、総合格闘技の世界に行くと決めていた」と、ついにプロ転向を正式表明した。



『石井訓』発売イベント開催

『ブックファースト』新宿店で単行本『石井訓』の発売記念イベントを開催。そのイベント後「来週ぐらいに身の回りを全部固めて、正式に闘う場所と契約したい」と、MMAで闘う舞台との早期契約を口にしたが……。

石井慧

ーになっていけばいいと思いますね。どんどん柔道家から総合格闘技にくる選手

一本負けするんだから、ヒョードルがいかにとんでもなく強いか、格闘技ファンも、一般の人もわかったと思うんですよね。

石井　自分も（ヒョードルと）やってたら、もっと早くやられるかもしれないし。だってヒョードルって、元UFCのチャンピオンを38秒ぐらいで倒しましたよね？

——ああ、ティム・シルビア戦ですね。

石井　あれ、凄くないですか？

——とんでもなく凄いですよ。

石井　ノゲイラとか倒すのに凄い時間かかってたじゃないですか。その選手があんなふうにやられるっていうのは……。

——小川さんがやられても仕方がない、と（笑）。

石井　極端に言えば、柔道で強くてもなんにもならないですからね。総合格闘技は総合格闘技の技術がなければ勝てませんから。

——PRIDEがあった時代ってPRIDEに憧れたりしたんですか？

石井　超憧れてたっス。ミルクコップとかすげえなって。

——ちょっと名前が違いますけど（笑）。逆に自分が闘ったらとか、そういう目で観たりしました？

石井　いや、こええなって感じでしたね。ミルクコップとかヒョードルとやるんだったらノゲイラとやったほうがまだいいなとか。

——ガハハハハ！　ノゲイラなら、まだ痛くなさそうだとか（笑）。

石井　ミルクコップとか、ヒョードルとやった人は、みんなひでえ目に遭ってますからね。

ました。

——それ以降は、ずっと格闘技はご覧にな

——石井選手がPRIDEに憧れたっていうのは、やはりPRIDEが一番強い選手が集まっていて、最高峰だったからですか？

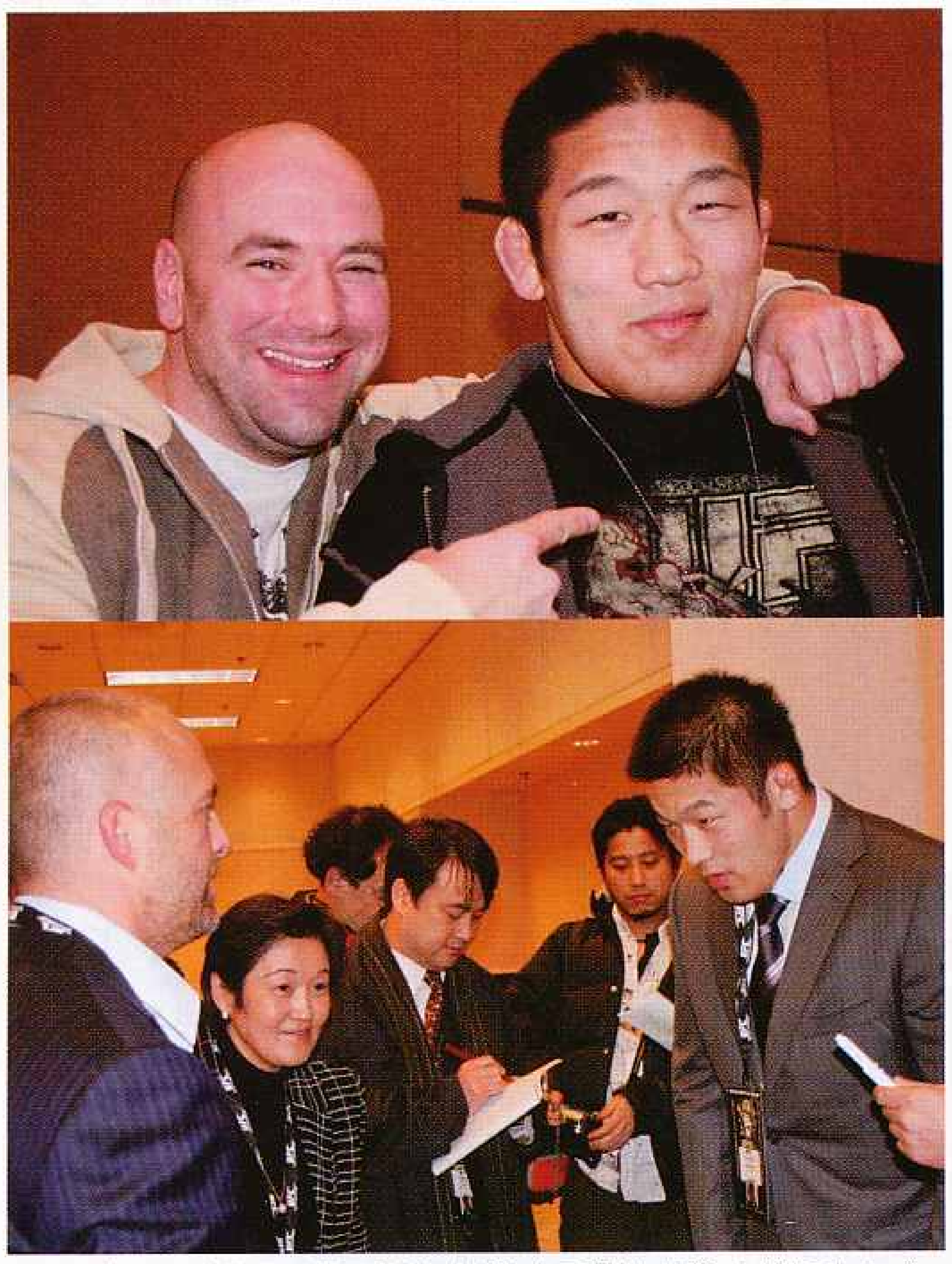
石井　そうですね。

——では今回、プロ転向を表明してから、主戦場としてDREAMや『戦極』が噂される中、最終的にUFCを選んだのも、いまの最高峰がUFCだからということですか？

石井　もともと自分はUFCに行きたいっていうのがあったんですよ。でも、ちゃんと契約してから「UFCに行きます」って言いたかったんですけど、某新聞社がですね、僕が「夢を追います」って答えただけで「DREAM参戦」とか書いてしまって。

——なぜか「夢」だけ英訳されて（笑）。

石井　だから、これ以上引っぱると迷惑がかかると思って（UFC参戦を）表明したんですよ。



12.27『UFC92』ラスベガス大会に来場した石井は、"ご主人様"ロレンゾ・フェティータ、ダナ・ホワイトと対面。1月から一カ月間、ランディ・クートゥアーのジムで練習することを提案された。

にはいかないです（笑）。

——ダハハハハ！　でも、あの小川直也が

——もう最初から一番強い選手が集まるところに行くつもりだった、と。

石井　自分は柔道時代から強い人とやるのが好きだったんですよ。だから、いまもMMAで強い人と練習すると嬉しくてわくわくするし、痛いパンチをもらっても全然気にならないというか、痛くて苦しいけど嬉しい。それぐらい強い人とやってみたいというのがありますね。

——強い人とやることで、自分も強くなりたいというか。

石井　でも、強い人に勝つには、その人以上の練習をしないと柔道時代も勝てなかったんで。やっぱり強くなるためには稽古しかないと思うし。勝つためには研究するしかないんですよ。

——では、練習の拠点をアメリカに移すと決めたのも、やはり一番強い人が集まってて、一番強くなれる環境が揃ってるからですか？

石井　それもあるし、言葉の通じないところで、精神的にも強くなれると思うし。やっぱり自分は格闘技を始めるのが遅いので、昔からやってる人に勝つには、それ以上の稽古をするしかないんですよ。

——22歳でも遅いですか？

石井　やっぱり総合格闘技をずっとやってた人よりは遅いですよ。自分は中1から柔道を始めたんですけど、柔道も早く始めたほうが強くなるわけじゃないですか。いま、自分は岡見（勇信）さんとか、長南（亮）さんとかに日本で練習つけてもらってるんですけど、そういう人たちに追いつき追い越すためには、やっぱりその人たち以上に練習しなきゃいけないんですよね。それを練習をするためにはアメリカに行くしかないんです。

——そして実際、年末にはラスベガスにあ





08.11.29 澤田のセコンドでIGFに登場

石井が初めてプロレス会場に登場！ IGF名古屋大会に小川直也の弟子である澤田敦士のセコンドとして来場し、リング上で澤田とガッチリ握手を交わしたが、ノーコメントで会場をあとにした。



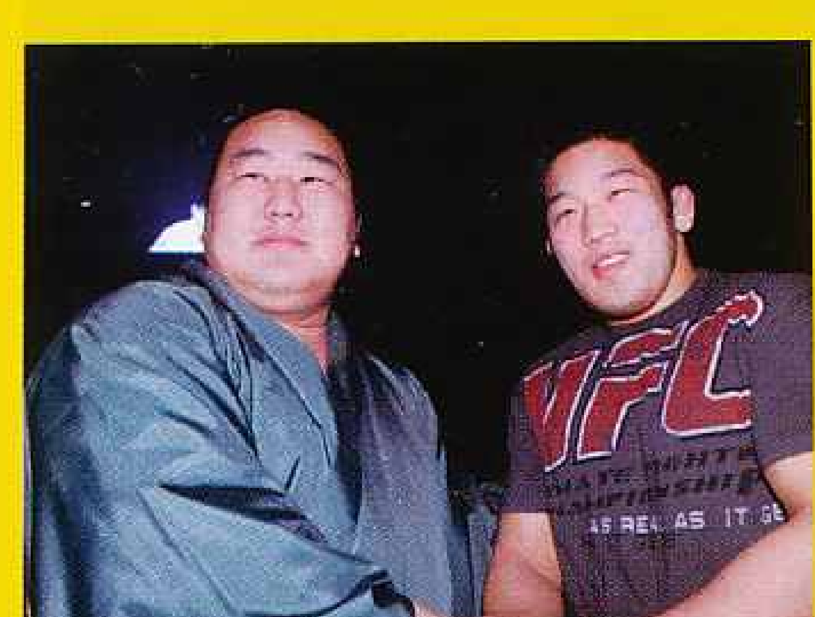
08.12.17「プロレス大賞」授賞式に出席

新人賞を受賞した澤田の祝福のために、プロレス大賞授賞式に出席。MVP受賞者・武藤敬司との対談も実現し、武藤に対して「UFC出場に向けて動いている」と、自分の行き先を明かした。



08.12.30『ハッスル』で場外乱闘に加担

12.27『UFC92』から帰国後すぐ、『ハッスル・マニア』に来場。練習で世話になった小路晃によく似た、小路二等兵の応援で訪れ、場外戦になるとKUSHIDAに逆水平チョップをお見舞いした。



『戦極』で朝青龍に宣戦布告？

1.4『戦極の乱』に"ヒクソンのテーマ曲"で登場。リング上からUFCに出場したい旨をファンに報告後、「いつかこのリングで横綱と闘いたい」と、リングサイドの朝青龍に宣戦布告（？）を行なった。

石井慧

「柔道は捨てた」と言いながら、柔道の実績であぶく銭を稼ぐわけにいかない

るランディ・クートゥアーのジムを訪れたわけですけど、どうでしたか?

石井 ハンパなかったすね。

――何に一番驚きました?

石井 設備もそうですけど、練習相手とかコーチが何人もいますよね。日本だと、たとえば寝技はこの人のところとか、打撃はこの人のところって、いろんなジムを回らなきゃいけないじゃないですか。でも、アメリカだと一カ所で全部練習できるんですよ。しかも、みんな身体も大きいし、力も強いし。自分が日本で軽い選手と練習やったりすると、技術はないのに力や体幹でできちゃったりするんですよ。

――小さい人が相手だと、いまの自分の力でなんとかなっちゃう部分がやっぱりある、と。

石井 そうなると、技が上達しないので、力が強くて大きい選手がいるところでやるのがいいと思うし。

――目標はヘビー級のトップを倒すことですから、そのためには常にヘビー級相手に練習しなければいけないってことですよね。ちなみに、いま英語はどれくらいしゃべれるんですか?

石井 英語はしゃべれないです。でも、向こうに滞在してたらけっこう覚えると思うんですよ。柔道のとき、よく海外に行ってて、2カ月ぐらい滞在したこともあるんですけど、けっこう流暢にしゃべれるようになりましたからね。帰国したらすぐ忘れちゃいましたけど。

――ダナ・ホワイトからは、まずリアリティショー『TUF(ジ・アルティメット・ファイター)』からやることを勧められてましたけど、さすがに言葉が不自由な中で合宿生活はキツくないですか?

石井 でも、「やれ」と言われればやりますよ。自分は向こうと契約するわけだから、あとは煮るなり焼くなり好きにしてもらっていいし。契約した時点から、自分はロレンゾさんとデイナさん(ダナ・ホワイト)のイエスマンなんで。

――石井慧がイエスマンになっちゃいますか(笑)。

石井 もう「イエッサー」しか言わないんで。だから「出ろ」って言われたらどこでも出ますし。その代わり、強くなる環境を与えてくださいってことです。

――じゃあ、いまのところ誰とやりたいとか、いつデビューしたいという考えはないわけですか。

石井 もうデイナさんにお任せします。もう自分は向こうの選手になるわけですから。たとえばミルクコップは、PRIDEから何試合契約とかでUFCに行っても、DREAMという帰る場所があったじゃないですか。あれは要するにDREAMの選手というか日本の選手なんですよ。でも、自分はもう最初からUFCに行って、UFCだけでいこうと思ってるし、UFC以外に立とうとも思わない。だからたとえば、何年かあとに、かつてのミルクコップみたいな人がUFCに来るかもしれませんよね?

――ほかのところで名を上げた強豪が。

石井 そうそう、「俺に敵うヤツはもういねえぜ」とか言って。そのとき、ロレンゾさんとかデイナさんが「おう、石井いけ!」ってゴーサインを出したら、自分はその外敵を叩きのめす、と。いわばロレンゾさんとデイナさんのグラディエーターになろう、と。

――ガハハハ! UFC首脳は王様で、自分は剣闘士ですか(笑)。

石井 ときには日本にも送り込まれて。車でいえばレクサスとかインフィニティみたいなもんですね。そんな感じですよ。

――野球でいうと、日本プロ野球で育ってメジャーに行くわけじゃなくて、高校卒業から即純粋培養のメジャーリーガーになりたいというか。

石井 自分は日系アメリカンになりますから。ネイティブアメリカン、嘘つかないから。

――何を言ってるんだ(笑)。でも、最初に日本で経験を積んでからUFCに行くという考えはなかったんですか?

石井 日本で経験を積むって、DREAMとか『戦極』ってことですよね?

――そうですね。

石井 でも、経験を積むために闘うなら、それが向こうの『TUF』みたいなもんですから。どっちにしても、いきなりUFCに出れないんだから、UFC系列のところからやるのが普通じゃないかと思うんですけどね。

――でも、もらえる金額って日本のほうが……。

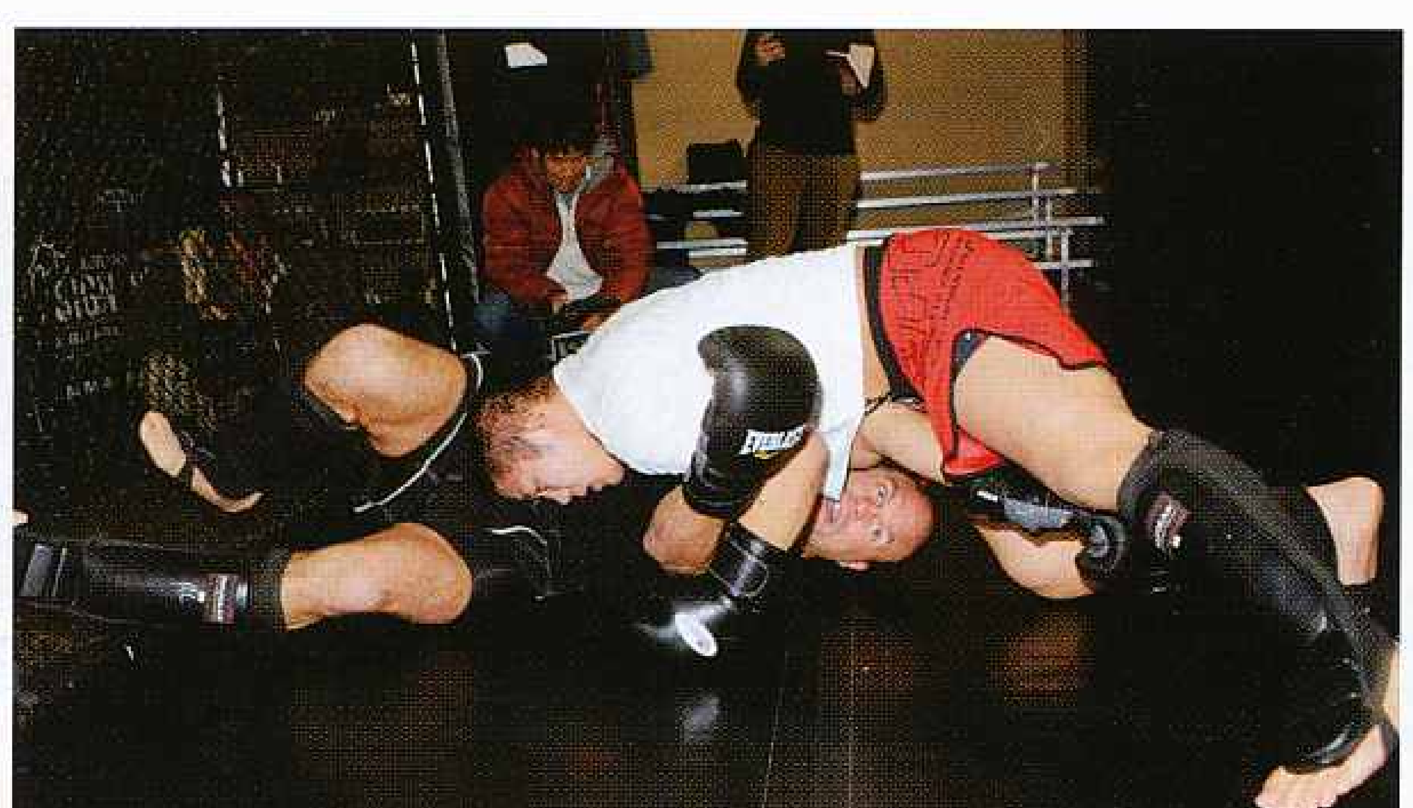
石井 いいですね。

――『TUF』とDREAMや『戦極』じゃ、ゼロが一つか二つ違うぐらい大きな違いですよね。そこで揺れることはなかったんですか?

石井 揺れないですね。グラディエーターですから。主人に「行け」と言われたら行こうとする男ですから。要するに土佐犬なんですよ。

――契約前から土佐犬(笑)。でも、プロのファイターなんだから、もちろんお金も大事ですよね?

石井 もちろんプロになったら、そういう話は出てきますよね。でも、最初は日本のほうがもらえたとしても、長い目で見ればアメリカにはアメリカンドリームっていうのがあるんで、自分がトップに立てば全然違う価値観や、もっと素晴らしいものが手に入るし。それにもし、いま自分が日本で多額の契約金やファイトマネーを提示されたとしても、オリンピックの肩書きでもらってるだけじゃないですか。そしたら自分は周りの人に「金メダルは捨てた」って言いながら、柔道や金メダルを使って、あぶく銭を稼いでること



12月27日、ランディのジムを訪れた石井は、いきなりランディ本人とMMAのスパーリングで手合わせをお願いした。これで実際に肌を合わせたランディが、ダナ・ホワイトに石井を推したという。

「柔道は捨てた」と言いながら、柔道の実績であぶく銭を稼ぐわけにいかない

ゼロが一つか二つ違うぐらい大きな違いですよね。そこで揺れることはなかったんですか？

ら自分は周りの人に「金メダルは捨てた。柔道は捨てた」って言いながら、柔道や金メダルを使って、あぶく銭を稼いでることになるじゃないですか。

―確かに、MMAファイターとしての評価額じゃないですよね。

石井　そうなんですよ。ハッキリ言えば、自分がUFCから支払われるお金だって、MMAファイターとしてだけのお金じゃないと思いますよ。柔道の金メダルあっての契約だとは思うんですよ。でも、自分はホントにUFCに出たいんで、そのためには、まったく違う団体であるDREAM、『戦極』に行くんじゃなくて、最初からUFC一本でやっていったほうがいいと思ったんです。そうやってご主人様との信頼関係も作っていって、そこの選手になって盛り上げていこうとすれば、ロレンゾさんたちも絶対育ててくれると思うんで。

―青木真也選手は「DREAMの大黒柱になる」って言ってますけど、石井選手もUFCに対してそういう気持ちがあるわけですね。

石井　いや、自分は大黒柱じゃなくてグラディエーターですから（笑）。

―その〝ご主人様〟は石井選手のことをライトヘビー級でやったほうがいいと言ってますけど、ヘビー級志向の強い石井選手としてはそのへんはどうなんですか？

石井　それは、やってみないとわかんないですよね。練習をやってみて決めます。まあ、ライトヘビー級でもヘビー級に勝つ選手もいるし、自分は柔道でも最初は100キロ以下級だったんで、途中でヘビー級に転向してもいいいかなって。まあ、いずれご主人様にヘビー級で「ゴー！」って言ってもらえるようになったら、ブロック・レスナーにドロップキックを食らわせたいですね（笑）。

―二階級制覇を目指してもいいいわけですしね。

石井　実際、ランディ・クートゥアーさんは二階級制覇してますからね。

―もう今月から練習の拠点をアメリカに移すつもりですか？



いしい・さとし■1986年12月19日、大阪府出身。中学から本格的に柔道を始め、04年に高校生ながら講道館杯全日本柔道体重別選手権大会100kg級優勝。06年には史上最年少19歳4カ月で全日本選手権優勝。08年、北京オリンピック柔道100kg超級で金メダルを獲得。個性的な放言も相まって、国民的なスターとなり、同年11月にプロ格闘家転向を正式表明。UFCでのデビューを目指している。柔道五段。

石井　そうですね。

―練習場所はどこを考えてますか？

石井　やっぱりランディ・クートゥアーさんのところには行きたいですね。UFCは最初、自分にそんな興味はなかったみたいなんですけど、クートゥアーさんが自分とスパーリングをやったあと、自分のことを推してくれたみたいで、その恩義もあるし。恩返しをしたい気持ちと、教えてもらいたい気持ちがあるので、ランディさんのところに行きたい気持ちもあります……

―けれども！

石井　けれども（笑）。

―けれども、自分が一番強くなれるところで練習したいんで、ゆっくり決めていきたいと思います。

―どこでやるにせよ、一カ所で集中的にトレーニングするつもりですか？

石井　一つのチームでやります。やっぱり、いろんなところにちょっとずつ行ったって、コーチとの信頼関係がないと、ホントの〝必殺技〟は教えてもらえないと思うんですよ。それに自分自身、付け焼き刃の器用貧乏になってしまうんで、しっかり一カ所で〝必殺技〟を身につけたいですね。

―自分のことをちゃんと考えてくれるパートナーと、信頼関係の中で自分を完璧に作り上げる、という感じですね。

―このあいだ初めてUFCの会場（12・27『UFC92』ラスベガス大会）に行ってみて、どうでしたか？

石井　雰囲気が凄いですね。日本とは全然違いますね。

―会場にいるだけで興奮してくるような。

石井　そうですね。

―一番印象に残った試合はなんですか？

石井　ヴァンダレイ・シウバの試合ですね。試合内容もそうなんですけど、入場曲もヴァンダレイに合ってて、いいなって思いましたね。やっぱり、ああいうお客さんも自分も盛り上がる曲っていいですね。

―自分を鼓舞するような。

石井　はい、入場曲一つでやっぱり変わってくるじゃないですか。

―じゃあ、石井選手も自分に合った曲を選んで入場したいですか？

石井　燃えられる曲がいいですけど、それもロレンゾさんに「これにしろ」って言われたらそれにします（笑）。

―ガハハハハ！　イエスマンとしては（笑）。でも、日本人ということで、やたら和風なテーマ曲とかになるかもしれないですよ。

石井　もう忍者の格好で入場でもなんでもやりますよ。「腹切れ」って言われたら切りますから（笑）。

―そこまで従順ですか（笑）。

石井　でも自分はレゲエのドクタープロダクションのHIBIKILLAさんって人と友好関係を結んでるんで、その人がいま自分の入場曲チックな曲を作ってくれてるんです。できれば、それで入場したいですね。レゲエが好きなんで。

―じゃあ、それがかけられるように頑張るしかないですね。

石井　はい。それで入場できるぐらい勝ち続けたいですね。そして、ランディ・クートゥアーさんよりも長く現役やって。50歳手前ぐらいかな、今度はジャマイカに渡ってレゲエのミュージシャンの修行を積みます。

―もうすでに50歳からの目標がありますか（笑）。

石井　そのまま生涯現役でいきます！

―レゲエミュージシャンとして生涯現役（笑）。まずは次の目標のUFCチャンピオン目指して頑張ってください！

【09年1月6日／都内・某フォトスタジオにて収録】

DREAMの大黒柱

青木真也

世界で一番図に乗ってる対談

『戦極』ライト級王者

北岡悟



年末年始、日本の格闘技界で
最も輝いた盟友による対談

北岡　そうだね。でも、致命的にムカつくことは言ってこないから。イラッとすることはあっても、嫌いになるほどのことは

んが、なぜかビートたけしのモノマネをしてたんで、深層心理でマッハさんのことが頭から抜けなかったんです。

年末年始、日本の格闘技界で最も輝いた盟友による対談

大晦日の『Dynamite!!』でエディ・アルバレスから鮮やかな一本勝ちを奪った青木真也と、1・4『戦極の乱』で五味隆典を電光石火でタップさせた北岡悟。ともに足関節技を得意とする両者はスパーリングで切磋琢磨し合う間柄でもある。キモさと強さが同居して、なおかつ勝ち方まで似てる両者の対談をお届けしよう！

聞き手／ジャン斉藤　撮影／梅木麗子　試合写真／乾真也、丸山剛史

――今日は世界で一番、図に乗ってるというお二人の対談が実現しました！

北岡　（即座に）ボク、図に乗ってないんですよ。

――え？　それはずいぶんと意外ですね。

北岡　ええ。全然、図に乗ってないですよ。

青木　ボクも図に乗ってませ～ん！

――あ、絶対に図に乗ってる。

北岡　こいつは逆に〝図に乗ってるキャラ〟をやってるんです。

――それはそれでタチ悪い（笑）。

北岡　でも、青木は実際に強いから図に乗っていいんじゃないですか？　これで弱かったらイヤですけど。彼が図に乗らなければ誰が図に乗っていいんだって感じだと思うんで。

――青木さん、おそらくほめられてます（笑）。

青木　よかったぁ！　強くて（笑）。

――青木さんから見て北岡さんは図に乗ってる感じはします？

青木　乗ってないでしょ。

――先輩ということで遠慮してます？

青木　遠慮はしてないです、困ったことに。

――たまには困りましょうか。

青木　ボク、そんなに遠慮しないですよね？



08.12.31 Dynamite!!
スタンドではアルバレスが攻め込むが青木は下から足関節を取りタップを奪う。この勝利で青木を世界ランキング1位にする海外のサイトも。



09.1.4 戦極の乱2009
『PRIDE武士道』で中軽量級を牽引して一時代を築いてきた五味から同じく足関節で勝利。北岡は初防衛戦での再戦を即座に要求した。

北岡　そうだね。でも、致命的にムカつくことは言ってこないから。イラッとすることはあっても、嫌いになるほどのことは言ってこないんで。そこんところはわきまえてるんだと思いますよ、頭いいから。

――でも、イラッとすることは言ってくるわけですよね？

北岡　軽くは。でも、べつにしょうがないと思えるような範囲なんで。だから何度も言うんですけど、強いからOKじゃないですか。これで弱かったら許されないですけど。強いからこそ許されてると思うし、彼もそれは重々わかってると思うし。そういうことです。

青木　よかったぁ！　強くて（笑）。

北岡　パンクラスの後輩とかでも強かったら多少は許しますからね。でも、頑張ってもなくて調子に乗ってるっていうか、わきまえてないヤツはムカつきますからね。そういうヤツは嫌いですから。

青木　でも、ボク、あまりハメ外してないと思うけどな。

北岡　ハメを外すというか、試合後のはしゃぎっぷりはハンパないよ。ボクよりも青木のほうがはしゃぎっぷりは凄いですよ。

青木　ちょっと待ってくださいよ！　そうなんですか？

北岡　とくにこないだのアルバレス戦ね。絶叫絶叫で。引き揚げるときに魔裟斗選手とすれ違ったんですけど、苦笑いしながらこっち見てたから「後輩がすいません！」みたいな感じで頭を下げて。

青木　「なんだよこのキ●ガ●」みたいなリアクション？（笑）。

北岡　優しい笑顔で首を振ってたけどね。あと、青木は最後になぜかコマネチポーズをしてましたしね。

青木　あれは試合後のマイクでマッハさんが、なぜかビートたけしのモノマネをしてたんで、深層心理でマッハさんのことが頭から抜けなかったんです。

――ところで最近、青木さんはいつも北岡さんの映像を観てると聞きましたが。

青木　そう！　ニコニコ動画で毎日観てます。たぶん、世界で一番北岡さんの映像を観てるのはボクですよ！

北岡　ああ、そう（笑）。

青木　観ない日はないですから。五味戦だけ観ればいいのに、ガマンできずにクレイ・フレンチ戦とかイアン・シャファー戦とか全部観ちゃう。で、気づくと1時間ぐらいすぎてるんです。北岡さんのせいで、ニコ中ですよ！

北岡　それは俺のせいじゃないだろ。

――北岡さんはニコニコ動画で自分の試合なんかはご覧になってるんですか？

北岡　観ますね。

――観るんだ（笑）。

北岡　まだ映像が手元に入る前の話ですけどね。もう映像が手に入ったんで、昨日は寝る前に4回ぐらい観て、今日も起きてから5回ぐらい観ました。

――……な、なんでそんなに確認してるんですか？　それは幸福を噛みしめるために？

北岡　いや、いろいろ確認ですね。「どんな感じだったのか？」っていう。で、次はどうしようかなあ、と。

――ニコニコ動画だと、「キモい」とかひどいコメントがいろいろと書かれてるじゃないですか？　それは気になりませんか？

北岡　コメントはたまに怖いもの見たさで観たりもするけど、基本的には消して観てますね。

青木　マジッスか？　ボクは消さないですね。「おーっ、みんなこんなに反応して



北岡さんの入場は一種の麻薬なんです
もっとほしくなっちゃうんです（青木）

くれてるじゃねえか！　よしよし！」って。北岡さんへのリアクションも凄いですよ！

北岡　だから消してるんだよ！　でもさ、こないだサムライTVに出て、キャスターの女の子に「今回の入場イマイチでしたね」みたいなことを言われて、「え、あれで？」って驚いて。もう完全に振りきってるのに。

青木　もう自分でコントロールできないところまできてるのに。

北岡　そう、それでもの足りないとか言われたらもう……。

青木　やっぱね、北岡さんの入場は一種の麻薬なんですよ。こっちはもっとほしくなっちゃうんですよ！　きっとその女の子ももっと凄いのがほしいんです!!

――クククク。

青木　あれはみんな絶対に見入っちゃうもんな～。

――北岡さんは、五味戦の前に大晦日に青木さんのセコンドにつかれたじゃないですか。青木さんの勝利はかなり刺激になりました？

北岡　いや、べつに（あっさり）。

――ないんだ（笑）。

北岡　「ない」っていうか、もうボクは青木が勝つって予想してたんで。青木が勝った瞬間に中井（祐樹）先生が泣いて喜んでたんですけど、「こんなもんですよ」みたいな。

青木　北岡さんね、けっこう冷たいんですよ（笑）。

北岡　ボクはね、青木のやったことは立派なことだと思うんですけど、初めから勝つと思ってたし、みんなが思うよりエディ・アルバレスのことを強いとは思ってなかったんで。青木は尋常じゃなく強いと思ってますけど。だから青木が勝つのはあたりまえだと思ってたんで。青木のやった仕事をクサすんじゃなくてね。

青木　はい、わかってます。

北岡　だから青木が、俺が五味選手に勝つと思ってたのと同じようなもんじゃないですか？



北岡は青木の試合のセコンドに必ずついて冷静かつ熱い檄を飛ばす。両者ともに認め合っているが実力はもちろん、格闘技に対する姿勢の部分に非常に似たものがある。

青木　そうですね、それは感じますね。

――北岡さんは試合前から勝つ気マンマンの物言いでしたもんね。五味さんにけっこうヒドイことを言ってたじゃないですか。

北岡　そうですか？

青木　あれはね、たぶんプロとしてわざと見せてる感がありました。ただ、ボクは北岡さんと同じ考えだから、あんまりビックリしなかったですね。ボクが思ってる「格闘家としてのあり方」が普通に文字になっただけなんで。BJペンも似たようなことを言ってたじゃないですか。

北岡　五味選手もそこはわかってたんだと思うよ、たぶん。

青木　確かに、負けたときもそこまで「悔しい！」って感じがしないじゃないですか。なんかわかってるのかなと思いましたけどね。

北岡　だからこそ、最後の呼びかけはちょっとよけいだったかなとは思いますけど。

――まあ、終わったばかりだと興奮状態も醒めやらぬ感じですからね。三崎さんも魔王に説教してますし（笑）。

北岡　敗者にかける言葉はなしでしたっけ？　俺も『戦極』のチャンピオンにならせてもらったわけで。いま日本のマスリングで日本人のチャンピオンってじつは俺だけだから、ジャンルを代表する選手にならせてもらったというか、そういう部分もあるから、そういう意味では考えなきゃいけないなとは思います。

――各方面からジャッジされるわけですもんね。

青木　ボクはそのへんのことはあんまり考えてない。

――だから素っ裸でDEEPジムをウロウロできるんですね（笑）。

北岡　「考えてない」って言うことによって楽してるだけで、じつは考えてますよ。ちゃんと考えてると思います。

青木　テヘッ！

――さすが盟友、よく理解してますね。

北岡　でも、友だちじゃないですよ。青木も『格通』かなんかで言ってたとおり、NTT（ニホン・トップ・チーム）とかいってるけどべつにチームじゃないんで。

青木　そう！　練習会ですもんね。

北岡　仲良しこよしじゃないんですよね。〝盟友〟って表現を最近よくされ始めてるんですけど、その言葉は適してると思います。同盟みたいなもんで、ホント馴れ合いではないというか。強くなるためにとか、敵に勝つために、とりあえずいったん同盟を組んでるだけで。クールなもんですよ。だから二人っきりでメシとか食ったこともないですから、一度も。

青木　基本的にボク、プライベートでごは
んを食べに行こうっていうのは誰ともな
いですね。

――素っ裸でウロウロしてるとは知らず
に（笑）。北岡さん、UFCには興味ないん
ですか？

――童貞の戯言って（笑）。

北岡　いや、ホントにそうですよ。寝技を
やったことがあるヤツは、穿こうが穿くま

青木　だってボクらがたいしたことなか
ったら、全然そんなの話題にならないです
よね。ツッコミどころがなくなって、つい

青木真也×北岡悟

青木のやった仕事をクサすんじゃなく勝つのはあたりまえだと思ってた（北岡）

でたんですけど、「こんなもんですよ」みたいな。

青木 北岡さんね、けっこう冷たいんです

青木 基本的にボク、プライベートでごはんを食べに行こうっていうのは誰ともないですね。

北岡 ディスカッションは練習場でよくするんで。

青木 だからDEEPジムに来たからってべつに強くならないですからね。みんな勘違いしがちなんですけど。

北岡 ただ練習に来ても、俺たちの練習台になるだけだから（笑）。何も考えずに来ても、青木の打ち込み相手ですよ。

青木 そう、アミバですよ！

――北斗神拳ならぬ青木神拳の実験台ですか（笑）。

青木 そうなんです。「あそこ、なんかやってるみたいだぜ」ってファッションで練習に来て、それっきりっていう子がいっぱいいるんだよね。みんな来なくなっちゃうんだもん。

――いまどれぐらい来てるんですか？

青木 レギュラーは少ないですよね。

北岡 俺も試合前の追い込み練習をするときに行ってる感じなんで。きっと世の中の格闘技ファンの方々は、お友だちだと思ってると思うんですけど、違うんです。だから盟友なんですよ。薄っぺらいお友だちじゃないんですよ。ドライに見えるかもしれないけど、認め合ってる部分があるって感じじゃないかなと思いますけどね。

青木 世界と渡り合うための同盟ですよね。たぶんね、いま世界はDEEPジムの練習に興味津々ですよ！

――素っ裸でウロウロしてるとは知らずに（笑）。北岡さん、UFCには興味ないんですか？

北岡 WOWOWで放送再開してからは全部観てますけど。おもしろいですよね、やっぱり。

――出てみたい気持ちはありますか？

北岡 一度は試合してみたいですけどね。でもいまべつの仕事をいただいたから、現実的に無理だし。逆に日本に強いガイジンが来てほしいですけどね。

青木 ボクは行けるんなら行きたいですよ。DREAMの青木じゃなくて、格闘家青木真也としてはやってみたい、っていう思いはありますよ。やってみたい！

北岡 でも、現実は無理だろ。

――UFCはロングスパッツが禁止だから、別のスパッツを作らないといけないですね。

青木 そうですね、もし出るとしたら、どんな感じにしようかなって考えてるんですけど。

北岡 そういえば、ロングスパッツがズルいとか話題になってるみたいだよね。

――汗を吸収するから滑りにくいんじゃないか、と。

青木 ねぇ。あれ、なんか凄く寝技をわかってないですよね。

北岡 ろくに汗とかもかいたことないようなヤツが言ってるよね。

青木 だからあれは童貞の戯言なんですよ！

――童貞の戯言って（笑）。

北岡 いや、ホントにそうですよ。寝技をやったことがあるヤツは、穿こうが穿くまいが関係ないってことは速効わかると思うけどな。ましてや今回だって短時間で取ってるんだから、汗とかも関係ないし。

青木 でも、こうやって騒がれるのは超おもしろい！ それで話題になって、ボクの幻想がまた広まると思うと、もうワクワクしちゃうんですよ。ククククク。

――あいかわらずですねぇ。

青木 あと、この話題にどんな反応をするかで、グラップリングに関して素人かどうかがわかりますから。

北岡 うん、わかるよね。「あ、この人、いまの寝技を知らないんだ」って。

青木 だってね、スパッツ穿いても青木真也になれないし、スパッツ穿いても北岡さんになれないですから。

――滑りにくくなるっていうのは事実なんですか？

青木 たいして変わらないですよ。

北岡 変わらないですね。長い時間をかけて練習してるときとかはいいかもしれないです。あと打撲が目立たないっていうのはあるかもしれないです。でも、マイナスのこと言えば、パスガードは若干やりにくい部分とかあるし。

青木 むしろ全員、穿いてくれればわかると思いますね。

北岡 そう、穿いたらわかると思うし。ロクに穿いて練習もしたことないヤツが騒いでるんですよ。

青木 もしくはね、スパッツじゃなくて、ボクたちの技術にビビって騒いでる。それだけ凄いんですよ、俺たち！ 俺ってストロングだぜ～！（『柔道部物語』調）。

――プラス思考だなぁ（笑）。



を組んでるだけで。クールなもんですよ。だから二人っきりでメシとか食ったこともないですから、一度も。

青木 だってボクらがたいしたことなかったら、全然そんなの話題にならないですよね。ツッコミどころがなくなって、ついにイチャモンがそこにきたんですよ！

北岡 それはあるね。

青木 ほかに文句のつけようがないんですよ。「言うことない……う～ん……スパッツ！」みたいな。（突然、誌面の秋山成勲を指差して）最近この人どうなんですか？

――魔王はハワイ行ってますよ。

青木 SHIHOと！ なんかさ、どっちが勝ち組かわかんないですよね……（遠い目で）。

北岡 そんなの秋山選手に決まってるでしょ。

青木 はいっ！

北岡 あきらかじゃん！

青木 はい!!

――青木さんは芸能人と付き合いたいですか？

青木 いや、べつに。

北岡 青木はそういう趣味じゃないですもん、女の趣味が。

青木 付き合い長いんでわかってるんですよ、ボクの好きなタイプが。ボクは基本的に強くないと愛せないんで。

――は？

青木 ボクは仮に合コンがあったとしても、「おまえは強いか？」って聞くんです。「強い」って言ったら「よし！」って感じです。

――へんなの！

青木 いま頃気づきました？ ボクは強くなきゃ愛せないんで。

北岡 それ、わかりづらいよ。

青木 難しいんですよ。ボクは人が狙わないところを攻めるんです。『ドカベン』の岩鬼みたいなもんですよ。

——「夏子は～ん!」って(笑)。
青木　男・岩鬼の葉っぱに花が咲きますよ!

うやって作っていけばいいかなっていうのは。
たとえば知名度を上げたいとか、テレ

奈良県出身。ブ
ラスで活躍。07
場を決めるが、
は主戦場を「戦
級ＧＰを制し、
ライト級王者

——青木さん、DREAMの大黒柱なんですから、せめて7万円台のアパートにそろそろ引っ越しましょう!(笑)。

北岡　俺だったらもっと短い時間でもっと鮮やかに勝つと思うんで、ソツなくやって普通に勝ってもべつにインパクトも何



(突然)これから俺、『戦極』でどうしたらいいんだろう?

なんスか、突然!ボク、燃えつきたことないんですよ

青木真也×北岡悟

――「夏子は～ん！」って（笑）。

青木　男・岩鬼の葉っぱに花が咲きますよ！

北岡　何を言ってるのか全然わからない。

――そういえば、北岡さんがラブコールを送っていたRioさんって会場に来てたんですか？

北岡　テレビ東京関係者から、サイン入りの『kamipro』をもらいましたけど。

――なぜ『kamipro』にサインしてるんだ、意味がわからない（笑）。

北岡　（突然）これから俺、『戦極』でどうしたらいいんだろう？

青木　なんスか、突然！

北岡　っていうか、とにかく強いヤツとやっていこうとは思ってるんだけど。

――ある種、燃えつき症候群に陥ってるんですか？

北岡　完全にそうですね。あのテンションをまた出せるのかなっていうのはあるんですよね。

青木　出せるでしょ。

北岡　どうだろうね。

――極限まで内側から自分を燃やして高めていったがゆえの燃えつきなのかなって感じがしますね。

北岡　そうですね。けっこういろんな人に聞いてますからね、「これからどうしよう？」って。

――いままで人生で燃えつきたことってありました？

北岡　ないですね、これだけ燃えたこともないですからね。

青木　ボク、燃えつきたことないんですよ。基本的に楽しい人生なんですよ。

――べつに北岡さんも楽しくないわけじゃないんですよね。

北岡　そうですけど、あれ以上の刺激をどうやって作っていけばいいかなっていうのは。

――たとえば知名度を上げたいとか、テレビに露出したいとか、そういう欲はないんですか？

北岡　あんまりそこまでないかもしれないですね。ボクが比較されるとしたら青木じゃないですか。練習仲間として存在が近いからかもしれないですけど、彼のことをボクは全面的に認めてるから、そういう意味では楽かもしれないですけど。ヘンなコンプレックスはないですから。

青木　ボクもないですね。

北岡　おまえはないだろ、そりゃ。ただ、強くなりたいだけだから。

――家にテレビもないし（笑）。

青木　いまだに4万円のアパートですよ！



あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。柔道、柔術をバックボーンに持つ天才グラップラー。主戦場は70キロ以下級。DEEP、修斗、PRIDEを経てDREAMに参戦。08年は6試合に出場した自他ともに認める“DREAMの大黒柱”。今成正和、北岡悟らを中心にDEEPジムでNTT（ニッポントップチーム）なる変態寝技集団を結成。180cm、70kg。

きたおか・さとる■1980年2月4日、奈良県出身。ブラジリアン柔術をベースに、パンクラスで活躍。07年には幻の『PRIDEライト級GP』出場を決めるが、トーナメントが行なわれず。08年からは主戦場を『戦極』に移して大暴れ。11月にはライト級ＧＰを制し、09年1月に五味隆典を下して『戦極』ライト級王者に。168cm、70kg。

――青木さん、DREAMの大黒柱なんですから、せめて7万円台のアパートにそろそろ引っ越しましょう！（笑）。

北岡　とりあえず強いヤツとやっていきますよ、文句言われないように。日本人でもいいですけど、ただ一回完璧に勝った人とはあんまりやりたいとは思わないですけどね。それでも光岡さんなりがちゃんと世界の強豪に勝ったんならやらなきゃいけないと思いますけど。

青木　そのハードルは、やっぱ重要ッスよね。

北岡　ちゃんとやったことは評価するけど、べつにあのゴリちゃんに勝ってもしょうがないでしょと思うんで。

青木　ゴリちゃんって誰ですか？

北岡　ゴリアエフ。

青木　ああ、いたッスねえ、そんな選手。

北岡　俺だったらもっと短い時間でもっと鮮やかに勝つと思うんで、ソツなくやって普通に勝ってもべつにインパクトも何もないじゃないですか。

――まあ、あとは『戦極』のお膳立て次第ですよね。

北岡　自分らしさを残しつつ、それでいてチャンピオンであることがちゃんと保てるかなっていうとこの勝負になってくるんじゃないかなと思ってます。

――なんか嬉しい悩みですよね。

北岡　そうですか？

――やりがいあるじゃないですか。他人にはない悩みというか、北岡さんしか悩めないわけですから。

青木　ちょっと、ちょっと！　なんで北岡さんばっかり励ましてんですか！　俺を励ましたこと一回もないでしょ!?

――いや、佐藤大輔さんたちと、「青木真也は図に乗るから厳しくいこう」という話になってるんですよ。

北岡　図に乗っていいと思うんですけどねえ、強いから。

青木　よかった、強くて（涙）。

【09年1月11日／都内・『kamipro』編集部にて収録】

維新軍が強力タッグを結成!

菊田早苗
谷津嘉章



維新軍とは?

数年前の越中ブームで"平成維震軍"は知っていても、"維新軍"はわからないという読者も多いかもしれない。維新軍とは新日本プロレス時代の長州力が正規軍に反旗を翻し結成した"革命軍"が発展してできた軍団。長州以外の主なメンバーは谷津嘉章、マサ斎藤、キラー・カン、アニマル浜口、小林邦昭、永源遥、仲野信市などなど。のちに維新軍は発展するかたちでジャパンプロレスとなり新日本から独立。95年には平成維震軍自主興行で長州、谷津らが昭和維新軍を名乗り、越中率いる維震軍と対抗戦で激突した。いまはもう、やってないって!

なぜだ!? グラバカと維新軍が

谷津嘉章



菊田早苗プロデュース スペシャル対談 inキラー・カンのお店

グラバカwith谷津嘉章。この意外な顔合わせをプロデュースしたのは菊田早苗。じつは、この対談は吉田戦前に菊田から売り込みがあり、私・チョロが「吉田戦に勝ったら」と勝手に約束。しかし、ページの空きはなく頭を抱えていると、急きょある取材が飛んだとの連絡が!「よし、押さえろ!」とばかりに谷津&菊田に連絡するも、締め切りの関係で可能な取材日は1月10日or11日のみ。谷津は群馬在住ということもあり「土日は東京には行けない」と断られるも、数時間後に「菊田くんに会いに行くよ!」と男気炸裂の電話が!「カンさんの店でやりたい」という菊田の希望を受け、日曜が定休日のはずのカンちゃんに谷津が電話を入れると、カンちゃんは店を開けてくれるという。「どいつもこいつも男だ!」と店に来てみると定休日は月曜……。そんなことは気にせず、菊田×谷津対談スタートでオリャ!

聞き手／阿修羅チョロ&堀江ガンツ　撮影／乾晋也　試合写真／丸山剛史

谷津嘉章×菊田早苗

――今日は新春スペシャル対談ということで、グラバカの新年会に谷津さんも参加していただきました（笑）。

菊田 いや～、わざわざ来ていただいて、ホントありがとうございます。

――かなり異色の顔合わせですけど、お二人はメル友なんですよね？

菊田 そうなんですよ。で、今回の対談って、カラーでドーンとやるって聞いたんですけどホントですか？

――待望の前カラーです！（笑）。

菊田 ちょっと待ってくださいよ～。そういうこと言うと、僕がページ数とか凄く気にしてるみたいじゃないですか！『kamipro』ケータイサイトのブログ見ましたよ！　この対談も僕が強引に「やらせろ」って言ってるみたいに書いてあって！

谷津 なんで呼ばれたのかな～っと思ったら、菊田くんの売り込みか！

――はい。菊田早苗プロデュース企画です（笑）。

菊田 ちょっと違うんですよ！　僕からじゃなくて、チョロさんが、吉田さんに勝ったら、谷津さんとの対談をやらせてくれるって約束してくれたんですから。

――……確かにそんな約束をしちゃったような気もします。でも、カンさんの店で対談をやるっていうのは菊田さんのアイデアですよね？

谷津 そうなの？　カンちゃんの店にはよく来るの？

菊田 最近来させてもらってますね。

谷津 ぼったくられてないか？

菊田 いやいやいや（笑）、良心的価格でやってもらってます。

――まあ、とりあえず吉田戦の勝利を祝って乾杯して始めましょうか。

谷津 そうだな。菊田くんおめでとう、カンパーイ！

菊田 ありがとうございます。

――お二人の接点は、菊田さんが日本人で初めて優勝した01年のアブダビコンバットからなんですよね？

菊田 そうですね。

谷津 そうなんだけど、アブダビのときはあんまり話さなかったもんな。（須藤）元気とか、田村（潔司）くんとはよくしゃべった記憶があるんだけど。

――田村さんが谷津さんのセコンドに付かれてたんですよね。

谷津 そう。セコンドに付いてくれたっていうのもあって、田村くんたちのほうが俺はしゃべってたんだよ。菊田くんは決勝まで残ってたから、それどころじゃなかったんだよな。

菊田 あ～、そうかもしれませんね。

谷津 あのとき嬉しかったよ。菊田くんが勝ったときはな。やっぱり寝技よく知ってんなと思ってさ。でもさぁ、いまの総合格闘技界はちょっと夢がなくなっちゃってるよな。元気がないというか。

菊田 まあ、そうですよね。

谷津 だから日本のマーケット的にはやっぱり夢のある、『戦極』にしてもDREAMにしても、そういう場所を作って、日本人のスターを作らなきゃな。そういう意味では、グラバカはいま頑張ってやってるけどね。三崎（和雄）くんとか、福田（力）とか、ああいう連中が「グラバカここにあり！」っていうかたちを作って自分たちで主催しなきゃダメだな。俺はそう思う、絶対。

――グラバカで興行をやったほうがいい、と？

谷津 そういうこと！　発表会じゃないけどね……、いや、発表会って言い方はおかしいけども、そんな大きなさいたまスーパーアリーナなんかでやっちゃいけないんだよ。せいぜいやったってね、日本武道館かな。

――武道館でグラバカ興行ですか！

菊田 武道館も充分デカいですけどね（笑）。

谷津 やるんだったらね、『kamipro』なんかとガッチリ、スクラム組んで、もうちょっとパブリシティを作ってね、グラバカのスターを何人作ることが菊田くんの使命だよな。

菊田 は、はぁ。

谷津 あんまりリスクがあることをやってもしょうがないけど、その中間ぐらいでさ、ゲストを呼んで興行とかやろうと思ってるでしょ？（笑）

菊田 いやいやいや（苦笑）。そういうのは考えてないですけども、グラバカで大会とかやったほうがいいですかね？

谷津 ただな、やっぱり興行っていうのは難しいからな（苦笑）。

――どっちなんですか!?（笑）。話題を戻しますけど、谷津さん、菊田さんはこのあいだの大会で吉田秀彦選手に勝ったんですよ。

谷津 そうみたいだね。俺はまだ試合は観れてないんだけど、あとで楽しみに観ますよ。ホントね、菊田くんとはなんか波長が合うんだよな。

菊田 ありがとうございます（笑）。

谷津 いまはメル友で、ちょっとバーチャルな関係だけどな。バーチャルフレンドみたいな感じで（笑）。

――バーチャルフレンドですか（笑）。

谷津 でもね、吉田戦が決まったってメールで報告されたときはね、「どうかな？」と思ったの。なんでかっていうと、菊田くんは実力はあるんですよ。ただ（心臓を指差して）こっちの部分でね、大丈夫かなって。

――柔道の大先輩で、高校時代からの関係があるわけですからね。

谷津 試合の前に菊田くんに言ったんだよ。「谷津さん、どう思いますか？」ってメールがあったから「心で負けてるかもしれない」って。

菊田 はい。ホントにそのお言葉どおり、そこだけは今回絶対負けないようにって、それだけでしたね。

谷津 だから凄いよね。ヒントを……あ、これは書けねえな（笑）。

――何かヒントを与えたんですか？

菊田 「ヒントを教えてください」って言ったんですよ。そしたら「空気」って一言をいただきました。

――空気！　う～ん、それはいろいろと考えさせられますね（笑）。

菊田 いろいろ考えさせられましたね（笑）。

谷津 だけどあれだよね、さっきの話に戻すけどね、吉田はいくつ？

菊田 二つ上なんで、39歳ですね。

谷津 そんなにいっちゃってるの、菊田くん。

菊田 初めてお会いしたのは30歳ぐらいだったんで。

グラバカで主催興行とかやったほうがいい。武道館とかでな（谷津）



三崎和雄が語る谷津との意外な接点

僕は谷津さんとは、そこまで親しくさせてもらってるわけではないのですが（笑）、たまたま去年サイパンに行ったときの帰りに谷津さんと空港で偶然お会いしたんですよ。

僕は基本的に選手のことはあまり知らないんですけど、谷津さんのことはPRIDEでゲーリー・グッドリッジと凄い試合をしたっていうのが記憶に残っていて、すぐに気づいたんです。ただ、面識はなかったですし、僕のことは知らないだろうなって思って、最初は声をかけようかためらっていたんです。でも、近くに並んでいたっていうのもありましたし、格闘技界では僕は後輩ですから知らないフリをするのも失礼だなと思って、ご挨拶をさせていただいて。そのときに谷津さんが「お～、三崎くんでしょ。試合観てるよぉ！」って言ってくれて。そのあとに出発まで一緒に話をさせてもらって、そこでメールを交換して、日本に戻ってきてからも、一回お会いしたんです。そのときに「菊田くん、いいよねぇ」っていう話を谷津さんがされていて。そこでアブダビで会ったときの話になって、菊田さんのことを「いいヤツだ、いいヤツだ」ってずっと言ってたんで、菊田さんに伝えたら、いつの間にか、菊田さんと谷津さんがメル友になっていたという（笑）。

あとで知ったんですけど、ウチの福田力も谷津さんとはプロレス団体（WJ）で一緒だったみたいで。何かグラバカと谷津さんは不思議な接点があるんだなぁって思いましたね（笑）。

谷津 そう考えると、もう長いよなあ、俺ら。

菊田 アブダビから8年ですからね。

谷津 だけど、彼がプロレスから格闘技へ方向転換したって



からは戦前、「空
ものの、終始試

か喜怒哀楽の顔をな（笑）。だからそんなのどうだってよかったんだよ。

――谷津さんが若い頃から本格的にシュート方面の練習してたらおもしろかったでしょうね。

菊田 興味持たれてなかったってい

でやってもらってます

——まあ、とりあえず吉田戦の勝利を祝って乾杯して始めましょうか。

ちで主催しなきゃダメだな。俺はそう思う、絶対。

——グラバカで興行をやったほうが

谷津　ただな、やっぱり興行っていうのは難しいからな（苦笑）。

——どっちなんですか⁉（笑）。話題

グラバカで主催興行とかやったほうがいい。武道館とかでな（谷津）

谷津　そう考えると、もう長いよなあ、俺ら。

菊田　アブダビから8年ですからね。

谷津　田村くんとはどっちが年上？

菊田　田村さんも二つ上なんですよ。

谷津　ちゅうことは、桜庭とも一緒ぐらいか。……だけど俺、聞きたいんだけどさ、髙田（延彦）のことどう思う？　いまの。

——また、唐突ですね（笑）。

谷津　彼は頭いいよ。滑舌も凄くいいし、ルックスもいいけどね。

菊田　僕はですね、新日本のときの正規軍vs維新軍の5対5が凄く印象に残ってるんですよ。

谷津　そうなんだ。でも、髙田は菊田くんの先輩だろ？

菊田　そうですね。でも僕はそんなには（UWFインターには）いなかったんで（苦笑）。

——谷津さんは菊田さんがUインターにいたこととか知ってるんですね。

谷津　うん。あの頃はね、プロレスと格闘技がシャッフルし始めた頃で、そのぐらいに入ってたわけでしょ？

菊田　はい、そうですね。

谷津　だから「うわーっ、髙田だ！」とか思った頃でしょ？

菊田　まあ、そうですね（笑）。

谷津　実際に見て「なんだ、こんなもんか！」って思ったでしょ？（笑）。

菊田　いやいや、全然思ってないです（苦笑）。雲の上の存在でしたから。

吉田戦前に谷津さんからメールでヒントをいただきました（菊田）

谷津　だけど、彼がプロレスから格闘技へ方向転換したっていうのは、一つの日本の格闘技界を確立したのは間違いないよな。俺はそう思うよ。

菊田　僕はどっちかっていうとプロレスの練習自体がキツくてキツくて、できなかったんですよね。だから格闘技にいくしかなかったんです。

谷津　そうするとやっぱり藤原喜明になっちゃうか（笑）。昔よくやってたんだよね。6時半に試合開始なのに15分前までリング上で「そそそそ、そっちだ！」とか言って極めっこをね（組長のモノマネをしながら）。

菊田　アハハハハハ！

谷津　そのときは前田（日明）とか髙田とか、あと新倉（史祐）とか船木（誠勝）もいたわな。みんなで（シュートサインを出して）これをやってんだよね。妙なことやってんなと思って。たまに「相撲大会だ！」なんていうと俺もやるんだけど（笑）。

——そっちには参加された、と（笑）。

谷津　うん。だけどそれがまさかね、いまみたいな流れになるとは思わなかったよね。でも、当時から世界的には（再びシュートサイン）あれやってたんだね。あの頃からブラジリアン（柔術）ってあったんでしょ？

菊田　ありましたね。

——新日本にいた頃ってイワン・ゴメスはもういなかったんですか？

谷津　もう、いなかったね。

菊田　谷津さんが新日本に入られたときっていうのは練習っていうかスパーリングっていうか、どういう感じだったんですか？

谷津　俺はどっちかというと鳴り物入りで入ったでしょ。だからプロレスのほうの基本を覚えたかったんだよ。（シュートサインを出して）こっちよりも。こんな顔とか、あんな顔とか喜怒哀楽の顔をな（笑）。だからそんなのどうだってよかったんだよ。



1.4『戦極の乱』さいたま大会で、柔道時代の憧れの人・吉田秀彦と激突した菊田。谷津からは戦前、「空気」という謎のヒントをもらっていたという菊田は打撃で押されるシーンも見られたものの、終始試合を優位に進め、2-1ながら判定勝利をゲット。勝因は、やはり"空気のチカラ"か!?

菊田　そうだったんですか！

谷津　俺はプロレスを教えてもらいたかったわけ。それなのに（カール・）ゴッチさんのとこに行かされたんだよね。長州力もそうだけど。そしたらゴッチさんは（またまたシュートサイン）こればっか教えるんだよね。だから俺は「プロレス教えてくれ！」ってお願いしたんだよ。

——ゴッチさんに〝喜怒哀楽〟をお願いしましたか！（笑）。

谷津　そしたら「ダメだ、こっちだ！」って言うから、じゃあゴッチさんはいいやと思って、それで新間（寿）さんに電話して、「ゴッチさんはこれしか教えない。プロレス教えてくれるところを探してもらえないか」って言ったら、「じゃあ（ヒロ・）マツダさんのところだな。あとは（デューク・）ケムオカさんに言っておくから、そっちに行け」って。

——そんな理由でマツダさんに師事したわけですか（笑）。

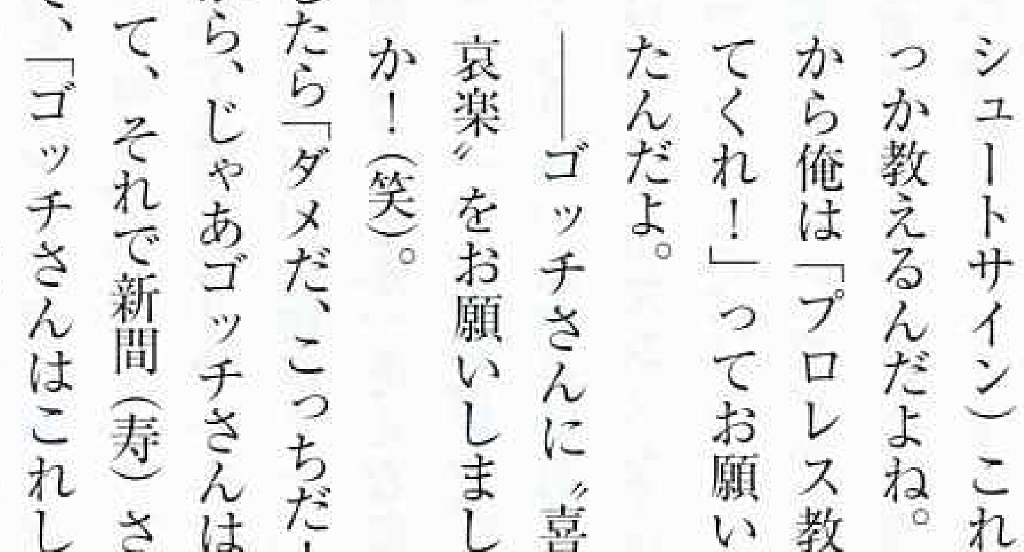
谷津　そうそう。前田とか髙田たちとは逆だよな。向こうはプロレスはできるから、こっちを教えてもらいたかったんだよな。だから俺もこっちに興味持ってたら、もっとおもしろかったかもしれないけど。

——谷津さんが若い頃から本格的にシュート方面の練習してたらおもしろかったでしょうね。

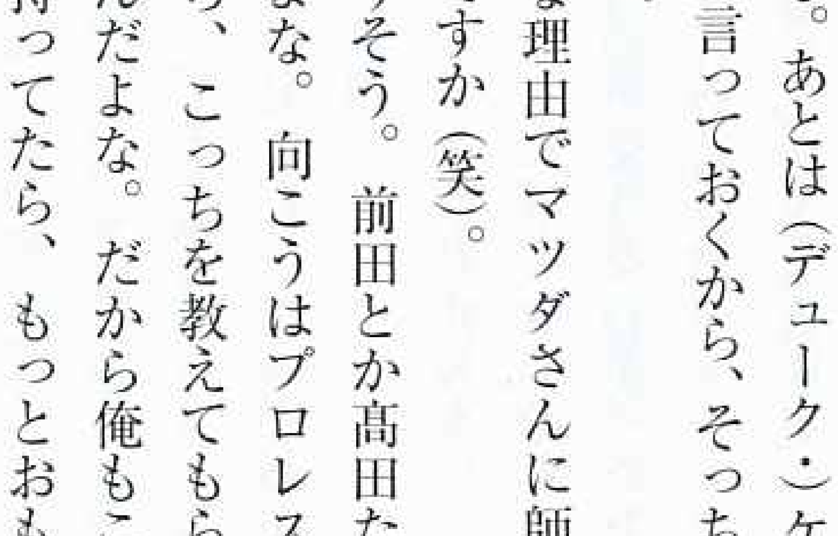
菊田　興味持たれてなかったっていうのは、やっぱりレスリングでさんざんやりつくしたからですか？

谷津　そういうこと。でもそこで終わらなかったよな。10年後、20年後にやることになったから。でもやっぱりタイミングってあるじゃん？　俺がPRIDEに出たのなんて、ただSPWFの名前を出すためだけだから。ウチなんか零細企業だから、仕方なく売名行為でやっただけだよ。

01年のアブダビで何があったのか？



田村をセコンドに付け、当時、髙田道場所属のリコ・ロドリゲスと対戦した谷津は開始早々、リコの飛びつき十字で秒殺負け。「勝つ気はなかった」ため試合前のアップもしなかったという谷津に菊田は目が点！



この年のアブダビには谷津、菊田以外にも五味、田村、髙阪、元気、宇野など日本人ビッグネームが大集合。谷津は日本人選手団団長として山梨学院勢らを引率し、ビーチでの日焼けに一生懸命！

――売名行為でPRIDE参戦（笑）。

菊田 素晴らしいですね（笑）。

谷津 いまは悲しいことに、どこも弱小になっちゃったけどね。だけどあの頃は弱小団体なんていうのはさ……おっ、カンちゃんが来たよ！

カン 氷まだある？

菊田 はい、大丈夫です。

谷津 飲もうよ、一緒に。

カン 飲んだら底なしだよ〜。

谷津 あいかわらず、〝駅弁〟やってるの？（笑）。

カン もう全然ダメ。あそこが元気ない。昔は元気になったら500円玉を乗っけてもピャーッて弾き飛ばしたけど、いまは1円玉でも無理。

――いきなり下ネタですか（笑）。

菊田 凄いッスねぇ……（苦笑）。

――グラバカと維新軍の交流っていうのも凄いですけどね（笑）。

谷津 グラバカって一つの集団が確立してるから、プロレスの団体を作ってもおもしろいよ。新日本のドームとかで対抗戦やったらおもしろいぞ！ 観たくない？

――はい、観たいです（笑）。

谷津 最初は10分1本勝負でプロレスやって、次は総合ルール6分1本勝負とか。いいと思うんだけどな。

――そこまで考えてましたか（笑）。

菊田 プロレスといえば、アブダビのとき、帰りの飛行機で谷津さんと席が隣同士だったんですよ。それで、子どもの頃の素朴な疑問をぶつけたんです。

――どういった疑問ですか？

菊田 長州さんの噛ませ犬事件ってあったじゃないですか。「あれは、突然あんなことになって大丈夫だったんですか」みたいなことを聞いたら「バカヤロー！ プロレスは全部決まってんだよ！」って言われて（笑）。

谷津 そんなこと言ったか？

菊田 言ってましたね。あれがホント衝撃的で。というか谷津さんという豪快な人間性に大衝撃的で！

谷津 それはアレだよ。いま『ハッスル』の社長の山口（日昇）くんがいけねえんだよ！ 『kamipro』の初期の頃にね、「あんなことを谷津が言った」とか書かれて俺が戦犯にされたからな（笑）。

――いや、谷津さんがインタビューで勝手にいろんなことをしゃべっただけのような気がしますが（笑）。

八百長ってもう古いよ！ プロレスはパフォーマンスだからな（谷津）



谷津と接点のあるグラバカ戦士は菊田と三崎だけではない。現在DEEPを中心に活躍中の福田力は谷津と同様レスリング出身というだけでなく、WJで短期間ながら同じ釜のメシを食った間柄なのだ。オリャ！

谷津 あ、そうか（笑）。まあでも、しょうがないなと思ってさ。だけど、あれからうまい具合にプロレスと格闘技をアレンジしてきたよな。いまじゃ『kamipro』は本物志向のファンに愛されてるからな。

――そうなんですかね（笑）。

谷津 ファンはバカじゃないから。昔の『月刊プロレス』とか『月刊ゴング』を見るとね、たとえばマスカラスは「20の仮面を持つ男」とかさ。

――谷津さん「千の顔」です。ずいぶん少なくなってます（笑）。

谷津 いろいろあったじゃん。昔で言えば、1960年代の『月光仮面』のような劇画みたいなもんだよ。いまさら「プロレスはガチガチの真剣勝負で」なんて言っても、「ハハハハッ！」って笑っちゃうよ。そこまでスマートになってるんだよ、ファンは。

菊田 いまはもうだいたいがわかってきてますよね。

谷津 そういうのがわからないファンって低俗なんだけどな。そういったプロレスの奥深さをわかった上で「コイツはどれぐらいパフォーマンスできるんだ？」ってところを見てもらいたいよな。

――谷津さんは、かなり早くからそういったことを言われていましたからね。もっとエンターテインメントに針を振ったほうがいい、と。

谷津 だんだんそうなりつつあるけどな。でもまだまだ田舎に行くと、「なんだ、八百長か？」とか、そんなこと言ってるからさ。「いや、おばちゃん、八百長ってもう古いんだけどな〜。プロレスはパフォーマンスなんだよ！」って言ってやるんだけど。

――「八百長はもう古い」ですか（笑）。

谷津 そうだよ。でも、そんなショックだったか、あれ。

菊田 ショックとかじゃなくて、いきなり初対面の僕にいろんなことを言っていただいたのが衝撃的で。

谷津 でも人生って多かれ少なかれ衝撃的だからな。人生はドラマチックじゃないとな。

――そこから交流が始まった、と？

菊田 いや、それで一度終わってたんですけど、何年か越しで去年、三崎が知り合って。

谷津 サイパンの空港でたまたま会ったんだよ。エルメスのバッグ持ってる素敵なお兄ちゃんいるなと思ったら三崎くんだったの。それがきっかけで菊田くんとも話すようになって。このあいだの試合は負けたみたいだけど、三崎くんもガッツあるからな。

菊田 グラバカで一番ガッツありますから、彼は。

谷津 秋山（成勲）との試合もよかったよな。菊田くんは吉田に勝って、今後はどうするつもりなの？

菊田 まだ考えてはいないですけど。

谷津 やっぱりさ、自分の青春の回想からいったら、田村くんとか桜庭とか、そのへんの連中とやりたいでしょ。勝負は度外視してさ。

菊田 いまは上がってるリングが違うんで難しいと思うんですけど。たぶん、皆さんもそういう試合のほうが興味を持たれるんじゃないか、と。

谷津 やったほうがいいよ、それ！ 団体間で難しいところはあるんだろうけど、同じ世代同士でやってもらいたいよな。それに、試合は無理でも交流とかはできるだろ。スタートはみんな同じなんだからさ。田村くんとちょっと一回飲んでみるか。『kamipro』で企画してもらって（笑）。

――今度は谷津、菊田、田村の3人で（笑）。

谷津 彼はほら、アブダビでセコンドやってくれたからさ。

――田村さんも大先輩の誘いはなかなか断れないでしょうし（笑）。

菊田 先ほど、アブダビで田村さんがセコンドに付かれたって話が出ましたけど、僕は谷津さんと試合が近かったんですよ。それで、みんな試合前はアップするじゃないですか。でも、谷津さんはずっとイスに座って

て、次が自分の試合ってときでもアップも何もしてないんですよ（笑）。

谷津 だって、勝つ気なんかないも

谷津 違うなっていうか、どっかで（右手であるサインを出して）これあるかなと思ったんだよ。

――ガハハハハ！

菊田 でも、相手がグッドリッジでハンパじゃないじゃないですか。あ

れ」って。それじゃなかったらお客さんもマジになっちゃうからな。

――ランディ・クートゥアーもビッ

ってると思います。

谷津 なんだよぉ、俺だけ知らなかったんだ！ 俺、マンガバカかなん

谷津嘉章×菊田早苗

菊田　長州さんの噛ませ犬事件ってあったじゃないですか。「あれは、突然あんなことになって大丈夫だった

て、次が自分の試合ってときでもアップも何もしてないんですよ（笑）。

谷津　だって、勝つ気なんかないもんな（キッパリ）。

——ガハハハハハ！

谷津　あのときは山梨学院の学生を連れてっただけ。俺は引率者だよ！

菊田　そういうことだったんですか（笑）。僕らとは年代も違うから、遠慮されて打ち込みとかアップとかやってないんだなと思ったんですよ。それで谷津さんのところに行って「試合前なんでアップやりますけど」って言ったら、「おまえ、いまさらジタバタしてもしょうがねえだろ！」って言われて、「凄いなぁ」と思って。いまの「勝つ気なんかない」っていうのも衝撃的でしたけど（笑）。

——そこまでキッパリ言われると、逆に気持ちいいですけどね（笑）。

菊田　グッドリッジ戦は売名行為っていうのも衝撃的でしたけど、でもどっちかというと自信があったんじゃないかなと思ったんですけど？

谷津　いや、全然。15年とか10年前は、柔道上がりとかレスリング上がりとか通用したんだよ。いまはもう全然通用しないけど、倒しちまえばなんとかなるなと思って。でも、彼（グッドリッジ）だってバカじゃないし、研究してたからな。

菊田　まあ、そうでしょうね。

谷津　それとやってみて思ったのは、足が無理。やっぱ歳だから、なかなか出ていかないよね。15年ぐらい早かったら、まだ違ったんだろうけど。

菊田　ちなみに総合とプロレスの出るときの緊張感とか違うなっていうのはありました？

——いや、谷津さんがインタビューで勝手にいろんなことをしゃべっただけのような気がしますが（笑）。

谷津　違うなっていうか、どっかで（右手であるサインを出して）これあるかなと思ったんだよ。

菊田　へ？

谷津　総合にも、どっかで（再び同じサインを出して）これがあるかなと思ったらなかったんだよな（苦笑）。

菊田　（司会に対して）どういうことですか？

——要はちょっとした事前の決めごとというか（笑）。

菊田　試合直前でってことですか？

谷津　そうそう（苦笑）。それしたら何もないんだよ。俺はもともと総合格闘家じゃないし、プロレスラーだからな。だから、PRIDEがいくらガチンコだといっても俺が出るんだから、どっかでセットアップしてくれるなと思ってたの。

菊田　エ～～ッ!?　それも凄い話ですね（笑）。

谷津　だから「あるんでしょ？」って関係者に聞いたら「いや、それはないですよ」って言うから、こっちは「えっ!?」ってなったの。

菊田　でも、試合前は盛り上げるようなコメントをしてましたし、やっぱり凄いなって思っていて。お客さんも幻想を持って観てたと思うし。出るからには盛り上げるっていうのがね、プロレスラーは凄いですよね。

谷津　だけどな。最後の最後に（再度サイン）これがあると思ったら、なかったよなぁ……（しみじみと）。

谷津　いろいろあったじゃん。昔で言えば、１９６０年代の『月光仮面』のような劇画みたいなもんだよ。い

——ガハハハハハ！

菊田　でも、相手がグッドリッジでハンパじゃないじゃないですか。あれって終わったときどういう感じなんですか？　フィーリング的には。

谷津　なんか後悔はあったね。こんなことしなくてもよかったなって。

菊田　後悔したのに、二回目があったっていうのは、なんでですか？



きくた・さなえ■1971年9月10日、東京都出身。中学時代から柔道を始め、高校時代は国体86kg級で優勝。その後、新日本、Uインター（二度）に入門するも挫折。格闘家へとシフトチェンジしてからは、修斗、リングス、PRIDE、パンクラス、アブダビコンバットなどさまざまな舞台で活躍。現在は『戦極』を主戦場とするグラバカのボス。176cm、89kg。

やつ・よしあき■1956年7月19日、群馬県出身。レスリングでオリンピック出場の経験を持ち、鳴り物入りで新日本プロレスへ入団。その後は、ジャパンプロレス、全日本、SWS、SPWFなどで活躍。PRIDEには00年と01年の二度出場、グッドリッジに連敗を喫する。現在も北海道のアジアンプロモーションのリングにたびたび参戦中。186cm、110kg。

谷津　あれはもうシャレ！

——ガハハハハハハ！

谷津　PRIDEは二回契約だったの。それで「出たくない」って言ったら、「それは困る」って言われてさ。お客さんには申し訳ないけども。二回目のときは会見のときとかも言ってたんだよ。「あんまり期待しないでく

谷津　サイパンの空港でたまたま会ったんだよ。エルメスのバッグ持ってる素敵なお兄ちゃんいるなと思っ

れ」って。それじゃなかったらお客さんもマジになっちゃうからな。

——ランディ・クートゥアーもビックリの44歳でのPRIDEデビューでしたからね。

菊田　それだけでも凄いですよね。

谷津　あのときはまだ勝てると思ってたんだよなぁ。

菊田　やっぱり、自信はあったんですね。

谷津　絶対いけるって思ってた。

菊田　さっきとはちょっと話が変わってきてますけど（笑）。勝てると思ってたんですよね？

谷津　だから、（サインを出して）これはないっていうことが2～3カ月前にわかったから。だったら真剣にやらなくちゃと思って練習したわけ。真剣にやったら勝てる相手だと思ったからさ。ところがさぁ、やっぱり足がついていかなかった。

菊田　そうですかぁ。今日はいろいろ深い話が聞けたような気がします。

谷津　最後に質問！

——はい、谷津さん！

谷津　素朴な疑問だけどさ、なんでグラバカって名前なの？　もしかして、グラウンドバカ？

菊田　そうです。

谷津　あ、それでグラバカなんだ。じゃあ、菊田くんそのものじゃん！

菊田　まあ、そうですね、はい。

谷津　それみんな知ってたんだ？

——『kamipro』の読者なら知

かったんですよ。それで、みんな試合前はアップするじゃないですか。でも、谷津さんはずっとイスに座って

ってると思います。

谷津　なんだよぉ、俺だけ知らなかったんだ！　俺、マンガバカかなんかと思っててさ（笑）。

——なんですか、それ！（笑）。

カン　ここのテーブル半分使わせて。また、お客さんが来ちゃったんで。

谷津　儲けてるねえ、カンちゃん！

カン　儲かってないよ。入ってるわりには。

谷津　そんなに儲けちゃいけないよ。たいして、うまくもないのに（笑）。

カン　そんなことないよぉ！　歌舞伎町でウチより安くてうまいとこないもん。味は絶対自信あるもん。

谷津　カンちゃんは居酒屋バカか？（笑）。

——じゃあ、お二人にはIZABAKAでも立ち上げてもらうとして、今日はお開きにしたいと思います！

【09年1月11日／都内・歌舞伎町居酒屋『カンちゃん』にて収録】



キラー・カンの店『居酒屋カンちゃん』大繁盛営業中です!!

年齢もキャリアも上なのに谷津からさんざんツッコまれていたカンちゃん。安さと味は歌舞伎町で一番とカンちゃんも自信満々のこちらの店では尾崎豊も愛したというカンちゃんカレーも食べられるぞ！

東京都新宿区歌舞伎町
2-27-12　新宿リービルⅡ 5F
TEL.03-3207-3217

田村　これは仮病だから（笑）。ま、冗談はさておき、折れるぶんには俺的にはそんな大きなケガじゃない。

道からリングに向かうときに一声かけてくれて。それがなんと言われたかは話すつもりはないけど、その一言で気持ちが引

——小太刀のお守りを持っての入場は事前に決めていたんですか？
田村　いや、あれも当日。

田村　それは影響するよね。まあ、Uインター時代にサクとやった試合があるから、あの試合と比較されるとね……。あのと



桜庭和志戦の〝謎〟を語る

田村潔司

封印された〝回転体〟の理由

〝禁断の真剣勝負〟田村vs桜庭戦は、田村の判定勝ちという結果となった。田村vs桜庭戦といえば、かつてUインター時代に、〝Uの進化系〟と絶賛されるなど、終始動き続ける〝回転体〟の代名詞のような試合だった。しかし今回、田村はこの〝回転体〟を封印し、優位なポジションでパウンドを落とすことでダメージを与えての判定勝ちを収めた。田村はどんな思いからこの闘い方を選んだのか。正月にすべてのインタビュー取材を断った田村が、ようやく口を開いた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／吉場正和　試合写真／乾晋也

——大晦日の桜庭戦で右の拳を骨折したらしいですけど、これはパウンドを打ったときにケガしたんですか？

田村　いや、仮病です（笑）。

——ああ、毎度おなじみの（笑）。

田村　うん、毎度おなじみの。だから誰一人として心配してくれないんだよ。「またかよ！」って感じで。

——「ちょっと田村さん、また包帯なんか巻いちゃって、今年はトーナメントありませんよ」みたいな（笑）。

田村　そうそう、子どもがお腹痛くなるようなもんだよね（笑）。

——と、こんな軽口でインタビューがスタートしてしまいましたけど、大晦日の試合が終わって気分的に解放されたがゆえのテンションですか？

田村　そうだね。いろんな束縛から解放されたのと、大きなケガもなく無事に終わったことにホッとしてるかな。

——拳の骨折は大きなケガじゃないんですか？

田村　これは仮病だから（笑）。ま、冗談はさておき、折れるぶんには俺的にはそんな大きなケガじゃない。

——骨折なら確実に治るから、ということですか？

田村　そうそう。靭帯が切れたりするのは嫌だけど、折れるぶんには大丈夫。

——試合前はやはり桜庭戦ということで、かなりのプレッシャーだったと思いますけど。

田村　もちろんそれはあったけど、重みやプレッシャーというのは口では表現しようがないね。

——試合前、桜庭さんのほうから挑発的な発言がありましたけど、あれによって田村さんのこの試合に対する考えは変わりました？

田村　記者会見やって、その直後にガンツにインタビューしてもらったけど、あれが正直な気持ちかな。俺が思ってる感情と向こうの感情に温度差があった。ただ、しばらくして冷静になって考えると、そこまで深く考える必要もないと思ったし、どこまで本心で言ってるかわからない部分もあったから、自然体になったかな。

——向こうが"いい試合"をやる気がないなら、こっちも勝負に徹するとか、そういう考えにはなりませんでしたか？

田村　そういう感情的な部分は、その日によって浮き沈みがあるから。試合前日まではそう思ってても、試合直前になったら違う気持ちになることもあるし、それはもうそのときの感情だけだね。

——当日の感情はどうだったんですか？

田村　当日はもう冷静だったね。ギリギリまでいろいろ葛藤があって、レガースを履くか履かないかでも悩んだんだけど、セコンドの立嶋（篤史）選手が最後、俺が花道からリングに向かうときに一声かけてくれて。それがなんと言われたかは話すつもりはないけど、その一言で気持ちが引き締まったし、ふっ切れたね。

——今回の試合は田村さんにとって大きな意味があったと思いますけど、いい試合を見せることと勝つこと、どちらかといえば、どちらが重要でしたか？

田村　それは割合でいったら、勝つほうが重要だったかな。それはもう一本勝負だからそうなった部分もあるし。



田村は大一番に欠かせないアイテムである小太刀のお守りを携えて入場。こういった小道具、コスチューム、テーマ曲にいたるまで意味があり、注目されるのがプロレスラーたるゆえんだ。

——勝つことが重要だったのに、不利になる要素があるレガースを履いたのはなぜだったんですか？

田村　それは、試合前の気持ちとして「履きたい」という気持ちになったとしか言いようがないね。直前まで悩んでたけど。

——ヘンゾ・グレイシー戦のときにUWFメインテーマで入場したときとは、意味合いがまったく違いますか？

田村　そういう意味合いはあんまりないね。ホント、そのときの気分だよ。



「ちょっと田村さん、また包帯なんか巻いちゃって、今年はトーナメントありませんよ」みたいな（笑）。

——小太刀のお守りを持っての入場は事前に決めていたんですか？

田村　いや、あれも当日。

——当日、小太刀が必要だと思ったわけですか？

田村　いや、必要じゃないっていったら必要じゃないんだけど。対戦相手に敬意を示した感じかな。

——それぐらいのつもりで臨みますっていうことですか。

田村　気分的にはそんなに追い込まれてはいなかったけどね。

——では、初めて小太刀を持って入場した、パトリック・スミス戦のときとは意味合いが違いますか？

田村　全然違うね。

——パトスミ戦とか、初期は神頼みのために持ってきてたんですよね？

田村　そう、神頼み。

——では今回は？

田村　今回はね、神頼みといえば神頼みなんだけど、お互いにケガなく無事終わりますように、という祈りも込めて。だから勝つに越したことはないんだけど、それだけでお互いの価値観だったり、強さだったりを評価してほしくない気持ちがあったな。ちょっと期待やプレッシャーが大きすぎたというか、もうちょっとお互い肩の荷を降ろした状態で試合すると、前みたいな試合になったのかな。

——そういうプレッシャーが田村さんの闘い方に影響を与えましたか？

ったことにホッとしてるかな。

——拳の骨折は大きなケガじゃないんですか？

田村　それは影響するよね。まあ、Uインター時代にサクとやった試合があるから、あの試合と比較されるとね……。あのときの試合は自分で言うのもなんだけど、偉大すぎるから。それといまの試合を比較されるとキツいなっていうのもあるし、一本勝負だからどうしても固くなっちゃうし。だから30分三本勝負とかがよかったんだけどね。

——そうすれば、ギャンブルもできるということですか？

田村　そうね。たとえば所英男vs中村大介戦もよかったけど、三本勝負でやれば、あれ以上の試合になったと思うんだよ。だから、たまに三本勝負もおもしろいんじゃないかと思うんだけど。

——もしくはエスケープあり、とか。

田村　そうね。そのほうが試合内容としては、いいものができたと思う。

——ただ、DREAMルールは当然一本勝負なわけで。その一本勝負では、桜庭さんとグラウンドの攻防をやるのは、選択肢として選べなかったわけですか？

田村　いや、選択肢はいっぱいあるけど、それは俺だけが試合をやるわけじゃないから。お互いの呼吸もあるだろうし。やってみなけりゃわからない。

——でも、田村さんがあれだけ自分から関節技にいこうとしない試合って初めてだと思うんですけど。

田村　いや、俺も隙あらばっていうのはあったよ。でも、何か突破口がないと仕掛けられるものも仕掛けられないから。たとえば打撃でも、いきなり強いミドルキックを当てようとしても、それは当たらないし。KOするためには、多少チャンスを狙わないとできないから、それは同じ理屈だよね。

田村潔司

広い意味で俺と桜庭にしかできない試合ではあったと思う

——ただ、あの試合展開では「田村は桜庭のサブミッションを警戒してるな。怖いんだな」って見えた人も多かったと思いますよ。

田村　まあ、それはいろいろ意見があるからね。まあ、怖いのかもしんないけど（笑）。俺はルール内でやっちゃいけないことはやってないから。俺が極められそうになったときに、目潰しでもしてたら「桜庭の関節技が怖かったんですね」って言われてもしょうがないけど、俺はルール内の戦術で闘ってただけだから。

——田村さんは試合前に「自分と桜庭にしかできない試合」と言ってましたけど、それはできたと思いますか？

田村　それはあんまりできなかったと思うね。でも、試合展開的にはできなかったけど、どんな場面でも俺と桜庭にしかできないものっていうのは見せられたと思うから。二人が同じリングに立つ価値観は、いろんな人の見方があると思うし、広い意味で二人にしかできない試合であったと思うけどね。

——やってて桜庭選手のコンディションっていうのはどう感じました？

田村　コンディションは……わかんないけど普通なんじゃない？

——普通ですか⁉

田村　俺がよすぎたのかもしれない（笑）。それはわかんないけど。まあ、あの歳になっていろいろ桜庭も背負わされて、身体がボロボロになって。本人の体調管理が悪いのもあるのかもしれないけど、39歳までリングに立ってるっていうのは凄いよね。俺はもっと凄いけど（笑）。

——また俺が俺がですか（笑）。

田村　だから、やる前は桜庭はもしかしたら、ちょっとフェードアウトするつもりなんじゃないかな、と思ってて。でも、そういう感じでもないんで、あんまり考えてることはわかんないな。

——田村さんのパウンドが予想以上に効いてるな、とも思ったんですけど。

田村　いや、効いてるっていうか、けっこう打たれ強いんだなって思ったけどね。

——もっと効いてもいいくらいですか？

田村　あれは実際、食らってみないとわかんないから。食らってみる？

——いや、けっこうです。

田村　まあ、打たれ強いっちゃ打たれ強いよね。

——あと2ラウンドに入ると、田村さんのローキックと左ストレートがかなり効いてて、もうKO寸前に見えましたけど。

田村　効いてるかどうかはちょっとわかんないけど、彼はスカすのがうまいから。俺が踏み込んだら、へんな角度でタックル入ったりするからね。そこは凄い気をつけてたんだけど。

——ファーストコンタクトは、まさにそのタックルでしたね。

田村　そうだよね、あれは凄い武器だね。なかなか防ぎようがないっていうか。あれは野茂のフォークぐらい凄いことだね。警戒してるのにやられちゃう。

——パッと見えなくなるような。

田村　見えなかったね。なぜ入られたかわからなかった。

——では、あのKO寸前に追い込んだように見えながら、両足タックルにいったのは、あの時点でもまだタックルを警戒してたってことですか？

田村　セコンドの立嶋選手は「あのまま倒せた」っていうふうに言うんだけど、それは結果論でもあるからね。それくらい桜庭の懐に入りきるって難しいのよ。見た目はパンチも当ててローも当たってるっていうのがあったけど、あれ以上踏み込むと結局カウンターでタックルが来るから。何が正しかったのかはわからないけど、踏み込ませないバリアみたいなものがあるんだよね。だから、もし踏み込んでたら仕留められたかもしれないけど、逆に〝野茂のフォーク〟で三振とられてたかもしれないから。

——桜庭さんのタックルを最大限に評価して警戒してるからこそ、KOできたかもしれない中で、あえてタックルを選んだ、と。

田村　うん。まあ、ぶっちゃけちゃうと、いまとなってはKOできたかなと思うけど（笑）。それは結果論だし、やっぱり警戒してたんだろうね。

——では、もの凄く石橋を叩いて渡る闘い方だったってことですよね。

田村　それはお互いだよ。片方だけ見ちゃうとそういうふうになるけど。まあ、結果がすべてだね。固い試合をしたから勝てるってもんでもないし。

——で、その結果が出たわけですけど、桜庭さんがリング上で「もう一回お願いします」って言ってましたね。

田村　うん、でもあれは勢いじゃない？　たぶんサクはサクでホッとしてるんだよね。言葉には出してないけど、やってて彼の気持ちっていうのは肌で感じられたから。けっこうね、彼も孤独なんだよね。一人でいろんなものと闘ってる感じにはちょっと捉えられたね。

——それを闘ってる中で感じたってことですか？

田村　それだけじゃないけど。やってていろんな……俺が誤解してる部分もあっただろうし、いろんなことを感じられた。

田村がサクに判定勝ち “禁断の真剣勝負”の決着はついたのか⁉

[08.12.31 Dynamnite!!]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○田村潔司 vs 桜庭和志×
(3R終了 判定3-0)



小太刀を持ち、レガースをはめて入場した田村は、いつものようにリング上で四方に礼をしたあと、相手コーナーを睨む。しかし、桜庭は別コーナーに陣取り、それをスカした。



試合開始早々、田村の右ストレートに合わせて、桜庭が得意の低空片足タックルを決める。田村は虚を突かれたが、完全なテイクダウンは許さず、桜庭はガードポジションへ。



ガードポジションを取る桜庭に対し、田村は冷静に脇を締めてのパウンドを落としていく。桜庭はなんとか田村の腕を取って腕十字を仕掛けようとするが、極めるにいたらない。



ジは色濃く、ス
える。そこへ田
フックが容赦な

向こうは向こうで、対マスコミではなんて言うのか知らないけど、なんとなくやってて、いい意味で感じられたというか。

早くやってほしかったとは思います（笑）。

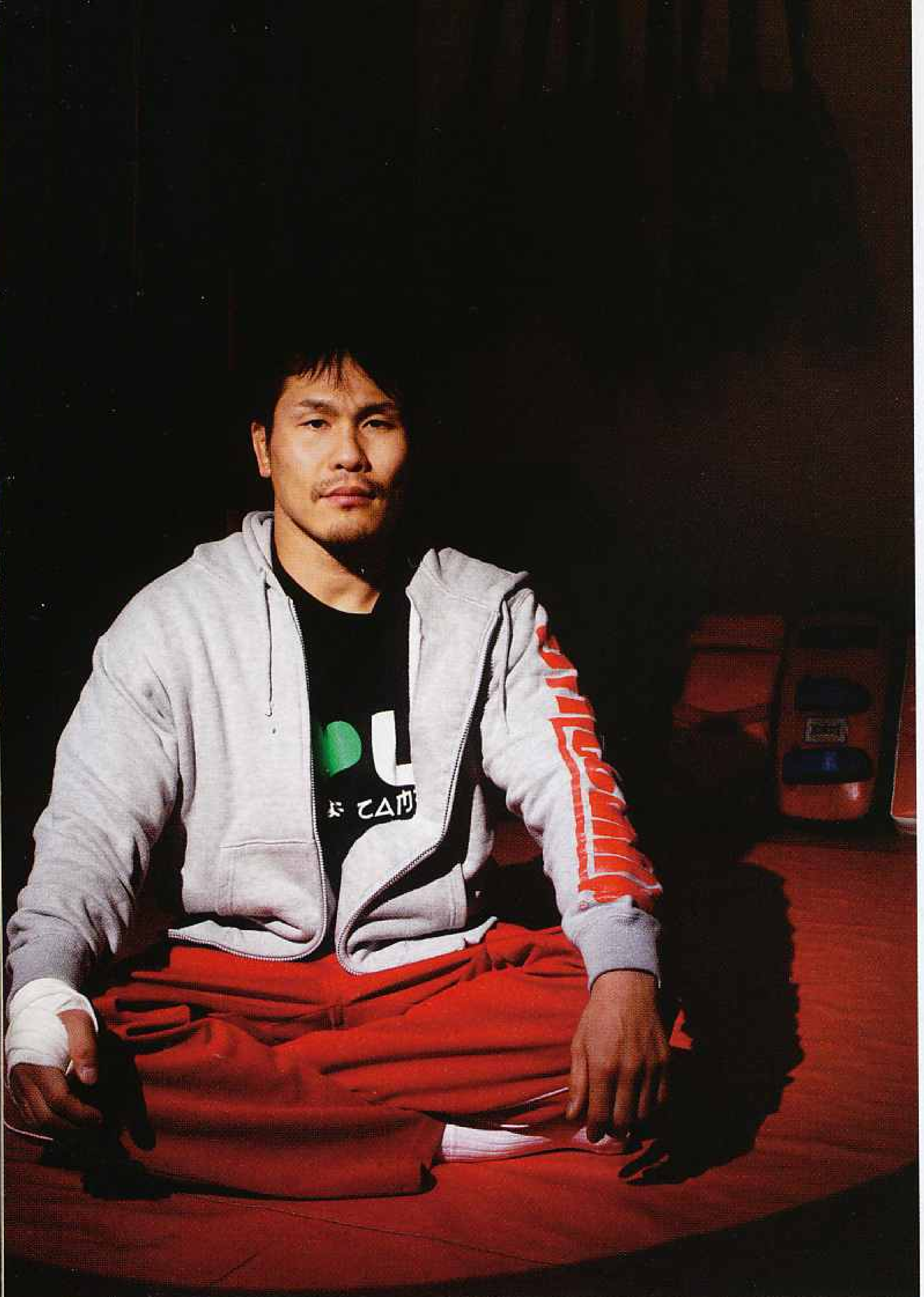
田村　でも、その「もうちょっと早くても」っていうのは、やったから言えることなん

——十番勝負ぐらいやらないと、勝った負けたよりも試合内容っていうのが上にこないってことですか？

田村　だから、やる前は桜庭はもしかしたら、ちょっとフェードアウトするつもりな

は結果論でもあるからね。それくらい桜庭の懐に入りきるって難しいのよ。見た

いろんな……俺が誤解してる部分もあっただろうし、いろんなことを感じられた。



たむら・きよし■1969年12月17日、岡山県出身。第二次UWF第1回入門テストに合格し、89年に静木実戦でデビュー。以後、Uインター、リングスを渡り歩いた生粋のU戦士。昨年は船木誠勝、桜庭和志を破るなど、大ベテランながらコンディションのよさには定評がある。格闘技ジムU-FILE CAMPを主宰。180cm、85kg。

向こうは向こうで、対マスコミではなんて言うのか知らないけど、なんとなくやってて、いい意味で感じられたというか。

——試合前のいろんな発言は、どう捉えていますか？

田村　それはわかんない。ホントに俺のこと嫌ってるのかもしれないし、それはわかんないけど、やっててそういう好き嫌いじゃなくて、何かを感じられたのよ。それはなんですかって聞かれても、具体的に答えられるもんじゃないけど。やっぱね、いろんな感情はあるよね。なんて言えばいいかな……ちょっと難しいな。次！

——田村さん、桜庭戦はやってよかったと思います？

田村　いや……どうだろう？　もうちょっと早くやったほうがよかったかな。

——それは多くのファンがもうちょっと早くやってほしかったとは思います（笑）。

田村　でも、その「もうちょっと早くても」っていうのは、やったから言えることなんだけどね。

——もう一回やりたい気持ちはありますか？

田村　………正直言うと、やりたいね（キッパリ）。ただ、お互い4番バッター同士の試合じゃなくて、1番2番、6番7番のポジションだったら、もっといい試合ができると思うから。一試合といわず10回やりたいよ！　毎回毎回、十番勝負でやりたい。

——田村vs桜庭戦で巡業して回るぐらいの（笑）。

田村　お客が「まだやってんの？」って言うぐらいのときに俺と桜庭の本領が発揮される。

——十番勝負ぐらいやらないと、勝った負けたよりも試合内容っていうのが上にこないってことですか？

田村　うん、そう。だから10回やりゃあ4割バッターになるかもしれないね。10回やれば4試合はいい試合になる。「もう観たくねえ」っていうぐらいのときに最高の試合になるんじゃない？　その試合は観る価値あると思うよ。

——いや〜、今日は田村さんが非常に勝敗にこだわっていたことがよくわかりました（笑）。

田村　いや、勝敗にこだわってないんだけど、俺もある程度先輩だからさ。理想を言えば、いい試合をして勝てるのが一番いいんだけど、それは思ってできることじゃないから。サクはそんなに深く考えてないかもしれないけど、彼は彼でやっぱり重いものを背負ってきてるから。今後どういう展開になるのかが見えないぶん楽しさもあったりするかな。楽しさでもあったり、なんだろうな……なんかわかんないな。次の質問いって！

——いや、今日は以上です（笑）。ありがとうございました。

【09年1月10日／U-FILE CAMP登戸にて収録】



試合後、抱き合って何やら語り合う両者。桜庭の口からは「もう一回お願いします」との発言が聞かれた。はたして桜庭vs田村という大河ドラマに"続編"はあるのか？



そのままグラウンド状態で2ラウンドが終了。判定は終始優位なポジションを取り、打撃を入れ続けた田村が3-0で勝利。運命の一戦は田村に凱歌が上がった。



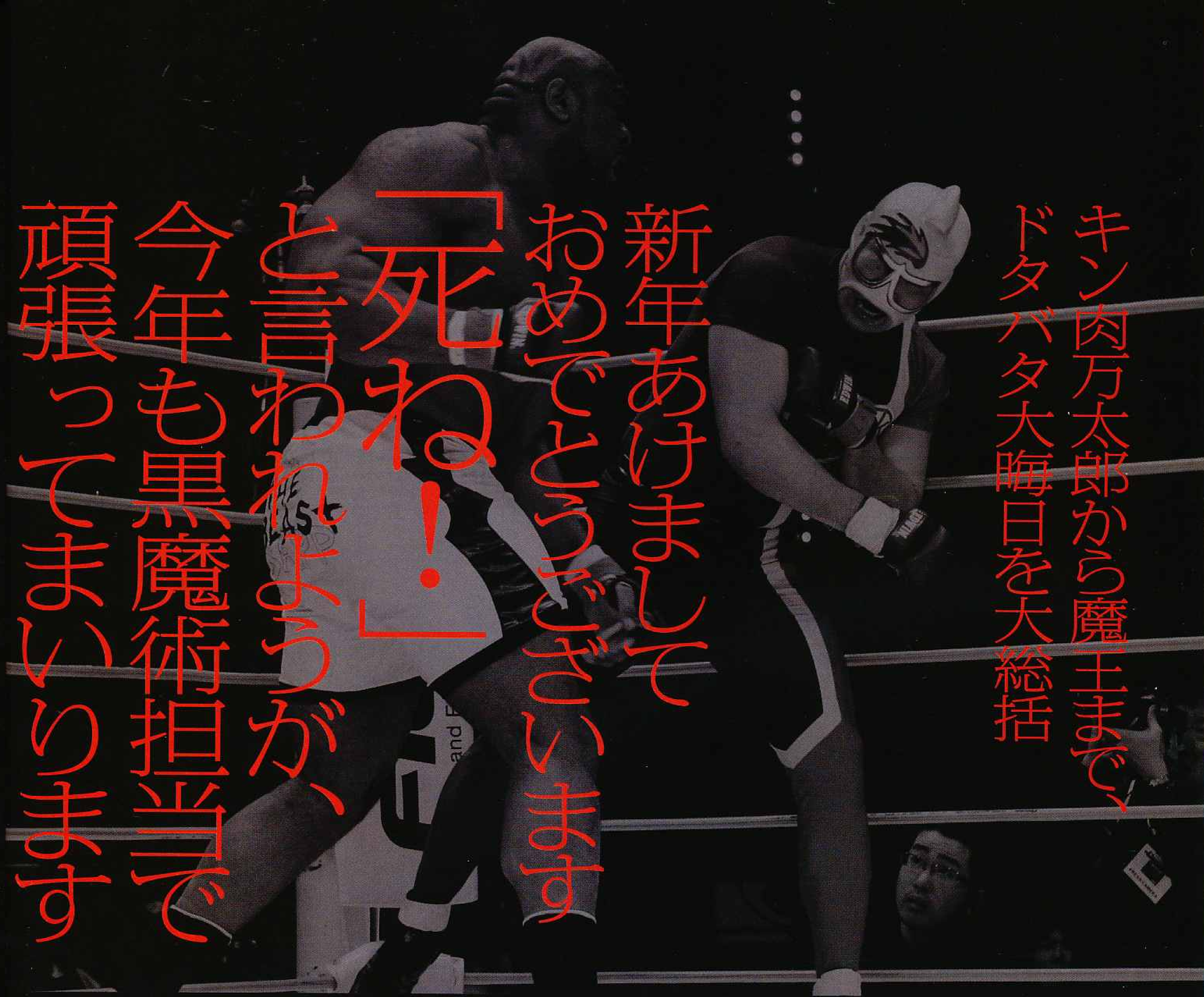
田村のローキックとパンチのコンビネーションに、桜庭はダウン寸前かと思われたが、ここでが選んだのは打撃ではなく両足タックル。桜庭は首を取り再びガードポジションへ。



2ラウンドに入ると、桜庭のダメージは色濃く、スタミナも切れかけているように見える。そこへ田村のローキック、左ストレート、右フックが容赦なく浴びせられていく。



ガードポジシ
に脇を締めて
なんとか田村
するが、極める



キン肉万太郎から魔王まで、ドタバタ大晦日を大総括

新年あけましておめでとうございます「死ね！」と言われようが、今年も黒魔術担当で頑張ってまいります



FEG代表

谷川貞治

何かと"障害"多きイベントだった08年『Dynamite!!』。しかし、終わってみれば視聴率こそ民放2位に陥落したものの、興行的には大成功となった。田村vs桜庭戦を含め、今回のイベントをあらためてサダハルンバが大総括！ そして09年マット界の行方とは!?

聞き手／ジャン斉藤　写真／乾晋也、平工幸雄

——さっきまで石井元館長にインタビューしてたんですよ。

谷川 ふ〜ん……。どうせ斉藤くんはボクの悪口でも言ってたんでしょ？（怪訝そうな表情で）。

——あれ？ なんで知ってるんですか？

谷川 んあ〜！

——というわけで、今日は『Dynamiyte!!』の反省をたっぷりしていただきたいなあ、と。

谷川 『Dynamiyte!!』、評判いいよねえ！ 今回はめちゃめちゃ苦しいことがあったからさあ、それだけに会場のお客さんの評判がよかったから凄く嬉しいなあって。

——確かに、いままで大晦日ってお祭り的な要素ばかりに目がいってましたけど、今回はイベントとして完成度が高かったですよね。

谷川 そうだよね!? 最初はボクも「17試合もあるんだ。長いなあ」と思ったけど、それを感じなかったもん！ 凄くよかった！

——そうは言っても大晦日といえば視聴率が重要じゃないですか。

谷川 んあ〜。せっかくノってきたところだったのに。

——今回は平均視聴率12・8パーセントという結果でしたがこの数字はいかがですか？

谷川 視聴率はですね……、今年の大晦日に向けて燃えてます。

——あっさり敗北宣言ですか（笑）。

谷川 違〜う！（怒）。……まあ、今年は本当に正念場だと思ってますよ。もちろん視聴率だけじゃなくて、クオリティや観客動員も含めてね。でも、こんなこと言ったら怒られるか

もしれないけど、それでもボクはよく頑張ったなと思ってるんだよね。

——僕も出場メンバーを見たときに

ければ15パーセントはいったと思うんだけどなあ。

——そして瞬間最高視聴率ですが、

れるかもしれない！」って（笑）。でも、僕は絶対にブーイングは起きないと思ったし、逆に歓声が起こるんじゃ

だんです。○○くんは○○くんで本当に運動能力も高いしね。でもTBSもそれじゃ満足できないというこ

とが一番大切。マヌーフなんか二つ返事だったもん。

——そういえば、石田（光洋）さんも



サダハルンバが死を覚悟した命懸けの一戦、ボブ・サップvsキン肉万太郎。本誌の「男特集」にふさわしいほどの男気を発揮したゆでたまご先生らの心意気もあったからか、サダハルンバは09年も命を落とすことなく元気である。

もしれないけど、それでもボクはよく頑張ったなと思ってるんだよね。

——僕も出場メンバーを見たときに「二ケタは覚悟しないと」と思ったんですよ。だから逆に今回の『Dynamite!!』に何を期待して観たのか、ちょっと不思議でしたね。

谷川 失礼だなあ！　普通に二ケタは獲るでしょ。

——そうですか？

谷川 でも、これは前にも言ったけど、やっぱりいまの時代は名前がある選手をただ出すより、いい試合を見せないと数字は獲れませんよ。欲を言えば、あと2パーセントは獲りたかった。そこはやっぱり魔裟斗やKIDみたいな要素が足りなかったとも思ってるんだけど、どの試合も時間が短かったんだよね。数字が伸びきる前に終わっちゃう。それがなければ15パーセントはいったと思うんだけどなあ。

——そして瞬間最高視聴率ですが、やはりキン肉万太郎vsボブ・サップでした（18・1パーセント）。

谷川 これは21時30分頃、NHKが紅白じゃなくてニュースをやってる時間に流したからね。

——つまり、瞬間最高は確実の時間帯ですね。

谷川 だから、この結果は予想はしてたんだけど、ボクは今回何が怖いって、ファンの万太郎の反応が怖かったですからね。怖すぎて斉藤くんにも電話しちゃったもん（かわいらしく）。

——カード発表当日の深夜3時頃、珍しく谷川さんから電話がありましたよね。「DREAMのオフィシャルBBSでファンに『死ね！』って書かれるかもしれない！」って（笑）。でも、僕は絶対にブーイングは起きないと思ったし、逆に歓声が起こるんじゃないかなと思ってたぐらいで。

谷川 ホントお？　万太郎の件はこの大事な時期にある格闘技界をすべて壊しちゃうんじゃないかって、真面目に思ったよ。そのくらいのリスクがあるかもしれないって。でも、そういう意味では今回「勇気のチカラ」を一番発揮したのはゆでたまご先生でしたね。

——「マンガの連載が打ち切りになってもいいから出しましょう！」って勢いだったんですよね？

谷川 あとは、OZMAさんもうまいこと助けてくれたよね。ボクもいじってもらって嬉しかったなあ。うふふふふ。

——「谷川さんは胡散くさい」「谷川さんは敵だ！」とさんざん言われてましたけど。OZMAさんはOZMAさんで、こういう役を担うことに関して不安だったんですか？

谷川 いや、OZMAさんは自分で料理できる自信があったみたいですよ。あの人頭いいしねえ。感心したなあ。

——そもそも万太郎のプランはどんなふうに上がってきたんですか？

谷川 ギリギリの土壇場ですよ。本当は万太郎の正体の○○くんを出そうと思ってて、最初はボブ・サップvs○○くんを組んだんです。○○くんは○○くんで本当に運動能力も高いしね。でもTBSもそれじゃ満足できないということだったから、急きょ万太郎として出すことになって。

——……その会議って相当、煮詰まってたんですかねえ。

谷川 なんで？

——話し合いでドロドロになった末に、明け方ぐらいに「もうキン肉マンにすればいいんじゃない？」「もうそれでいこう！」みたいな（笑）。

谷川 違うよお！　おもいきってキン肉万太郎にしないかという話になっただけです。でもこの件に関しては、逆に旧PRIDEスタッフのほうが「それでもやらなきゃ！」という意識が高かったね。

——視聴率が見込めるカードが少なかったこともあって。

谷川 まずそこでビックリしたし、ゆでたまご先生やOZMAさんがノリノリでやってくれたことにも驚いたし。

——しかし、その万太郎の件も含めて、今回の大晦日も当日に至るまではかなり厳しい"闘い"でしたよね。

谷川 厳しかったなあ。ただ、あらためてよかったと思うのは、名前がある人よりもハングリーに頑張ってる選手が最終的に勝ったことだよね。しかも、彼らの試合は数字的にも下がったカードは一つもないし。やっぱり格闘技はひたむきさが見えることが一番大切。マヌーフなんか二つ返事だったもん。

——そういえば、石田（光洋）さんも欠場になったヨアキム・ハンセンの代わりにJZ・カルバンと試合しないかって話をしたそうですね。

谷川 うん。大会前にけやき広場で石田くんのトークショーがあったでしょ？　その前に挨拶に来たから「今日、JZ戦なんて、どお？」って。

——どんなオファーなんですか！

谷川 でも、もうちょっとで受けそうだったよ。

——それは凄い（笑）。

谷川 柴田選手だってじつは試合の1週間か10日ほど前に靭帯を伸ばして歩けない状態だったしね。

——そうなんですか!?　それも凄い話だなあ。

谷川 それでも柴田くんが出てきてくれて。だから柴田くんにも「勇気のチカラ」を感じたし、試合もよかったよね。あとは、シュルトも……あ、シュルトの煽りVはよかったねえ！

——プロデューサー（＝谷川）に疎まれる巨人兵の悲しき物語。って、谷川さんが喜んでどうするんですか!?

谷川 そうなんだけど、悲しい話だなあって思ったね。

——いや、だから谷川さんが原因ですって。

谷川 シュルトもそういう意味では絶対に負けたくなかっただろうね。終わったあとも「K―1ファイター

名前がある人よりハングリーに頑張った選手が最終的に勝った

オリティや観客動員も含めてね。で
も、こんなこと言ったら怒られるか

はみんな負けたけど、俺だけは勝った！」って言ってましたから。ボクは「まだ、K―1ファイターなの？」って思ったけどさぁ。

――んあ〜！（笑）。

谷川 でも、シュルトの言うとおりでホンマンもハントもダメだったけど、やっぱりハングリーで本当に追い詰められた選手は勝ったよね。だからあらためて格闘技の原点はK―1甲子園だなって思いましたよ。実際、K―1甲子園は評価が高いし数字もよかったですから。

――評判がいいみたいですね。ただ、あの会場の雰囲気に落とし込むのはちょっとかわいそうかなって。

谷川 本当はK―1とDREAMを分けたいですけどね。ただ19時台、数字で『ガキの使い』に勝ったからねえ！ そのへんをどう調整するかですよね。

――難しいですね。会場のファンのことだけ考えてもダメだし、視聴率のことばかり考えてもダメだし。

谷川 でも今回は名前がある選手よりも若い選手がどんどん輝いてくれたから、へんな話〝在庫一掃セール〟じゃないけど、次のステップに上がれた感じはしましたよ。

――K―1勢は川尻選手、ゲガール・ムサシ、アリスターに3連敗しましたけど、そこはいかがですか？

谷川 ボクの予想ではバダ・ハリだけは勝つと思ったんだよなあ。でも、前から言ってるように総合ルールの試合にK―1ファイターが出るんだったらK―1のファイターが勝ったほうが絶対にいいし、K―1ルールの試合で総合の選手が出る場合は総合の選手が勝たないと罪悪感しか残らないからね。だからKIDや須藤元気がK―1で勝っていくのを見て、それが成功につながるんだということもわかってますから。

――K―1の有名ファイターと試合したことで川尻選手やゲガール・ムサシも一般層に定着しつつありますもんね。

谷川 彼らは次の試合が凄く大切ですね。ゲガールや川尻くんはまだまだ化けますからね！ それに川尻くんは……ボク川尻くんとは絡める自信がありますよ！（胸を張って）。

――芸人じゃないですから（笑）。でもファンはK―1勢に勝った3選手はみんなK―1に引きずり込まれるんじゃないかみたいな不安を抱いてるみたいですよ。

谷川 いや、引きずり込みますよ！

――誤解を生む発言だなあ。

谷川 いやいや。だから、いいかたちで引きずり込めるんだったら引きずり込みたいけど、悪いかたちで引きずり込むのはよくないですよ。

――結果的にK―1勢のリベンジ達成のための再戦なら、やらないほうがいいですよね。

谷川 うん。逆に言うと、たとえばミルコなんかはPRIDEに引きずり込まれて成功したじゃない。そこでもう一回ハングリーになったから化けた選手だけど、今回のチェ・ホンマンなんかはダメだったね。もうちょっとホンマンもミルコを押し潰すぐらいの気迫があったら印象が変わったんだけどなあ。

――ところで今回の目玉の一つでもある田村vs桜庭戦はいかがでした？

谷川 難しい試合だったねえ……（しみじみと）。

――凄く考えないと楽しめない試合ですよね。

谷川 ボクの第一印象は、まずタムちゃんが優しいなと思ったなあ。『PRIDE・23』の髙田延彦戦もそうだったけど、あの試合は一発パンチが入ったじゃない。でも、あの一発がなかったら田村vs髙田戦も田村vs桜庭戦みたいな試合だったんだろうなって思いました。

――ああ、なるほど。殺しきれないというか、なんというか。

谷川 で、桜庭選手に感じたことは、これまでいろいろ田村選手に対する発言があったけど、やっぱり素ではそんなにタムちゃんのことを嫌いじゃなかったんだなと思った。ボクは残酷な桜庭選手を期待したんだけど、サクちゃんのほうが「いい試合をしたいのに、田村さん、固いなあ」っていう。ただそれもボク的には、サクちゃんの考えもちょっと違うなあって思ったし、田村選手は田村選手で逆にもっと試合をスイングさせようというサクちゃんみたいな気持ちがほしかったと思いますね。だから、二人にとってはやり直したいだろうね。たぶん同じ結果になると思うけど。

――谷川さんは試合が終わったあと二人とは話しました？

谷川 二人ともしゃべりました。サクちゃんは「スミマセン、また大事なところで滑っちゃいました」って感じだったなあ。やっぱりいい試合ができなかったことに対して責任を感じてるという言葉でしたね。で、田村選手は（考え込んで）……なんか勝利に満足してたなあ。

――とりあえず満足してた、と。

谷川 「タムちゃん、優しいねえ」って言ったら、「手が折れちゃって」って言ってましたね。「殺すつもりでやればよかったのに」って言ったら、「い


さいたまスーパーアリーナとの相性がイマイチだったK-1甲子園だが、テレビ放送では高視聴率を獲得。今年、この甲子園をどう『Dynamite!!』に盛り込むかも課題の一つになりそうだ。


サダハルンバも「難しい試合だったねえ〜」とうなるほど、いろんな思考が交錯する田村vs桜庭戦。この試合に決着をつけた二人が、今後マット界でどんなテーマを見いだしていくかは非常に注目すべきポイントである。

見出しばかり作っても格闘技が

に作れると思うし、熱の高いイベントも作れると思う。その中で、世間一

ど、PRIDEはそこを我慢して作ってきたじゃないですか。それはま

のはべついいんだけど、今後どうしたいのかが見えてこない。それはプ

試合で総合の選手が出る場合は総合の選手が勝たないと罪悪感しか残ら

谷川 いやいや。だから、いいかたちで引きずり込めるんだったら引きず

たいのに、田村さん、固いなあ」っていう。ただそれもボク的には、サクち

見出しばかり作っても格闘技が空っぽになることはわかってる

やあ、手が……」って。でもさあ、ボクが思ったのは、あの試合に神が降りなかったのが残念だったなって。

――ああ、田村vs髙田戦には神が降りまくってましたもんね。

谷川 だから納得いく試合ができなかったこと自体が悔しいだろうと思いますよ。とくに桜庭選手が。だって、サクちゃんは弱さを見せちゃったじゃないですか。それが悔しいでしょうね。そこも含めて今回の桜庭、田村、そして船木さん、武蔵あたりは格闘技界にとって最大の功労者たちなんですけど、今年は誰とどういう試合をやっていくのか、方向性を決めるのは大変でしょうね。もちろんボクらプロモーターも大変ですけど。

――今年の展望はどうなるんでしょうか？

谷川 やっぱりいまはDREAMらしさというのが凄く定着しつつあるし、去年いろいろ大変だったこともあって、K―1スタッフと旧PRIDEのスタッフが目標を共有できるようになった。だからいまは凄く結束が固いと思うんだよね。

――K―1とDREAMの合同イベント的だった『Dynamite!!』を通過したことで、よけいにそういう部分ってあります？

谷川 うん。だから新しい選手を育てていこうという意識は高いし、今年は絶対にリベンジしようってみんな思ってますよ。でも、今回の『Dynamite!!』で一番の誤算は、なぜか石井（慧）くんの話題に邪魔されてたなって。あれは予定外だった。

――結局この年末年始、来場してないのは『Dynamite!!』だけでした。じつは、仲が悪かったりするんですか？

谷川 そんなことは絶対にないって！ だってボク一回しか話したことないもん。でもある意味、彼はファンの共感は得るとは思うけどね。個人主義か集団主義かでいうと、典型的な個人主義じゃない。だから組織とか日本の格闘技界のためとかじゃなく、俺が強くなるためにUFCなんだというのは、なくはないよね。

――それにしてもしんどい道を選びましたよね。結果を出さないといけない世界ですから。

谷川 うん。頑張ってほしいですよ。あれで本当にバリバリ強かったらカッコいいしね。

――ただ、石井選手がDREAMに来ると思ってたので、これから見出しになる選手を見つけるのが難しいんじゃないかと思うんですけど。

谷川 DREAMは、ファンを確実に作れると思うし、熱の高いイベントも作れると思う。その中で、世間一般にも通用するものをどう作っていくかだよね。そこは黒魔術担当でやっていかなきゃなって。

――ファンに「死ね！」と書き込まれる黒魔術を期待してますよ（笑）。

谷川 頑張るぞ～！ ボクは2003年にイベントが3派に分かれたときに、当時はとにかく数字で勝たなきゃっていう感じで、サップvs曙や、ボビーを参戦させたりしたけど、05年にPRIDEに数字で負けたでしょ。



UFC、『戦極』、そして『ハッスル』にまで来場した石井慧。結局、年末年始イベントは『Dynamite!!』にだけ来場しなかったが、裏側に何かあるのか、それとも気まぐれか？

――あれはたしか金子賢が出場した『PRIDE男祭り』ですね。

谷川 だからわかるんだよね。数字で勝っても見出しばかり作ってるとどこかで格闘技が空っぽになることが。結果は出るからみんなそっちに走っちゃうという問題もあるんだけど、PRIDEはそこを我慢して作ってきたじゃないですか。それはまあ、K―1があったから作れた世界ではあると思うんだけどね。ただ格闘技の中身を作る一方で、やっぱり『ガキの使い』に数字で負けたのはよくないんですよ。

――やっぱり民放1位を獲らないとダメなんですね。

谷川 あれはあれで完成度の高いお笑いだし、あの『笑ってはいけないシリーズ』はよくできてるなって思うんだけど。

――手数がハンパないですよね。1分おきに何かが起こるというか。

谷川 でもね、やっぱりそれでも飽きはあるんですよ。でも、格闘技は出てる人が変わるから、定着はする可能性は高いと思うんだけどね。だから格闘技界も本当は新しいものを生み出さないとダメですね。それを作る人間もどんどん若返っていかないといけないし。そんなことを考えながら09年は選手を育てていきたいなと思いますね。……ところでさ、秋山くんって何やってるの？

――ええっと、魔王はハワイにバカンスに行ってるみたいですけどね。

谷川 あ、そうなんだ。のんきだねぇ。

――さすがに1・4『戦極』は来るのかなあと思ってたんですけど、来なかったですもんね。

谷川 ウチにも遊びに来るかなあと思ってたけど、来なかったですね。

――来てもよかったんですか（笑）。

谷川 でも、今回の欠場で、ファンがちょっと引いちゃったんじゃない？

――魔王はプロとして何がしたいのかわからないですからね。欠場するのはべついいんだけど、今後どうしたいのかが見えてこない。それはプロとしてどうかと思いますよ。

谷川 そこに期待するのは無理でしょ（キッパリ）。

――冷たいなあ。

谷川 でもねえ、川尻選手みたいなわがまま言わずに凄く一生懸命やってくれる選手ってプロモーターは凄い大事にしたがるんだけど、一方で秋山くんみたいな面倒くさい選手もいないとイベントに刺激がなくなっちゃうよね。

――確かにそうですね。

谷川 そういう性格が尖った人たちがいない世界はやっぱりよくないんだよ。だから、そういう秋山くんみたいな人たちも実績を上げてくれるような状況も作らないとダメなのかなとも思いますね。

――じゃあ、魔王がDREAMに戻ってくる可能性もなくはない、と？

谷川 でも、秋山くんは面倒くさいんだよなあ（ぶつぶつ）。

――いったいどっちなんですか、ホントに。

谷川 だいたいさ、いまさら秋山くんがDREAMに戻ってきても微妙じゃない？

――いや、いまこそ純度120パーセントのヒールとして売り出せると思いますけどね。ただ、本人にその覚悟があるかどうか。

谷川 要するに「死ね！」って書かれても気にしないってこと？

――ま、そういうことかもしれませんね（笑）。谷川さんも気にしないで頑張ってくださ～い！

【09年1月6日／都内・FEG赤坂分室にて収録】

谷川貞治



サダハルンバ
ト界でどんな

──本来ならば、このホテルの敷地内での撮影は禁止されているんですが……。

イクするってことですね。

石井　まあ、選手は選手で自分なりの考え方が[illegible]ともあるから。物事ってい

けじゃない。歴史の上に立ってるわけでしょう。

──それを選手に理解してもらうってこ



プロ格闘技を創った男

石井教義

正道会館宗師

——本来ならば、このホテルの敷地内での撮影は禁止されているんですが……。館長の交渉術のおかげで撮影ができました（笑）。

石井　ハハハ。そんなに難しいことじゃないですよ。もうその場の勢いですから（笑）。それにね、交渉のコツを言えば、「撮れますか？」じゃなくて「撮りますけど」って言えば、なんとかなるもんですよ。

——いやぁ、さすがですねぇ。そこは男の器量というか。

石井　何を言いますか。ハッハッハッハッ！

——じつは、今回の『kamipro』のテーマは「男とは何か？」ということなんです。なぜそういうテーマになったかといえば、最近はワガママな選手な多いというか……。

石井　（さえぎって）いや、ワガママなのが普通でしょう。

——あ、そういうもんですか。

石井　私は選手に対して苦労したことはあまりないですね。べつに選手にそこまで期待もしてないし。たとえば「試合に出たくない」という選手に対しては、「じゃあ、いらない」っていう姿勢できましたから。まあ、私たちの時代といまの時代は違うのかもしれないけど。だから、選手に対しておべっかを使ったり、ご機嫌をとったりするからダメなんじゃないかな。

——あ、谷川さんじゃダメですか？

石井　いやいや、そういうつもりじゃないですよ（笑）。やっぱり、選手とプロモーターとお客さんっていうのは対等な立場ですからね。もちろん選手のこともリスペクトするけども、それ以上にお客さんのことも大切にしてあげなきゃいけないし。

——それは選手の考えを優先するんじゃなくて、ファンの観たい試合をマッチメ

2009年の鍵を握る男

王の帰還

「私にしかできない役割もあるんです」

この日本にプロ格闘技を根づかせた石井和義元館長が、09年から本格始動をするという。混沌が深まるマット界において、マスター・イシイはどんなアクションを起こそうとしてるのか？それでは読みますか？ せ～の、ダイナマイッ!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫

イクするってことですね。

石井　まあ、選手は選手で自分なりの考え方がどうしてもあるから。物事っていうのは両面から見て一つの物事じゃないですか。したがって選手の気持ちも理解してあげないといけないですよね。しかしさっきの写真撮影のこともあるけど、「写真、撮るよ」って言えば、「ちょっと待ってください。一応、聞いてきますから」ってなる。だから「試合やるぞ。こいつとな」って、極端なことを言うと対戦相手にも言わずに勝手に発表しちゃうぐらいのワンマン性が必要というか。中心にいる人にはそのぐらいの勢いがないと物事は成就しないこともありますよね。

——それって選手たちが主催者の力量を認めてないと、なかなか物事がうまく進まないっていうことですよね。

石井　そうかもしれませんね。やっぱりリスペクトされてないと物事は動かないし。よく考えると、もともと大きな格闘技大会自体がなかったじゃないですか、K—1がスタートするまでは。テレビ局もついてないし、大会場でもできなかったし、世間にも注目されてなかった。けど、私たちみんなの努力の積み重ねで、いまではゴールデンタイムで放送されるようになり、選手がコマーシャルにも登用されるようにもなり、尊敬もされ、メシも食えるようになってきた。ですからチャレンジしてきた創業者という自負はありますよね。

——館長がいなかったら、格闘技は興行として成り立ってなかったですね。

石井　いやいや、私も含め先人たちの努力の土台の上にK—1があり、PRIDEがあり、DREAMがある。もちろん『戦極』も含めてだけど。つまり、私たちや先輩たちが作り上げてきた土台に選手たちは立っている、何もないところから選手たちがポッとリングに上がってるわけじゃない。歴史の上に立ってるわけでしょう。

——それを選手に理解してもらうってことですね。

石井　だから、「一番いいときに一番いい試合をお客さんに見せる。それがキミたちの使命なんだよ。そこで勝とうが負けようが、ちゃんといい試合をして自分の言いたいことを言えば、人気も下がらないし、キミ自身の価値も下がらない。そうじゃないとダメだよ」って言い聞かせる。それでも試合をやらない人は、二度と使わないだけの話です。だってそんな人間を使ってもしょうがないじゃないですか。テレビの宣伝や取材も含めたら、費用にして何億もかけるんですから。それだけのお金をかけて積み上げてきた選手が、いざというときに「出ません」なんて言われたら……。だから、最初からそういう選手を使うことが間違っているわけです。

——そこは主催者の戦略ミスではありますね。

石井　最初に選手にそういう話をしないといけない。だって、格闘技番組というのは、いくら放送されても最大120分だけど、そのあいだにはコマーシャルもあるし、中身は100分ぶんです。そう考えたらいくら試合を流しても6試合から7試合しか無理なわけですよね。ということは、テレビに映る選手というのは世界中でたったの14人なわけですよ。その14人をこれからプロモーションして、視聴率を上げ、スポンサーに喜ばれ、テレビ局にも喜ばれて、お客さんにも喜ばれて、そこで大きなお金を集めて正しい運営をしなくちゃならないじゃないですか。

——館長から見ると、そこがうまく回ってないというふうに見えますか？

石井　はい。選手が、なんのためにリン



K-1と総合のPRIDE、そしてプロレスの三角のトライアングルを作ろうと思ってたんです

グに上がるかということを自覚してないというか、それはプロモーターがちゃんと伝えてない部分があるでしょう。だから選手の自己主張ばっかり。自分が勝ちたい、目立ちたいから上がる。そんなイベントだったらもうやらないほうがいいということになる。選手たちもなんのために闘ってるかっていうことを、もっともっと考えてみたらいい。そこに自分の信念というものを持たないと、闘う意味はないと思ってるんですよね。

——じゃあ、結論とすれば、谷川さんの教育には不満があるってことですね。

石井 いや、そんなことはないですよ（笑）。ボクにはとてもじゃないけど谷川さんのマネはできませんよ。

——それぞれ役割があるってことですか？

石井 そうですね。逆にボクには谷川さんができないこともできるかもしれませんが、マルサが入ったのが01年でしょ。で、03年から、ボクはま〜ったくK—1の仕事をやってませんから。6年ものあいだ、何もやってない。6年何もやってない人間が、いま一生懸命やっている人たちのことは何も言えないですよね。

——館長が表舞台から身を引いてから、興行でも試合でも、以前と比べて変わったという印象はありますか？

石井 そうですねぇ。物事っていうのは線でつながってなくてはダメで、点ではダメだと。これ、谷川さんが言ってたんですけど。ただ、それを言った本人が、いまそういうビジョンがあって実際にやっているのかという問題がありますね（笑）。

——ダッハッハッハッ。

石井 逆に言えば、私はいつも逆発想でK—1を作ってきたと思うんだよね。ゴールを決めて、逆から考えて、じゃあこういうふうにしていこう、と。K—1を全世界でテレビ放送したいから、最初からヒジ打ちや首相撲はなしにした。なぜかいうと、スタンドのファイティングスポーツとして常にアクションしてるほうがおもしろいし、ヒジでカットして血が流れたら海外ではテレビで放送できないっていうこともある。ということで、K—1ルールを作っていったわけですよね。それはどういうことかというと、39歳ぐらいの若造が「世界中でテレビ中継されることになるから」というホラを吹きながら、自分の成功したイメージを作りながらやっていこうとしてたわけ。話は少し横道にそれましたが、いまは、逆から考えて物事を作っているかといったらそうじゃなくて、選手のケガやアクシデントが多く、目の前のことで「この選手とこの選手が使えるから」とか「この選手を使わなくちゃいけないから」とか、追い込まれて作ってる部分もあるのではないかなと思います。……あくまでもこれは推測ですよ（笑）。

——ダハハハハ。で、館長が表舞台から引いた02年ぐらいから、PRIDEを代表とするMMAが急激に上がってきたと思うんですけど、それはどのようにご覧になっていたんですか？



石井 あそこまでグチャグチャのルールのMMAが、一つの競技となってくるというのは脅威ですよね。確かに私もMMAは最初からおもしろいなと思ってたんですよ。K—1をスタートする前にMMAの『格闘技オリンピック』っていう大会もやりましたし。でも、はたして地上波でそういう試合を放送できるのか？という疑問が一つあって。倒れた相手を踏んづけたり蹴ったりする闘いに教育的なものを見出せるかという部分に対しての思いがあったんですよね。あとリングスの前田日明さんが総合をやってたというのもあったんで、ボクは立ち技のほうをやろう、と決断しましたが、なんでもありというのは確かにおもしろい！

——刺激的でもありますし。PRIDEの隆盛を予想できたところはあったんですね。

石井 もちろん、もちろん。だから最初、PRIDEの企画があったとき、私も応援しました。ヒクソンのファイトマネーを立て替えて口座に振り込んだりしてね。新日本プロレスの永島（勝司）さんが1000万のつもりで指を1本立てたのをヒクソンが1億と勘違いして大変だったんだから（笑）。

——当時は新日本もヒクソンと交渉してましたね（笑）。

石井 それまでヒクソンは500万円で修斗大会のトーナメントに出てたんだからね。最終的には60万ドルに下がったんだけど。で、半額の30万ドルをボクが振り込んだんですよね。

——それくらいMMAというジャンルの可能性を見ていたわけですね。

石井 三角のトライアングルを作ろうと思ってたんですよ。立ち技のK—1と、総合のPRIDE、そしてあともう一つプロレス。

——武藤さんやDSEと協力して、『レッスル1』というイベントもやりましたもんね。

石井 ええ。その3つの中でそれぞれスターを作って、うまく回したりしながら、うまくトライアングルを作っていけばいいかなっていうふうに考えてた。そのときに反対したのが谷川さんと、当時『週プロ』の編集長だったターザン（山本）さんですよ。あの人たちはカンがいいですよねぇ（笑）。

——はい、充分知ってます（笑）。

石井 「館長はK—1に命を懸けるべきだ。K—1だけやんなきゃダメですよぉ」って。彼らは一生懸命反対しましたよ。あのときにね、反対されてもやっとけばよかったんですよ。それ以外に芸能プロでもやろうなんて考えてましたからね（笑）。

——芸能界まで！ ダイナマイッ！ な発想ですね（笑）。

石井 うん。テレビの番組の中で、みんなが観る時間は19時から4時間くらいでしょ。それが1週間あるとして、その28時間をいろんな芸能事務所や制作会社が取り合いしてるわけですよね。で、格闘技をこの時間帯に持ってこようとすると、どうしてもライバルは芸能であり、歌であり、ほかのメジャースポーツになってくるわけです。その中の人間関係ができてないと、どうしても邪魔者にされるし。だから、K—1がゴールデンタイムでスタートして芸能界の人たちとの付き合いが増えたわけですよ。

——そこもちゃんとフォローすることで、芸能界との関係を築いていったんですね。

石井 そうなんですよ。そのへんも含めてみんな全方位外交というか、そのためにゴルフコンペにも行ったり。で、いつの間にか芸能界に顔が広い格闘技界の人になっちゃったっていう。

——PRIDEの場合はそこのつながり
が弱かったために、消滅に陥ったという
話も聞きますね。

して捕まった！ と。アッハハハ！
——捕まったことで、だいぶ空白の期間
があったわけじゃないですか。ひさしぶ

味を持ってもらうっていうか、たとえば
高校でも、飲みに行った銀座でも、職場
でも、「このあいだのK—1を観た？」と

全盛期にK—1はスタートしたんです
よ。まったく格闘技がないところに私た
ちはスタートした。そんなときだって私



オールナイトニ
館長。今後はど
いぞ！

石井教義

——PRIDEの場合はそこのつながりが弱かったために、消滅に陥ったという話も聞きますね。

石井　いや私はPRIDEの消滅に対しては何も言う資格はないし、ただ、自分はそう思ってやってきたんです。フジテレビだけだったら、いつ放送が切られるかわかんないところもあるからTBSや日本テレビでもやろう、と。将来的にはいまのサッカーみたいに全局でK—1ができるようになったらいいなって考えてやってたんですよね。

——前人未踏の偉業ですよね。

石井　ええ、これは前人未踏ですよ。そして捕まった！　と。アッハハハ！

——捕まったことで、だいぶ空白の期間があったわけじゃないですか。ひさしぶりに戻られて格闘技に対してショックを受けたことってありますか？

石井　うん、ありましたよ。たくさんありましたけど……、それはちょっと言えませんね。

——よく言われるのがどんどん格闘技が大衆向けじゃなくなってきている、と。館長は人一倍、格闘技を大衆に向かって届かせようと思ってやってきた方じゃないですか。

石井　そうですね。まず若い子たちに興味を持ってもらうっていうか、たとえば高校でも、飲みに行った銀座でも、職場でも、「このあいだのK—1を観た？」とか「DREAMを観た？」というふうにどんどん話題になんないとダメですよね。

——現象としての格闘技ですね。

石井　そのためには、カッコよくなくちゃダメだし、格闘技を話すこと自体がオシャレにならなくちゃダメだし。イベントをやる以上に、そういった仕掛けって大事なんですよね。そういうムーブメントを作るっていうことを、もうずいぶんやってないんじゃないかと思うんですよ。小栗旬とかHey!Say!JUMPに関わってもらうとか。

——Hey!Say!JUMPまで押さえてますか！（笑）。

石井　それくらい意識してないとダメですよ（笑）。逆に言えば、いまはK—1とかDREAMの話をするのがカッコ悪いみたいになるとダメですよね。私はK—1を作ったときに、フジテレビの関係者の方に「K—1のライバルはプロレスでもないし、ボクシングでもないですよ」って言ったの。「K—1のライバルは、野球であり、Jリーグなんですよ」って。K—1とJリーグができたのが、ちょうど一緒だったこともありますからね。そういうメジャースポーツがボクらのライバルだと思っていた。

——それは、志をどう持つのかという話ですね。

石井　そうです。新日本プロレスや全日本プロレスに負けたくないとか、そんなことを考えたことなかったですから。93年のゴールデンウィークはプロレス全盛期だったじゃないですか。新日本は福岡ドームに5万人集めてやってたし、川崎球場では大仁田のFMWやったりして。団体が30ぐらいあって、10万人ぐらいのファンが動いてた。そういうプロレスの全盛期にK—1はスタートしたんですよ。まったく格闘技がないところに私たちはスタートした。そんなときだって私はプロレス団体をライバルだとは考えずに、野球とかサッカーを目指したわけです。志を高く持てっていうのはそういうことなんですよ。そのくらいを目指しとけばプロレスを超えられる。でも、プロレスを目指したなら、プロレスは超えられない。

——そこで気になるのは、いまの館長の志なんです。

石井　〝これから〟じゃないですか。これから失なわれた6年間を取り戻すべく働こうと思ってます。やることはいっぱいありますよね。もちろんK—1本体もそうだし、周りのこともそうだし。すべて元に戻さなくちゃいけない。

——具体的に言いますと？

石井　いや、捕まる前に戻すんです（笑）。

——あ、いたってシンプルですね（笑）。

石井　だって、それは私たちの財産じゃないですか。業界の人たちとのネットワークも含めて。それがすべて元に戻るわけですから、またみんなに応援してもらってやればいいじゃないですか。

——もう生活のリズムは元に戻られたんですか？

石井　はい。もう全然普通になってますね。

——出所後、初めてインタビューに出られたのが『週刊文春』でしたけど、メチャクチャおもしろかったです。中にいるときに「全員、子分にできそうだ」と思ったとか（笑）。

石井　人気者でしたよ。運動会なんか一堂に集まるから、そのときみんなが「館長！」ってボクのところにやってきて（笑）。

——さすがですねぇ。そういうふうに一目置かれるんですね。

石井　「頑張ってください」と励まされました。だからこの6年間を無駄にしないで空白を埋めなくちゃいけないんだよなあ。まあ、元気なうちに働いて、皆さんのために頑張ります。ボクはDREAMと『戦極』は一緒にやったらええのにってずっと思ってて。まあ、そういう話もしたことあるけどね。「別れてやる必要はないじゃない」って。1＋1が10になったらいいわけであって、お互いに奪い合うんじゃなくて、分け合えば物事って残るじゃないですか。奪い合えば残らないじゃないですか。さっきの話でいえば、UFCじゃなくて大リーグを倒すぐらいのつもりで日本の総合のイベントを作り上げていってほしい。そのぐらいの志を持てばいいんです。そういう意味では、私がこれから何をやっていくかっていったら、勝海舟になりたいですね。

——勝海舟ですか！

石井　うん。昔は坂本竜馬だったんですけど、これからは勝海舟ですよね。みんな一緒にやろうや～っていう仲人みたいなことをどんどんやっていきたい。

——そういう役割ができる人はいまいな



バダ・ハリの反則暴走によって、前代未聞の幕切れとなった12・6K-1 WGP。リングサイドで選手、関係者とコンタクトをはかる館長の姿がたびたび見受けられた。角ちゃんとのツーショットもやたら新鮮だ。ぜひとも谷川さんとの対談も実現させたい。



かつて解説はもちろん、ラジオのパーソナリティも務める（オールナイトニッポン-r）など、選手以上に表舞台での活躍が多かった石井館長。今後はどのような関わりをするのだろうか？　ラジオはまた聴きたいぞ！

石井教義

昔は坂本龍馬だったんですけど、これからは勝海舟みたいなことをどんどんやっていきたい

いでしょうね。

石井　たぶん、いないだろうね。皆さんのお役に立ちたいと思ってます。やっぱ勝海舟という人の存在は大きいですよね。江戸城を無血で明け渡したり、時代の流れをつかんで、先へ先へ物事の道を作ってあげるというか。そうすると川が流れていくじゃないですか。そういうふうにしていかないと、閉ざして閉ざしていったら潰れちゃいますからね。だから、誰かが勝海舟の役目をしなきゃダメだなっていうふうには考えてたんですけどね。

――それは中に入られてるときから考えてたんですか？

石井　いやあ、もう中に入ってるときは、外のことは気にしちゃダメですよね。気にしたらストレスが溜まるだけなんで。ストレスって一番、身体に悪いじゃないですか。だから中にいるときは、健康で、健やかで、穏やかにすごすことだけを考えて（笑）。楽しいことを考えて、あとは書物を読むというか。本を読むことなんて男の修行にはならないと思ったんですけど、本を読むことがこんなにも男の修行だったのかと思いました。

――どんな本を読まれていたんですか？

石井　もういろいろ。雑誌とか合わせたら凄く読んでますね。読みたいものをリクエストもしましたけど、中の蔵書だけで2万冊ありますから。

――そんなにあるんですか。

石井　だからホントはリクエストする必要はないんですけどね。そのぐらいいっぱいありますよ。読みきれない。体験によって知恵は得られますが、知識は書物からです。

――それまではあまり読まれなかったんですか？

石井　ボクはどっちかっていうと、書を捨て街に出ようというタイプだったから、寺山修司さんじゃないですけど（笑）。本を読むよりも、人と人とのつながりの中で物事を学んでいったほうが絶対にいいと思ってたんですけど、もっと本を読んでおけば今回の事件みたいなことは起こらなかったでしょうね。人間って、本を読んで物事を思索するっていう習慣をつけなくちゃいけないですね。いい習慣を。

――失なわれた6年とおっしゃいましたけど、逆に必要な6年だったという面もあるわけですか。



いしい・かずよし■1953年6月10日、愛媛県出身。K-1の元プロデューサー。現在の肩書きは正道会館宗師。「館長」の愛称で知られている。93年にK-1を立ち上げ、地上波放送を獲得し、現在のプロ格闘技興行の礎を築く。石井和義から石井教義に改名。

石井　逆に言えばね。人間ってのは、起こる事象が偶然ってことはないんですね。人の周りに起こることは必ず必然なんですよ。偶然のせいにしたら人間って凄く楽ですけど、必ず必然なんですね。だから今回のボクの事件も必然があって起きたことだろうなと思いますよね。それは将来に対して必ず自分自身にプラスになっていく、あるいは自分の男を磨くために必要であったのかな、というふうに考えてますね。ただ、懲役に行くことは決してよくないことなんで、懲役は男の修行なんて言ってるのは嘘っぱちです。あれが修行だったら普通の生活の中で、玄関を一歩出たらもう修行だらけですから（笑）。男の修行にもなんにもなんないですよ。そんなことよりも家族のために働いてるサラリーマンの人たちのほうがもっともっと修行してますよ。でも、決められた狭い部屋の中で、自分自身、誰もいないところで座ってなくちゃいけない。その中で自分自身の内側と向き合えるっていうか、そういう環境でしか人は自分自身を見つめられませんから。そういった意味で、あの1年間は自分が成長したなというのはありますけどね。

――なかなかそういうふうに自分と向き合える瞬間ってないですからね。

石井　ないですね。いままでを振り返ったり、向き合ったり、それ相応の時期っていうのはありますね。あるいは人間の力ではどうしようもないときってありますから。まあ、そんなことはよく考えるようになりましたね。昔は考えなかった。

――へえ～。それは意外ですねぇ。

石井　全然、考えませんよ。考える前に行動してるタイプなんで。ボクが思索し、計算して行動してたら、もっと凄いことになってましたね（笑）。全然、考えてない。勘と、あとは行動力で動いてましたから。これからはちょっと考えようと思います。

――6年前と比べるとマット界もだいぶ変わりましたし、先ほどターザン山本さんのお話も出ましたけど、あの老人もかなり大変な状況になっていて（笑）。

石井　ああ、そうなんですか。昨日、ひさしぶりに電話でしゃべったんですけどね。「まだ若いのに、『遺言』なんて本を出して」って（笑）。

――あ、『遺言』をご存知でしたか（笑）。

石井　送ってきたので読んだんですよ。「山本さん、何冊遺言を書くつもりなの？（笑）」って言ったら、「いやあ、バレましたか！」って言ってましたけど（笑）。まあ、ターザンの本はともかく、ぜひ、いまの読者の人たち、若い人たち、格闘家の人たちも本を読むという習慣をつけてもらいたいですね。

――おすすめの一冊はありますか？

石井　いっぱいありますけどね、べつにそこまでしゃべらなくても（笑）。

――いやいや、ぜひお願いします！

石井　そうですねぇ。『論語』っていいですよ。ボクも読みましたけど、たとえば学習だったら、学んだことを実践して初めて学習。ま、そんな単純なことがきちっと書かれてますよね。非常に役に立つんじゃないかなと思いますけどね。『論語』を読んでいくと、孟子とかそっち方面もどんどん読みだして。孔子を否定してるのが孟子ですからね。あ、こういう発想もあるんだなとか。人がこうだと決めたことはだいたい間違ってる、とか。自分が新しいと思ってることが間違ってるかもわかんないし。自分自身を疑うということを、人間ってしないじゃないですか。自分は正しいと思ってるだろうけど、そこは一度は疑ってみるべきです。あとは志を高く持って、運の強い人たちが集まれば物事はうまくいくと思います。

――運が強い人ですか。

石井　そこは重要ですね。悪いときって悪いやつらが集まってくるんですよ。ホントに！　そこはなんとなく嫌なムードが漂ってて。どよ～んとしてますよね。輝いてどんどんやってる人たちの周りには運が強い人たちが集まってくる。運の強い人たちっていうのは、運の悪い人たちをスパッと切っちゃいますからね。

――谷川さんはどうですか？　館長の側にずっといますけど。

石井　あの男は強運でしょう（笑）。大山倍達先生が言ってたけど、顔の大きい人というのは強運ですからね。

――んあ～！（笑）。

石井　だから俺、谷川さんの側にいて運を分けてもらおうと思ってね（笑）。

【09年1月6日／都内・ウラク青山にて収録】



特集
おまえは男か！
いま マット界には“男”が足りない！

腹決舟みたいなことをどんどんやっていきたい

の人たちも本を読むという習慣をつけてもらいたいですね。

を分けてもらおうと思ってね（笑）。

【09年1月6日／都内・ウラク青山にて収録】



文／ジャン斎藤　書／富永泰弘

今月号の特集テーマは「男とは何か？」です!!

「男とは何か？」というか、「本当にあった男らしい話」特集のような気もしないが……、男だったら細かいことは気にしない気にしない。

さて、髙田延彦が自身の引退試合の相手を務めた田村潔司を「おまえ、男だよ！」とたたえてから8年——。我々は何かと「男だよ！」という言葉をたびたび使ったり、なんとなく「男の中の男だなぁ」という評価をしたりしています。

でも、2008年はそういう機会がめったになかった！　ホントに少ない。ファイターやプロモーターの決断に、拍手喝采したくなる瞬間は数えるほどしかなかったのだ。

タイトルのように「男の中の男、出てこいや～っ!!」と叫びたくなる理由の一つには、秋山成勲問題を筆頭にして、プロモーターと選手のスッキリしない関係や、裏側の駆け引きが生々しく露呈したこともあるのだが、じつは編集部に一部の選手や団体から女々しい要求がたびたび突きつけられてきたこともあるから。おまえら、秋山成勲以下だよ！

そんな女々しい遠吠えはおいといて。

それぞれの立場や見方によって〝男の基準〟も変わってくる。たとえば、石井慧のようにすべてを投げうったUFCへの挑戦自体が、そのまま〝男の基準〟になる風潮もあるけれど、逆に青木真也のように日本を死守することだって立派な行為だ。男道だ。

でも、ワオ木さんこそUFCで観たい日本人なんだけどなあ。谷川さん、なんとかならんかね？（女々しい要求）。

で、UFCで闘えば〝男〟なのかといえば、そうじゃなくて、そこはどう向き合っているかという姿勢が問われてくる。

男の中の男

とかならんかね？（女々しい要求）。

で、UFCで闘えば〝男〟なのかといえば、そうじゃなくて、そこはどう向き合っているかという姿勢が問われてくる。そこでボクは長南亮のエピソードが大好きだ。

いまや伝説となった07年3月の六本木会見のバックステージ。ロレンゾ・フェティータやダナ・ホワイトたちが、会見に出席したPRIDEファイターたちに今後の話をしたという。その際、ダナ・ホワイトは「PRIDEより、UFCに出たいというヤツはいないのか？」と挑発気味に尋ね、誰も手を挙げぬ中で一人だけ名乗り出たのが長南だった。

そこは新生PRIDEの門出の席である。榊原信行氏や旧PRIDEスタッフの手前もあるから、長南の行為を無礼と非難する人もいるだろけど、ボクはなんとなく「カッコいいな!!」と感心してしまった。普通は周りに気を使ってしまう。かといって、長南が空気を読めないわけじゃない。ただ、純粋にUFCで闘いたいという気持ちが伝わってきた。

他人にできないことを平気でやったり、突破したりしようとすれば、おそらく迷惑を被る人、不愉快な思いをする人も当然出てくる。その常識と非常識のあいだを上手に綱渡りできる器量、性格、信頼感を持つ人こそが〝男〟なのかもしれない。

今回の特集に登場してくださった〝男〟な方々、〝男の語り部〟の皆さんの〝男の定義〟もそれぞれ異なっている。しかし共通しているのは、器量、性格、信頼感をもって「男だなあ」としみじみ思うエピソードばかりなのです。


それでは、そろそろ呼び込みますか？男の中の男、出てこ〜ひっ!!（なぜか懐かしの小川直也調で）。

――藤原先生！　最近、格闘技界では対戦カードに注文をつける選手が多くて「男

藤原　俺なんか闘うことが嬉しいからさ、試合やって2週間後にまた試合だって言

って言ったら「バカヤロー！　足が痛かったら座って練習しろ！」って言われて、動か

ルトを巻いた直後だけで、「俺はラジャダムナンのチャンピオンになったんだから、



苦手な相手と闘わずに強くなれるわけがないだろ！

男・藤原敏男が“お茶濁し”格闘家たちに喝！

最近、“お茶濁し”が目立ち、いまいち燃えられない格闘技界。「おまえは男だ!」と言いたくなる格闘家がもっと現われなきゃいかん！　というわけで、“お茶濁し”皆無の格闘家人生を送り、外国人初のムエタイ王者にもなった鉄人・藤原敏男先生に、男の生き様を語ってもらった。若き格闘家よ、敏ちゃんに学べ!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄
写真協力／全日本キックボクシング連盟

ラジャダムナンのベルトを獲ったら、今度はルンピニーも獲って統一王者を目指したよ

――藤原先生！　最近、格闘技界では対戦カードに注文をつける選手が多くて「男だ！」って言いたくなる選手が少なくなりつつあるんですよ。そこで今日は先生に男の生き様というか、格闘家のあるべき姿を語っていただきたいと思います！

藤原　いまって、そんなに文句言う選手が多いの？

――そうですね。それによって、なかなかファンが観たいカードが実現しなかったりするんですよ。

藤原　自分が不利な相手だとか、嫌な相手を避けて、選り好みするってことか。

――そうなんです。

藤原　誰でも苦手なタイプっていうのはいるもんだけど、いろんなタイプと闘うことによって自分が磨かれるんだから、いいと思うんだけどね。「コノヤロー、ずいぶん動きが嫌な相手だな」と思うようなヤツと闘ったら、そういう動きをすれば相手は嫌がるんだなってことがわかるし。だから試合をすることで、経験豊富になって、どんな相手とでも闘えるようになるもんなんだよ。

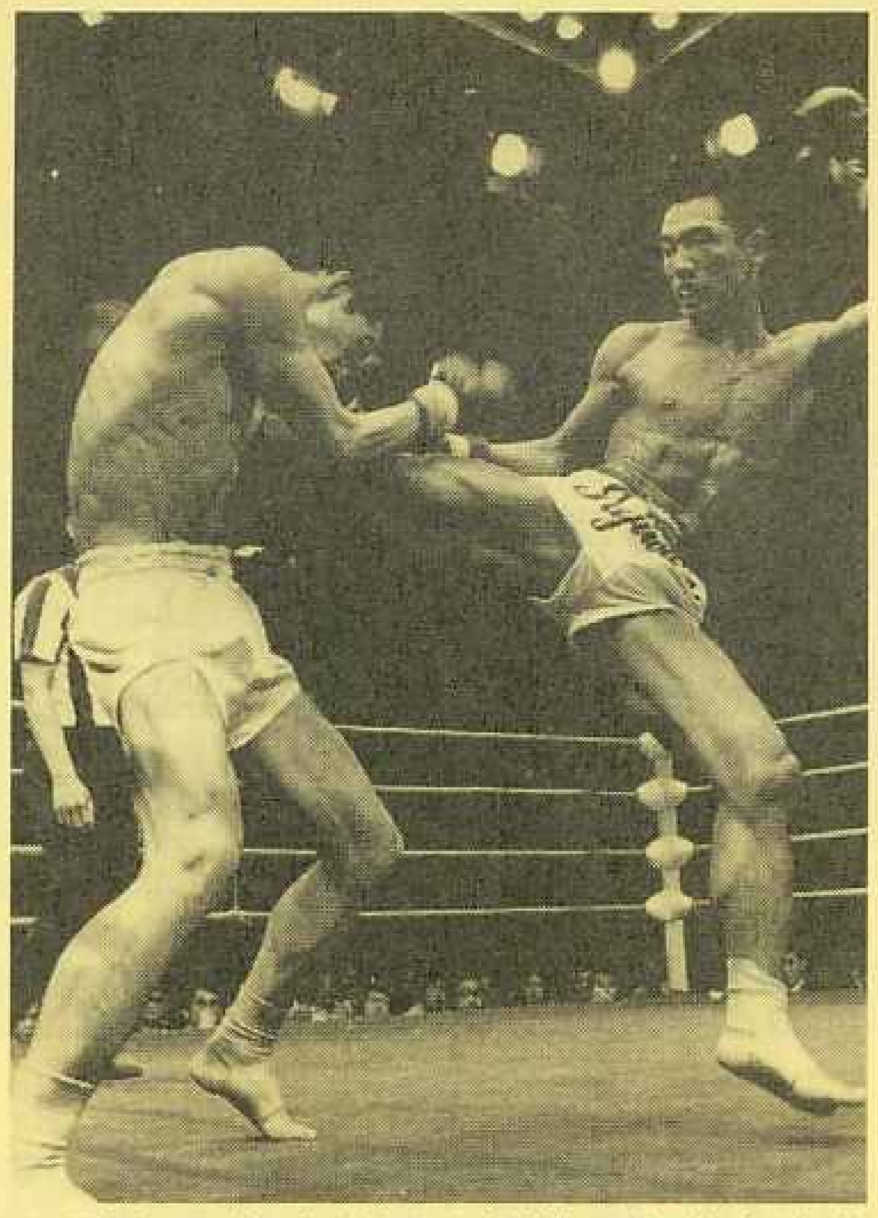
――嫌な相手とやらないでいたら、苦手なままになるわけですよね。

藤原　そうだよ。苦手な相手とやらずして、強くなれるわけないんだよ。やりやすい相手を選り好みするなんて、昔は考えられなかったよ。

――いまは選り好みどころか、なるべく試合はやらないっていう選手すらいますからね（笑）。

藤原　俺なんか闘うことが嬉しいからさ、試合やって2週間後にまた試合だって言われてもいいし、ケガしてなければ「明日やってもいいよ」っていうくらいだったからな。自分が練習した成果をリング上で緊張した中でどうやって出せるかっていうは、闘いの中じゃないと覚えられないから。試合が組まれれば組まれるほど嬉しかったよ。昔は練習がキツかったから、試合が組まれれば当日の朝は走らなくてもいいっていうのもあったしな（笑）。

――試合の日は楽できる、みたいな（笑）。



この試合は74年に行なわれた中村省三戦。若くて無名ながら、向こう見ずで向かってくる実力者という、一番嫌な相手だったが、ご覧のような強烈すぎるミドルキックで5ラウンドKO勝ち！　これが男だ!!

藤原　楽ではないけど、計量が終わったあとは堂々と寝られるし、試合はいいなと思うじゃない。その日だけは身体をイジメ抜かなくていいんだから。

――試合がある日っていうのは「練習が休み」っていう感覚なんですね（笑）。

藤原　たとえ試合が終わった次の日でも練習しないでいると、「何やってんだ！」って怒られたからね。それで「いや、足痛くて」って言ったら「バカヤロー！　足が痛かったら座って練習しろ！」って言われて、動かない場所以外の練習をやらなきゃいけないんだよ。そりゃ試合のほうがいいよな。あと晴れ舞台でもあるしね。もう武者震いして、今日はどんな闘い方で倒してやろうかって、そっちのほうに神経がいってたよ。

――いま上のほうでやってる選手は「自分の名前を落としたくない」っていうのが大きいように感じるんですよ。藤原先生はキックボクシングの世界でトップを獲ったわけですけど、この座を譲りたくないって気持ちはありましたか？

藤原　そりゃあるよ。でも、試合をやりたくないなんて思ったことはなかったな。誰が来ても返り討ちにしてやるってだけだね。

――なるべくキツい試合はしたくないとかは？

藤原　ないない。俺の場合はもっと上を目指したから。最初に全日本のベルト（全日本キックライト級王座）を巻いたときは、5～6回防衛して。そのあと全日本を脱退して新しくできた新格闘術に行ってね。打倒ムエタイという新しい目標ができて、それに向かってまっしぐらに練習したから。だから俺にとってよかったのは、全日本キックという生まれ育ったところを捨てて、もっとハイレベルなムエタイに挑戦できたことだね。凄くいい人生を歩んできたなと思いますよ。

――全日本のチャンピオンで満足してたら、いまの藤原先生はなかったわけですもんね。

藤原　だからやっぱり、ムエタイのチャンピオンベルトをつかんだときは、やっとここまできたんだな、と。自分の気持ちの中での満足感はあったけど、満足したのはベルトを巻いた直後だけで、「俺はラジャダムナンのチャンピオンになったんだから、今度はルンピニーのベルトも巻いて、統一チャンピオンを目指そう」と。そうやってチャンピオンになったらなったで、新たな目標がどんどん増えてきたからね。

――先生は自分がチャンピオンになりたいという気持ちはもちろんあったと思うんですけど、そのほかに「自分がこの団体、ジャンルを背負ってるんだ」という気持ちはありましたか？

藤原　責任感は凄くあったよ。ほかの階級にチャンピオンがいても、この団体、そしてキックボクシングを背負ってるのは俺だって気持ちはいつも持ってたから。ボクシングの西城（正三＝元WBA世界フェザー級王者。ボクシング引退後、キックに転向し16戦無敗だった）とやったときも、俺が負けるわけにいかない。負けたらキック全体がナメられちゃう。「やっぱりボクシングには敵わないか」ってなるから、勝負に絶対はないけど、絶対に負けられないって気持ちはあったよね。

――責任感と同時に、キックの代表として闘えることが光栄だっていう気持ちもありました？

藤原　そうそう、光栄だったよね。あとは試合が組まれた瞬間から、どんな闘い方をして、どうやってイジメてやろうかって、そっちのほうに頭がいくから。俺はなんでもプラス思考で考えるほうだったからね。与えられた仕事で、期待された以上の成果を出すようにする。そのためには練習するしかないし、ありとあらゆる練習をすれば、それだけ練習時間が多くなってくるし、練習をやればやるほど試合が待ち遠しくなるし、それだけだよね。

――たとえば先生が「自分で相手を選ん



でいいよ」って言われたら、こいつは勝てそうだなって思う選手を選んだりしますか？

藤原　勝てるってわかってる相手とやったって、おもしろくないじゃない。自分より名前があって強そうなヤツにはことごとく挑戦したいけど。

—ことごとく挑戦したい（笑）。では、自分より名前はないけど強そうだなっていう選手はどうですか？

藤原　いいじゃない。上等だ！って。俺は同じ体重じゃなくても「あいつ俺より体重多くてもいいからやってみたいな」とかあったからね。柔道には無差別級があるんだから、ああいう人たちは凄いと思うよ。相撲だってそうだよな。安馬（日馬富士）が横綱ぶん投げるのはやっぱり気持ちいいよ。

—先生、キックボクサーなのに無差別級まで考えてたんですか（笑）。

藤原　誰の挑戦でも受けて立つぐらいの気持ちがないとトップにはなれないって。俺は黒崎（健時）先生からそういうふうに教わったから。「キックボクサーだけじゃなく、ほかのジャンルの選手と闘うことになっても大丈夫なように練習しとけ」って言われてたしね。

—他流試合の準備までしてましたか！

藤原　だから「150キロある相撲取りを倒すには、どう闘えばいいか」とか常に考えてたから。張り手がくる前にパンチは入れられるだろうけど、パンチじゃ倒れやしないだろうから、これは下半身しかないな、とかね。闘い方なんて無限にあるわけだから、それを考えると楽しくなってくるよ。

—総合格闘技だったらなおさらですよね。

藤原　だからUFCなんて凄いじゃない。相手が倒れても顔面にヒジを入れたり。ああいう、なんでもありで闘うことを考えたら、ヒジの使い方だっていろんなやり方があるんだから、それを考えただけでゾクゾクしてくるよな。そういえば、いまウチに石井くんが来てるんだよ。



ふじわら・としお■1948年3月3日、岩手県出身。69年に目白ジムに入門し、"鬼の黒崎"と恐れられた黒崎健時に師事。全日本キック初代ライト級王者であり、77年にはラジャダムナン・スタジアムライト級王座を獲得し、外国人として初めてムエタイ王者となる。通算戦績126戦111勝97KO13敗2引き分け。

—石井くんって、石井慧選手ですか？

藤原　そう。UFCで闘うために、ウチでヒジを習いたいって。俺はいろんなヒジの使い方を知ってるからさ、それを覚えたくて来てるの。

—へぇ～、そうなんですか！　でも、ヒジ打ちを覚えるなら元ムエタイ王者の藤原先生はうってつけですね。

藤原　総合で相手が組んできたときのヒジ打ちとか、離れ際のヒジとか、いろいろあるんだよ。あと寝技でどうやってヒジを使うかっていうのを俺も研究してるから。UFCのビデオを持ってこいって言ってるんだけどね。とりあえず、いまはヒジとヒザの基本を教えて、しっかり基本にのっとってできるようにしてるんだけどね。

—でも、石井選手は総合デビュー前から、強くなるために貪欲ですね。

藤原　たいしたもんだと思うよ。まだデ

これがお茶を濁さない生き様だ！

藤原敏男 男っぷり伝説

生涯141戦126勝 KO率なんと7割！伝説

藤原先生の14年間の現役生活の中で、こなした試合数はなんと141戦！ 126勝を挙げ、あの当時、無敵と言われていたムエタイとの対戦も含めて敗戦はたったの13。KO率はじつに7割という、とんでもない実績を残しているのだ。インタビュー中で「2週間後に試合があってもいい」と語っているが、実際、1970年には21戦行なっており、ホントにコンスタントに2週間に一度、試合を行なっていたのだ。いやはや超人だ。

一日8時間以上 年中無休の練習伝説

その常軌を逸した猛練習で有名だった藤原先生。これは「サラリーマンは一日8時間仕事してるんだから、プロのキックボクサーは練習が仕事だから、それ以上やるのはあたりまえ」という師匠・黒崎先生の教えに基づいたもの。しかし、当時のサラリーマンが週に一度は休日があり、土曜は半日仕事だったのに対し、藤原先生の"仕事"はなんと年中無休！ セブンイレブンが日本に上陸する前から、藤原先生は究極の年中無休を実践していたのだ。

時代を先取りした(!?) ハンドボール特訓伝説

どんな相手が来ても倒せるように、通常のキックボクシングの練習だけでなく、あらゆるトレーニングを取り入れていた藤原先生。インタビュー中では柔道やアマレスの練習が語られているが、それだけじゃない。もともとテニスをやっていた藤原先生は、サイドステップの練習でテニスを行ない、さらにはハンドボールの練習まで取り入れていたのだ。その理由は「ハンドボールって、ジャンプして身体を弓なりにしてボールを投げるだろう？ あれをやったら、ジャンプ力と背筋が鍛えられるし、ああやってジャンプしてパンチを打つことだってできる。だからウチの選手にもやらせてるんだよ（藤原）」とのこと。なんと、現在進行形で藤原道場で行なわれている練習法だったのだ。

ビュー前なのにいろんなところに行って、稽古してるわけだからね。やっぱりオリンピックで金メダルを獲った男だから、努

ったら俺は何をやったらいいんだろうって。勝つ糸口が見つからないんだよ。

—自分がヒョードルに勝つ方法を探り

よ

—そこになんで出ないんだってことですよね。

藤原　俺が若かったら、どんどん出て、キ

右足一本で闘って相手を倒した伝説

前記のように圧倒的な勝率を誇っていた藤原先生。向かうところ敵なしであり、普通に闘ったらあっさり勝ってしまうため、師匠の黒崎先生から

ビュー前なのにいろんなところに行って、稽古してるわけだからね。やっぱりオリンピックで金メダルを獲った男だから、努力家だし。何ごとも強くなるためにやるんだっていう、その吸収力、貪欲さがあるから、強くなると思うよ。

——先生も若い頃はいろいろやられたわけですよね？

藤原 そうだね。講道館に行って柔道の練習したり、拓大でレスリングやったり、あとはバドミントンとか卓球なんかもやったよな。

——バドミントンと卓球ってなんのためにやるんですか⁉

藤原 あれは動体視力がよくなるんだよ。

——あ〜、なるほど。でも、石井選手が柔道金メダルに満足せず、UFC王者を目指すっていうのは、藤原先生がムエタイを目指したのと通ずるものがありますね。

藤原 あのUFCで闘うっていうのはおもしろいと思うな。あれは油断も隙も見せられないもんな。

——現役時代にUFCがあったら血が騒いでましたか？

藤原 たぶんやってたと思うよ。俺らの時代にもブラジルにはあったみたいだけど、あんまり表に出てなかったからやる機会はなかったけど。

——先生はいま総合格闘技もご覧になってるんですか？

藤原 観るよ。会場にはあんまり行かないけどね。

——お気に入りの選手とかいますか？

藤原 ヒョードルだね。あいつはつええなと思うよ。あいつの試合を観てると、自分がワクワクしてくる。もし、こいつと闘ったら俺は何をやったらいいんだろうって。勝つ糸口が見つからないんだよ。

——自分がヒョードルに勝つ方法を探りながら観てますか！（笑）。そういえば、石井選手の究極の目標は打倒ヒョードルらしいですよ。

藤原 いいんじゃないの？ そのぐらい度胸があって、そういう強気な発言するためにはね、ありとあらゆる練習を取り入れてやってるんだから。若いのに感心するな。

——プロになったからには、それぐらいやるってことですよね。

藤原 そうだよ、プロになったからには泣きごとはいらないしね。自分がリングに上がって強さを証明すればいいんだから。そのためには自信を持たなきゃいけないし、その自信となるのはやっぱり練習だから。いまは恵まれてるんだよ。あんな大舞台があって、たくさんのお客さんの前で試合ができるんだから。



今年61歳になる藤原先生だが、いまでも毎年12月に開催される主催興行『藤原祭り』ではエキシビションマッチに出場。だいたい“盟友”である佐山サトルを交えたハチャメチャタッグマッチで場内を沸かせている。それにしても、とても還暦とは思えない見事な肉体。「1ラウンドだけなら、現役とキックの試合もできる」と息巻くだけのことはあるのだ。

いま石井（慧）くんがUFCで使うヒジを習いに来てるよ

——そこになんで出ないんだってことですよね。

藤原 俺が若かったら、どんどん出て、キックでもK−1でも総合でもなんでも出てるのに（笑）。

——嫌な相手とやらないとか、試合に出ないなんていうのは信じられないって感じですか？

藤原 うん、だからいまの人はみんな意気地がないんだろうね。

——意気地がない！ 格闘家としては一番言われたくない言葉でしょうね。

藤原 度胸がないんだよ。「檻の中に入ってトラと闘え」とか、途方もないことを言われたわけじゃないんだから。猛獣と闘うのはヤバいだろうけど、人間相手だったら喜んで闘うようじゃなきゃ。

——同じ人間相手に何を恐れてるんだ、と。

藤原 藤原組長はテレビ番組の企画で、20万円のギャラで熊と闘ったらしいけどね（笑）。そこまでやれとは言わないから、試合があるのがありがたいと思わなきゃウソだよな。

——なるほど。今日は格闘家本来の生き様がわかったような気がします。ありがとうございました！

【08年12月24日／荒川区・新格闘術藤原道場にて収録】

右足一本で闘って相手を倒した伝説

前記のように圧倒的な勝率を誇っていた藤原先生。向かうところ敵なしであり、普通に闘ったらあっさり勝ってしまうため、師匠の黒崎先生からは勝利以外のミッションが与えられていたのだ。「黒崎先生から課題が出されるんだよ。『今度は右足一本で倒せ』とか。それで『え、どうやるんですか？』って聞くと『バカヤロー！ 自分で考えろ！』って言われてね。だからパンチも左足も使わず、右の蹴りだけで相手を倒したよ。向こうは『なんでパンチを使わないんだ、肩でも悪いのか？』って思っただろうけど、裏でそういう約束があっただけなんだよ（藤原）」。なんと勝手に“ハンディキャップマッチ”が行なわれていたのだ。

『ゴルゴ13』ばりの危機回避能力伝説

黒崎先生からのミッションは試合だけに限らない。普段の生活にもいろんな指令が出されていたのだ。「『道場にいるときだけが稽古じゃない』って言われてたんだよ。『ビルを出た瞬間、敵が上からブロックを投げてくるかもしれないから、出る瞬間にサッと上の気配を感じて、左右を瞬間的に見て判断して、それからビルを出ろ』とか。あとは『罠があるかもしれないからマンホールは踏むんじゃねぇ』とか、『路地からサッと敵が出てきたらどうするんだ』とか、そんなことばっかりやってたよ（藤原）」。いやはや、ネイチャージモンをも超えた、『ゴルゴ13』ばりの危機回避能力だ。

車に乗っていても前に出る練習伝説

黒崎先生が出かけるときは、運転手もしていた藤原先生。そんな車の移動時間も鬼の黒崎の過酷なミッションは続く。「前に車が走ってると『格闘家は前に出なきゃダメだ。追い抜け！』って言うんだよ。しょうがないからイッキに5台抜き去ったり、そんなことをやってたよな。で、ある日、目の前にパトカーがいたんだけど、パトカーも抜き去ったら捕まってね。そのときはさすがに『バカッ！』って怒られたよ（藤原）」。鉄人は国家権力も恐れないのだ。

人間に限界はない無限大の練習伝説

年中無休でおなじみの黒崎道場。その師範である黒崎先生の理念は「人間に限界はない」であるため、限界を超えた練習が行なわれていたのだ。「俺自身、限界っていうのは考えたことなかったね。これ以上やったら死ぬんじゃないかと思ったことはあったけど、そんなときでも『いいからそのままやってろ。死んだら俺が骨ぐらい拾ってやるから』が先生の口癖だったから。格闘家の可能性っていうのは無限大に広がるんだよ（藤原）」。これぞ本物のミスター・ストイックだ！



いまだに団体として活動し続ける立ち技バーリ・トゥード集団

SB 男の結束

～根底に流れるシーザーイズムとその継承者たち～

これだけフリーのジムやプロモーション組織が主流になっている格闘技界で、いまだに団体として存続し続ける立ち技バーリ・トゥード団体、シュートボクシング。その求心力の正体と、シュートボクシング創始者であるシーザー武志という"ドン"の実態を、ここであらためて検証する。そこから浮かび上がってくる素晴らしき「男の結束」を噛み締めろ!

文／橋本宗洋　構成／松下ミワ　試合写真／丸山剛史

シュートボクシング（SB）協会およびシーザージム会長、シーザー武志についてあらためて紹介するのは、おそろしく難しい作業だ。この人がやってきたことを書き連ねたところで、いまの若い格闘技ファンにどれだけ伝わるのか不安なのである。「こういう人がいる」と言って、はたして信じてもらえるかどうか。「こういう人」とはどういう人か。難しいながらも書き連ねてみよう。重ねて言うが、この人物は実在する。

シーザー武志は、UWF陰の立役者である

プロレス界に一大センセーションを巻き起こし、近年その価値が再評価されているUWF。シーザー会長はそこに大きく関わっていた。

若手時代から格闘技に傾倒していた佐山聡の申し出から、前田日明、髙田延彦、山崎一夫といったUWFの中心選手たちにキックを指導したのである。第二次UWF時代には試合にも出場。シュートボクシングマッチを『真夏の格闘技戦』（有明コロシアム）で行なっている。

一世を風靡し、新たなプロレスのスタイルともなったUWF勢の蹴りに憧れて格闘技を志した者も数多い。つまりあまたの格闘家、あるいは格闘スタイルのプロレスラーの源流には、確かにシーザー武志という男が存在するのだ。

前田、髙田らにとって、シーザー会長はいまだに頭が上がらない存在だともいう。福岡で開催されたシュートボクシングのビッグマッチ『GROUND ZERO』では、髙田延彦

る。選手育成を主眼としない〝プロモーション〟全盛のマット界にあって、ジムを抱えながら興行も開催するS

が花束を持ってセレモニーに登場。前田日明率いるリングスとはさらに

もSBの会場には錚々たる、そしてコク深い面々が常に顔を揃えている。次

田日明を「俺から見たら子どもと一緒」とまで言ってのけるのだからおそ

開催された『GROUND ZERO』両国国技館大会に〝恩返し出場〟をは

が花束を持ってセレモニーに登場。前田日明率いるリングスとはさらに交流が厚く、シュートボクサーがリングスマットで総合マッチを行なったり、逆にSBのリングでリングスルールの試合が組まれることもあった。ちなみに打撃に投げ、スタンドでの絞め&関節技も加えた〝立ち技総合格闘技〟シュートボクシング創設にヒントを与えたのは、UWFで知り合ったカール・ゴッチである。

シーザー武志は映画俳優である

スポーツ選手が、その人気を追い風に映画やドラマに〝ゲスト出演〟することは珍しくない。だがシーザー会長の場合は、その存在感、あるいは本物感を評価されての出演である。しかも阪本順治、三池崇史という日本が誇る硬派&異能監督の準レギュラー格。

阪本監督の『鉄拳』では身体障害者をこの世から抹殺せんとする差別主義集団のリーダーをデニス・ホッパーばりの狂いっぷりで演じ、三池監督の『フルメタル極道』（このタイトルだけで100点！）に出演すると、クエンティン・タランティーノから「日本に行ったら会いたい俳優5人」の一人に挙げられるという快挙をも成し遂げた。

芸能界の人脈はとてつもないほどに深く、そして広い。何しろ自身の仲人が山本譲二&吉幾三コンビ。ほかにもSBの会場には錚々たる、そしてコク深い面々が常に顔を揃えている。次ページからの対談に登場してもらったやべきょうすけ氏も、そんな〝シーザー信奉者〟の一人である。

シーザー武志は伝説の不良である

その半生は、もはや壮絶という言葉では足りないほどである。10歳で両親が離婚、子どもの面倒を見ない父親のもとで一人、台風で破壊された漁船の鉄クズを売って生計を立てる。母親を頼り大阪に赴くと、再婚相手は〝本職〟だった。そこからは不良街道一直線である（当時の盟友は、のちにボクシング世界王者となる渡辺二郎）。

〝学園の村田（本名）〟として大阪では知らぬ者なき存在となり、あの前田日明を「俺から見たら子どもと一緒」とまで言ってのけるのだからおそろしい。ときに日本刀を構えた愚連隊を撃退、またあるときはピストルを持った集団に囲まれ、さらに酔った帰りには通りがかった暴走族をタクシー代わりに使っていたという。21歳で手配師を生業にしていたというのも、まぎれもない事実なのである。

そして何より——



シュートボクシングのイベント、とくに〝立ち技最強〟を決めるトーナメントである『S-cup』には毎大会多くのスポンサーがついている。これもシーザー会長の人脈の成せる業なのだ。

シーザー武志は希代のプロモーター・指導者である

キックボクサーとして成功したシーザー武志は、30歳の若さでシュートボクシング協会を設立。以後、数々の名選手を育成するとともにビッグイベントを手掛けてもきた。K−1MAXのはるか以前に、70キロ世界トーナメント『S−cup』を開催してもいる。

育てた弟子たちは、常に倒し倒されのプロ根性あふれる闘いを展開。その人脈も、師匠ゆずりの深さ、広さを誇る。Tシャツや選手着用のガウンなど衣装協力はセレクトショップの老舗BEAMSが担当。

試合の勝利者には浅草新仲見世商店街から羽子板が贈られる。さらに大会パンフレットには、ケミストリー・川畑要からのコメントも。

シーザージム主催の宴会には、団体の枠を越えてさまざまなジャンルの格闘家が集結し、ハメを外して酔いどれる姿が見られる。桜井〝マッハ〟速人もその一人。アマチュア時代にシーザージム門下生だったマッハは、修斗、PRIDEで大成してからもSBへの恩を忘れず、2006年に開催された『GROUND ZERO』両国国技館大会に〝恩返し出場〟をはたした。

そんな〝SBイズム〟は国境さえも軽く越える。この団体が生み出した最大のスター、アンディ・サワーは『S−cup』制覇ののちK−1MAXでも優勝。ビジネスのスケールだけを考えればそのまま〝K−1ファイター〟になってもおかしくなさそうなのだが、現在でもかたくなに〝シュートボクサー〟であることにこだわっている。昨年、MAXでロングスパッツ（SBの正式コスチューム）の着用禁止が言い渡された際には激昂。またK−1出場時にも指定の宿舎ではなく、SBゆかりの浅草のホテルに泊まるほどSBに愛情を捧げているのである。

特筆すべきは、SBが創設から20年以上のときを経て、いまもなお団体として成長を続けていることである。選手育成を主眼としない〝プロモーション〟全盛のマット界にあって、ジムを抱えながら興行も開催するSBの姿勢は古風ですらあり、だからこそ貴重だ。そして選手・関係者は類まれなる絆で結ばれ、SBのために命を懸ける。何度も引退の危機にさらされながら、ついに『S−cup』優勝の栄冠を手にした緒形健一。

OBたちはそれぞれのジムで後進の指導にあたり、一度は離脱した選手も、いつしかSBのリングへと戻ってくる。UWFスネークピットジャパンの大江慎、チーム・ドラゴンの前田憲作といった名伯楽も、じつは元シュートボクサーなのだ。

シーザー会長から弟子たちに受け継がれた、尋常ならざる求心力と結束力。その血と汗と涙と酒で築かれた男たちの伝説を、次ページからの対談で堪能していただこう。

選手・関係者は類まれなる絆で結ばれ、SBのために命を懸ける

シーザー武志を取り囲む人物相関図

打撃指導ほか
佐山聡
前田日明
髙田延彦
山崎一夫

SB大会出場
桜井〝マッハ〟速人（元練習生）
藤井惠
MIKU
桜庭和志

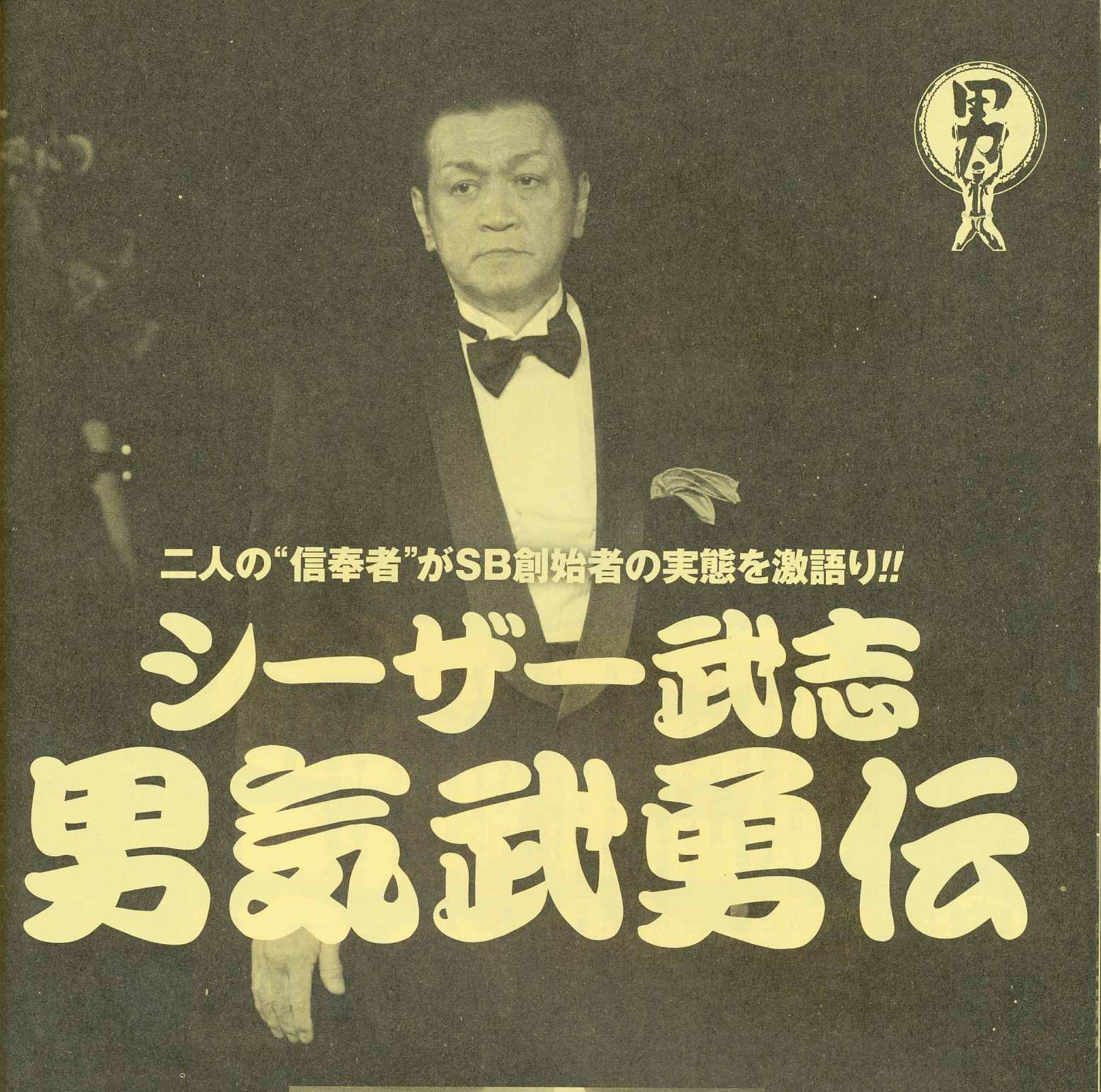
シーザー武志

出演・共演ほか
三池崇史 監督（出演）
阪本順治 監督（出演）
哀川翔（共演）
竹内力（共演）
クエンティン・タランティーノ（絶賛）

そのほかの交友関係
岡本太郎（レコードジャケット題字執筆）
山本譲二、吉幾三（仲人）
矢吹春奈（オフィシャルサポーター）
BEAMS（衣装協力）
浅草新仲見世商店街（大会後援）
カール・ゴッチ（SB旗揚げのヒントを与える）

——今回はズバリ"男"というテーマで、

覚えてますね。



二人の"信奉者"がSB創始者の実態を激語り!!

シーザー武志 男気武勇伝



シーザー魂最大の継承者

緒形健一

俳優

やべきょうすけ

"男の集団"シュートボクシングの核であり、驚異の人間力で多くの人を惹きつけるシーザー武志。今回は、このシーザー会長を誰よりも知るSBの"一番弟子"緒形健一と、シーザー武志と数々の共演経験を持つ役者・やべきょうすけに、シーザー会長の武勇伝を存分に語ってもらった! "書けない話"が多い中、それでもこれだけのエピソードがあるなんて、とんでもないぞ!!

聞き手/橋本宗洋　構成/松下ミワ　試合写真/丸山剛史

——会長は試合以上の経験をしてきている、と。

ですよね。

——シーザージムは浅草という場所柄も

シーザージムの宴会で初めて「山賊飲み」を知りました(やべ)

―今回はズバリ"男"というテーマで、お二人にシーザー会長とSBの魅力を語っていただこうと思います!

やべ　男ですねぇ。シーザー会長はまさに男!

―やべさんは、会長との出会いはいつ頃だったんですか?

やべ　もともと、試合はよく観させてもらってたんですよ。プロレスファンだったんで、最初に観たのは第二次UWFの有明コロシアムですね。

―『真夏の格闘技戦』ですか!

やべ　で、実際にお会いしたのは撮影現場ですね。三池監督の『喧嘩の花道』(96年)っていう。

―伝説の名作ですよね。

やべ　もともとファンだったんで、共演者っていう感覚じゃなかったですね。「シーザー武志が目の前にいる!」って、その興奮のほうがデカかったですよ。で、そこで「シュートボクシングの試合も観させてもらってます」って挨拶したのがきっかけで、興行に招待していただくようになったり。

―緒形さんは入門して15年くらいになりますよね。

緒形　もう、丸16年になりますね。門を叩いたのは17歳のときなんで。山口から家出してきて「ちゃんと卒業してからもう一回来てみろ」って帰されたんですけど(笑)。

やべ　家出!　さすがだなぁ(笑)。

緒形　そのとき僕はすっごい髪型してたんですよ。もう(ヤンキー)バリバリの。だから「なんだこいつ?」って顔されたのを覚えてますね。

やべ　でもシーザーさんの場合、そういうのに慣れてる気もしますけどね。

緒形　いや、だから僕、会長と出会ってなかったらとんでもない人生歩んでたような気がするんですよね。そういう意味でも感謝しかないです。いまだにメチャクチャ怖いですけどね。

―チャンピオンになって、協会の仕事もバリバリやられてても、やっぱりまだ怖いですか。

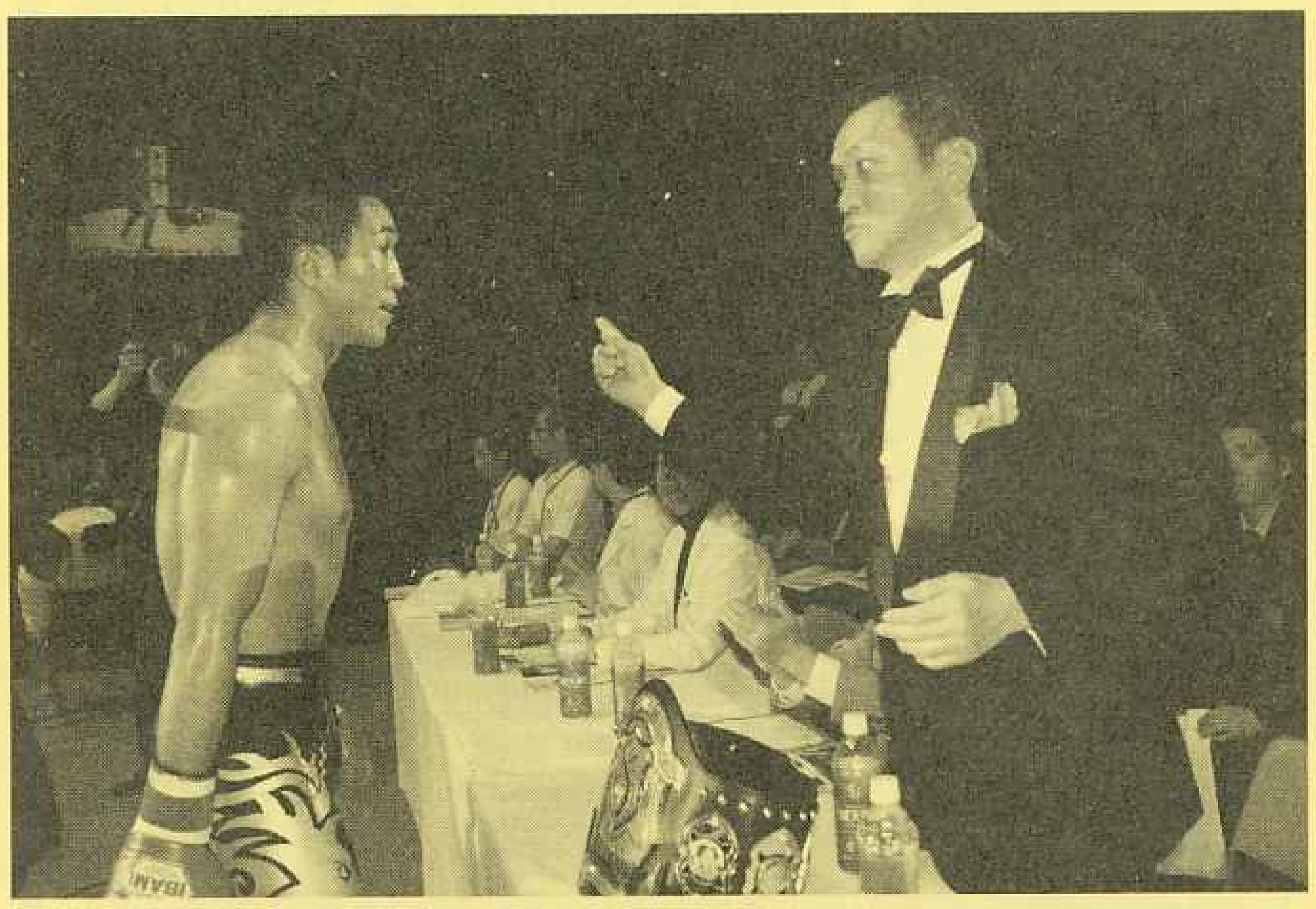
緒形　やっぱり、普通の上司と部下ではないですからね。師匠と弟子なんで。丸16年やってて、いまだに会長から電話がかかってくると緊張しますからね。「うわ、会長だ!」って(笑)。

やべ　すげえなぁ、シーザーさん。

緒形　なんか、会長にはまったく歯が立たない感じがするんですよね。

―緒形さんも選手として相当、活躍されてるじゃないですか。それでも歯が立たないって感じるのはどういう部分なんですか?

緒形　やっぱり、人間として経験してきたことが違うんですよね。僕らは試合に集中できますから。



16年もの付き合いがある緒形健一でも、シーザー会長の言動にはいまだに度肝を抜かれることが多いとか。電話の呼び出し音が鳴っただけでも背筋がピンとなるというから、いったいどんだけの"殺し"なんだよ!

―会長は試合以上の経験をしてきている、と。

緒形　いくら強い相手とやったとしても、試合は試合ですからね。でも会長は、キックボクシングを辞めてまっさらな状態から新しい団体、新しい競技を立ち上げたわけじゃないですか。しかも、一過性のものじゃなく25年近く続けてますからね。そのパワーって計り知れないですよ。そういう人だから、メチャクチャ怖いしキツいんだけど、この人の弟子になれてよかったなって思わせられる部分はたくさんあります。

やべ　俺からすると、シーザーさんってフランクというか、誰とでも同じ付き合いをしてくれる人なんですよね。芸能界でも、最初にSBの興行で知り合った人って多いんですよ。山中さんとか、会長に紹介していただいて。そのあとで現場で会って「おまえ、SBの会場にいたよな?」みたいな。

―人のつながりを凄く大事にするというか。

やべ　シーザージムでやる宴会にも、ホントにいろんな人が来ますからね。家族的っていうか。もちろん試合も観させてもらってるから、どっかで「うわ、緒形健一がいるよ!」って感覚もあるんですけど、それでも懐に入りやすい雰囲気があるんですよね。

―シーザージムは浅草という場所柄もあってか、年に何回かジムでの宴会があるんですよね。春は花見、夏は隅田川花火大会を見て、暮れはもちつき忘年会、と。

緒形　普通、格闘家は酒飲むもんじゃないってことになってるんですけどね(笑)。

やべ　その飲み方がまた尋常じゃないですからね!(笑)。俺、花見のとき酒浴びたことがありますもん(笑)。

―浴びるように飲んだんじゃなく、実際に浴びた、と(笑)。

やべ　俺は基本的に飲めないんですよ。でも周りの飲み方が凄まじいんで「これは浴びるしかねぇ!」って。

緒形　あのとき、僕がちょっと中座して戻ってきたら、やべさんビショビショになってるんですよ(笑)。「なんだこりゃ!」って。

やべ　それでジムのシャワー室に連れてってもらったんですけど、シャワー浴びてるとこをみんなに携帯で写真撮られて(笑)。みんなゲラゲラ笑ってんですよ。

―昭和のプロレス団体ですね、ノリとしては(笑)。

やべ　シーザージムの宴会で、初めて「山賊飲み」ってのを知りましたからね。一升瓶をグルグル回して、それをラッパ飲みすると凄い勢いで酒が流れ込んでくるんですよ。で、そんなことやってベロベロになった状態で、プロレスごっことか始めますからね。

―プロの格闘家が(笑)。

やべ　しかも、酔っぱらってるから力の加減ができないんですよ。「折れる折れる!」って(笑)。でも、凄いなと思ったのは一昨年くらいの新年会ですね。アンディ・サワー選手が来られてて。2月に試合があるから、このまま長期滞在するのかなと思っ

たら、すぐ帰ったっていうんですよ。

——オランダにですか。

やべ　そう。試合後に、新年会でシーザーさんに挨拶して帰国するためだけに残ってたのかよ！　って。海外の選手までが、ゴマすりじゃなく情っていうか筋を通すっていうかね。男が男に惚れるっていうか。そういう雰囲気がシーザーさんの周りにはあるんですよね。

緒形　そこはもう会長が一番大事にしてるとこですからね。会長には、日常生活からすべて見られてるって感じがするんですよ。世間に対して筋に反したり、礼儀がなってないとこっぴどく怒られますから。僕も怒られっぱなしで、何度も辞めようと思いましたからね。でもそれって「こいつを成長させよう」っていうことで、どうでもよければ関心も持ってくれないわけですよ。何年かやってるうちに、それに気づけるようになったんですけど。



マット界にも芸能界にも、とにかく各方面に顔が広いシーザー会長。SBの宴会ともなると、写真のように安岡力也も来るし、他団体からの参加者も多数いるという。

やべ　シーザーさんはよく「選手である前に、一人の社会人としてきちんとしろ」って言われますよね。

緒形　格闘技だから、もちろん技術も教えるんですけど、会長の場合はまず心なんですよ。「心ができてない奴には何を教えてもダメだ」っていう考え方なんで。

やべ　だから宴会でも、くだけるところはくだけて、シメるところはシメるっていう。

緒形　くだけすぎの場合も多いんですけど（笑）。

やべ　でも、どんなにベロベロになってても、俺が帰るときには「あっ、やべ！　お疲れ！　来てくれてありがとうな」ってきちんと立って挨拶してくれますからね。試合の会場でも、スタッフが凄く礼儀正しいんですよ。チケットを渡してくれるだけでいいのに「やべさん、いつもありがとうございます」って、ちゃんと顔と名前を覚えてくれてるし。俺もいろんな付き合いがありますけど、そういう礼儀とか気使いに関してはSBが別格ですね。

緒形　それができないヤツというか頭で理解できないヤツは、結局ウチで続かないですね。辞めていきますよ。それか更生させるか。

やべ　更生って（笑）。シーザーさん自身、情が厚いというか涙もろいところもあって。いい試合が多かった大会後の打ち上げなんかでも、俺が途中で帰らなきゃいけないときなんか、もの凄く寂しそうな顔してるんですよ。で、「いつもありがとな」って言いながらハグして握手して、その手の握りがどんどん強くなってきて（笑）。一回、その状態で40分しゃべってたことがありますからね。

——気持ちが盛り上がっちゃって（笑）。

やべ　「おまえも頑張ってるよなぁ」、「はい！」なんて言いながら、お互い涙流して。シーザーさんのそういう熱さってお弟子さんにも伝わってて、それが試合でも出てると思うんですよね。とくに緒形さんがそうですけど、試合で打ち込まれても絶対に反撃するじゃないですか。

——クリンチすればいいところでも、打ち返しますからね。

やべ　もうマンガの世界ですよ。「このままじゃ終われねぇ！」ってフキダシが出てるみたいな。そういう選手がいるんで、SBの会場は単に「格闘技を観る」っていう感じじゃないんですよね。みんな選手の勝ち負けじゃなくて生き様を応援してるんだなって。だからへんなヤジは飛ばないですよね。ヤジじゃなくて叱咤激励なんですよ。負けたとしても「次、頑張れよ！」って。で、その言葉のあとに「俺も頑張るからさ」って付け加えたくなる感じなんですよ。だから俺、選手が勝っても負けても控室に挨拶に行くんですよね。いいときだけじゃない付き合いがしたいっていうか。

——そういうムードも、やっぱり会長がいるからこそっていう。

緒形　会長が醸し出す雰囲気っていうのはあると思いますね。いろんな部分で、会長がしてきた経験が出るのかなって。もの凄い修羅場をくぐってきた人なんで。

やべ　映画に出るときも、シーザーさんが求められてるのは芝居の技術じゃないんですよね。人間的バックボーンなんですよ。

シーザーさんが映画で求められてるのは人間的バックボーンですよ（やべ）

作った芝居では出せない迫力とか雰囲気があって、そこに三池監督とか阪本監督とか、名だたる巨匠が惹かれるんじゃないですかね。本物ならではの存在感というか。

——共演していても、そのへんは感じられますか。

やべ　もうすっごいですよ。最初に共演させてもらった『喧嘩の花道』では、俺のライバルの役が北村一輝さんで、シーザーさんはその父親の役だったんですよ。で、俺が北村さんのアパートにケンカ売りに行くシーンがあるんですけど、そこにシーザーさんが出てくる。ランニング一枚でスルメかじりながら「学生は学校行くのが仕事やろ」って。そのときのシーザーさんの目がねぇ。こっちがセリフぶっとんじゃうような目をしてるんですよ。「その濁った目はなんすか⁉」っていう（笑）。こっちはもう「あ、あ、あ……」しか出てこない。

——じゃあ、その場面のやべさんは素というか。

やべ　完全に素ですよ。イキがったガキが怖いおじさんに睨まれてビビってるだけですから（笑）。ああいうのは、それこそ本物じゃないと出せないですね。だから監督もかなり緊張感あると思いますよ。ある意味、シーザーさんと勝負してるわけですよ。「この本物の存在感を、どうフィルムに焼きつけるか」っていう。大御所の役者さんに演技をつけるより緊張するんじゃないですかね。そういえば、この前『クローズZEROⅡ』の現場で三池監督にお会いしたら、「シーザー会長はお元気です

——気持ちが盛り上がっちゃって（笑）。
すよね。人間的バックボーンなんですよ。
会いしたら、「シーザー会長はお元気です

か」って言ってましたよ。「最近ごぶさたなんですけど、また（映画に）出てほしいんですよねぇ」って。緒形さんが『S－cup』で優勝したのも知ってましたし。

——緒形さんは、会長の〝本物〟なエピソードをいっぱいご存知だと思うんですが、いかがですか？

緒形　いや、いっぱいあるんですけど。誌面に載せられる話がないんですよ（笑）。

——ヤバすぎる話ばっかり（笑）。

緒形　まあ、さわりだけ話すとですね……。会長が指導をしてるときに、「たとえば、日本刀を突きつけられるときとかあるだろ」って言うんですよ。

——ないですよ普通は（笑）。

やべ　明治以降はないと思うな、その場面（笑）。

緒形　僕らもその瞬間は「?:」ってなっちゃったんですけど、あとから聞くと、まあそういう場面も経験してきたみたいで。そういう話も、ご自身からではなくて学生時代のご友人とか当時のお仲間から聞かせていただくことのほうが多いんですよ。逆に、会長はそれを言われて覚えてないという（笑）。

やべ　大阪の治安が悪い地区でゲリラ撮影してたときなんですけど、現場にフルチンで木刀持ったじいさんが殴り込んできたことがあったんですよ。

——完全にヤバイ状態ですね。

やべ　止めに入った美術さんが頭殴られて血を流したりして、もう騒然となって。僕らはロケバスで待機して状況を見てたんですけど、そこでシーザーさんが「ちょっと見に行こうよ」って言って騒動に割って入っていくんですよね。で、もの凄く優しい顔でじいさんをなだめるわけですよ。「そんなカッコしてたら風邪ひくやん。誰か上着持ってきてあげて」って。そしたら、最初は「なんやオラ！」って言ってたじいさんも治まってきて。そこで警察が取り押さえたんですけど、そしたらシーザーさん、今度は凄く悲しそうな顔になって。で、ロケバスに戻ってきて「大変なんだよ、みんな。いろいろあるからな……」って言うんですよね。

——会長にとっては、フルチンで木刀持って暴れてるじいさんも〝異物〟じゃないんでしょうね。

やべ　その人の人生に思いを馳せることができるんでしょうね。「誰だって、一歩間違えたらああなってたかもしれない。そういう人を、どうにか助けてあげられないか」って。まあ、それはあとから思ったことで、そのときは北村さんと「シーザーさんが一番ヤバイよ！」って興奮してたんですけど（笑）。

緒形　周りから当時の話を聞くと、ほんっとに凄い修羅場をくぐってきたみたいですからね。生き死にのかかった場面でどう立ち振る舞うか、どう切り抜けるかっていう知恵というか感覚が凄いんですよ。

やべ　そういう人でありながら、自分のエゴはじつはあまり出さないんですよね。「若者のため」っていつも言うじゃないですか。あれは嘘じゃないんですよ。主役は選手たちなんだっていう思いは半端じゃない。あと、凄いと思ったのは、一昨年の大会に村浜（武洋）選手が出てるんですよ。一度は退団したかつてのエースを呼び戻してしまうという。

やべ　その懐ですよね。

——やべさんも『クローズZERO』シリーズで映画の立ち上げに関わられましたよね。原作者に映画化の交渉をするところからやられて。そのへんでシーザー会長と通じるものがあったのかな、とも思うんですが。

やべ　どこかで意識してるというか、真似してた部分はありますね。で、映画ができ上がってみると、自分が立ち上げた映画だとかどうでもよくなるんですよ。役者さん、スタッフさんの頑張りがありがたすぎて、自分のエゴはどうでもよくなる。そこはシーザーさんと同じ気持なのかなって。

緒形　会長がよく言うんですけど、それは〝執着〟じゃなくて〝愛着〟だからなんでしょうね。

やべ　……でもね、俺はシーザーさんに憧れはするけど、あの人みたいな人生を送りたいとは思わない！（笑）。あんな修羅場くぐるの、いまの時代じゃ無理ですよ。

緒形　いまのご時世で当時の会長みたいな生き方してたら、即行でパクられますよ。もしくはとっくに死んでますね（笑）。

【09年1月6日／シュートボクシング協会にて収録】

「日本刀を突きつけられるときがあるだろう」って言うんです（緒形）



おがた・けんいち■1975年1月26日、山口県出身。シーザージム所属。1994年にプロデビュー。その後、初代シュートボクシング日本スーパーウェルター級王者、『S-cup 2006』王者に君臨。シーザー武志とは16年もの付き合いになり、氏の一番弟子的存在である。172cm、70kg。

やべ・きょうすけ■1973年11月12日、千葉県出身。丹波哲郎の丹波道場にて役者としての修行をし、『喧嘩の花道』シリーズをはじめ名だたるドラマ・映画で熱演。2007年には映画『クローズZERO』で第17回日本映画批評家大賞助演男優賞を受賞。2009年4月には『クローズZERO II』が公開される。

やべきょうすけ出演映画3連発！

『鎧 サムライゾンビ』
2月14日（土）より、シアターN渋谷ほかにて全国順位公開！
出演／植田浩望（桜塚やっくん）、夏目ナナ、やべきょうすけ ほか
脚本／北村龍平　監督／坂口拓

『クローズZERO II』
4月11日（土）より全国東宝系にて公開！
出演／小栗旬、やべきょうすけ、黒木メイサ ほか
原作／高橋ヒロシ
（秋田書店 少年チャンピオンコミックス刊）
脚本／武藤将吾　監督／三池崇史

『TAJOMARU』
2009年秋全国公開！
出演／小栗旬、柴本幸、田中圭、やべきょうすけ ほか
原作／芥川龍之介
脚本／市川森一　監督／中野裕之

〝男〟を特集するとなれば、どうしても
ト。そのエネルギーたるや尋常ではない
占インタビューまで受けているのだから
から。いまは『HERO'S』で闘っても、
最後はPRIDEに帰ってくる。引退試



なぜ榊原信行に憧れるのか?

名エピソード続出! 元PRIDE代表の知られざる男伝説

男特集いえば「男の中の男の世界」であるPRIDEを築き上げた榊原元PRIDE代表を欠かすわけにはいかない。世間でのクールなイメージとは裏腹に、関わった人のほとんどが憧れるという情熱家・榊原信行。男が惚れるその男エピソードを一挙公開。世界を巻き込むとは、こういうことである!

文/橋本宗洋　撮影/黒田史夫

いいんだよ、サクはいつか戻ってくるから引退試合をPRIDEでやればいいんだ

〝男〟を特集するとなれば、どうしてもこの人の存在を忘れるわけにはいかないだろう。現在はマット界に身を置いていないとはいえ、残した影響はあまりにも大きい。その男とは、DSE元代表、榊原信行氏である。この人がいなければ、PRIDEはなかったのだ。いま、あらためて思う。榊原氏は大山倍達や梶原一騎、石井教義といった名前につながる、格闘技界のタイクーン（大立者）だった。その功績だけでなく人間的な大きさ、人を惹きつける力においても、とてつもないスケールを持っていた。

格闘技ファンは、榊原氏にどんなイメージを抱いているだろうか。その風貌から〝切れ者ビジネスマン〟に見えているかもしれない。だが、業界内部で接し、噂も含めたさまざまな情報を聞くと、決してそれだけではないことがわかるのだ。榊原氏は何よりもまず〝熱い男〟であり、〝有言実行の男〟、そして〝豪胆な男〟だと。

そもそも、PRIDEの成り立ちからして普通の格闘技ビジネスではなかった。交流のあった高田延彦の願いをかなえるため、まったくのゼロからイベントを立ち上げてしまうのだ。そのスタートは、おそろしく細いツテを頼ってヒクソン・グレイシーに会うことだった。会って、話して、熱意を伝える。それだけ。「いま、こういうイベントをやっているのでそれに出てほしい」という話ではなかった。いわば土台なし、ゼロからのスタート。そのエネルギーたるや尋常ではないだろう。まして、DSEに籍を置く前の榊原氏は、東海テレビ事業というイベント会社の社員だった。正規の業務をこなしながら、一方でPRIDEのプロデュースも行なっていたのである。

実現したものもしなかったものもあるが、PRIDEにおける〝夢のプラン〟の多くは、榊原氏の発想だったという。高田vsヒクソン戦を実現させたときのように、まず発想だけがあり、それを口にして、それを現実にする方法を探っていく。〝できそうなこと〟ではなく〝やりたいこと〟を考えるのが榊原氏だった。

たとえば、社内会議の最中に榊原氏が言う。

「ラスベガス大会にマイク・タイソン出せないかな？」

もちろん、社員はそのまま鵜呑みにはしない。単なる空想、あるいは思いつきだと判断するはずだ。ところが、それから数日して突然言われるのである。

「こないだのタイソンの件、どうなった？」

本気だったのかよ⁉ こうしてスタッフは、タイソン獲得へ本腰を入れて動くこととなる。そして（ヒクソンのときと同じように）細いツテをたどっていくのだ。最終的に試合を行なうまでには至らなかったが、PRIDEの記者会見にタイソンが登場しただけでもビッグニュースだった（まして『kamipro』の独占インタビューまで受けているのだから唖然とするしかない）。

どんな突拍子もないプランでも、「そうはいっても無理か」で終わらせない。必ず口にして、動く。それが榊原氏のやり方だった。

「まず言ってみなければ、何も始まらないじゃないか。そしていったん口にしてしまった以上、動かざるをえなくなる。だから、どんな思いつきでも言ってみるんだよ」

榊原氏は、常々部下たちにそう話していたという。

もちろん、人を動かすには、その人間の心を動かさなくてはいけない。そのことも、榊原氏はよくわかっていた。全盛期のPRIDEは金で他団体の主力選手を引き抜いたと言われるが、その裏では榊原氏が心を動かしていたのだ。

榊原氏は、よく選手に向けて手紙を書いたらしい。自分の考え、その選手に対する思いをしたためるのだ。手紙を受け取った選手は、もちろん悪い気はしないだろう。そしてそこには、いわゆる〝打ち合わせ〟、単なるビジネスを越えた熱い感情が芽生える。

その前提にあるのは、榊原氏の選手に対する信頼、深い愛情なのだろう。2006年、桜庭和志がPRIDEから『HERO'S』に電撃移籍をはたしたときのことだ。PRIDE関係者の誰もが言葉にできないほどのショックを受け、DSE社内のムードは最悪と言っていいほどに暗く落ち込んでいた。そんな中、榊原氏は部下たちに向かってこう言ったそうだ。

「いいんだよ。サクはいつか戻ってくるから。いまは『HERO'S』で闘っても、最後はPRIDEに帰ってくる。引退試合をPRIDEでやればいいんだ」

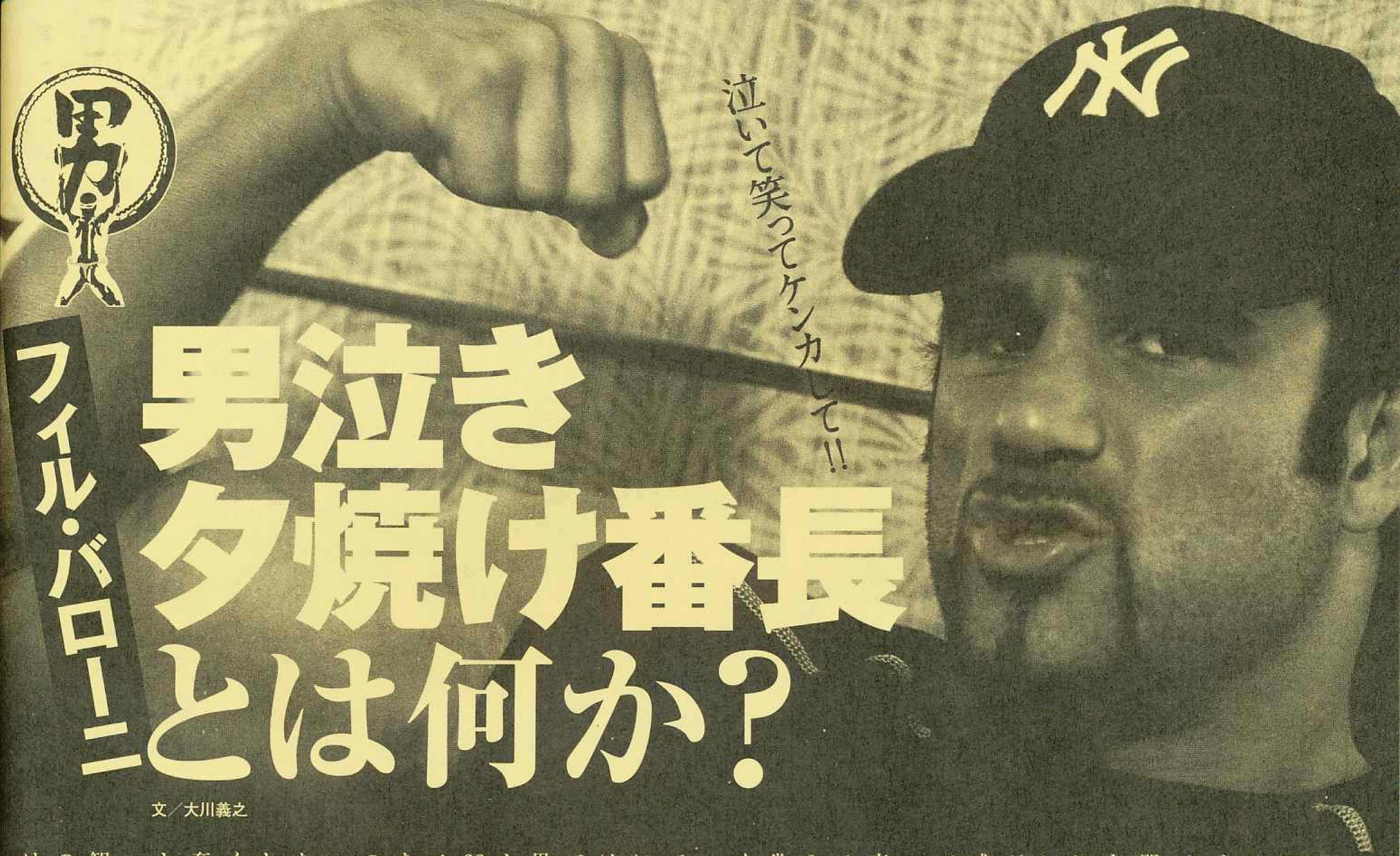
組織の長として、〝裏切り者〟である桜庭にこんな思いを抱ける人間など、そうはいないだろう。そして桜庭は、引退試合ではなかったがPRIDE最後の大会である『PRIDE・34』のリングに登場、榊原氏、田村潔司と握手をかわした。

そのプロデューサーとしてのあり方や生き方、大きく言ってしまえばカリスマ性は、業界関係者の憧れにもなっているという。有言実行のビジネススタイルはもちろんのことだが、業界には大会運営に携わり、お金に余裕が出てくると榊原氏を真似てスーツや時計に凝り始める〝榊原フォロワー〟も少なくないらしい。せめて形からでも「バラさんのようになりたい」ということなのか。そういった面でも、榊原氏の影響力は大きいということだ。

現在、榊原氏はサッカークラブFC琉球を運営。いきなり元日本代表監督フィリップ・トルシエを総監督に就任させるという豪腕ぶりを発揮した。PRIDEのときと、きっと同じなのだろう。思いつきを口にし、細いツテをたどり、熱意を伝えることで、日本最南端の、決して大規模ではないチームにトルシエを連れてきたのだ。

ある関係者は、榊原氏をこう評している。

「あの人には人を巻き込む力があるんですよ。一緒に夢を見たくなる。その人の言うことを聞いてると、いつの間にか〝なんか楽しいことになるんじゃないか〟って思えてくるんです」



泣いて笑ってケンカして!!

フィル・バローニ
男泣き夕焼け番長とは何か？

文／大川義之

男の中の男を語る〝男特集〟に欠かせないのが、ハンマーハウスの筋肉3兄弟、マーク・コールマン、ケビン・ランデルマン、そしてフィル・バローニだろう。打撃、レスリング、関節技といった、あらゆる要素が必要とされる最先端の総合格闘技の世界において、関節技なんぞまったくトレーニングしているようには見えず、グラウンド&パウンドという前時代感のある不器用なファイトスタイルで闘い抜く連中、それがハンマーハウスだ。ジョルジュ・サンピエールに代表されるように、なんでもできてイケメンな選手が人気を博す中で、筋肉3兄弟はスマートさからは疎遠で、常にブルーカラー丸出し。汗と涙と男くささを全身から放出しているのだ。

その筋肉3兄弟の中では、どうしてもコールマン、ランデルマンに先に目が行ってしまいがちだが、じつは3兄弟の中で一番熱く、デタラメで鉄板の名エピソードが多いのが三男のフィル・バローニだ。マーク・コールマンが男泣きした『PRIDE・32』の大会後のコメントブースで、アメリカ人記者の「あんな残酷な試合を娘に見せて居心地が悪くなかったのか」というぶしつけな質問にコールマンが「確かに父親のあんな姿を見たのはショックだったと思う……」としょげかえっていると、我慢できなくなったバローニは、突如マイクを奪って熱血大演説！ つまらない質問した記者を黙らせたのだった。

「コールマンの娘たちが彼の試合を観ることは、彼にとって非常に意義のあることだったんだ。コールマンはずっと日本にいたから、彼女たちは自分の父親が何をやっているのかよくわかっていなかった。今回ようやく、彼女たちに自分の闘う姿を見せる機会が得られたから、そうしただけだ。確かに不運にも彼は負けてしまった。それでも子どもたちにとって自分の父親がファンから大きな歓声を受けてリングに上がる姿を見ることは、とても意味があったと思う。コールマンにとっては彼女たちがすべてなんだ。彼の娘たちと、この貴重な瞬間を分かち合いたいと思うのは当然だろ⁉ だからオレには、どうしてそういう質問が出るのかすらもわからない！


確かに子どもたちにとって、自分の父親が殴られている姿を観るのはつらいだろう。……だが、人生ってのはつらいものなんだ、残酷なものなんだ！ オレだったら、あれだけ殴られながらもちゃんと生きてリングから降りてくる父親の姿を見たら、絶対にそのことを誇りに思い、尊敬すると思う。しかも相手は、あの世界最強の男ヒョードルだったんだぞ⁉ コールマンの娘たちも将来、父親の凄さを理解し、自分たちも強く生きていこうと思ってくれるはずだ。オレはそんなコールマンの決断を、心から尊敬している」

これぞ、友情とヤセ我慢、そして男くささが炸裂する〝夕焼け番長バローニ劇場〟の真骨頂と言えるだろう。我慢できないことがあると、一言言わずにいられないのがバローニ。こうした乱入型のバローニの熱血演説劇場は、08年5月、全米で初めて地上波生放送されたエリートXCの舞台裏でも人知れず行なわれていた。大会後の記者会見では、見るからに腕っぷしに自慢がありげなヘビー級ファイター、ブレッド・ロジャースがキンボを挑発！ すると両者は一触即発のにらみ合いに。

ここで現われたのがこの大会でジョーイ・ヴィラセニョールに1分11秒で秒殺KO負けしていたバローニだ。ボコボコになった顔のまま、血相を変えて両陣営のあいだに割って入り、「おまえら、落ち着けって。そんなにやりたきゃ、ケージでやれ！」と吠え、見事に乱闘騒ぎを止めて見せた。さらにバローニは野次馬根性丸出しで写真を撮りまくっていた記者陣を見て「オイ！ 会見はもう終わりだ。メディアのあんたらも、もうこれ以上バカな質問をして、けしかけるんじゃねぇよ!!」と一喝したのだった。さすがバローニ！ おまえ、男だ！

そんな熱すぎる男・バローニだが、試合のないときには練習もせずに、しこたま飲んで食って、ギャンブルしまくってデブになったことを告白。さらには「試合でファイトマネーを稼いで、ポーカーのワールドツアーに出たいね。1万ドルでエントリーして、優勝すれば、500万ドルの賞金がもらえるんだ。そしたら引退して、美女に囲まれた楽しい生活を送れるぜ。それがオレのゴールだ。ガハハハ！」と豪快かつ、おバカな夢を無邪気に語っていた。

あるときは熱弁をふるって男泣き、またあるときは本能のおもむくままに無軌道なファイター人生を驀進するバローニの人生には〝男〟を感じさせるエピソードが満載。またいつか日本で試合をしてほしいものである。



天龍源一郎 おまえは男だ!

男の中の男列伝①

プロレスラーで"男"といえば、この人は外せない。それが「男が惚れる男」天龍源一郎だ。天龍同盟時代のマスコミを巻き込んだ飲み会から、豪快なオゴリっぷり。"盟友"阿修羅原への献身的ヘルプまで。男・天龍の魅力に迫る!

構成　真下義之　撮影　菊池茂夫

はずっと日本にいたから、彼女たち

裏でも人知れず行なわれていた。大

日本で試合をしてほしいものである。

"最強の天龍番"小佐野景浩と"天龍信者"海野宏之レフェリーが語る

"みんなの大将"天龍男気伝説

——今日は、天龍さんにお詳しいお二人をお招きしました。

小佐野&海野　よろしくお願いします!

——天龍さんの原点は、87年に全日本プロレスの活性化のため、阿修羅原さんと二人で結成した天龍同盟ですが、やっぱり当時は目の色が変わった感じでした?

小佐野　それまで内に溜め込むタイプだったのが、「表に出た以上、全部出さなきゃいけない」って感じで全開になった感じだったね。

——阿修羅さんとタッグを組み始めた頃、正規軍のバスを拒否して電車移動してたみたいで。

海野　俺はレフェリーの前はリングスタッフだったから、トラックの助手席に乗せてたからね。

小佐野　移動からホテルから、ほかの選手とは全部別にして。それで緊張感を保ってたよね。

——その頃、毎晩、夜の天龍革命も起こってたようですね。

海野　あのマスコミと繰り広げられる飲み会は凄かったねぇ!

小佐野　僕なんて、広島でアゴ外したから(笑)。気持ち悪くてトイレ行こうと思ったら、ちょうど天龍、阿修羅に挟まれてて。

——天龍さん主催の飲み会で、サンドイッチされましたか!!(笑)。

小佐野　「人が受け身取って、稼いだ金を吐くのか!」って止められて。で、我慢してたら当時付き人の小川良成が「いまがチャンスです!」って合図してくれて、トイレに走って戻した瞬間、アゴが外れて。何されるかわかんないから、自分でアゴを入れたの。顔をガンガン叩いたら入ったよ(笑)。

——その頃は海野さんも一緒に?

海野　その頃は雲の上の存在だったね。ただ18、19歳の頃、試合前に「アンちゃん、スパーリングやるか?」って、大会前に客席後方で相撲やらされて。あんなデカい人と小僧がね。俺がひっくり返ってると「今日はこれぐらいにしといてやる!」って。

——マスコミからリング屋さんまでコミュニケーションしていた、と。

小佐野　天龍同盟はマスコミと飲むのが好きだったの。「今日の試合どうだった?」って、情報収集の場でもあったし、だから「本音でしゃべらないヤツと酒飲めないヤツ、ケチなヤツは嫌い!」ってよく言ってたね。こっちもお酒の場だから気楽に意見を言えたし、たまに「今日はもう一つ」って試合のときも、次の日に「これでどうだ!」と凄い試合をやったりね。

海野　レスラーの中で一番気を使う人ですよ! 飲んでるときも一番遠い端っこまで全員に気を使って、初顔の人まで気にして。楽しそうなら「よかった、よかった」と。飲んでなかったら「おう、飲めよ!」って声をかけてね。

——店全体が天龍ワールド状態!!

小佐野　天龍さんは人に飲ませるのが好きだけど、無理強いはしないし。飲み会は無礼講だしね。

海野　大将は暗かったり、愚痴を言ったりするのは嫌いなの! だからケンカしてたりすると「おまえら帰れ!」って帰したり。

——お店全体のお勘定を持っちゃうという伝説も有名ですけど。

小佐野　その手の話はいっぱいあるよ。新潟で2日間試合があったとき、支払いのとき天龍さんが財布を渡して「小佐野くん払っといて」って言うから「いくら払えばいいんですか?」「全部!」「え! ホントに払いますよ?」って。

——財布のお金を全部!?

小佐野　ウン十万円をね。次の日会場で「財布が空だったけど、どうしたんだ?」って言うから「天龍さんが払えって言ったんです」って言ったら、「よし、今日も行こう! 元取んなきゃ」って(笑)。

——凄いなぁ! でもトップとはいえ、家計は大変じゃないですか?

小佐野　「男・天龍がしみったれてちゃマズい!」って感じだったんだろうね。天龍同盟って豪傑ばかりで、パーッて使ってなくなったら試合して(笑)。

海野　冬木(弘道)さんもそうだったね。飲みに行くと「いいよ、おまえら」って必ず出してくれた。

小佐野　冬木さんはお付きで一緒の席にいたとき、天龍さんの振る舞いが凄くカッコよかったんだって。マスコミに「いい記事書いてね」って言うわけでもなく、「ワハハ!」ってやってるのを見て、「こうなりたいな!」って。

——そのあと、天龍さんは全日本プロレスを辞め、メガネスーパーが興した新興団体SWSに移りましたけど、海野さんがついていった理由は天龍さんですか?

海野　あの人が好きだったんですよ。冬木さんもそういう流れだったから、自分も「行きたいな」って。自分から電話したと思います。

——SWSは『週刊プロレス』に「金権プロレス」とかバッシングされたり大変でしたけど。天龍さんは、借金問題で全日本を解雇され行方不明だった原さんを探して、SWSで復帰させましたよね。

小佐野　SWSができたとき天龍番の記者は、原さんに戻ってほしかったの。「メガネスーパーならなんとかなるんじゃないか」って。で、「北海道にいるらしい」と聞いてたから、札幌の知り合いに探してもらって居場所は見つけたんだけど、そこの寿司屋のオヤジが「いない」と。で、天龍さんに「いるらしいけど否定してます」って言ったら、「いいよ。事情があるのかもしれないから」って。

——原さんのことを察して。

小佐野　原さんとは一度連絡がついたんだけど、自分からは復帰の話はしなかったね。天龍さんもSWSの最初は大きな組織だったから、自分の思いどおりにはできないじゃない? 結局、1年後にSWSの社長に就任したとき天龍さんが、一人で北海道に行ったの。

——たった一人で迎えに?

小佐野　誰にも言わずにね。その原さんがカムバックするときも、歳も歳だから、レボリューション(SWS内の天龍のグループ)がみんなで一生懸命なんとかしようって頑張ったよね。でも「なんで阿修羅を上げるんだよ」って派閥もあった。

——SWSは部屋別制度で、いろんな団体から寄せ集めたいろんな派閥がありましたから。

海野　SWSは陰で天龍さんの悪口とか、くだらんことを言う人間が多すぎたね。

小佐野　そんな嫌な思いをしたのに、天龍さんは「みんな生活があるんだから、グッと押さえて関係を修復したほうがいい」って、決してあきらめなかった。

――そのSWSが解散したあと、天龍さんを中心とした団体・WARが立ち上がるわけですけど。

海野　あのときは、天龍さんを慕ってるみんなが「大将、やりましょう！」って言ったの。

小佐野　でも、旗揚げを決めるまでは気持ちの揺れ動きはあったよね。責任の重さも感じてだろうし。

――WARにも参加した海野さんは、今度こそ天龍さんを男にさせてあげたいという気持ちは？

海野　もちろんありましたよ！　大将ってプロレス大好きじゃない？　車でも事務所でも俺と二人でプロレスの話してさ。こんなにプロレス好きな人はいないってぐらい。それに気難しそうなイメージを持つ人が多いけど、一番聞く耳を持ってて、一番話しやすい人だよ！

――ピンチの人も見逃せないというか。越中（詩郎）さんが新日本に移籍するときも黙って……。

小佐野　お札の束を突っ込んだって話があるよね。確か天龍同盟以前のことだったと思うけど、ある選手がギャラだけでは生活できないからと工事現場で働いてたことを知った天龍さんが、生活費を自分のギャラから渡してたらしくて。

――男ですねぇ～！

小佐野　僕が『週刊ゴング』の日本スポーツ出版を辞めてフリーになったときも、「自分の意地と女房、優先順位を忘れずに」ってメールをくれて。「意地を通すのも男だけど、意地のために家族を犠牲にしちゃいけない」って意味だって僕は解釈しましたよ。

――シビレますねぇ。あと、WARでは外貨を稼ぐために、積極的に多団体に参戦してたみたいで。

海野　あの頃、みんなの給料を天龍さんのギャラで払ってたからね。

小佐野　大仁田厚との電流爆破マッチとか、WWF（現WWE）の日本ツアーとか他団体に出ずっぱりのときがあったよね。

海野　大将がやってたことだから、俺たちが言うことじゃないけど。

――あと、相撲出身レスラーの面倒もよく見ますし。

海野　確かに、WARって元相撲取りが集まりましたよね。嵐や維新力に太刀光とか。

小佐野　自分が相撲出身でプロレスになじめなくて、悩んだ部分もあったから、より親身だったよね。

――八百長発言で問題になった北尾（光司）さんまで使いましたから。

海野　そういうとこが男気あるんだよね。自分がレフェリー20周年大会を後楽園ホールでやったときも、俺の20年はあの人が一番大きく占めてたから、「大将が出てくれるんだったら」と相談しに行ったんだけど、正直「契約的に難しいかな」と思ってたの。

――『ハッスル』との関係の部分で。

海野　でも話をしたら、真っ先に「いいよ」と。「『ハッスル』との話し合い次第だぞ」とは言ったけど、最初に「いいよ」って……。いまは別の道を歩んでるけど、大将の下にいたのは間違ってなかったなって。



どうだいこのメンツ！　86年結成の“天龍同盟”は天龍&阿修羅原に、サムソン冬木（当時、のちの冬木弘道）と川田利明、小川良成。「地方大会でも絶対に手を抜かない」男気あふれる意識改革で、ファンの熱い支持を獲得！

――あと、95年に『週刊プロレス』主催でオールスター戦（『夢の懸け橋』）の東京ドーム興行をやったとき、同日にWARが後楽園ホールで興行をやりましたよね？

海野　偶然、同じ日に後楽園を押さえててね。あの東京ドーム大会は各団体が一試合ずつ試合するというコンセプトだったから、WARの事務所に当時・編集長だったターザン山本とベースボール・マガジン社の偉い人が挨拶に来たの。

――「大会収益分のギャラを払うから、後楽園をキャンセルして、ドーム大会に出てほしい」とお願いしに。

海野　でも、大将は「俺は出ない！」ってハッキリ断ってね。大将は逆境だと燃えるから。いいカードを組んで後楽園を札止めにして、下のホールにまで映像を流して、お客さんを入れたんだもんね。

小佐野　僕も『週プロ』のやり方には疑問があったし、当時は『週刊ゴング』の編集長として対決しようとしていたら、運命的な流れになってたね。

――『週プロ』は天龍さんがSWSに移籍したときに「金で動いた」と報道してバッシングしたわけですけど。数年後に「天龍は金では動かない」ことを自分で証明して。

小佐野　「金で動かそうとしたのは誰だ？」って話だよ。あと、ライバル誌の編集長の僕のことも考えてくれたんだろうな……って。心の中で感謝しましたね。あと、僕が編集長になってから、人前で「さん」づけで敬語でしゃべるんですよ。天龍さん的には、「編集長だから、敬語で話すのは当然」って。そういう人間的なことも教わりました。

海野　教わったことはいっぱいあるよ！　でも、いまだに大将は俺をアンちゃんだと思ってる。40すぎのオヤジなのに（笑）。でも天龍革命の頃って30代後半でしょ？

小佐野　いまの僕らより若いよ！

海野　あんなこと絶対できない！　俺らも大将に教わったことを教えなきゃいけないね。

小佐野　いまだって『ハッスル』をいいかげんにやるなら、あんなに練習する必要ないんだから。

海野　i－Podつけて練習してね。ただ、俺が気になるのは天龍さんが何を聴いてるのかなって？　娘さんが曲入れてんじゃない？

小佐野　（天龍ボイスで）「入れといてくれ！」って（笑）。

――素晴らしいお話、ありがとうございました！

【08年12月26日／都内・新日本プロレス道場にて収録】



うんの・ひろゆき■1967年2月16日、埼玉県出身。全日本プロレスからSWS、WARを経て、現在は新日本プロレスレフェリー。07年に審判部長に就任。

おさの・かげひろ■1961年9月5日、神奈川県出身。『週刊ゴング』編集長を経て、現在はフリーの立場で『Gスピリッツ』やコメンテーターとして活躍。

天龍源一郎の男気証言



折原昌夫

おりはら・まさお■1969年6月16日、群馬県出身。全日本プロレスでデビュー。SWS、WARを経て、現在はリアルジャパンプロレスなどで活躍。175cm、88kg。

「僕は、天龍さんに“拾ってもらった”んです」

僕は、全日本プロレスに19歳で入ったんですが、天龍さんに「拾ってもらった」という意識が強いんです。合宿所では、練習生というより〝メシ炊き〟要員扱いだったから。

で、悔しくて泣いてた時期があって、その姿を天龍さんが見て、ある日、「明日から付き人になれ」と。それでデビューへの道が開けたんです。

でも、失敗ばっかりでね。たとえば、天龍さんは全日本の道場に白いベンツでバックで入ってくるんです。当時、自分は足腰が立たないくらいトレーニングをしてたから、集中力がなくて、うしろも見ずに「オーライ、オーライ」とやってたんです。当然、車がブツかるんだけど、天龍さんは、「音がしたな？」と笑ってて、正直に謝ると、「じゃ、帰るわ！」と笑顔で練習もせず帰っちゃう。で、次の日も同じ失敗をして、ブツけるんだけどまた笑顔で帰っていく（笑）。

その頃、先輩の雑用に追われて疲れはてていて、天龍さんが来ると誰も用事を言いつけなくなるから、逆に安心してたんです。そういう部分も、わかっててくれてたのかもしれません。

飲み屋のトイレで天龍さんから預かったロレックスの時計をなくしたこともあるんですが、次の日に「折原、いま何時かな？」と笑顔で言うんです。決して怒らない。ただ、天龍さんに迷惑をかけても怒らないけど、天龍さんの周りに迷惑をかけたときはシッカリ怒られました。

天龍さんが全日本プロレスからSWSに移ったときはビックリして、合宿所から電話したら、「俺のトロフィーやクツを自宅にもってこい」と。でも、それだけだったですね。自分から声をかけた引き抜きはやりませんでしたから。

ただ、「天龍さんがいなかったら、居場所がない」と思ってたから、勝手に荷物をまとめて、馬場さんに挨拶して、田舎に帰ったんです。

数週間したあと、天龍さんに電話したら、「全日本を辞めたんだって？」と凄く怒られました。でも、理由は聞かなかったから気持ちを察してくれたのか、数週間のあと「そばでプロレスがしたいです！」ともう一度電話したら、天龍さんがSWSの田中八郎社長（当時）にかけあってくれたんです。……ただ、そのあとも迷惑をかけましたし、自分は我を通して、あの人の元から離れていった人間ですからね。

でも、08年はリアルジャパンプロレス（以下、RJPW）にブッキングさせてもらって。RJPWは、ショー要素の少ない昭和のプロレスをやってるんですが、その舞台で「闘ってもらいたい」と思って連絡したんです。

電話で単刀直入に「佐山サトルと試合してください」と言ったら、「わかった」と一言で了解してくれて、「変わってない」と安心しましたね。

その頃、酒の席で『ハッスル』の天龍さんに批判を言う人もいて、悔しい思いをしたこともありましたし。『ハッスル』はアリだと思いますが、うわべで評価されるのに我慢できなくて。

いまも1年に何回かは天龍さんに電話したくなって、酔った勢いで、深夜3時くらいに電話してるときもあるんですが、寝てるのに出てくれるんです。一度、酔って呼び出したこともあったみたいで、RJPWのとき「朝方呼び出されて行ったけど、いなかったな？」と冗談まじりに言われてヒヤリとしました（笑）。

僕は天龍さんに、プロレスを教わったというより、男として人生を教わったと思いますし、いまもすべてにおいて「絶対」な存在ですね。

【08年12月25日／新宿・某レストランで収録】

天龍源一郎の男気証言



マグナムTOKYO

まぐなむ・とうきょう■1973年1月9日、東京都出身。07年にドラゴンゲートをケガで退団後、08年に『ハッスル』でアラン黒木として復帰。180cm、90kg。

「天龍さんに学びたくて、カバン持ちを志願しました」

自分は、WARのリング作りや売店の手伝いがプロレスの出発点だったんです。その頃、天龍さんとは通りすがりに挨拶するくらいでした。

そのあと、自分がメキシコ遠征に行く前、浅井（嘉浩）さんの紹介で天龍さんに挨拶したとき、「いつも来てるアンちゃんだよな」と目下の自分にも、にこやかに話をしてくれて、「メキシコから帰ったら、ウチのリングに上がれよ」と言ってくれたんです。

それで、メキシコから帰ってきたときに、友人から「天龍さんがおまえとタッグ組むって新聞に出てたよ！」と聞いて、ホントに「マグナムにラブコール」って書いてあったから、「覚えててくれたんだ！」と感激して。

しかも、挨拶に行ったら、「パートナーなんだから、俺の控室を使え」と。当時の自分はまだゴミみたいな存在なのに感激しましたね。

それがきっかけで親しくさせてもらうんですが、自分は人間・嶋田源一郎という素顔の天龍さんが原点でしたから、「よく、おまえ気軽に話しかけられるな？」とか周囲に驚かれてましたね。

ドラゴンゲートでは自分の8周年記念で、試合もさせてもらったんですけど、「もっとちゃんと試合したいな」と思って、自分のケガで途中で終わってしまったけど、シングル十番勝負を組んでもらったり。ドラゴンゲートに顧問として迎える動きもあったんで、天龍さんが多団体に出るときのカバン持ちも志願したんです。

言葉は悪いけど、「盗めるものは盗みたいな」と。身体を拭いたり、リングシューズ脱がすのは、〝丁稚〟ですけど、そういうポジションに行かない限り、真髄は学べないと思いましたから。

プロレス業界って社会人や人として導いてくれることが少ないけど、天龍さんは人生経験にもとづいた失敗談を話してくれるんです。「俺はこういう失敗をしたから、気をつけてやれよ」とか。叱るときも、自分たちの立場になって諭してくれる。厳しさの裏にやさしさがあるから、ついていけるんです。

今回、『ハッスル』で復帰しましたけど、天龍さんがいるというのは大きかった。ただ、表面上のつながりじゃない、もっと深い部分でつながってますから。ドラゴンゲートを辞めて、違う業界で仕事をしてたときも付き合いはありましたし、天龍さんも「おまえが何をやろうが、おまえはおまえだし、俺は俺。この関係は変わらないから」と言ってくれて。


天龍さんは、自分が違う業界で仕事する初日にも「今日からだよな、頑張れよ」とか、自分が浮つきそうなときに必ず電話をくれるんですね。

じつは、昨年の新年会で「マグ、俺はまだおまえが復活するのをあきらめてないからな」と言ってくれたんです。その言葉がずっと心に引っかかってて、体調的にその期待に応えられない自分もいたんですが、身体の調子がだんだん戻ってきたとき、その言葉を思い出すんです。昨年、自分の原点である空手の大道塾で、コロンビアに指導員で行ったときも思い出しましたから。

『ハッスル』に来たときは、「やるしかないよ」「むしろ遅すぎるよ」と言われましたけど、自分がケガした直後からずっとアドバイスをもらってましたから、感慨深かったですね。

僕の中では、今度は天龍さんと同じ職場の中で一緒に対世間、対お客さんで闘っていくのもアリかなって。また、パリッとした緊張感も出てきたし、そういう関係に戻れたのも嬉しいです。

【08年12月29日／都内某所にて収録】



髙田延彦 おまえは男だ！

男の中の男列伝❷

「おまえは男だ!」といえば、本家はもちろんこの人、髙田延彦だ！　UWFインターの総大将として、リング上でも酒の席でも、数々の男っぷりを発揮しまくっている髙田の"男"伝説を金原弘光、和田良覚、仲野信市に語ってもらった。

構成／堀江ガンツ　扉撮影／森"モーリー"鷹博

“Uインター初代付き人”金原弘光が語る

誰もが髙田さんに憧れた理由

――今日はUインター時代の髙田さんの男っぷりを語ってもらいたいんですよ。

金原　俺はUインターで髙田さんの初代付き人だからね。

――では、Uインターの最初から最後まで、髙田さんのことはよくご存知なんですね。

金原　まあ、そうだね。当時のことを話すとね、とにかくUインターの選手はみんな髙田さんに憧れてたから。強いし、カッコいいし、練習でも体力がズバ抜けてるし、それでみんなの面倒見てくれたわけだからね。みんな「いつか髙田さんみたいになりたい」って思いながら練習してたんだよ。

――そこまで所属選手が心酔する存在でしたか。

金原　だってそもそもUインターができたとき、俺らが最初に住んだ合宿所っていうのは、髙田さんが初めて買ったマイホームなんだよ。

――髙田さんが自宅を合宿所として提供したってことですか？

金原　そう。髙田さんが第二次UWF時代に稼いだお金で、神奈川県の綾瀬市に一軒家を買ったんだよね。当時はバブル期だから凄く高かったと思うんだよ。しかも、当時結婚前だった向井（亜紀）さんと住む新居にする予定だったのに、Uインターを旗揚げするとき若い選手の寮が必要だからって「じゃあ、ウチを使え」って自分たちが住む前に提供してくれたんだよ。

――初めてのマイホームを自分が住む前に所属選手に住まわせるって凄いですね！

金原　だからUインターの合宿所には「髙田」って表札がかかってたのよ。そこに田村（潔司）さん、垣原（賢人）さん、それからリングスに移籍する前の長井（満也）さん、あと俺を含めて練習生が4人、計7人が住んでね。間取りは1階が大部屋で30畳ぐらいあるLDKでね。2階が二部屋あって。しかも、髙田さんが住むために建てた家だから、ドアも大きくて、天井も高くて、風呂もデカくて、すべて髙田さんサイズなんだよ。凄くいい家だったよね。

――マイホームは若手に住まわせて、髙田さん本人はマンション住まいだったんですか？

金原　そう。だから最初に入寮するとき、取締役だった鈴木（健）さんに「ホントは髙田さんのマイホームとして買った家だから、大事に使ってね」って言われてね。それなのに田村さんが階段で転んで、壁にデカい穴を開けちゃったんだけど（笑）。

――ダハハハ！

金原　これはマズいだろうって思ったけどね（笑）。

――でも、自宅を合宿所として提供するっていうのは、新日本プロレスを旗揚げしたときの猪木さんと一緒ですね。

金原　あ、そうなの？

――いまも使われてる新日本の合宿所って、猪木さんと倍賞美津子さんが住んでた家だったんですよ。そして庭に道場を作って。だからUインター旗揚げ時の髙田さんは、まさに若き日の猪木さんみたいな存在だったんでしょうね。

金原　そうだよね。で、そこは道場からちょっと遠かったから、2年ぐらいして寮を引っ越すことになったんだよね。それで髙田さんも都内の仕事が多かったからその家は売却することになったんだけど、やっぱり俺らが2年近く住んだあとだから、新築と比べたら相当売却価値は落ちるわけじゃん。

――壁に穴も開けられてますし（笑）。

金原　だからホント、自腹を切って俺たちの住むところを用意してくれたんだよね。

――文字どおり生活の面倒を見てくれてたわけですね。

金原　それ以外にも髙田さんは、Uインター時代にけっこうなお金を使ってると思うんだよね。Uインターといえば、試合が終わったら毎回、髙田さんを中心にメシを食って、そのあと飲みに行って、それが団結力の源でもあったんだけどさ。そのお金って髙田さんがポケットマネーで出してたらしいんだよ。

――えっ⁉　毎回自腹切ってたんですか？

金原　そうらしいんだよね。毎回、六本木の叙々苑で焼肉食って、そのあと飲みに行くパターンだったんだけど、みんな食うし、酒もメチャクチャ飲むから、凄いお金がかかってるんだよ。そのお金を髙田さんが出してくれてたって、俺らはあとになってから知ってね。あの頃、一晩で軽く30万円は使ってたと思うんだよ。それで試合は月に一回あったから、年間12回でしょ？　それ以外にもプライベートで飲み食いしてたから、相当な金額になってるよね。

――髙田さんはUインターの社長なのに、会社の経費とか使ってなかったんですか？

金原　領収書もらってるとこ見たことないもん。宮戸（優光）さんや安生（洋二）さんたちに高級料理店にメシ連れていってもらったときは領収書切ってたけど（笑）。

――それは当然ですね（笑）。

金原　でも、髙田さんが領収書もらってるところは見たことがない。それで飲みが終わったら、若いヤツが合宿所に帰るためにタクシー代まで渡してたからね。しかも、合宿所は綾瀬だからタクシー一台2万円ぐらいかかるから。だから髙田さんは、みんなを団結させるために、凄いお金を使ってたよね。

――ホントに面倒見のいい親分だったんですね。

金原　しかもUインターは後半、赤字で借金も抱えてたわけじゃん。その状況でみんなに飲み食いさせるのって、大変だったと思うんだよね。髙田さんからは小遣いもよくもらったしね。

――小遣いまで！

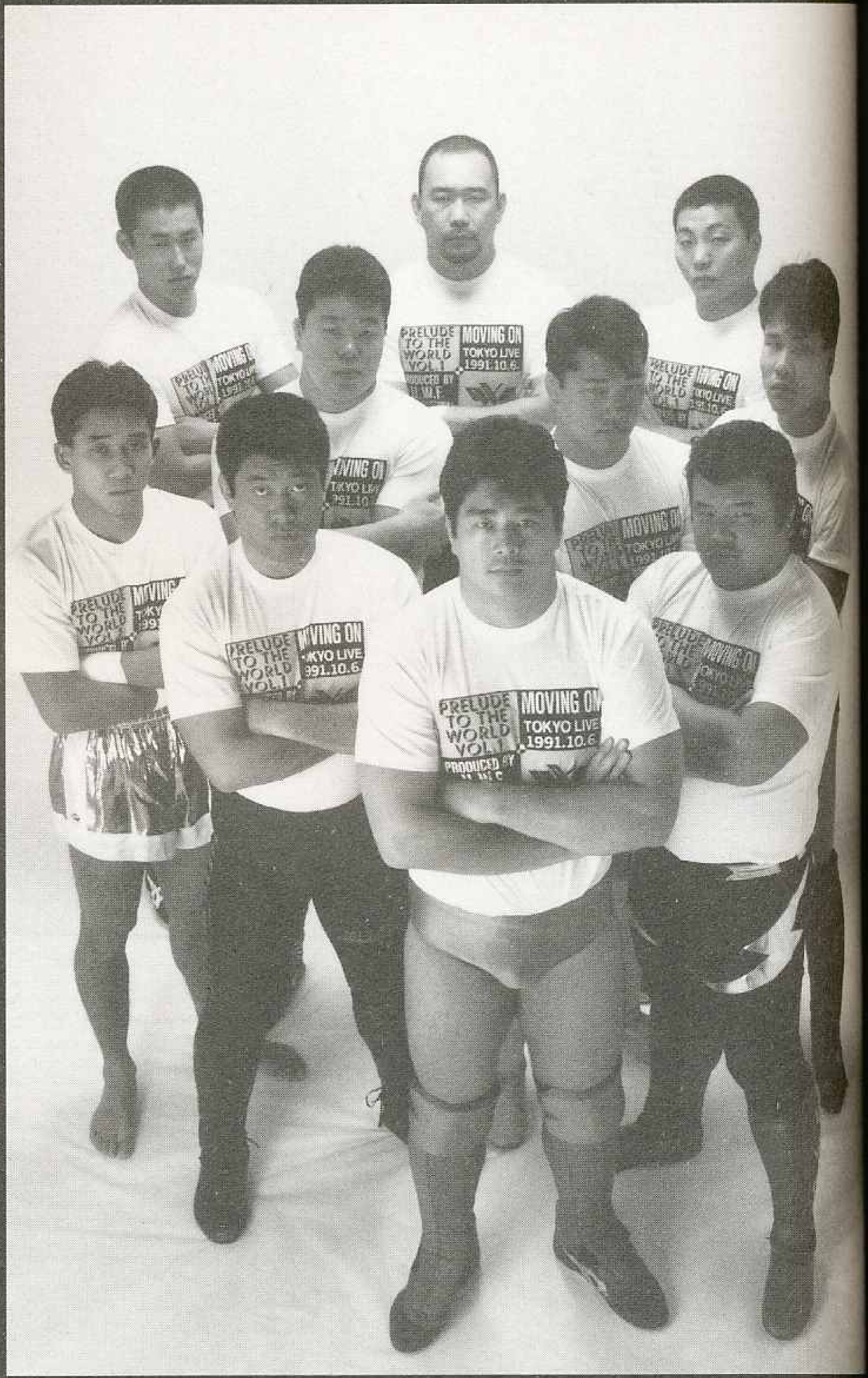
金原　日曜日とか休みの日に髙田さんの練習のために呼ばれると、練習後に小遣いくれてね。あとメシにはホントよく連れてってもらって、焼肉とか数えきれないほど食わせてもらったよね。

――そこまでやるからこそ、団体のトップとしてみんなから尊敬されてたわけですね。

金原　たぶん、自分のお金なんてそんなに残らなかったと思うよ。その代わり、俺たち選手はお金の心配は一切したことなくて、練習に没頭できたんだよね。Uインターが潰れて、キングダムになるまで5カ月ぐらいあったけど、そのあいだも俺たちは給料が出てたからね。これも髙田さんたちが、どこからか工面してくれ



ていた
田の男



ご覧のように一癖も二癖もある個性派集団でありながら、まさに一枚岩のごとく一致団結していた伝説のプロレス団体UWFインターナショナル。その団体をまとめる求心力は、間違いなく高田の男っぷりが作り上げていたものだった。

たんだと思うんだよ。

――会社の苦しさとかは、一切選手に見せなかったわけですね。

金原　だからそんなに借金があるってわからなかったから。契約更改のとき「会社が大変だからこれで我慢して」って言われたことはあるけど、そこまで大変だとは思わなかったからね。ホントにUインターは一枚岩だったよ。それは、高田さんがそういう団体を作り上げたんだよね。

――そこまでやるから、ちゃんとトップとして君臨して、理想のピラミッドができあがってたんでしょうね。

金原　だから、若い選手はみんな高田さんに憧れてたもんね。車もポルシェ乗っててカッコよかったからね。Uインターって億の借金があったのに高級車に乗るっていうのは、プロとしての見栄があったと思うんだよ。だって高田さんが安い車乗ってたら、ガッカリしちゃうじゃん。

――高田さんが中古の国産車とか乗ってたら、憧れませんよね（笑）。

金原　だからファンに夢を見させるだけじゃなくて、俺ら若い選手にも夢を見させてくれたんだよね。俺なんかもいつか成功して、高田さんみたいにポルシェに乗りたいと思ったし、高田さんはGT−Rも乗ったんだよ。だから、俺もリングスKOKトーナメントで3位入賞したとき、GT−R買ったもんな。俺が車好きになったの、高田さんの影響だからね。

――リング外でも高田さんみたいになりたい、と。

金原　だから俺も30歳すぎたら、若いヤツらにメシ食わせて、小遣いやれるようになりたかったんだけど、なかなか難しいよね〜（苦笑）。

――まあ、おいそれとできることじゃないですよね（笑）。

金原　あと、これは高山（善廣）くんから聞いた話だけど、高山くんが全日本プロレスに上がってた頃、小川良成選手がメシを食ってたら、たまたま高田さんと会ったんだって。それで高田さんは先に店を出たんだけど、そのあと小川さんが会計しようとしたら「高田さんからいただいてますから」って言われたらしいんだよ。

――カッコいいですねぇ！

金原　カッコいいよねえ。面識のない他団体の選手でもスッとさりげなくおごるっていうのはね。

――しかも、高山さんが全日本に上がってる頃っていうのは、もうUインター時代じゃないわけですよね。

金原　たぶんキングダムの頃だと思うけど。

――それじゃ、ヒクソン戦前でお金的にも大変な時期じゃないですか。

金原　そうだよね。でも、たとえ団体が違っても、プロレス界の後輩に会ったら必ず自分が払うってことをやってるんだからね。高田さんって俺たちにとって、雲の上の存在だから、よけいに嬉しいよね。

――高田さんにご馳走してもらうと嬉しさ倍増。

金原　だって当時、高田さんとUインターの若手っていったら、天と地の差があるからね。中堅でうるさい人がたくさんいたからさ（笑）、その人たちよりもはるかに上にいる高田さんは、もう人間じゃないような感じがしたもんね（笑）。

――現人神みたいな感じですか（笑）。

金原　ホントに神様というか、天皇陛下みたいな存在だからさ。普段は自分から話しかけちゃいけない存在だったんだから。

――そうなんですか⁉

金原　そうだよ。恐れ多くて。高田さんのほうから何か言われたら「はい」って答えるだけだよね。だから、高田さんの車に同乗するときが一番つらかったね。自分からは話しかけられないし、高田さんが運転してるのに寝るわけにいかないからさ、間がもたなくて、大変だったな〜。そういう高田さんと唯一、普通に話ができる機会が、飲みの席だったんだよ。

――なるほど。そこだけはある程度、無礼講なわけですね。

金原　それで酔っぱらってくると高田さんが「服を交換しよう」とか言いだして、自分の着てる服をくれるんだよね。

――そんな若手と着てる服を交換ですか！

金原　俺の服なんてボロい服だから、高田さんに渡すのは恥ずかしいんだけど。高田さんは酔っぱらってるから「この服、こないだ向井から買ってもらったばっかりだけどおまえにやる」とか言われてさ。

――それは恐縮しますね（笑）。

金原　きっと帰宅したあと、向井さんに怒られたりしてると思うんだよ（笑）。それを考えると申し訳ないんだけど、高田さんが「やる」っていうから、ありがたくいただいてね。凄くものがいいし、デザインもいいからさ、あれから15年ぐらい経ってるけど、まだ着れるもんね。

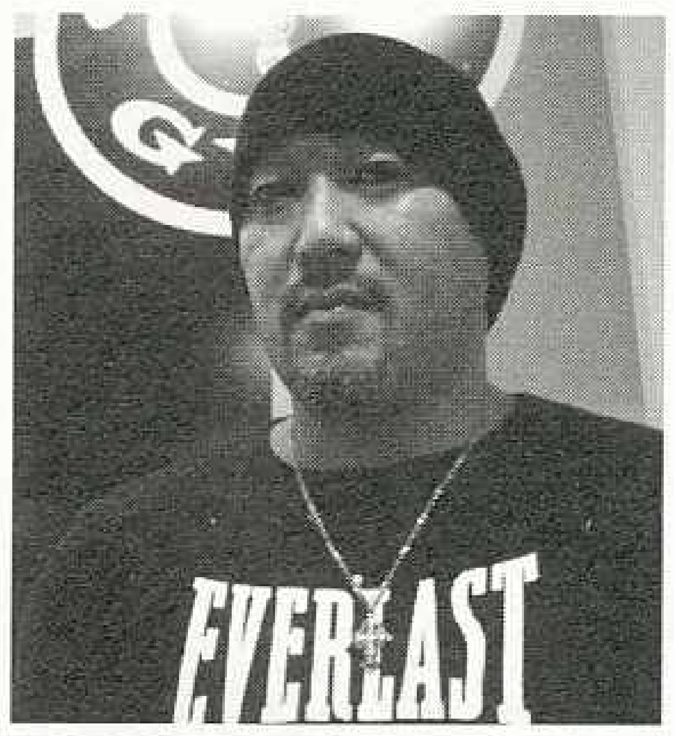
――いや〜、完璧な存在ですね。

金原　凄いよね。強くて、カッコよくて、お金の使い方も豪快で。プロの世界ってああいう憧れる存在がいなきゃダメだよね。そういう意味で、高田さんは本物のプロレスラーなんだと思うよ。

【09年1月8日／川崎市・『聘珍楼』にて収録】


かねはら・ひろみつ■1970年10月5日、愛知県尾張旭市出身。91年にUWFインターに入門。高田延彦の付き人を務める。その後、キングダム、リングスと団体の崩壊を次々と経験。02年からはPRIDE参戦。現在はパンクラスを主戦場に活躍中。178センチ、87キロ。

髙田延彦の男気証言者



和田良覚

わだ・りょうがく■1963年2月25日、茨城県出身。91年Uインター旗揚げにレフェリーとして参加。以降、キングダム、リングスに所属。「ハイパーストレングス」代表。

「絶対に弱さを見せない、決して弱音を吐かない人です」

髙田さんと僕が最初にお会いしたのは、僕がインストラクターを務めていた高級会員制スポーツクラブだったんですよ。

そこに第二次UWFで活躍されていた髙田さんと前田（日明）さんがいらして。そこからのお付き合いなんですね。

当時の印象というと、髙田さんといえば、あの人気絶頂だったUWFのトップ選手。もうスーパースターなわけですよ。それなのに礼儀正しくて横柄さがまったくなくてね、礼をつくせば礼を返してくれる、そんな印象でしたね。

そしてその体力にもビックリしました。スポーツジムなのに、まずヒンズースクワットや補強運動やって、ランニングして、そうやってアップを2時間弱やってからウェートですからね。化け物か！　って思いましたよ。

その頃のエピソードを一つお話しすると、僕が不注意でバーベルスクワットに失敗して、腰がバキバキッて鳴ってね、強度のぎっくり腰になって身動きがとれなくなったことがあったんですよ。そのとき、一介のトレーナーである僕をスーパースターの髙田さんが率先しておぶってくれて。なおかつ自分の車に乗せて、当時僕が住んでいたアパートまでわざわざ送ってくれて、部屋の中まで運んでくれたんですよ。

しかも、僕が自宅でしばらく身動きとれないだろうからって、大量の食料まで買ってきてくれて、「お大事にね！」なんて言って自然体で帰っていく。スーパースターがさもあたりまえのようにやってくれましたからね。まさに漢だな、カッコいいな～って思いましたよ。あのときは涙が出るほど嬉しかったし、「俺はこの人についていこう！」って思いましたね。

僕だけじゃない。Uインターの選手みんなが「この人についていこう」って思っていたからこそ、あの団体は一枚岩だったんですよ。

だからUインターの頃、大仁田厚さんが髙田さんのことを、なんやかんや言ってたじゃないですか。そのとき僕は「この野郎、髙田さんに対して何を言ってるんだ。上等だよ！　俺がやってやる」ぐらいに思ってましたからね。僕は全然弱い人間ですけど、髙田さんに指を触れようとするヤツがいたら、俺が盾になってやるぐらいの気持ちにさせてくれる男でしたからね。Uインターの選手たちは、みんなそういう思いだったと思いますよ。

Uインターの選手たちって、みんな練習熱心でしょ？　それは髙田さんが率先してやってたからですよ。団体のエースで社長なのに、ヒンズースクワットから、延々と基礎練習を若手と同じようにやってたんだから。髙田さんがやってるんだから、若手だけじゃなく、中堅もみんなやらざるをえない。

それから髙田さんは弱さを見せない人でしたね。とにかく弱音を聞いたことがないんですよ。「ダメだ～」「疲れた～」って言葉すら聞いたことない。「プロレスラーというのは超人なんだ。すべてにおいて強いんだ」ということを身内に対しても貫いてましたからね。

人間だからつらいこともあると思うんですよ。しかも団体のエースで社長ですから、人に相談できない悩みもあったでしょう。でも、そんな姿はみじんも見せない。弱音を吐かない。それがプロレスラーだし、そういう男が頂点に立っていたからこそ、Uインターという団体が形成されていたんだと思いますよ。

【08年12月30日／都内・某所にて収録】

髙田延彦の男気証言者



仲野信市

なかの・しんいち■1963年3月14日、神奈川県出身。78年に新日本プロレスでデビューした髙田延彦の同期。ジャパン、全日本、SWSなどで活躍。01年に引退。

「レスラーを辞める覚悟で“道場破り”と闘ったんですよ」

新日本プロレスの新弟子だった頃の髙田っていうのは、プロレスラーであることに誇りを持っていたし、強くなることに凄く貪欲でしたよね。藤原（喜明）さんとセメントの練習を一番やってたのが髙田じゃないですか。いつも試合開始が6時半なのに、15分前までセメントの練習をしてましたからね。あれは感心しましたよ。

僕がいた頃は実際に道場破りが来たことはなかったんですけど、一度、雑誌かテレビ番組かなんかの企画で、素人が道場で若手レスラーに勝ったらタイガーマスクに挑戦できるみたいな催しがあったんですよ。

それって道場破りと一緒ですよね。素人とはいえ、レスラーに挑戦しようっていうヤツですから、腕に覚えがあるヤツが来るわけですよ。やっぱり緊張感あったし、何をやってくるかわかりませんからね。それをたしか藤原さんと、前田さんと髙田が相手したんですよ。もちろん相手を壊しましたけどね。

その翌日が給料日で、事務所に給料をもらいに行ったんですけど、「今回は、そういうイベント（素人がガチンコでレスラーに挑戦）があったから」って給料とは別にお金が出たんです。でも、髙田は「俺のレスラーとしてのプライドを金になんか換えてもらいたくない」って、受け取らないんですよ。

やっぱりね、素人相手とはいえ、もし負けたら新日本プロレスの看板に泥を塗るわけですから、レスラーを辞めるぐらいの覚悟を決めてやったわけですよね。その思いは金に換算できるものじゃないんですよ。もし負けたら、どんなに金をもらっても取り返しのつかないことですからね。本人にとったらもの凄い大きなことだったと思うんですよ。

だからね、ガチンコでやることに対しても「これはおまえじゃなきゃできない」とか「プロレス界のためにやってくれ」とか言われてやって、あとから金がついてくるならいいですけど、「ギャラやるよ」って言われても、その金は受け取れなかったんでしょうね。

俺たちが新弟子の頃は、そういうプライドを持ってプロレスをやってましたよね。僕がプロレスラー生活で一番印象に残ってる試合は、髙田と後楽園ホールの第1試合でやった試合なんです。とにかくがむしゃらに、二人ともぶっ倒れるまで闘って、15分時間切れ引き分けだったんですけど、試合終了のゴングが鳴ったあと、もの凄い歓声と拍手が聞こえてきたんですよ。あの感覚は言葉じゃ言い表わせないですね。

そして、その試合を観て、猪木さんが蔵前（国技館）の第1試合に俺と髙田の試合を指名してくれたんです。当時、猪木さんは第1試合を凄く大事に考えてましたから、シリーズ最終戦、蔵前国技館の第1試合を任されるっていうのは、俺たち若手にとって最高の勲章だったんですよ。だから嬉しかったですね。

実際の試合では僕らが“蔵前”を意識しすぎちゃって、お互い顔面がボコボコになるひどい試合になっちゃったんですけどね。でも、その試合のあと「いつか俺たちで蔵前のメインをやろう」なんて約束してね（笑）。それは実現できませんでしたけど、彼はその後、本当にプロレス界のトップに立って、PRIDEというものも立ち上げて、たいしたもんですよね。

ホント、髙田延彦っていうのは、プロレスに対して純な思いを持った男でしたよね。

【08年12月2日／都内某所にて収録】



前田日明 おまえは男だ！

男の中の男列伝③

ここ最近『kamipro』ではごぶさただが、前田日明の存在は“男”特集には欠かせないだろう。“格闘王”として活躍した現役時代から、その後のトレードマークとなっている葉巻を燻らせダンディズムを追求する現在まで、男・前田日明の真実の姿を縁の深い男たちに語ってもらった。

構成／阿修羅チョロ　撮影／森鷹博

リングス一期生の成瀬昌由が語る

前田日明のダンディズム

——今回はリングス旗揚げメンバーでもある成瀬さんに、前田日明さんの男気あふれるエピソードを聞かせてもらえればと思っています！

成瀬 まあ、僕はリングス時代、前田さんから「おまえが女だったら結婚してもいい」って言われたことがあるぐらいですからね（笑）。

——前田さんは結婚されましたが、それより前に成瀬さんはプロポーズされていた、と（笑）。ちなみにそれはどういったシチュエーションで？

成瀬 前田さんの付き人時代、僕は痒いところというか、細かいところまで全部目を配って前田さんにストレスがないようにやってたっていう自負があって。僕的にはあたりまえのことをやってただけだったんですけど、前田さんはそれをいたく気に入ったみたいで、一時期そういうことはよく言っていただいてましたね。

——「俺が女だったら一発やらせてやってもええで」っていうのは、何度か聞いたことありますけど（笑）。

成瀬 「おまえが女だったら一発やらしてもらうわ」って言われたこともありますよ（笑）。

——いろんなバージョンがあるんですね（笑）。

成瀬 前田さん流のほめ言葉ですよね。前田さんのいいエピソードって数えきれないほどあるんですけど、いまふと思い出したのが、23歳のときだったかな？　当時付き合ってた女性と南青山でデートしてたんですよ。それで、普通に彼女と道を歩いていたら前田さんのらしきベンツに横付けされて、一瞬ビクってなって。

——それはちょっと気まずいですね。

成瀬 師匠にデート現場を見られるというのは弟子としては気まずいというか（笑）。で、横付けされたベンツのウィンドーが開いたら、前田さんはニヤニヤしながら「成瀬クン、成瀬クン、こんなところで何をしてるのかな？」って言われて（笑）。

——さらに、気まずいですね（笑）。

成瀬 「彼女とデートをしてました」って説明して彼女にも挨拶させたら、前田さんは「おお、そうか」って言って、すぐに車を発進させたんですよ。それで頭を下げて見送ってたら、バックして戻ってきたんです。

——何か言い忘れたんですかね？

成瀬 またウィンドーが開いて、前田さんは財布を取り出して「これで彼女とメシでも食いに行け」って言って5万円も渡されたんですよ。

——エ～ッ、メシ代として5万円!?

成瀬 弟子としては「いただけません」とは言えないですから、「ありがとうございます！」ってありがたくいただきましたけどね。

——翌日とか彼女のこととか根掘り葉掘り聞かれたんじゃないですか？

成瀬 次の日に道場で会ったときにお礼を申し上げたら、「おう」って言うだけで何も聞かれなかったんですよ。前田さんって基本的にそういうところは詮索されない方なんですよ。

——あ、そうなんですか。

成瀬 前田さんがよく言うところのダンディズムというか。いまの時代で「男らしさとは何か」って言ったら凄く安っぽいイメージになりがちですけど、前田さんは、そのものズバリ"男"なんじゃないかなっていうのは思いますね。

——お酒の席での"男"話もたくさんあると思うんですけど。

成瀬 言えないような話もたくさんありますけど（笑）、前田さんは「乾杯は杯を乾かすって書くんや」ってよく言われていて、乾杯イコール、一気が基本なんですよ。

——イヤな基本ですね（笑）。

成瀬 前田さんは組織のトップなので酒の席になると「乾杯お願いします！」って選手や関係者がひっきりなしに来るわけですよ。そうなると、前田さんは断らないですから、気がつけば、もの凄い量の酒を飲まされてるんです。空手で言うと百人組手状態ですから（笑）。

——それはキツそうですね（笑）。

成瀬 結果的にいつもかなりの量を飲まれるんで、わりと早い段階で酔っぱらっちゃうんですけどね（笑）。でも、前田さんってお酒の席で僕ら後輩とかに無理強いすることは一回もないんですよ。それこそ昔のレスラーとかはそういう感じなんでしょうけど、そういうのは一切しない方でしたね。同期の山本（宜久）とかは無理強いするんですけどね（笑）。

——ボクもヤマヨシさんには飲まされた記憶があります（笑）。

成瀬 前田さんは宴会になると無礼講というか、僕らと同じ目線で飲んで、はしゃいでくれるんですよ。

——はしゃぎすぎて、トイレを破壊したこともあったみたいですが（笑）。

成瀬 ありましたね（笑）。山本なんかは酒の席では率先して前田さんに挑んでいって、泥酔した前田さんにボケをかまされて、それに対して「違うだろ！」とかおもいっきり突っ込んだりしてましたね（笑）。

——前田さんに突っ込めるのはヤマヨシさんぐらいでしょうね（笑）。

成瀬 かもしれないですね（笑）。

——リング上での前田日明の男気という部分はどう思われます？

成瀬 それはもう、いまさら僕が言うまでもなく、観てきた皆さんが一番知ってることなんじゃないですか。リングスの前のUWFとか新日本時代からそうだと思うんですけど、ヒザとかもかなり悪かったし。体調的にも万全ではない中、あの人しかやってないことが多いんですよね。リング上でもリング外でも。

——具体的に言いますと？

成瀬 いろいろありますけど、一番はファイターとしてトップランナーでいながら、新しい組織と体制の構築をされたことですね。で、僕はリングス時代にちょっとあることがあって、前田さんとマジメな話をする機会があったんですよ。

——あることというのは、ズバリ意見の食い違いとかでしょうか？

成瀬 まあ、そうですね。そのときに、いろんな話をしてる中で、これも全部を言わなくても伝われば一番ありがたいんですけど、「パイオニアっていうのは見返りを求めてはいけない」と言われたことがあって。ちょっと話は飛びますけど、幕末の頃で言えば、吉田松陰とか坂本竜馬とか、要は維新を成し遂げようとして、日本のために動いてきたパイオニアの人たちっていうのは、ほとんどが非業の死を遂げてるんですよ。前田さんもプロレスから格闘技という扉を開いて、いま総合格闘技っていうのがここまで認知されるようになったわけじゃないですか。

——間違いなく前田さんは開拓者の一人ではありますよね。

成瀬　前田さんは、ずっと昔からいまの総合格闘技のようなかたちを思い描いていたはずなんですけど、時代の中で急激に変化させることはできなかったところはあったと思うし。そういう意味では、前田さんは吉田松陰とか、藤田東湖っていう人がいたんですけど、そういった啓蒙された方たちと一緒ですよね。尊皇思想というか。それが明治維新につながる一番のきっかけなんですけど、いまの総合格闘技界の発展というのは、先駆者である前田さんが自分の身体を削りながら切り開いていったレールに乗って、その恩恵を受けてるってところがあると思うんですよ。明治維新でいえば、伊藤博文とかは、ある意味、先人たちが切り開いていったレールに乗って総理大臣になれたという部分もあると思うし。

——一番大変なはずのパイオニアが、なかなか評価されないという現実はあるでしょうね。

成瀬　当時、前田さんからその言葉を聞いたときは僕も未熟だったし、ピンとこなかったんですけど、その後、歴史のことを自分で好きになって勉強していくうえで、「あのとき前田さんが言ってたのはそういうことなんだな」っていうことがやっと理解できて。理解できるまでには6~7年ぐらいかかりましたね。そういう意味では、前田さんはいろんな意味でパイオニアであるのは間違いないですし、「見返りは求めない」ってハッキリとおっしゃってたんで。そういうことを言える人は、いまのマット界にいるのかなって思いますよね。

——引退された選手の中でも、前田さんの復帰待望論はどの選手よりも大きいですし、実際オファーもあったと思うんですけど、本人的には一切そういう考えはないみたいですね。

成瀬　そうですね。そこだけ取っても、前田さんは男らしいというか、吐いた唾は飲まない人ですから。

——「吐いた唾飲み込むなよ」と言ったプロレスラーもいますけど（笑）。

成瀬　〇〇と一緒にしたら前田さんに申し訳ないですよ。申し訳ないっていうか〇〇がいることがこの業界にとっての不幸っていうだけで（笑）。

——そこまで言いますか！

成瀬　〇〇の話が出て思い出しましたけど、いまは芸人でもプロレスラーや格闘家のモノマネをする人っていっぱいいるじゃないですか？

——そうですね。最近では〝〇〇〟のモノマネをする某小〇さんもブレイクしましたし（笑）。

成瀬　いまに至ってはモノマネする連中をリングに上げたりしてるじゃないですか？　そちらの（山口）社長もそういうのに関わったりしてますけど。自分はそれらを否定も肯定もしませんし、前田さんのモノマネができる芸人もいると思うんですよ。特徴もあるし。でも、本人の前でできる人っていないんじゃないですか。

——かなり勇気はいるでしょうね。

成瀬　そんな勇気のあるヤツはいないだろうし。そういう芸人が出てきたとしても前田さんは喜ばないし、笑わないでしょう。〇〇が小〇のことをありがたがって一緒にテレビに出たりしてるじゃないですか。ああいうことは前田さんはないですから。

——いまだにオーラというか、威圧感はありますからね。

成瀬　そういうオーラとか威圧感をいまでも持ってるのがやっぱり凄いんですよ。師匠に対して「凄い」って言うのは失礼ですけど、それがほかのプロレスラーや格闘家にはない、唯一無二の前田さんのダンディズムなんじゃないですかね。

——ダンディズムっていう言葉が一番似合うマット界関係者ではあるでしょうね。

成瀬　ダンディズムっていう部分は一番とかではなく、特出してるところじゃないですかね。これまで前田さんって、いろいろな人とケンカしたりとかもありましたけど、最近でいえば、パンクラス時代は絶縁状態だった船木（誠勝）さんとも関係を修復したり、相手を許しきるという度量の広さも感じますね。

——成瀬さんにとって、前田さんはどういう存在になるんでしょうか？

成瀬　前田さんっていう存在は、僕にとってはいつまで経っても織田信長というか。師匠っていうのは前田さん一人しかいないですからね。新日本時代はネタで中西（学）さんのことを師匠と呼んでましたけど、師事はしてないですからね（笑）。

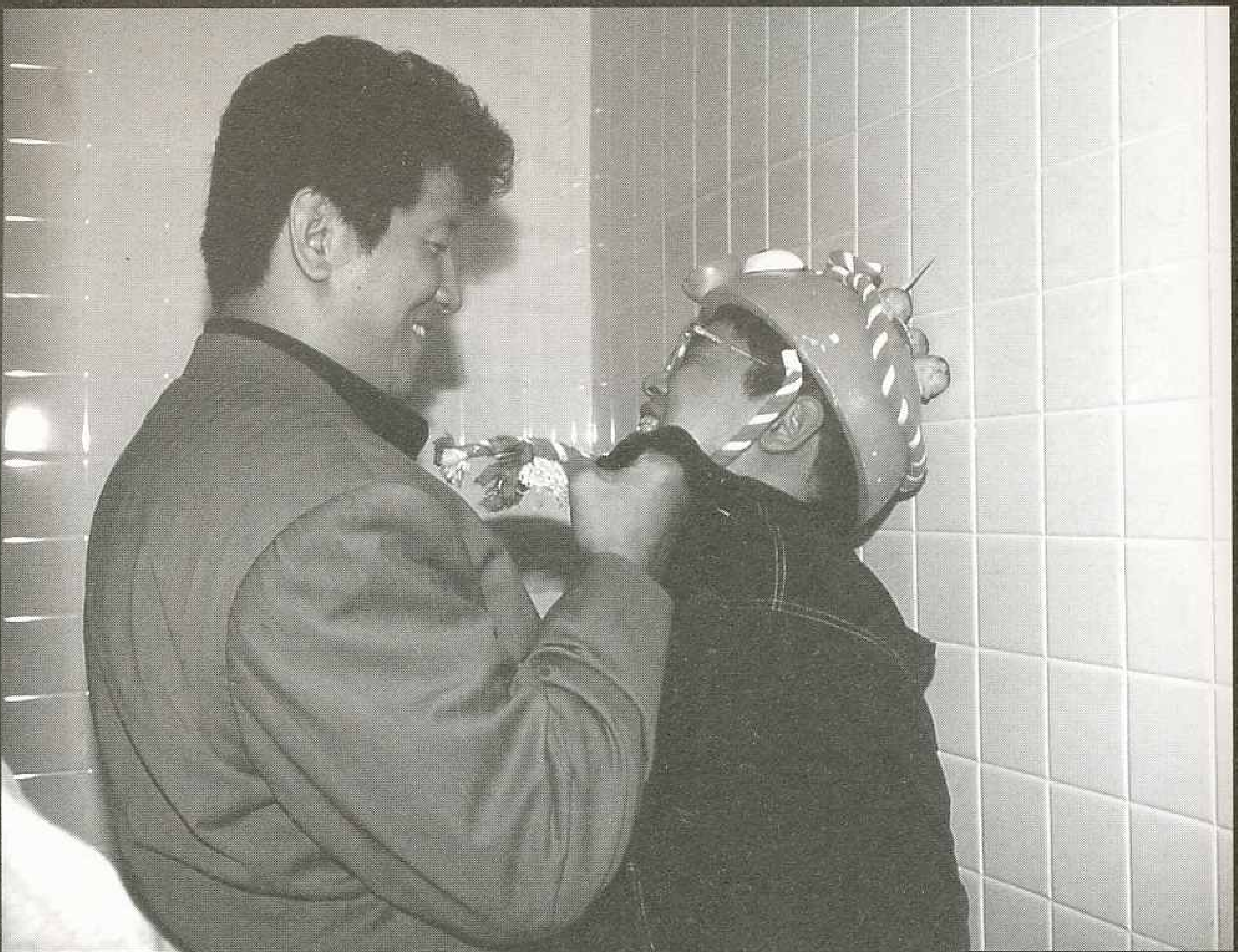
——ネタでしたか（笑）。

成瀬　高校時代の空手の師匠はいますけど、プロになったうえでの自分にとっての師っていうのは、あとにも先にも前田日明さん一人だけです。この業界には男らしい方ってたくさんいると思うんですけど、僕はその中でも一番厳しい前田さんの弟子でよかったなって思いますね。

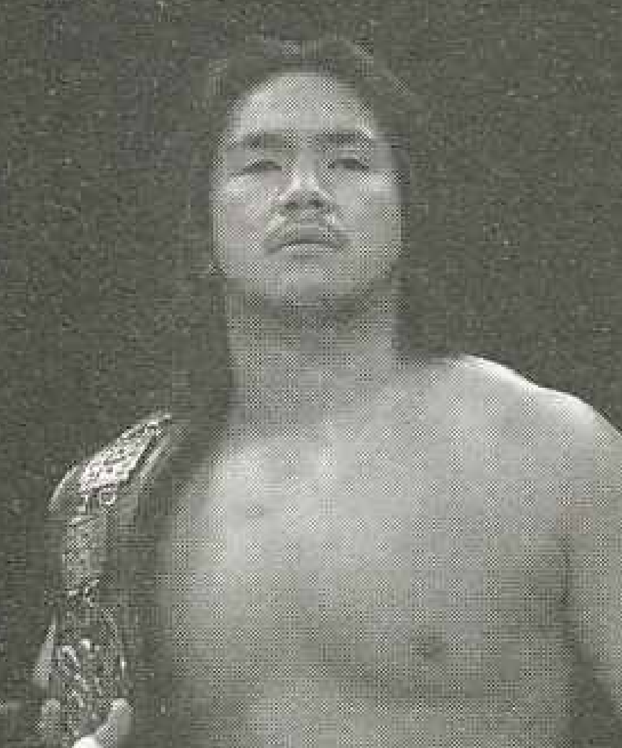
——やはり、厳しさは一番ですか？

成瀬　僕は前田さんしか知らないんで、ほかの人がどうなのかはわからないですけど、それでもおそらく一番厳しかったと、そこは胸を張って言いきれますね。そういう人の弟子だということに誇りを持ってますし、それは高阪（剛）にしろ、坂田（亘）にしろ、リングスにいた連中は共通して思ってることだと思いますね。

【09年1月10日／電話取材にて収録】

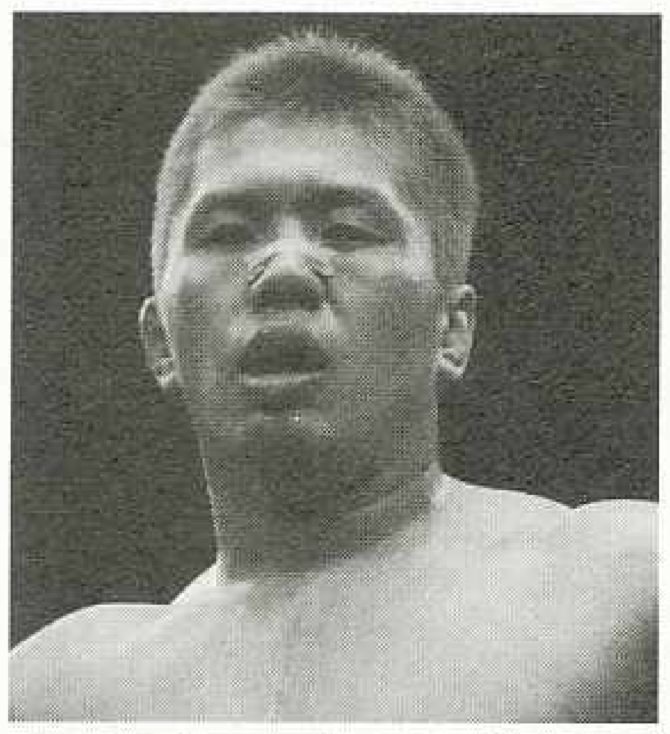


前田の男気エピソードとして何かと縁の深いのがトイレ。かつては『フルコンタクトKARATE』山田英司編集長を女子便所で説教するという事件（?）を巻き起こしている。写真はそのときの再現シーン。モデルは現在カリスマ司会者としておなじみの原タコヤキ君だ。タココラッ！



なるせ・まさゆき■1973年3月15日、東京都出身。91年のリングスの第一回新人テストに合格し入門。翌年8月の山本宜久戦でプロデビュー。01年3月にリングスを退団。その後は新日本プロレスで活躍するも、06年1月に退団、現在はフリー。役者としても活躍中。173センチ、95キロ。

前田日明の男気証言者



滑川康仁

なめかわ・やすひと■1974年10月27日、茨城県出身。アニマル浜口ジムを経て94年にリングスへ入団。リングスの活動停止後はDEEPを中心に活躍中。181cm、90kg。

「前田さんの人間力はハンパじゃないと思います」

僕はリングス時代は前田さんの最後の付き人(?)として勉強させてもらいました。ただ、勝手に自分から付き人を放棄しちゃったんですよ(苦笑)。一度、試合のときに前田さんの家まで迎えに行ったんですけど、一回やっただけで終わりにさせちゃいましたからね。だから、付き人としては失格なんですけど、僕は前田さんにかわいがってもらったほうだと思いますね。食事とかいろんなものを分けてもらったりして、逆に僕のほうが気を使われていた感じで、前田さんからしたら「しょうがねえなぁ、コイツは」って思ってたんじゃないですかね(笑)。

いまでも、リングス関係では僕が一番、前田さんと家同士が近いんで、もしプライベートとかで前田さんが緊急で車を出してほしいとか、そういうことがあったらすぐに駆けつけたいっていう気持ちはありますね。それぐらい師匠として、男として、憧れる部分は大きい人です。

ただ、自分はリングスに入ったんですけど、中学生の頃のファン時代は前田さんよりも船木(誠勝)さんのほうが好きだったんですよ(苦笑)。僕にとって前田さんっていうのは昔の相撲ファン的に言えば北の湖みたいな存在で。強すぎるから。その強い前田さんに立ち向かうハタチの船木さんが凄くカッコよく見えたんですよね。

最近の自分と前田さんに関する話だと、ボクシングの千島(広明)さんっていうミットを持ってもらっているトレーナーがいるんですけど、千島さんが飲み会の席で前田さんと一緒になったみたいで。そのときに「いま滑川のミットを持ってるんですよ」って前田さんに言ったら、滑川がお世話になってますっていうことで、財布から数万円抜いて千島さんに渡したみたいなんですよ。それを聞いてやっぱり親なんだなと思って泣けてきましたね。自分もリングス時代、前田さんの家にモノを届けたりすると、そのたびにお小遣いとか漢方薬とかをもらったりしたんですよ。でも、よく考えると、お金をかけて育ててもらって給料までもらってるのに、モノを届けたりするぐらいで、そういった気使いをしてくれるっていうのは、人間としても大きい方なんだなって思いますね。

このあいだ松井(大二郎)さんと話したんですけど、前田さんや髙田(延彦)さんって僕らの歳の頃にはもうとっくに団体を立ち上げてるわけじゃないですか。佐伯(繁)社長も31歳ぐらいで団体を立ち上げてますけど、そういう人たちには人間力っていう部分で、どうあがいても全然かなわないなって思いますね。これから僕が挽回するとしても、その歳であの人たちがやってきたことって抜けないですから。単純に「スゲーな!」、「こういう人のことを男って言うんだろうな」って凄く感じるし、憧れますね。

そういう意味では「こういう人になりたい」って憧れるのが、いまの僕にとって前田さんであり、佐伯社長なんですよ。(ヴォルク・)ハンが前に「自分は前田の兵隊だ」って言ってたことがありましたけど、僕は犬だったらいい忠犬になれると思うんですよ(笑)。自分は一度忠誠を誓うとずっと恩義を感じ続けるようになるし、古いロシア人みたいに頑固なところもあるんで。

自分にとって前田日明という存在は、憧れというか、目標ですね。前田さんのような男になりたいっていう。ただ、僕の性格上、誉めるだけってイヤなんで悪口も言いたいんですけど……、前田さんに対しては何もないです(苦笑)。

【09年1月10日／電話取材にて収録】

前田日明の男気証言者



上原譲

うえはら・じょう■東京都出身。リングスのフロントスタッフとして活躍。活動停止後は02年9月に旗揚げしたZSTの広報に就任。学生時代はレスリング部で活躍。

「猫の世話だけで○万円もらったことがあります」

僕はリングス時代から前田さんにお世話になっていて、いまはZSTとして、いろいろとアドバイスをいただいたりしてるんですけど、前田さんには現役時代はもちろん、引退されてからも「男だなぁ」って思わされることはたくさんありますね。逆に、いろんな意味で前田さんの男らしい行動は目のあたりにしすぎて、どういったことを語ればいいのか悩みます(笑)。

僕にとっては、ファイター前田日明というよりも、社長としての前田さんの印象のほうが強いんですけど、リングス後期の頃、KoKトーナメントをやるにあたって、前田さんは海外に選手発掘によく行ってたじゃないですか。アメリカでは(ランディ・)クートゥアーやダン・ヘンダーソン、ブラジルでは(アントニオ・ホドリゴ・)ノゲイラとか、それこそいまの総合格闘技界で活躍しているファイターをいち早く目をつけて実際に呼んできたわけですけど、そのために日本を空けることが多かったんです。

いまもそうなんですけど、前田さんは自宅で猫を3匹飼ってるんですよ。それで、前田さんが留守のあいだは自分たちスタッフが前田さんの家に行って、その猫のエサとかトイレの世話とかをしていて。基本的に、平日はお手伝いさんや管理人さんがやっていたんですけど、土曜日と日曜日は人がいないってことで自分たちが交代でやることになったんです。ただ、前田さんって、そういったバイト代の相場がよくわからなくて、知り合いかなんかに「これぐらいでいいんじゃない?」って言われて決めたと思うんですよ。猫の世話っていっても、散歩に連れて行ったりするわけじゃなくて、単純に昼と夜の2回、エサとトイレを変えるぐらいだったんで、ホントに一回15分もあれば終わるんです。でも、そこは、さすが前田さんというか、一回やっただけで○万円ですよ。だから、昼と夜の2回やったら、それだけで○万円ですからね。スタッフのあいだでも、「俺が!」「俺が!」ってダチョウ倶楽部状態になってましたね(笑)。


自分は前田さんの家までは遠かったんですけど、担当のときは車で行って昼のぶんを世話して、車で寝たり近くで時間を潰して、また夜に世話して約30分で○万円でしたから。いま考えると凄くワリのいいバイトでしたね。

同じ頃、前田さんが大晦日に帰国された際には「年末だから両親と食事でも行ってこい」と空港で○万円いただいたこともありましたね。1日早いお年玉でしたよ(笑)。

【09年1月6日／電話取材にて収録】



こちらの写真はリングス時代、年末の恒例行事となっていたファン参加の餅つき大会での一枚。このときばかりは前田も赤いブレザーならぬ赤いハッピ姿で豪快な餅つきを披露し、ファンに振る舞っていた。男だね!



吉田秀彦 おまえは男だ!

男の中の男列伝④

リング上で「Gackt〜!」と親交のある芸能人の名前を叫んだり、「ゲッツ!」ポーズを披露するなど、その自由奔放な振る舞いからも、飾らず豪快な性格がうかがいしれる吉田秀彦。そんな柔道王のDHCで洗練された素顔に迫る!

構成/鈴木佑　扉撮影/乾晋也

兄貴肌な秀彦のちょっといい話

柔道時代からよく知る〝盟友〟TKが語る

――今回は吉田さんの〝男らしさ〟について、盟友の高阪さんにお話を聞きたいと思います！

TK　秀彦の〝男らしさ〟……じゃあ、あんまり酒絡みの話とかは避けたほうがいいのかな（笑）。

――吉田さんはけっこう飲まれるんですか？

TK　またこれがよく飲むんですよ、もっぱらテキーラが多いんですけど。やっぱり体育会系の性というか、自然と飲み比べになるんですよね。しかもうちらの飲みって、女子が同席していても入るスキがないんですよ。

――それまた硬派というか、ある意味男らしいですね（笑）。

TK　女子の相手をせずに延々と男同士で対決するっていうのも、どうかと思いますけどね。

――吉田さんの著書によると試合前日にも飲むときがあるとか？

TK　うんうん。でも、けっこう自分らの世代ってそんな感じですよ。もちろん全部がそうってわけじゃないですけど。いまの世代には考えられないかもしれませんが、結局は前日に飲もうが勝てばなんでもOKっていうところはありますね。

――豪快ですねー。そもそも高阪さんは柔道時代の吉田さんのこともよくご存知なんですよね？

TK　最初は全日本代表の合宿で一緒になったのかな。もともと専修大（TKの母校）と秀彦の明治大って仲がいいんですよ、だから共通の知人友人も多くて。

――吉田さんにはどういう印象を持ってました？

TK　もちろん柔道は強かったですけど同期ですし、同じレベルでバカ騒ぎできるやつなんだろうなとは思ってましたよ。やっぱり同期っていうのが大きいですね。これが一つでも学年が違ってくると体育会系ですから関係性も違ってきますし。まぁ、秀彦はあれだけの成績を残してもおごったところはないですし、後輩からしたらホント〝気のいいアンちゃん〟って感じでしょうね。普通にバカやるときはバカですから。それは飲みの席だけじゃなく、たとえば電気で虫を殺すラケット型のヤツを持って、頭が坊主の選手をジムの中で追いかけ回したりね（笑）。

――ダハハハハ！　イタズラ好きなんですね。

TK　ガキ大将が大きくなった感じですよね。秀彦はそういうムードメーカーみたいなところがあるから、男女問わず好かれるんだろうし。まぁ、やられてるほうは大変でしょうけど（笑）。

――確かに（笑）。

TK　秀彦はとにかく兄貴肌なんですよ。細かいことで言うと、メシを食いに行っても率先して注文を取りまとめたり。俺についてこいとまでは言わないまでも、周りの連中を引っぱっていくのが好きなんですよね。ただおもしろいのが、秀彦の周りの講道学舎（吉田や瀧本誠を輩出した柔道のエリート養成私塾）の連中って、そんなタイプばっかりなんですよ（笑）。

――「俺が俺が」みたいな。

TK　そうそう、みんながリーダーを買って出るっていう。普通はそうなると足並みが揃いにくいはずなのに、なぜか学舎の連中は異常に仲がよくてチームワークがとれてましたね。その中でも率先して何かをやってたのが秀彦なんですよ。

――〝リーダーの中のリーダー〟だったんですね。柔道時代の吉田さんの男気を感じさせるエピソードってありますか？

TK　足を骨折してるのもおかまいなしに、海外遠征に行ったたって話はありましたね。

――ちょっと常人じゃ考えられないですね！　そういうタフな精神は持って生まれたものなんですかね？

TK　きっと柔道で培ったんだと思います。秀彦の学舎時代の同期に聞いたんですけど、学舎に入りたての頃の秀彦はむしろ強くなかったんですよ。その悔しさをバネに他人の何倍も練習したから、とんでもなく強くなっちゃったっていう。学舎は強くないと生き残れない〝柔道の梁山泊〟ですから。そういうところで中学のときから揉まれて世界のトップに立ったんだから、相当肝っ玉も据わってるでしょうし。それが秀彦の豪快で裏表のない性格にもつながるんじゃないですかね。

――柔道がすべてのベースになってる、と。

TK　秀彦の柔道に対する情熱には頭が下がりますね。柔道人口が減ってきてることに対して、なんとかしなきゃいけないっていう危惧を凄く持っていて。やっぱり柔道から得られたものがどれだけ大切なのかわかっているから、なんとか恩返しをしたいって気持ちが強いんでしょう。言ってることとやってることも一貫してるというか。

――いまに至るまで軸がブレてないんですね。

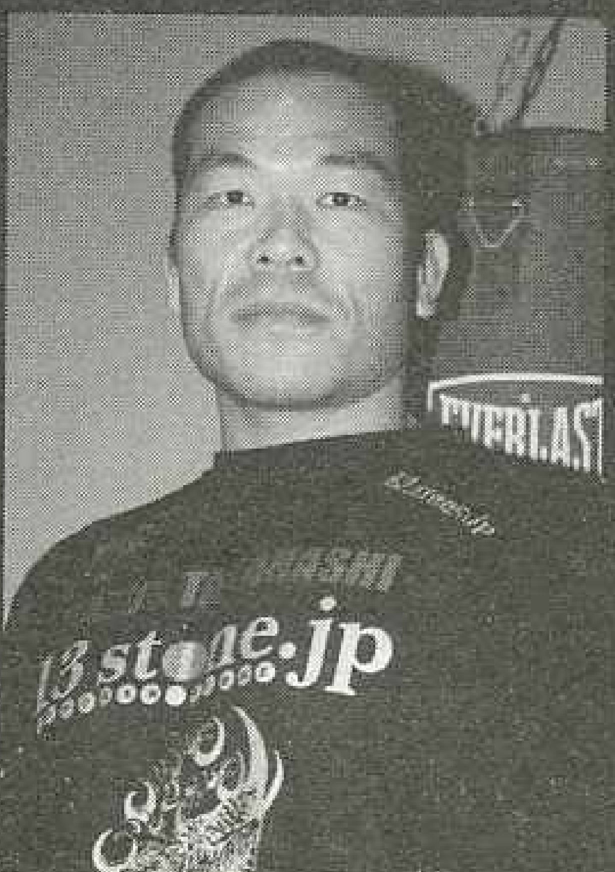
TK　そうそう。リングに向かう姿勢もずっと崩れてないし。柔道時代からずっと闘ってきてる人間だから、闘うことが自分にとってなんなのかって部分をわかってるんですよ。はっきり言って、道場もあれだけ構えて、ほかにも活動しているんだから試合をやる必要はないわけですからね。それでもリングに上がり続けるっていうのは男だなって思いますよね。

――挑戦をやめないというか。

TK　やっぱりそれも心の強さがあってこそですよね。理屈じゃない、得体の知れない強さというか。試合で言うと、格闘技で大事なのはいま何をしなきゃいけないかを判断することなんですけど、秀彦はそこが優れてるんですよ。勝負どころをわかってたり、試合中にひらめきが生まれたり。最近だとブロック・レスナーなんかもそのタイプかな。逆に言えば、がっちり理論立てて練習するとダメになるタイプかもしれないですけどね（笑）。秀彦はこれまでと変わらず、いまのまま、あのままでいいと思います。

――なるほど（笑）。今日は貴重なお話をありがとうございました！

【08年12月29日／都内・ゴールドジム大森にて収録】

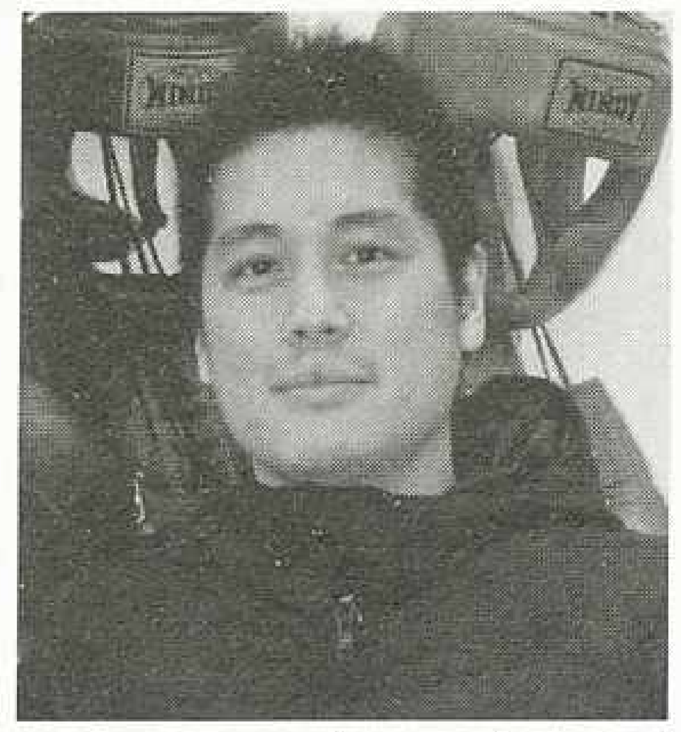


こうさか・つよし■1970年3月6日、滋賀県出身。94年、リングスでプロデビュー。06年5月に引退。現在は後進の指導の傍ら、解説者としても活動。

以上の激しいトレーニングをしてたでしょうし。

さですね。もちろん上下関係はきちんとしてる

吉田秀彦の男気証言者



小野寺力

おのでら・りき■1974年7月7日、東京都出身。キックボクシング界で一時代を築き、現在は『RIKIX』会長として後進の指導にあたっている。

「シウバ戦が一番“男・吉田秀彦”を感じさせた」

そもそも吉田さんとの付き合いの始まりは、スタンド技術を僕が指導することになったのがきっかけですね。やっぱり吉田さんの人柄がよくわかったのは一緒に酒を飲んだときですよ。飲みの席でのエピソードもいろいろあるんですけど、結婚してお子さんもいらっしゃるんで(笑)。とにかくガハハハ笑って豪快な人だなって思いましたね、吉田さんの周りには常に笑いがあるって感じで。それも人柄の成せるものだと思います。

いまもあの年齢で吉田さんは第一線級で闘ってますけど、柔道時代からのトレーニングで故障もいっぱいあると思うんですよ。でも厳しいカードを提示されても、「やるしかないでしょ」って文句を言わずに受けて。そういうところに男っぷりを感じさせますね。でも、練習時の吉田さんは……、基本、ちょっとサボりがちかな(笑)。自分のペースでやりたがるというか。

04年大晦日のルーロン・ガードナー戦直前に、長南も含めて3人でハワイ合宿をやったんですよ。そのときに砂浜を走ってたんですけど、どんどん吉田さんが引き離されちゃって(笑)。で、いつの間にかうしろを見たら吉田さんがいなくなってたんですよ。「おい長南、吉田さんどこ行った!?」って言って、パッと上を見たら吉田さんが砂浜じゃなくて足の取られないコンクリートの上を走ってて(笑)。まぁ、試合が決まれば本腰入れるタイプというか。柔道時代に一生分以上の激しいトレーニングをしてたでしょうし。

吉田さんの男らしさを語るうえで外せないのは、その気持ちの強さですね。それが一番発揮されたのがヴァンダレイ・シウバ戦です(05年4月23日・大阪ドーム)。みんな日本人選手はシウバにKOされてたじゃないですか? シウバと闘うときは下がったら負けなんですよ。で、吉田さんは下がらずに前に出てシウバの距離を潰して、しかもクリーンヒットじゃないにしろパンチまで当てて。あれが一番、“男・吉田秀彦”を感じさせた試合ですね。

吉田さんとは一緒にカズ(中村和裕)とかのセコンドに付いたときに、一応試合前にスタンドのときは僕が指示を出して、グラウンドのときは吉田さんってかたちで担当を決めるんですよ。でも、吉田さんは試合中にカズのパンチが相手に当たったりすると、僕はまだ様子を見たほうがいいと思っていても、「カズ、行け〜ッ!!」ってなっちゃって(笑)。また吉田さんの声がでかいんで、僕の声がかき消されちゃうんですよね。試合後に吉田さんに指摘しても、「だってしょうがないじゃーん!」って(笑)。

もしかしたら、カズがシウバ相手に道衣を脱いで向かっていってKOされたのも、吉田さんの声で行っちゃったからかもしれない(笑)。熱くなって入り込むのも吉田さんらしさですね。

たまにシャレで「もうオッサンだし歳だしケガも多いしな」とか弱音をこぼすこともあるんですけど、ちゃんとやることやって魅せる試合をするのはさすがだなって思いますね。いまの若い選手って、カッコつけてばっかで勘違いしてるヤツとかいますからね。

そういうのと真逆にいるのが吉田さんなんです。世界のトップレベルの選手と試合しても、ただで終わらないというか、なんかやってくれそうっていう期待感を持たせてくれますし。いまの若い選手は吉田さんから学ぶことが多いと思いますよ。

【08年12月29日/都内・『RIKIX』にて収録】

吉田秀彦の男気証言者



長南亮

ちょうなん・りょう■1976年10月8日、山形県出身。01年、DEEPでプロデビュー。『PRIDE 武士道』を経て、07年11月からは『UFC』を主戦場に。175cm、77kg。

「吉田さんは自分の結婚式でも男気を見せてくれた」

吉田さんは目線を周りに合わせてくれるんですよ、上からものを言わないっていうか。たとえば飲み会なんかで同席させてもらうと、自分なんかはベロンベロンに酔って、吉田さんに「アニキぃ!」って絡んだりすることもあるんですけど(笑)、それを笑顔で受け入れてくれたり。で、懲りることなく「メシ行こうよ」って声もかけてくれますし。

また、吉田さんが外食するときって、いくらなんでも食いきれないだろうってくらいの料理をオーダーするんですよね(笑)。兄貴肌なんで、みんなに食べさせてあげたいっていうのがあるんでしょうけど。支払いはあたりまえのようにいつももってくれますよ。もちろんご馳走してやるとかそういう感じじゃなくて、普通にポンッと払って帰っていって。先輩風も吹かさないし、気持ちのいい人だなって思いますね。

自分、吉田さんが初めてGスクエア(TKが最初に運営していたジム)に来た日に遭遇してるんですよね。その当時に印象的だったのが、たまたま後楽園でDEEPがあったときに、吉田さんが「よし、今日はみんなで試合観るか!」って言うなり、ジムに練習に来てた10人くらいの選手を自分のワンボックスカーに乗せて大会に向かったんですよ。ずいぶん行動力のある人だなぁって思いましたね。

あと、吉田さんを見ていて思ったのが、後輩である吉田道場勢との関係性の“風通し”のよさですね。もちろん上下関係はきちんとしてるんですけど、メリハリがあるっていうか。一番驚いたのが、小見川(道大)さんが打撃のスパーで吉田さんにシュートを仕掛けたことがあったんですよ。けっこう、吉田さんは練習してるときに口で煽る人なんですけど、それで小見川さんが、スイッチ入っちゃって(笑)。ガンガン攻めてくる小見川さんに対して、吉田さんはあきらかに対応に困ってるんですよ。で、スパーが終わったときに、吉田さんが発した一言が「……気は済んだか?」っていう言葉で(笑)。

その一部始終を見てた俺とカズは大爆笑だったんですけど、さすがにスパーが終わって「気は済んだか」なんて言えないよな、吉田さんはやっぱり偉大だなって思いましたね。そういう器量の大きい先輩っていそうでなかなかいないですから。だから小見川さんにしろ、カズにしろ、吉田道場勢はみんな吉田さんを尊敬してついていってますし。

そういえば自分の結婚式のときにも男気を見せてくれましたね。吉田さんは「その日は名古屋で仕事があって行けないから」って、あらかじめ事前にお祝いをくれてたんです。でも、式の当日、吉田さんは仕事終わりに直行で結婚式の二次会まで駆けつけて、「一次会も本当は行きたかったんだけど」って言葉をかけてくれて。自分も後輩にはそうやって振る舞いたいなと思いましたね。

男らしさにつながると思うんですけど、吉田さんはそもそも勝負師なんですよ。競馬やカジノとかギャンブルもやられてるみたいですし、「俺は人生がギャンブルだ」って言ってるのを聞いたこともあるし(笑)。きっと安定したことにはおもしろみを感じないんでしょうね。だから試合自体もギャンブルとしてとらえてる部分はあるんじゃないですかね。柔道に総合、ずっと格闘技の世界に身を置いているというのは、勝負師であり男の証だと思いますね。

【09年1月1日/電話インタビューにて収録】

マット界よ、いまこそ石原軍団に男を学べ!



国民的芸能レポーターが語る

芸能界男気列伝!

芸能ジャーナリスト

梨元 勝



男特集といえば、豪快なエピソードが転がっている芸能界を外すわけにはいかない! 今回は、ヒール特集号(『kamipro』No.127)に登場してもらった国民的芸能レポーター梨元勝氏が、石原軍団をはじめとする芸能界男気列伝を熱弁! マット界が取り戻すべき男気は芸能界にあった!?

聞き手/松下ミワ

芸能界男気列伝!



芸能界の"男"代表というと、いまなお勝新太郎の名前は必須。最近も加勢大周など大麻で逮捕された芸能人はいるが、ここまでネタにして"笑い話"にした太っ腹な人もそうそういない。

——今回は男気特集ということで、芸能界の男気エピソードをたっぷりおうかがいできればと思います。よろしくお願いします。

梨元 恐縮です!

——さっそくなんですが、男気と聞いて梨元さんが思い浮かぶ芸能人ってどなたですか?

梨元 最初にパッと名前が思い浮かぶのは、やっぱり石原裕次郎でしょうねえ。裕次郎さんは亡くなっちゃたけど、石原プロは「肉体関係なきホモ集団」と言われるぐらいの団結がありますからね。

——そうなんですか(笑)。

梨元 裕次郎さん自身は湘南ボーイで非常にお坊ちゃんなんだけども、持ち前の面倒見のよさとか正義感の強さというものがあったんですよね。で、そういう中で映画にもたくさん出ましたけども、裕次郎の映画を放映した日活自体がそういう裕次郎の体制を受け入れやすいというか、もう日活も裕次郎グループと言っていいのかもしれないというような感じはありましたね。

——石原裕次郎が巻き込んだものすべてが"男"だった、と。

梨元 その精神をのちに渡哲也という大番頭が加わって受け継いでいくんだけど

石原プロは「肉体関係なきホモ集団」と言われるぐらいの団結力ですよ

も、この渡哲也がちょうど裕次郎さんと背丈が一緒だったこともあって、渡哲也がまだ出てきたばかりのときに、裕次郎さんは自分の背広とかそういったものをいろいろプレゼントしたんですよね。だから、渡さんは裕次郎のそういう男気を信奉し、自分もそれを受け継がなきゃいけないって思ったんでしょうね。

——素敵な心意気ですね。

梨元 で、石原プロといえば有名な話があるんだけど、前にね、石原プロが名古屋で『西部警察SPECIAL』の撮影しているときに事故を起こしたことがあるんですよ(※車を運転していた松山高之役の池田努がハンドル操作を誤り、見物客に突っ込んで男女5人を負傷させた事故)。そしたら即、渡哲也がその病院に行って、ケガを負った人たちに土下座したんですよ。渡哲也が直接危害を加えたわけじゃないんですけど。でも、すぐに病院に行って謝罪して、撮影自体も全部即中止にしましたからね。

——番組自体を中止にしたんですか!

梨元 もちろんその池田努という役者本人も謝ったんだけど、渡さんは自分が全責任を取るという姿勢でしたから。もう、そういうプロダクションなんかないですよ。いまは、いかに失敗をごまかすかということしか考えてませんからね!

——なるほど(笑)。

梨元 だから、石原プロというのは、裕次郎から渡哲也、舘ひろし、まあ新しい役者も増えたろうけど、そういう流れを受け継いでますよね。で、その心意気というのはスタッフも同じなんですよ。毎年忘年会とかをやるにしても、「○○賞」とか「××賞」とか、とにかくいろんな賞を作ってその場で表彰するんだけれども、受賞者はほとんどがスタッフの人たちですからね。だから、スタッフも大喜びするんですけど、最高100万円ぐらいの賞品がもらえたりするわけですよ。

——100万円ですか!! それはやる気にならないわけがないですね。

梨元 もちろん賞をもらえなかったほかのスタッフの人にも励みになるし、「ああ、石原プロはこうなんだ」って業界内にも噂が広まりますから。だから、いまは裕次郎さんはいないけども、裕次郎さんのスピリットを受け継いで守っていくんだというのは全員が思ってますよ。でも、そういういい話がすでに語りぐさになっちゃってるのは悲しいですけどねえ。

——確かに、マット界も昔のほうがずっと男気エピソードが多いように感じます。

梨元 そういった話でいうと、やっぱり勝新太郎さんも男気あふれる人ですよね。これまた「役者バカ」と言われるくらいの人で、勝さんは経済的には大変だっただろうけども、どんな人でも分け隔てなく付き合う人で、いまはスターとなると取り巻きがいっぱい出てきたりとか、そういう話ばっかりじゃないですか。

——ああ、よくある話ですよね。

梨元 でも、勝さんはもう亡くなってるけど、一人一人に勝新太郎とのエピソードを

いっぱい作ってる人なんですよ。誰に聞
供述している話と違ってるってなるわけ
ろいろ不摂生してるもんだから僕も入院
ね。仕事とはいえ、もちろん有名人に会う

ハワイでの送別会で冗談でコカインを持ってきたら、勝新太郎は……

いっぱい作ってる人なんですよ。誰に聞いても「あのとき勝さんはこうしてくれた、あのときも声かけてくれた」とかね。

——やっぱり面倒見がいいというか、他人のことを放っておけないタイプだったんですね。

梨元　ある意味で突っぱってる部分もありましたけどね。で、一番大変だったのはやっぱり大麻とコカインの件でハワイで捕まったときですよ。そのときに、いかに自分が常識がなかったか、常識が中学生並みだったんだとか反省してましたね。ところがハワイを飛び立つ前に、現地の人たちが送別会をやってくれたんですよ。でも、その人たちが冗談でコカインを持ってきたら「押忍！」って言って吸っちゃったんだから！

——ワハハハハハハ！　ブッ飛んでますね!!

梨元　海外での話だから日本では罪には問われないけど、警視庁は取り調べ中にその話を聞いて「何ぃ!!　大変だ！　大変だ！」って言って尿検査だとかなんとかで大騒ぎになったんだから。

——捜査官にまでエピソードを作ってしまいましたか（笑）。

梨元　もう数限りないですよ。僕もハワイまで取材に行ったときに、勝さんは「梨元がわざわざ来てくれた」って言っていろんな話をしちゃうわけですよ。ところが、それが日本に戻ってきて勝さんが強制送還されて取り調べを受けたときに、僕が勝さんを取材して原稿に書いた話と、本人が供述している話と違ってるってなるわけですね。

——検察官は「原稿にはこう書いてるじゃないか！」と問いただすわけですか。

梨元　そしたら、勝さんは「いやいや、あれは梨元がわざわざハワイまで来てくれたんだ。だから、お土産を持たさなきゃいけない。だから、話をおもしろくしたんだよ」と。で、検察官はそんなこと言われたもんだから「梨元をしょっぴくぞ！」って言ったんですって。そしたらそんなことはありえないのに、勝さんの弁護士から電話がかかってきて、「勝新太郎が心配して、梨元さんに拘置所では俺の隣の部屋に入るように伝えとけって言われました」だって（笑）。

——ワハハハハ！　そこまで心配してくれたんですね。

梨元　サイコーでしょ!?　で、事件が一段落したあとに、雑誌の企画で、ゴルフをやりながら勝さんと僕が対談するという企画をセッティングしたわけですよ。この話がまたサイコーで、まずゴルフをやってると、たまに草むらにボールが入っちゃったりするじゃないですか。そしたら、「梨元、ほら大麻がいっぱいだ！」とか言うわけ。で、バンカーに入ったりすると、「おい、梨元。コカインだらけだよ！」って（笑）。

——ちゃんと自分をネタにして見出しを作ってくれてるわけですね。

梨元　これはある意味で素晴らしい男気ですからね。あと、「もうパンツ穿かない」という言葉が話題になりましたよね。いろいろ不摂生してるもんだから僕も入院してたことがあるんだけども、あるとき病院にパンツが10枚送られてきたんですよ。その荷物には送った人の名前が書いてなかったんだけど、「あっ！」と思って勝さんの事務所に電話したら「やっぱりわかったか（笑）」だって。

——シャレが効いてますね（笑）。

梨元　もう、抜群におもしろい！　でも、そういう人はなかなか出てこないよねえ。まあ僕はそういう時代に取材させてもらえたし、マスコミなんてのは出会いだからね。仕事とはいえ、もちろん有名人に会うわけだから「おお！」と思うこともあるわけで、そういうときに影響を受けた人というのは、やっぱり男気あふれる裕次郎だとか勝新太郎だとか、そういう人たちでしたね。

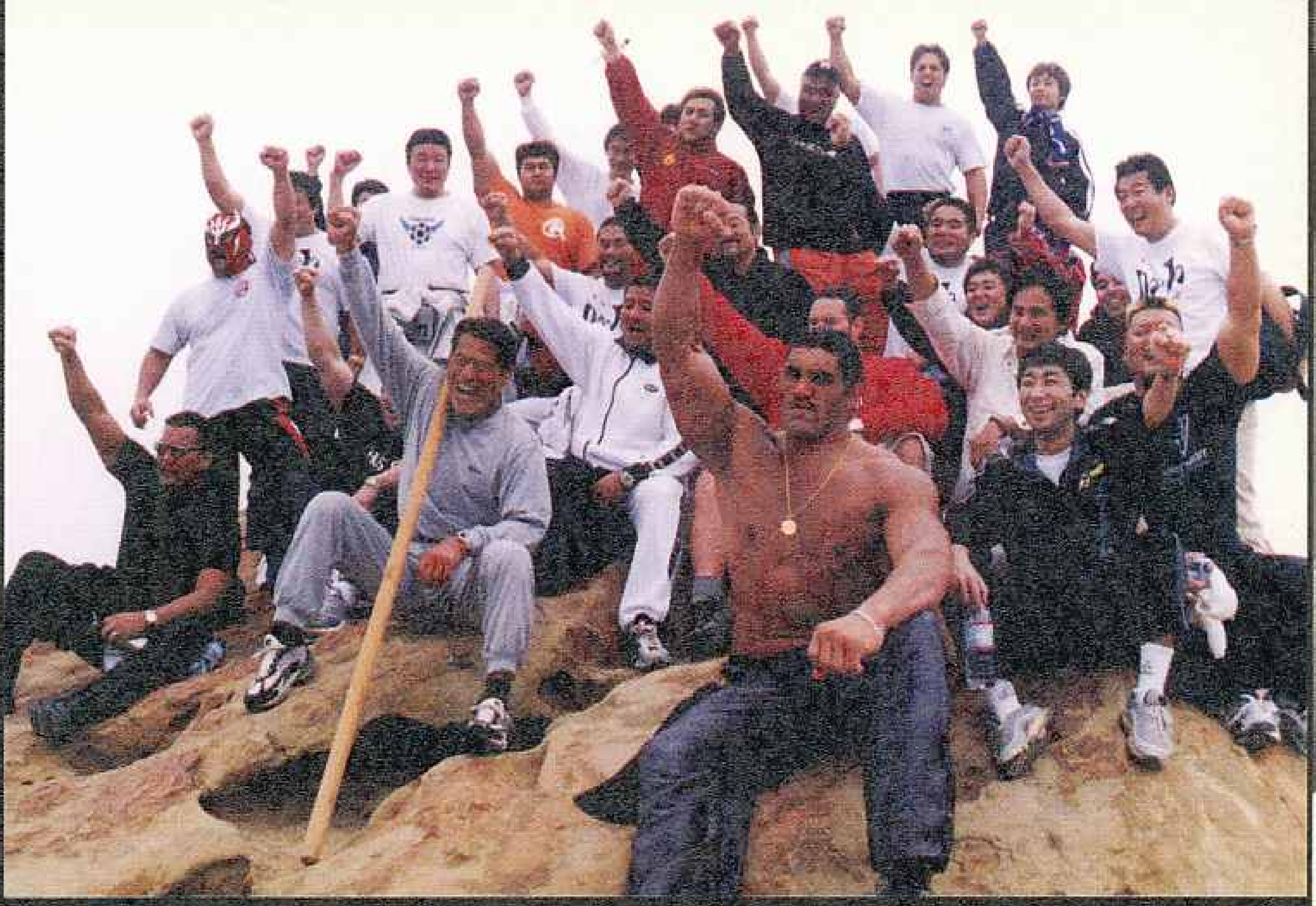
——いい時代だったんですね。

梨元　あと、古い人ばっかりで恐縮だけども、森繁久彌さんもそういう部類の人ですよ。あるとき森繁さんにヨットの話をしてもらう取材があったんです。ところが、取材時間がたったの20分しかない、と。プ



マスコミの"甘え"が最近の芸能界の男気を削いでいるという梨元氏。他誌を出し抜こうというジャーナリストの情熱が、芸能人のプロ意識を育む一つのポイントでもあるのだ。

ロデューサーにそのことを伝えたら、そのプロデューサーも「そんなもん、なんの質問でもいいから森繁に一つだけ質問すればいいんだよ。あとは黙ってろ」って言うんです。それで本人が来て取材が始まったんだけど、ちょうどその日に森繁がヨットをモチーフにしたおもしろいTシャツを着てたんで、「なかなかユニークなTシャツを着てますね」って言ったんです。そしたら、そのあと船の操縦の話から自分のヨットのことだったり、1年間の仕事はそのヨットのためにやってるんだとかね、ずーっと20分しゃべってくれたんです。



「精神が伴なわない合理主義は意味がない」と語る梨元氏。かつては団体経営が主流で上下関係も驚くほど厳しかったマット界が、現在とくに格闘技界ではジム経営&出稽古が主流となっている。それぞれメリット、デメリットはあるが、マット界に男気を取り戻すにはどうすべきなのか!?

芸能界 男気 列伝！

これはね、もう20分ノーカットで使いましたよ！

――はー、まさしくプロですね！

梨元　もちろん話しも上手なんだけど、それ以上にこちらの意図もわかってくれてるし、ギリギリのスケジュールなんだというのもわかっててね。これは思いやりと同時に男気がないとやってくれないですよね。あとは藤田まこともそうだよね。この人がね、女性問題で大変だった時期があるんですけど、マネージャーさんから「梨元さん、記者会見やるんだけど、どうやってやったらいいだろうか」って相談されたんですよ。

――梨元さんもいろいろ暗躍されてますね（笑）。

梨元　会見の前に新宿コマ劇場の楽屋に行って相談を受けたんだけど、「藤田さんは藤田さんのキャラクターなんだから、おもしろくしゃべって笑わせてくださいよ」って言ったんですよ。話を聞いてると、浮気が奥さんにバレちゃって、実印か何かを奥さんに持っていかれて大変なんだとか、そういう話だったんだけど。だから「実印取られられて身動きがとれなくなったんだって言ってくださいよ」って言ったんです。そしたら「おお、ありがとう梨元。俺はこういうのは慣れてるんだ」って言いながら、着替えたワイシャツのボタンが一個ズレてるんです（笑）。

――かなり動揺されてたんですね（笑）。

梨元　しかも、そのままの姿で記者会見しちゃってさ。案の定、こっちが質問する前に先にオチを言っちゃうんだよ（笑）。だから俺困っちゃってさあ。でもしょうがないからもう一回最後に同じ質問をして、そこでやっと藤田まこともオチを言っちゃったことに気がついたんだけどね。でも、そしたらさすがにレポーターの福岡翼さんに「梨元、事前に打ち合わせしたんじゃないの？」って言われましたよ（笑）。

芸能界もマット界も、精神が伴なわない合理主義は意味がないですからね

――さすがにバレちゃいましたか。

梨元　で、大事なのはそのあとなんですよ。藤田さんは「梨元はマスコミなのに、あそこまで気を使ってやってくれた」と。だから、まあそのあとはずいぶんいろいろ協力してくれたんですよね。事務所がほかのインタビュー取材を全部断ってる中で、僕だけ受けてくれたりね。

――義理堅いですね。

梨元　いまの芸能界は、こっちが気を使って協力したって、貸し借りなんか全然忘れちゃってまた違う要求してくるみたいになっちゃってますから。でも、藤田さんは見事なもんですよ。

――でも、男気のある方はやっぱりそういった女性問題はつきものなんですかね。

梨元　そりゃ、モテますからね。勝新太郎なんて、祇園の女性に「毎日会いに来てくれたら口説かれてもいい」みたいなことを言われたもんだから、映画のスケジュールをずらしてまで毎日会いに行ってた人ですからね。だからそれは中村玉緒さんも承知の上みたいなもんでしたから。

――そういう意味では玉緒さんも肝が据わってますね。

梨元　裕次郎だって、最後はクラブのママさんのところで倒れたって聞きましたよ。事務所は秘密にしてくれって言ってたけど、どっかに出ちゃってたし、僕も書いちゃいましたけどね（キッパリ）。



芸能同様、本来ならマット界もファンに男気を見せる世界でなくてはならない。梨元氏も「見たいのはスピリットだ!」と熱弁してくれた。

――そうなんですか（笑）。

梨元　そういう意味では男気がないなと言われるかもしれないけどね。恐縮です！

――最近はそういった男気あふれる話ってなかなかないんですかね。

梨元　いまはどうだろうなあ。一つ、山本モナが突然フジテレビ系の『サキヨミ』を降板になったときに、ゲームと競馬か何かのCMが二つダメになったんですよ。で、広告代理店経由でスポンサーから両社合わせてオフィス北野に8000万円の請求があったらしいんです。

――かなりの金額ですね。

梨元　で、普通はその額から値切ったりして、だいたい半分の額ぐらいが落としどこ

テレビ局に男気？ ディレクターなんてナンパしてる人種でしかないですよ！

ろになるらしいんだけど、ボスであるビートたけしは値切りも何もしないで即金で払ったっていう話はありますね。だから、広告業界ではたけしの器量というのが評価されてますよ。

――男気の話からちょっとズレるかもしれませんが、最近マット界では、自分の価値が下がるのを恐れて、対戦カードを提示されたりするときに、駆け引きをする選手がいたりするんですよ。

梨元 ああ、そう。それは、つまんないね。

――そういう現象というのは芸能界にもあったりするんですか？

梨元 競争でぶつかるということで、歌謡ショーレースなんかはある意味決まっちゃってる貸し借りなんかはあるだろうけど、駆け引きはどうですかねえ。確かに同じ時期に映画をやるからほかではやらないとか、そういう意味でいうとジャニーズ事務所とかはそうだよなあ。あそこは申し訳ないけど、男気のあるところじゃないですよ（キッパリ）。

――しかし、芸能界にもマット界にもどうして男気がなくなっちゃったんでしょうか？

梨元 だからそれは先輩が教えてないということもあるかもしれないですね。勝新太郎に魅せられた水原弘がいたり、裕次郎に憧れた渡哲也、渡哲也に引きずられた舘ひろしというのがいるわけだから。ちゃんと先輩が教えてるところには引き継がれてるでしょ。あとはやっぱり中途半端な合理主義に問題があるとも思いますよ。だって、精神が伴わない合理主義は意味がないですからね。

――なるほど。芸能界自体がシステマチックになりすぎて、いつの間にか一番大事な芸能人としての魅力の部分が磨かれてないんじゃないか、と。

梨元 精神が伴わないのに男気も何もないでしょう。格闘技なんかだってさ、エンターテインメントばかりが勝負じゃないわけでしょ。泰葉が出た『ハッスル』だって、やっぱりレスラーにはスピリットを見せてもらわなきゃしょうがないわけで、演じるプロレスにしても当然演じるスピリットというのがあるだろうし。

――確かにそうですね。

梨元 だから前も言ったように、やっぱりマスコミも甘いですよ。芸能界だけでなくレポーターの取材にしても、何かを伝えたいということじゃなくて、とにかくみんなで前に出て何かしゃべってもらえばいいやというような感じだからダメになるわけで、何かを突撃したりしないと取材の意味はないと思いますよ。

――そういった取材のやり方が、芸能人のプロ意識を削いでるということも言えるんですかね。



なしもと・まさる■1944年12月1日、東京都出身。67年、講談社に入社し、『ヤングレディ』を制作。その後、テレビ朝日の『アフタヌーンショー』でテレビデビューすると、局を問わず幅広い番組で活躍。その情報量と取材力の凄さに「芸能レポーター＝梨元勝」という印象を日本国民に定着させた。最近は、テレビからケータイサイト『梨元・芸能!裏チャンネル』やHP『梨元勝の恐縮です!』へと主軸を移し、テレビ番組では放送されない貴重な情報を提供している。合い言葉は「恐縮です!!」。

梨元 確かにそれはありますよ。だから僕はほかのレポーターが帰ったあとでもまだ取材してたりするんだけど、「まだいたんですか？」って驚かれたりしますからね。でも、それが取材じゃないのって。だから年末年始になると芸能レポーターはみんなハワイに取材に行きますけど、あれだって本当はよくないんです。仲良しクラブみたいになったら絶対に競争にならない。競争相手がいるから競争の場に出さないとかいう芸能プロダクションもいるけど、逆にテレビ局がそういうプロダクションの要求に対して闘うことなく、要求を飲んでるわけだからね。

――お互いに甘えているところがあるんですかね。

梨元 それと、テレビ局なんか男気があるヤツがいないんですからね。昔は局のお金を使い込んだりする悪いヤツらもいっぱいいましたけど、その反面、情熱はありましたから。

――梨元さんから見ていまのテレビ局のスタッフにもの足りなさを感じたりする場面もありますか？

梨元 そりゃ、もの足りないですよ！ 取材現場でも熱心にいろいろ撮ってるディレクターがいたから、なんでこんなにカメラ回してるんだろうと思って聞いたら、「いや、撮っておかないと怒られるんですよ」だって。「君が撮りたいんじゃないの？」って聞いたら、「いや、怒られるんです」って。それじゃ、いいかげんにしろ！って話になるでしょ？ だから、もうディレクターなんてナンパしてる人種でしかないですよ。

――そこまで言いますか（笑）。

梨元 もうね、ウチの娘（タレントの梨元麻里奈）なんかにはいつも言い聞かせてますよ。そういうアホなのがいっぱいいるから気をつけろ！ って。


――石原裕次郎や勝新太郎のような人が生まれるような世界にするのはなかなか難しいと思うんですけど、梨元さんはどうしたら芸能界に男気を取り戻せると思いますか？

梨元 そりゃあもう、全部解散するのがいいんですよ！ 全部解散してやり直す！ 自民党なんかは早く解散しろと思うけど、全部やり直したほうがいい。

――自民党も芸能界もやり直せ、と。

梨元 ちゃんと「リセット」っていういい言葉があるんだから、中途半端なものは全部リセットして、ゼロからスタートすべきですよ。２００９年新しい年を迎えたということで、もし新しいユニットか何かができるとしたら、僕だったら「羞恥心」なんてバカらしい名前にしないでね、全部「リセット」って名前にしますから!!

【09年1月6日／国際電話にて収録】



大毅が切腹するかと心配で俺は台所で寝たんや

亀田3兄弟を育てた父の中の父

男 亀田史郎

長男の亀田興毅、次男の亀田大毅に続いて、ついに『kamipro』に亀田一家の大黒柱こと、亀田史郎氏が登場! 人間として、ボクサーとして亀田3兄弟を育て上げ、"男"として息子たちに尊敬される熱血オヤジの男気子育て論!!

聞き手／真下義之　撮影／菊池茂夫



大黒柱が語った"男気"子育て論！

実録!! 亀田ファミリー

――我々は亀田興毅さん、亀田大毅さんと連続取材させてもらってるんですが、お二人の心酔ぶりをうかがって今回はぜひお父さんの話をお聞きしたいな、と。

史郎 そんなことゆうてた？

――ええ。男手一つで皆さんを育てるのはかなり大変だったでしょうね？

史郎 大変なことないよ！「大変や」と思って育てる親はいないと思うで。

――そうですか。ただ、興毅さんの転機は、史郎さんが幼稚園の運動会でイジメられてたのを目撃されたことだったとか？

史郎 そうやな。興毅は家ではウルサかったのよ。家では、「幼稚園では一番強いんや！」と言ってたから。

――いわゆる内弁慶タイプですか。

史郎 「そう言ってたら怒られへん」というのもあったんやろうな。でも運動会へ行ったら、同級生にボカーン！と蹴られてるがな。で、興毅が逃げたら、「また逃げんのか！」って言われてたから。「『また』いうことはしょっちゅうやな」と。

――このままイジメさせとくわけにはいかない、と。

史郎 話を聞いたら相手の家が近くやったから、すぐケンカさせたんや。興毅に「一発、バーッとやってみぃ！」と言い聞かして。小さいときは根性が一番！ 殴られたら痛いもんなんやから、根性で「やれ！」と。

――それは転機だったでしょうねぇ。

史郎 「ここで逃げたら一生逃げることになる」と思ったし。小学校になってもガキ大将っておるんやし。じつは、そのときもう一人、イジメられてる友だちがおって、その子がまずケンカしてたんやけど、「い

ま、止めに入れ！」と言うて、やらしたらパーッと行きよって、一発殴ったら、相手もすぐ泣きよった（笑）。

——ワンパンで泣かしましたか！（笑）。

史郎　興毅は、「俺に言われた」いうのもあったんやろうな。俺のほうが怖いやろうし、「やらなあかん」と追い込んだからできたんと違うかな。

——怖いけど信頼もあった、と。

史郎　興毅は友だちより、俺とおる時間が多かったから信頼もあった。そういう部分は植えつけてたから。何をするにも、子どもだけが考えるのは無理があるやろ？　親がある程度、「これやれ、あれやれ」と与えてやらんと。だから、ボクシングをやらせたんや。最初は空手やったけど。

——その空手も、興毅さんはノリ気じゃなかったとか。

史郎　全然ノリ気じゃないよ。いっつもゴネて泣いてたんやから。なかなか道場に入らなくて、最後の30分くらいに涙をふいて入る感じで。興毅は人の輪に入るのが苦手な子やったんや。

——いまでは想像つかないですけどね。

史郎　それでもゴネたから、興毅がなついてた女の子のイトコに一緒に行ってもらって。その子の月謝も俺が払ってな。

——2倍の月謝を払いましたか!!　そこまで打ち込めるのは凄いですね。

史郎　男やから、活発にして強くならなあかんし。「どうしたらええか」を考えた結果やけどな。

——そんなお父さんも筋金入りで、中学校時代に1年生で周辺の中学校を仕切ってたとか？

史郎　ウチは上にも豪気なアニキがおったから、その影響も大きかったけど。周辺の中学校といってもそんなにない。1週間もあったらすぐやで。6～7校しかないんやから。

——6～7校もシメてたんですか!?

史郎　西成区全部や（キッパリ）。

——えっ？　中1で、西成区を完全掌握!!

史郎　アニキたちも凄かったから、名前は轟いてたし。その頃はケンカなんかようせえへんヤツばっかやし。



どついたれ！いつ何時も息子たちにガチンコ勝負の史郎氏。「子どもはほめない」という厳しさの裏で、息子たちは「オヤジが一番明るい」と口を揃えるほど、家族一のムードメイカーであるから、素晴らしき〝大黒柱〟ぶりなのだ。

俺は中1のとき、西成区の中学全部をシメてたんや。6～7校やけどな

——でも、一校一校回っていくわけですよね!?

史郎　ビビって番長が出てきぃへん学校も2、3校あったな。便所にこもって出てけぇへんヤツとか（笑）。ウチは上に二人もアニキがおったから、当時、西成で〝亀田3兄弟〟っていったら、知らんヤツおらんかったよ。

——先代の〝亀田3兄弟〟も暴れん坊で名前が轟いてましたか（笑）。

史郎　その流れで、子どもらも〝亀田3兄弟〟って、小さいときボクシングに行かせたとき、俺がジャージの背中にプリントを入れたわけや。

——そんな史郎さんが、人生を興毅さんたちに託されたわけですけど。興毅さんがテレビに出始めたときも大変だったみたいですね？

史郎　中学の年上のワルどもが「いっぺんやったろか？」と興毅の学校に来よってな。でも、興毅は手は出したらアカンやろ？　俺も「何かすれば悪うなるんは、おまえや」と言い聞かしてた。そこで、もういっぺん逆戻りや。中学に出向いて一校一校、「シメていかん」と思ってな（笑）

——ワハハハ！　また周囲の中学校に挨拶に行かれましたか！

史郎　生活指導の先生とか、教頭先生や校長先生や担任の先生に話をしただけやけど。興毅と一緒に「おまえの学校のヤツらが興毅のところへ来とるけど、コイツはボクシングやってるからケンカできへんねん」「一応、忠告に来たけど、生徒にきちんと注意せえよ！」と、西成区の中学を回ったんや。文句を言いにきたヤツの家には、親にも会いに行ったしな。

——相手の家にまで行きましたか？

史郎　子どもも「あそこのオヤジはややこしいから、やめとこ」と思うやろ。それでやめるんやったら、それでいいやん？

——そうやって、お父さんが身体を張ってきたわけですね。

史郎　やっぱり俺が子どもを守らなあかんし。イヤなことがあったら、自分の気持ちも治まらんから、実行に移したほうが早いわな。

——興毅さんがボクシングを始めるときも、普通はジムに預けますけど、一緒に練習に付き合ってますね。

史郎　そうやな。他人に任せたなかったからな。

——そこは、ご自身もボクシングをやってた経験があったから？

史郎　ボクシングも柔道もやってたし、〝闘う〟ことに関しては、自分でも理論的にも知ってるから。何がいい、悪いかもわかるからな。

——お仕事もあったのに、よくそこまで打ち込めましたね。

史郎　解体業で自営業やったから、時間の融通が利くのもあったんやけど。興毅とスパーリングになったら、ずっとビデオを回して。その映像を観てまた二人で研究したりして、よう付き合ってやったよな。

——徹底的に付き合ったからこそ、信じてくれたんでしょうね。

史郎　何をするにも、俺が横におって全部…ったら普通に怒るしな。

をしてな（笑）。そういうときも興毅は内…

多いですし。畳のミット打ちとかもお…

興毅を一番にさせたくて、ミニ四駆のモーターを内緒で改造したりな



08年の亀田ジム設立パーティにて。日本中の大バッシングを経たあとの謝罪会見などで"長男"亀田興毅の成長ぶりが注目されたが、一から育てあげた史郎氏は、「最初から大人やった」とズバリ証言

史郎　何をするにも、俺が横におって全部やってくれるから、「オヤジが一番」って信頼はあるんちゃうかな。

——反抗期はなかったですか？

史郎　あったよ！　興毅は小学校も中学校にもあったし、俺に向かってきたこともあった。思い返すと3兄弟とも同じようにあったな。中学校に入った夏休みとか。中2の夏休みとか……、とくに夏休みが多いかな。

——普通の中学生はガンガン遊んでいる時期ですから。

史郎　悪い遊び友だちもできるし、しゃべり方も友だちとしゃべってるような感じで俺にしゃべったりな。

——そういうときの対応は、大事だと思うんですけど。

史郎　いや、そんなん考えてないよ。逆らったら普通に怒るしな。

——そこで慌てないのは、ベースがしっかりしてるからですか。

史郎　そうやな。いきなり怒るんじゃない。小さいときからの積み重ねやから。俺が怒るときは子どもらも察知するし、「これやったら怒る」ということはようせえへんし。

——彼らは、ホントに信頼しきってますから。言い方はへんですけど、宗教みたいな感じで。

史郎　ある意味、亀田教やから（笑）。息子をなんでも一番にさせたかったから、努力は惜しまんかったしな。

——小学校の頃、ミニ四駆でも一番にさせたかったとか？

史郎　あったなぁ！　ミニ四駆でも一番にしたくて、興毅の車に俺が黙って仕掛けをしてな（笑）。そういうときも興毅は内弁慶やから、俺が全部仕切って、友だちも興毅と遊ぶんじゃなく、俺と遊びに来て「オヤジ！　オヤジ！」って感じで。

——じつはお父さんのほうが人気者でしたか（笑）。

史郎　家にミニ四駆のコースを作って、ガーッとやるんやけど、こっちはモーターにお金をかけてるから段違いに速かったけど、「興毅が作った」としらばっくれて。さすがにアイツも「おかしいな」と思ったみたいやけど（笑）。

——ワハハハハ！

史郎　そのぐらい子どもを一番にさせたかったんやな。とくに興毅は一番、手がかかってるよ。

——凄いなぁ！　そんな中で、時にはお父さんも「強さ」を証明しなければいけなかったと思うんですけど。

史郎　一度、合宿のキャンプで奄美大島に行ったとき、地元の相撲大会があって、「オヤジ出ろや！」と言われたから、「やったるわ！」と出てみせたんや。でも、そういう場面で勝ってみせるのはシンドいよ。ただ、俺は腕相撲も強いんやけど、一度、九重部屋の相撲部屋に行ったときも相撲取りに勝ったんや。

——相撲取りにも勝ちましたか!!

史郎　教育するためには、自分でもやってみせなあかん。練習もそうや。「この練習はどんなんや」ってのは俺が考えてるからな。

——史郎さんの練習方法は奇抜なものが多いですし。畳のミット打ちとかもおもしろいですよね。

史郎　俺の練習は理にかなってるよ。空手は拳を潰してるから、瓦を割っても痛ないけど、ボクサーであんなことしたら拳は潰れるよな。でも、拳は鍛えとかなあかん。普通はサンドバッグやけど、ウチは畳をドツいてる。いまも毎日やらせてるから、アイツら拳は強いで！

——「拳は畳で鍛えろ！」と。練習に空手もミックスされているというか。

史郎　全国で畳をドツいてるジムないやろ？　あとこういうの（丸太）置いてるジムもないと思うで（笑）。

——どこにもないですよ！　巨大な丸太を持って、スクワットをやるわけですね。

史郎　ボクサーは下半身やから。だから、下半身の練習ばっかりやで。

——あとは、銛にグローブをつけたグローブ棒とか。

史郎　あれは、3分間集中させてやるんやけど、おもに動体視力、反射神経をつけるためやな。

——まさに劇画の世界ですけど、マンガの影響もあったんですか？

史郎　いや、俺はマンガも本も読んだことないねん。それにテレビもほとんど観いへんしな。

——てっきり、70年代の『空手バカ一代』とかに影響されたのかなって。

史郎　『空手バカ一代』はテレビで何回か観たことがあるくらいかな。俺は解体業やから休憩時間に、「おまえ、これ持てる

か?」と、大きな荷物を持つ競走なんかしてると、下半身強化になるやん? 土木作業のオッサンなんて、毎日スコップで作業してるからな。息子たちに持続性のあるパワーを強化するためにやらせたんや。

——そんな練習も!! そうやって仕事をしながら、ボクシングを教えてた時期が将来が見えなくて一番ツラかったとか?

史郎 ボクシングなんか強くなったって、メシ食える保証なんかないやん。でも子どもに押し付けてるのは俺やから、不安はあったな。

——解体業のとき、子どもたちと廃材を拾ったなんて話もあるみたいですね。

史郎 解体してると、コイルの〝線〟が出るんやけど。それを、そのまま持ってってもええんやけど。手間はかかるけど、カッターでむいたら全然値段が違うねん。そしたら興毅が率先して、皮をむいてな。缶にいっぱい集めて「これでなんぼかな」って喜んでやってたな。こっちも「もうむいたんか!」って驚いてな(笑)。

——ヤル気マンマンでしたか(笑)。そういう苦労も常に一緒に楽しくやられてたんですね。

史郎 そのあと、お好み焼き屋を潰すために解体の仕事で入ってん。で、機材もそのままで、「このままで使えるやん」って思って頼んだら、持ち主が「ええっすよ」となったから、解体業を辞めよう、と。そこで家族で一時期、お好み屋をやってたんよ。『チャンプ』という名前でな(笑)。

——名前は『チャンプ』!! そこでお好み焼きを焼いてたのは?

史郎 俺や。俺のお好みはうまいでぇ! ピザ屋みたいに出前のオートバイも買うて、「お好みの出前や!」ゆうて(笑)。出前が入ると「よっしゃ! 出前や!」って、みんなで気合いを入れてな。

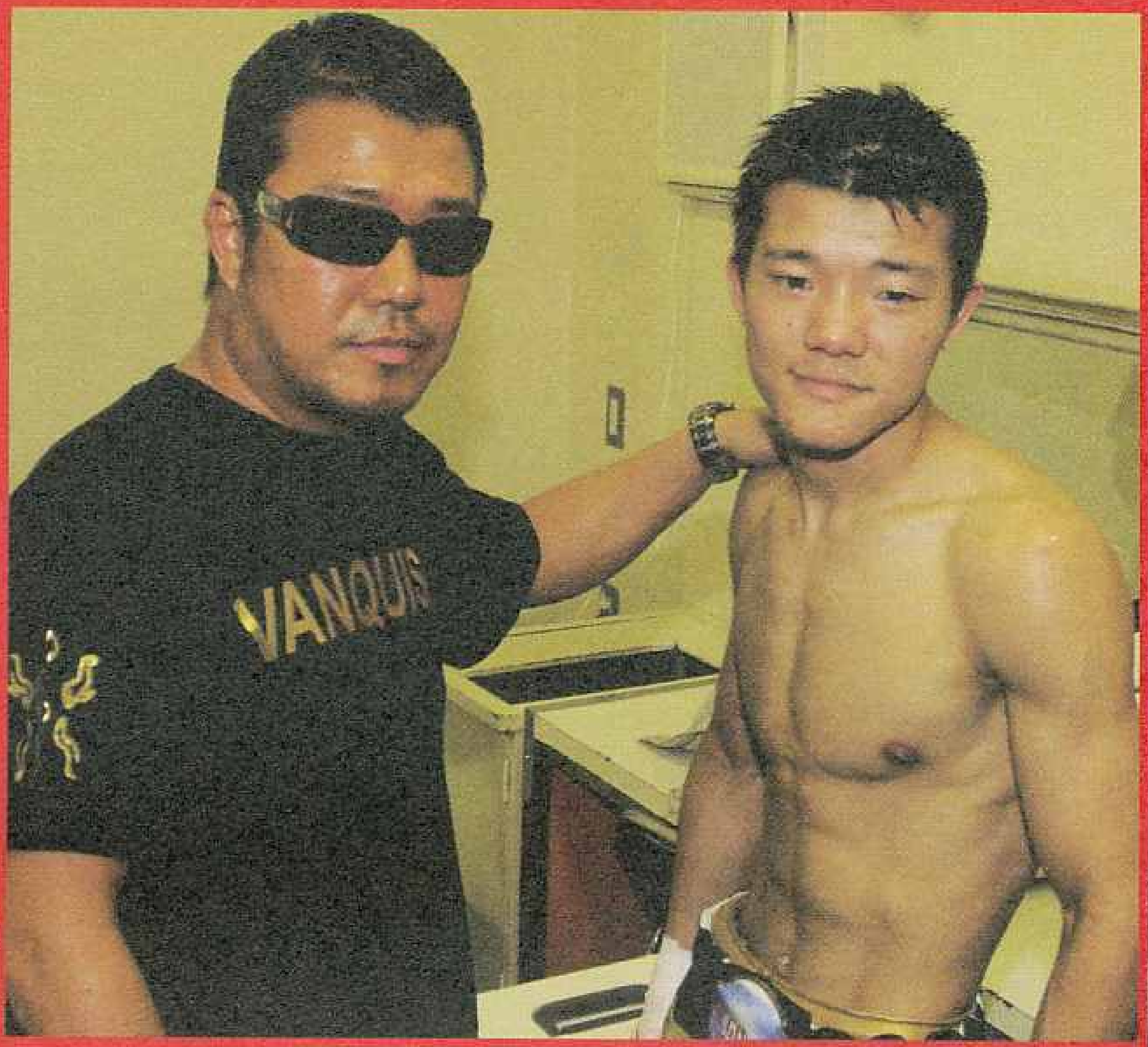
——出前もトレーニングというか。

史郎 それはボクシングの片手間やったし、「なんかして少し食えたらいいやんけ」って。でも、俺がお好み教えたら繁盛するで(笑)。

——そうして家族を支え、やがて亀田ブームが起きたあと、一転して日本中からバッシングが起きましたけど。一家の大黒柱としていかがでした?

史郎 いや、こういう流れは、ある程度予測もしてたんや。大阪から東京に来たわけやし。「もし負けたら、『出てけ!』と言われるくらいの気持ちを持たなあかん」と。家の前で物ブッけられたり、壁に落書きされたりな。「見ててみ、きっとそうなるよ」と。負けたり、反感を持たれたらそうなるから。「腹づもりはしときや」と。

——そこまで予想していましたか。あと印象的だったのが興毅さんとファン・ランダエタ戦のあとのテレビのやくみつるさんとの討論なんです。



オヤジと大毅が揃い踏み! 08年11月、復帰戦を飾った亀田大毅の試合をリングサイドで見守った史郎氏は、満足な表情も、「まだまだやろ!」とオヤジ流のエール炸裂!

史郎 やくみつるのことは知らんかったんや。どっちかというとガッツ石松さんに話をしたかった。ボクシングをよう知ってる人が、「なんでそこまで言うんや」と思ってな。

——ガッツさんは、あの試合の興毅さんの判定負けを支持してましたし。

史郎 芸能界でメシ食わしてもらってるんか知らんけど、「ボクシング時代があったから、いま席に座ってるんじゃないんか?」と言いたかったんや。そしたら、やくみつるがあんなことしよったから。

——「糸で亀を縛っとき!」というパフォーマンスをして挑発されましたよね。

史郎 「なんや、おまえ!」と腹が立ったけど。生放送やったから抑えたけどな。

——そのときも興毅さんを守るという意識が強かった?

史郎 あたりまえや! 誰も言えへんかったら、俺が言うしかない。興毅が出てくわけにはいかないやろ。ホントはテレビに出るのはイヤなんやけどな。

——その時期、世間の憎まれ役的な部分もありましたけど、そこも全部買って出たというか。

史郎 いくらでも悪者にしたらいいんや。全部俺の責任にしたらええ。なんぼでも俺を叩けばええんや。

——凄いなぁ~。亀田一家はお父さんというスケープゴートがあったからこそ、サバイブできてきたのかなって。

史郎 そうかもしらんな。ただ、これを「もういっぺんイチからやれ」と言われたらやる自信はない。そのぐらいキツかったのも事実やな。

——さらに、内藤大助vs大毅さんの試合のあとは、あそこまでの大バッシングが来

スポ根マンガを超えた!?
亀田一家最強トレーニング伝説



見てみぃ、この畳! これこそ亀田一家の強さの原点!? いまでも毎日、欠かさず続けているという世界唯一の畳ミットだ!

畳ミット

サンドバックは畳! コレ、亀田家の常識! 拳の硬度を磨くための史郎氏考案トレーニングであり、なんと本職の畳屋さんに特注したもの。持ち運びも簡単なのだ。

グローブ棒&グローブ銛

別名=世界のジャブ。棒の先にグローブを固定。高速ジャブを連打、動体視力を鍛える。そのアップグレードバージョンが魚を刺す銛に固定したグローブ銛だって!

丸太スクワット

オイ、ホントかよ! 約2メートルで50キロ近くの大木を担いでスクワット、ボクシングのトレーニングを超越したこの練習の狙いは足腰の強化にあることは間違いない。

ハンマー叩き

タイヤを3キロのハンマーでブッ叩く! 肩や足腰も鍛えられるこの練習は、あの〝皇帝〟ヒョードルもやっていたのだが、ボクシング界ではおそらく唯一無二!

★このほか、砂袋アッパー、ピンポン玉よけ、砲丸パンチ、相撲も取り入れるなど、無限のアイデアで今日も亀田3兄弟は絶賛練習中だ。

るとは思いましたか?

——その夜は台所で寝ましたか!!

——そこをくぐり抜けてきたから、また一番、大事にしてることは?

家族を守るためなら、全部俺のせいにして
俺を悪者にしたらええんや

るとは思いました？

史郎　俺は、あくまで「勝てる」と思うてやらせた試合やから。結果的に負けたことは勝負やから仕方なかったよな。

――お父さんもセコンドライセンスを停止されたり、家族は大変だったんじゃないかなって。

史郎　大変やったけど、何を言うても始まらんし。うっとうしかったのはテレビやな。いつも表に張ってたり、近所も迷惑がかかるし。どこにも記者がおるから、どこにも行かれへん。カンヅメ状態で、犯罪者みたいな状態やったから。

――大毅さんは、負けた夜に「台所に行ったら、オヤジがいて励ましてくれた」と言ってましたけど。

史郎　「切腹する」言うてたから、心配でな……。あのときは死人みたいな顔してボーッとしてたから。その夜はなんもしゃべらへん。ずーっと、台所に座ってたんやから。

――えっ！　ずっと台所にいたんですか!?

史郎　俺も一緒にずっと話してな。でも何を話しても返ってけえへんし。一応、包丁は隠したけどな（笑）。

――あ、包丁だけは隠しておいて。

史郎　そこで「考えても一緒や」「また流れが変わるから、いまだけ辛抱や」と言い聞かしてな。ただ、「まさか切腹するんちゃうやないやろな」と思って、ニュースでもようある話やし。「まさかな」とは思うたけど、「はよう部屋に戻れ！」と眠らせて。俺はそのまま台所で寝たからな。

――その夜は台所で寝ましたか!!

史郎　大毅もだいぶ落ちこんで、しゃべりもせず、しばらく回復せんかったから。そんな状態やのに、周りからは「謝罪会見しろ」という声が聞こえてきた。気持ちも整理できてへんから、「大毅は行かせんぞ！」と俺が行ったんやけど……。一度謝罪しても、「もう一回やり直しや」と言われてな。こっちは「じゃあ、何をしたらええんや」という気持ちになったけど、それを言うたらまたバッシングを食らうから、なんも言われへん。あれはツラかったな……。

――そこで、興毅さんが家族を代表して、謝罪されましたね。

史郎　興毅が「オヤジがブチキレたりしたら、大変やから、俺が行くわ」と。アイツが一番冷静やったから。

――あそこで興毅さんは、一つムケたような印象があったんですが。

史郎　いや、普通にしただけやと思うよ。そのあと、マスコミの目も「よっしゃ！　よく謝った」という感じで報道したら、世間の目も「やっぱりお兄ちゃんやな。一皮ムケたな」という声になったけど、俺からしたら、興毅はずっと一緒や。人間そんなすぐに変われるもんじゃないよ。ちょっと前まで、「デカい態度してなんや！」と言われてた人間が、何カ月後に「立派になったな」なんて、急になれるもんやないやろ？　報道の仕方で、人ってのは持ち上げることも落とすこともできるわけやから。だから何より、俺らはマスコミが一番怖いよ……（しみじみと）。

――そこをくぐり抜けてきたから、また絆が強まったんじゃないかなって。

史郎　また頑張らなアカンというのはあるよな。

――皆さん「オヤジが一番明るい」と言ってますね。リーダーであり、ムードメイカーでもある、と。

史郎　やっぱり明るい家庭のほうがええやろ？　会話がなかって、一人で部屋に閉じこもって暗いのより、明るくみんなで一緒にゴハンを食べるほうがええやろ。

――でも大毅さんも復帰して、和毅さんもデビューして、２００９年は、大きな流れが見えてくるのかなって。

史郎　これで3兄弟が揃って。俺は和毅はメキシコでやらそうと思ってる。なんだかんだ言ってメキシコの選手は強いし、素晴らしい選手になると思うよ。興毅も2階級制覇を目指して、一からやり直しやしな。大毅もいまから積み重ねていくしな。

――そんな家族を背負ってるお父さんが一番、大事にしてることは？

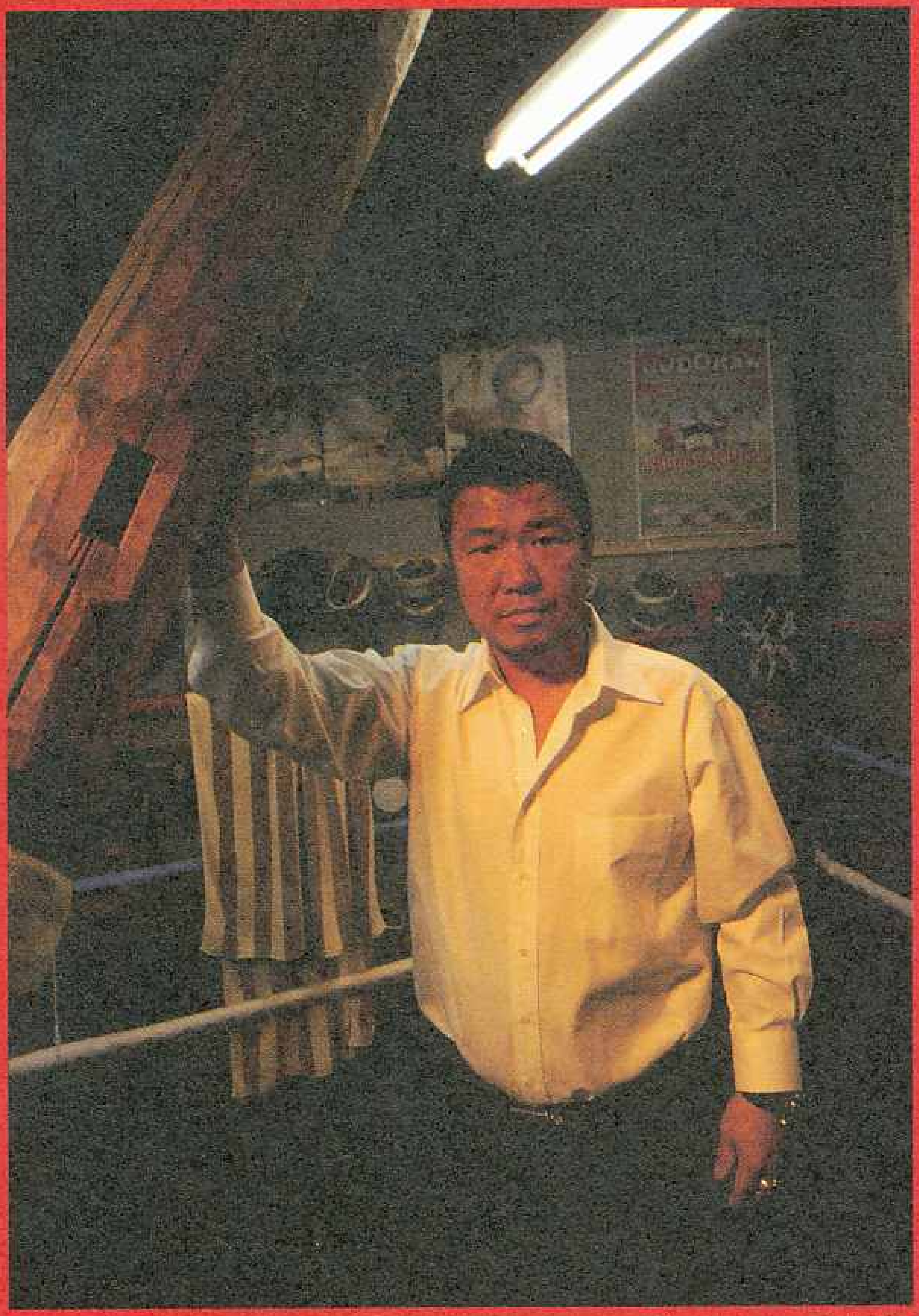
史郎　家族のチームワークかな。一人でも欠けたらアカンし。できるだけ接触して、信頼できるように持っていかなアカンから。亀田家は一人でも欠けたらアカンと言うてるし、兄弟はライバルでもあるから。

――互いの嫉妬心みたいなものは？


史郎　全然ないよ。大毅はこの1年試合できない悔しさはあったと思うけど。ま、ボクシング人生は短いんやから、やりたいことをやったほうがええと思うで。世界チャンピオン目指してるんやし。やっぱり、世界の人間が「アイツや、カメダや！」と目標にされるのが世界チャンピオンやろ。そのためにも世界で通用するようにする。そして向こうでも試合をする。それが真の世界チャンピオンやろな！

――２００９年も攻めの姿勢で頑張ってください！

【08年12月17日／都内・亀田ジムにて収録】



かめだ・しろう■1965年5月22日、兵庫県姫路市生まれ。中学卒業後から、解体業に就き、プロボクサーを目指すも仕事の両立で断念。自身はトレーナーとなって、3人息子の興毅、大毅、知毅をボクシングの道へ進ませる。独特の教育法、指導スタイルが賛否両論を呼び話題となる、亀田一家の大黒柱。



男は黙ってクルーザー！



格闘技界の重鎮が語る"真の男"とは?

kamipro認定 男道"クルーザー"級チャンピオン

真樹日佐夫

「"男の中の男"とはいかに人のために死ねるかってことだ」

男を語らせるならこの人! 劇作家であり、真樹道場宗師として格闘技界にも睨みを効かせる真樹日佐夫のお出ましだ! 男の憧れ、豪華クルーザーの上で男の道を究めし大物が、名だたる猛者たちとのエピソードを交えながらほろ酔い気分で大放談! "男道"練習生は心して読むように! 押忍!!

聞き手／阿修羅チョロ 撮影／戸成嘉則 試合写真／乾晋也



男の中の男なんてのは絵に描いたモチみたいなもんで実際にはいいねえよ！

見てみぃ、このクルーザー！　本企画は当初の予定では4ページだったものの、急きょ1ページ増やして男気全開のショットを大公開だ！　そもそもこの取材は真樹先生がご多忙ということもあり、電話インタビューの予定だったが、今回のテーマが男特集ということを聞いて先生の男気が爆発！「なんなら俺のクルーザーに遊びに来るか？」というお言葉に甘えて、先生の貴重なオフの日にお邪魔しちゃいました！　押忍！

――いやぁ、真樹先生！　凄いクルーザーですね！　今日は天気にも恵まれて。

真樹　俺がいい天気にしといてやったんだよ（笑）。

――ありがとうございます！

真樹　ほら、そんなことはいいから、つきたてのモチでも食べなさい。

――遠慮なくいただきます！　モグモグモグ……。

真樹　チョロ、『kamipro』で俺が連載してたのは何年前だ？

――『無比人』（真樹先生執筆の本格格闘プロレス小説）は7年前ですね。その『無比人』の映画版で主役をやった菊田早苗さんも、先日の『戦極の乱』で吉田秀彦選手に勝利してモグモグモグ……（食べるのに夢中）。

真樹　そうか、菊田も最近また運が向いてきたみたいでなによりじゃねえか。まぁ、とりあえず乾杯するか！

――はい、あけましておめでとうございま～す！（乾杯）。しかし、先生、もうすでにほろ酔いのようですけど、今日は何時頃から飲まれてるんですか？

真樹　ん？　朝の6時だよ。

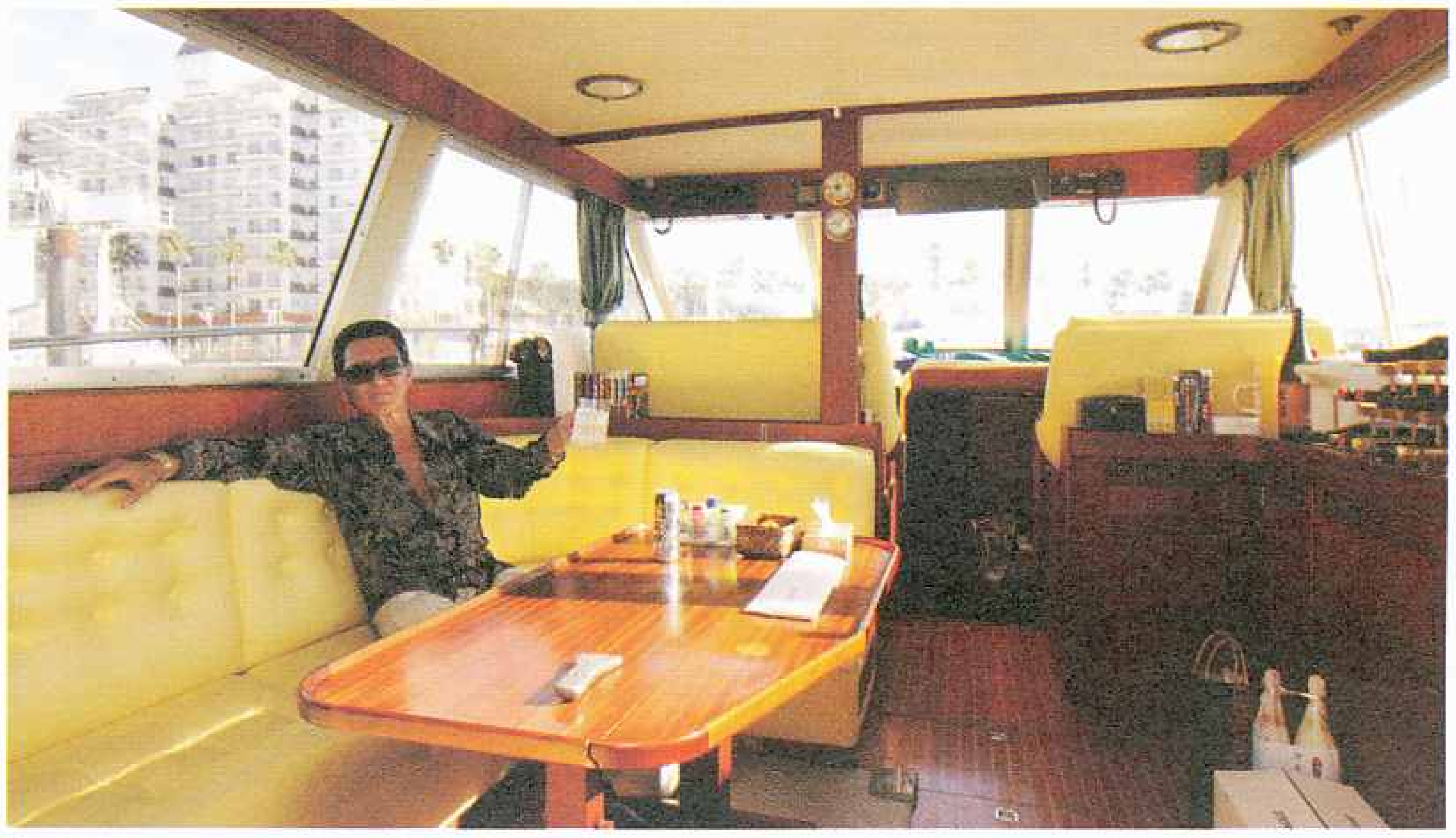
――え～っ⁉　いまはもう13時ですよ！（笑）。

真樹　たいしたことじゃねえよ。で、どうなんだ、いま格闘技は？　前田（日明）んところのイベント（『ジ・アウトサイダー』）なんかも意外と注目されてるんだろ？

――そうですね。不良を集めたところが目新しいのか、そういったイベントも増えてるみたいで、一般誌でもよく取り上げられてますね。

真樹　そういう素人の興行に注目が集まってるってことは、逆に言えばいかにプロの格闘技がおもしろくなくなってきてるかってことだな。

――そのあたりは今日のテーマにつながるんですけど、最近は対戦相手を選んだり、プロとして男気に欠ける選手が多くなっているというか。そこで真樹先生に格闘家の男らしさについてお話しいただきたいな、と。



時価ン億円のクルーザーだけに船内も豪華！　本誌阿修羅チョロのウチより全然広い！　ちなみに年間の停泊料はン百万円！　本誌阿修羅チョロの……（以下略）。ちなみに船名は真樹先生のご子息とご令嬢の名前から一文字ずつ取って「一翆号」。男とは守るべき家族のことを、常に身近に刻んでいるものなのだ、押忍！

真樹　まぁ、最近の格闘技界は細分化しすぎてるから、要するにへんな縄張り意識みたいなのが先行しちゃってるんだよ。その中でそれぞれのイベントのエースが負けるわけにいかないがために、相手を選ぶってことはあるかもしれないよな。昔は「誰でもいいからかかってこい！」っていう選手が多かったけど、いまはそうじゃないだろ？

――単純に格闘家として「世界最強になりたい」という思いで闘ってる選手は、昔と比べて少なくなってるかもしれませんね。

真樹　少ない！（キッパリ）。自分がいる場所だけでトップにいたいという気持ちの奴が多いだろ。外に出てまで恥をさらしたくないという意識が非常に強いよな。俺らの頃は倒すか倒されるかだけだったけど、いまは倒されないために相手を選ぶ、間違いなく勝てるというところでしか勝負してない。

――そういう選手の意識が、最近はファンにも透けて見えてしまっている部分もありまして。

真樹　ただ、いまのファンも特定の団体に入れ込んでいるだけで、格闘技というジャンルそのものを応援してるケースは少ないんじゃないか？　だから、そのあたりも非常に女々しいっていうか。

――先生の著書である『格闘家は女々しい奴が9割』同様にファンも女々しくなってきてる、と（笑）。

真樹　そういや、この本をプレゼントした前田が、「先生、格闘家は女々しい奴が9割9分でいいじゃないですか」って言ってたな（笑）。だから「じゃあ、その残りの1分は君か？」って聞いたら、「いやぁ」って頭掻いてたけどな（笑）。

――この本は逆説的に格闘家は女々しいって書いてますよね、女々しい格闘家こそ用心深くて強いという。そういう意味では、格闘技界では「男の中の男」っていう表現もはやったりもしましたが……

真樹　（さえぎって）男の中の男なんていうのは絵に描いたモチみたいなもんで、そんなもんは実際にいねえんだよ！（キッパリ）。

――男の中の男はいないですか⁉

真樹　たとえばドラゴンなんてのは実際にはいない空想上の動物だろ？　それと同じことよ。

――プロレス界にも藤波辰爾さんというドラゴンがいますけど、男の中の男とは言えないような気も……。

真樹　男の中の男っていうのは理想像なんだよ。それを目指していかに自分が努力をするかって話でな。まぁ、世間から見て男らしいと言われてる選手は格闘技に向かないよ。そういう逆説的な意味をこめてこの本を書いたんだからな。

――本の中では女々しい例としてモハメド・アリのことを書かれてますね。

真樹　もうアリなんか試合前は控室で震えて、周りが「おまえが一番強い」ってささやいてやって、やっとリングに上がれてたんだからな。そういう選手が周りから洗脳されてリングに上がると、「負けたら何言われるかわかんない」と開き直って、勝とうと必死になるんだよ。そのくらい厳しい場所だってことだよな、本来リングという名の四角いジャングルは。

――その厳しいはずのリングに、いまはそこまでのレベルに達してない人が上がれてしまう状況もありますよね。

真樹　最近はプロとアマの差がなくなってるよな。おっかねえと思うこともあるよ、素人の場合はとくに狙ったわけじゃない交通事故みたいなパンチが致命傷になる場合もあるからな。

――先生はああいったアマチュアの大会もご覧になってるんですか？

真樹　『ジ・アウトサイダー』は行ってるよ。わざわざ主催者が、デカいリ

ムジンを迎えによこすんだよ。

なうファイターはいませんか（笑）。

うのは魔裟斗の執念、折れない心だ



真樹先生は魔裟斗が全日本キックで試合をしていた頃から注目。もし魔裟斗が矢吹ジョー役を演じたら、「へへ、あんがとよ、おっつぁん」と丹下段平に礼を言ったり、練習をサボってうどんを食べるマンモス西を「このうどん野郎!」とブン殴るあの名シーンが再現!?

真樹日佐夫

魔裟斗には映画で『あしたのジョー』の矢吹ジョー役をやらせたかったんだよ

ムジンを迎えによこすんだよ。

——あぁ、会場の前でリムジンを見かけましたけど、あれは先生専用でしたか!

真樹 あんなデカいのに俺しか乗ってないからな(笑)。まぁ、『ジ・アウトサイダー』一つとってみても、一応プロの選手が2ヵ月なら2ヵ月とか指導を受けて出場してるからな。表向きは素人のケンカ大会って打ち出しても、死人が出たらそこまでだから、ケアはあたりまえのことだし。ああいうイベントはKOが多いから素人でも見てるぶんにはおもしろいわけで。プロの試合っていうのはみんな防御ばっかり達者になってなかなか倒れないだろ?

——そんな感じはありますね。

真樹 それはイコール勝つことより負けないことを考えてるってことなんだよ。それが試合をつまらなくしてる。お客だってそんなのにはお金出したくないだろうよ。

——確かに。

真樹 だから倒すか倒されるかっていうのが格闘技の原点なんだよ。負けてもいいんだよ、KO負けしても。人気が落ちない選手だっているだろ。でも負け方がいじましいと、お客は二度と観ないってなるよな。やっぱり勝つにしろ負けるにしろド派手にいかないとな。それが本来の男ってもんだろ!

——そういう意味で、ここ最近の格闘技界で、先生が男だなって評価される選手はいますか?

真樹 それがいねえんだよなぁ……(しみじみと)。

——そのグラサン、いや、お眼鏡にかなうファイターはいませんか(笑)。先生の専門である立ち技で活躍する魔裟斗なんかはどうですか? K—1MAXというジャンル自体を背負ってると、本人も周りも言ってますけど。

真樹 魔裟斗は心が強くなったね。アイツは最初の頃は人気先行型で弱かったんだよ。それが小比類巻(太信)にKO負けしたのが一つの契機になって変わったんだよな。いまはアイツが一番練習量が多いんじゃねえか?

——MAXでも5年ぶりに優勝しましたからね。

真樹 アイツの中ではまだ『あしたのジョー』のラストシーンみたいに、燃えつきたところはないってことだよな。まぁ、もうアイツも30(歳)だから、どこで区切りをつけるかってことも頭にはあるだろう。また別の世界を目指してもいいしな。

——優勝したことで、これからモチベーションを維持していくのも難しそうですね。

真樹 アイツは一回引退を考えたことがあったんじゃないかな。俺の映画に出る話もあったんだけど、格闘技にじつはまだ未練があるのがわかったから、「もうしばらく気が済むまでやれ、映画なんかいつでも出れるんだから」って言ってやったんだよ。確かにいまのMAXで魔裟斗より技量で上の奴はいるよ、佐藤嘉洋とか。でもダウンを取られても勝っていうのは魔裟斗の執念、折れない心だよな。倒しても倒しても向かってくる奴っていうのが、一番怖いんだから。まぁ、魔裟斗が引退するときは勝った負けたとかじゃなくて、あいつ自身の心の問題だろうな。

——そして、リングを降りたあかつきには先生原作の映画に出演する、と(笑)。

真樹 魔裟斗も「そのときはお願いします、押忍!」って調子いいことぬかすんだよな(笑)。俺の弟子でもある三池崇史(映画監督)もアイツのことは買ってるんだよ。だけど、魔裟斗はリングで闘ってるときは格好いいんだけど、スクリーンで見るとちょっとゴツいんだよな。これが4~5年前だったら『あしたのジョー』で矢吹ジョーの役をやらせたかったんだよ。でもいまはどっちかっていうと力石徹だよ(笑)。

——アハハハハ! 一気に敵役ですか(笑)。

真樹 俺は美人女子プロレスラーって言われる奴とも飲んだりしたけど、確かにリングだと美人でも、ワインバーで座って飲むとほかの周りの女と比べてやっぱりゴツいんだよな(笑)。

——リング上とは違うじゃないか、と(笑)。

真樹 そういう要素が魔裟斗にもあるんだよ。だから格闘技の映画を魔裟斗で撮るにしろ、リング以外のシーンだって必要だろ? たとえばデートとかベッドシーンとか。そうい

真樹日佐夫

うときにやっぱりゴツいんだよな、何かが出てるというか。いい意味で言うとオーラなんだけど、役者にとってそれが邪魔になる場合もあるんだよ。役者は役になりきらないといけないから。

——そういう意味では、韓国では役者顔負けのタレント活動で大人気の秋山成勲のことを、先生はどう見られてますか?

真樹　まだ日本ではダーティな部分が払拭されてないよな。まぁ、あと1年も経てば、世間なんて忘れてくれるもんだから。強いは強いと思うけどな、地力があるよ。なのになんであんな小賢しいことするのかってことだけど、きっと桜庭とやったときは絶対に負けられない事情があったんだろ。……このことをこれ以上突き詰めるとアンダーグラウンドな世界にいきかねないぞ(笑)。

——えー、ウチは実話誌じゃないので話題を変えまして(笑)、同じ柔道出身で総合格闘家転向を発表した石井慧についてはいかがですか?

真樹　俺はプロ転向には絶対に反対だよ(キッパリ)。まぁ、本人の人生だからかまわないけどな。アイツは天才的に強いからここまで負けなしできたけど、アマで一回挫折して、そこからはい上がる経験を積んでからでもプロ転向は遅くないだろ。2年は早かったな。

——まだ21歳ですからね。まぁ、結果としてつなぎとめられなかった柔道界の体質も問題視されてますが。

真樹　いかに日本の柔道界に魅力がないかってことだよな。石井は斎藤(仁)に畏敬の念を持っててもこうして飛び出しちゃうんだから、いいにしろ悪いにしろ現代っ子なんだよ(笑)。結局、アメリカを選択したんだろ? それじゃあ日本になんのメリットもないじゃねえか。日本の格闘技界は大丈夫なのか?

——そこは先生、ウチでもよく取り上げている青木真也という日本が世界に誇れる選手がいまして。昨年、大活躍したんですが試合をご覧になったことありますか?

真樹　大晦日の『Dynamite!!』で観たよ、なかなかよかったな。光ってたよ、ほかがくだらない試合が多かったから(笑)。うん、青木と川尻(達也)が一味違ったな。勝ったから男っていうんじゃなくて、将来性を感じたって意味でな。でもな……、俺は今度また、梶原一騎23回忌っていうのもあって新連載で平成版『四角いジャングル』っていうのを始めるんだけど、なかなか難しいなって感じてる部分はあるよ。なんか全体的に日本の格闘技は尻すぼみな感じがする。もっと『kamipro』も盛り上げるように頑張れよ、コラ!(笑)。

——押忍! 精一杯頑張らせていただきます! でも、お話を聞いていると、男の中の男というのはそうそういるもんじゃなさそうですが、先生が思う理想の男像というと?

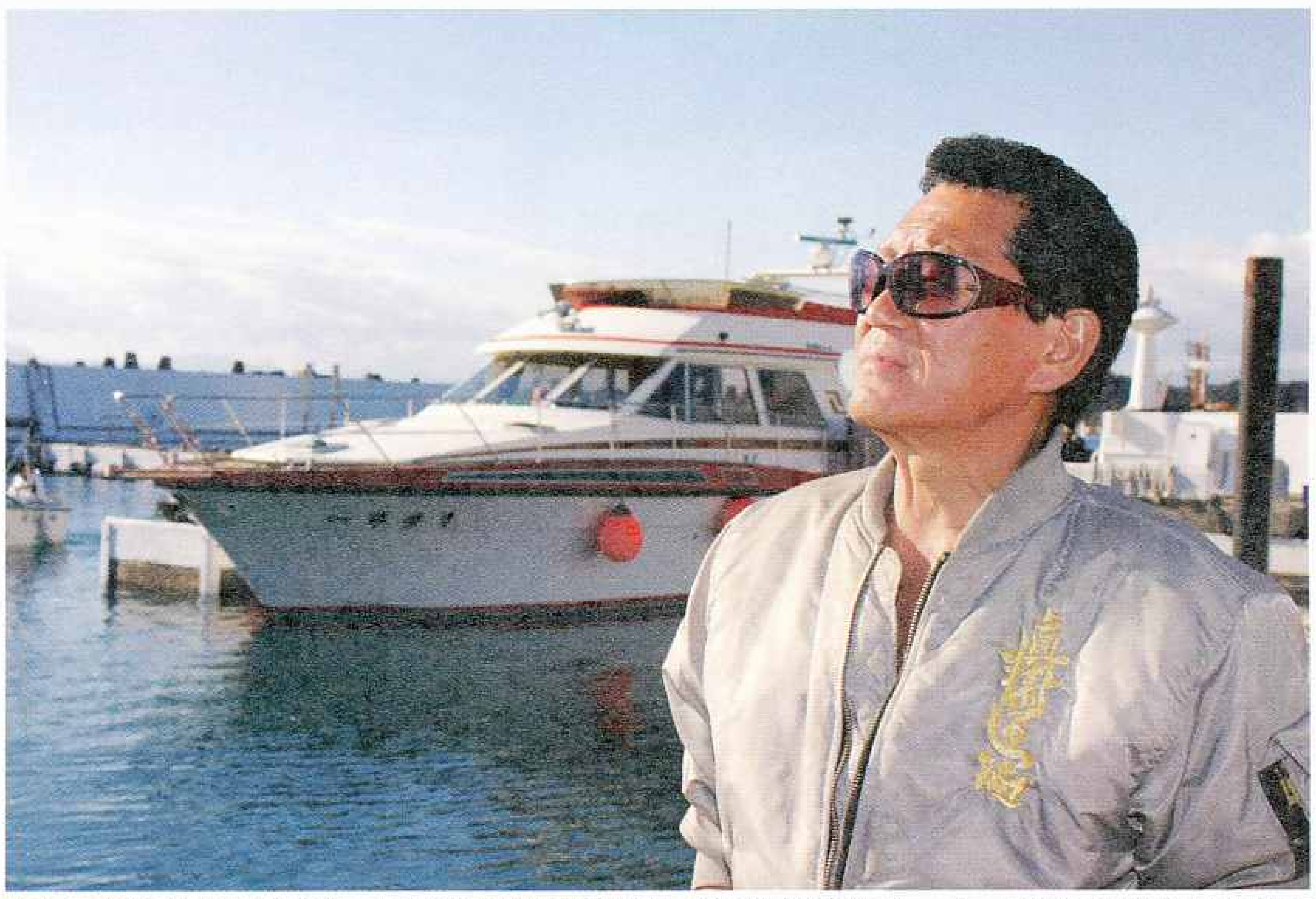
真樹　実在の人間でか?

——はい、ドラゴンとかではなく(笑)。先生は格闘技界だけでなく芸能界にも顔が広いですし、ジャンルを問わずに挙げるとすると?

真樹　芸能界? そんなのますますいねえよ!

——アハハハハ! それは失礼しました(笑)。

真樹　そもそも男の中の男なんて言葉は誰が考えたか知らねえけど、男は男だろ! 女の中の男ならわかるよ、「あぁ、おまえはオカマじゃねえか!」とかな(笑)。まぁ、男ってのは目の前に現われた敵に対峙したときに逃げずに、とにかく乗り越えていくという折れない心を持った人間のことじゃねえか? それは単純に強い弱いとかではないんだよ。強さというのは相対的なものであって、絶対的なもんじゃない。でもたかが強さ、されど強さ、男として生まれた以上はその強さを目指したいよな。



まき・ひさお■本名・高森真土。1940年6月10日東京都出身。劇作家、映画プロデューサー、真樹道場宗師などの肩書きを持つ故・梶原一騎の実弟。おもな著書に『実録　地上最強のカラテ』、『無比人』、『格闘家は女々しい奴が9割』、劇画原作では『ワル』が有名。ちなみに最近ネットで「真樹道場と藤原道場(藤原敏男代表)は異常に厳しいから行かないほうがいい」と書かれるも、「まぁ、敏ちゃんも言ってたけど、そう書かれるのも"男の名誉"だな」と一笑。どちらも男だ!

——なるほど! まずは心ありきということですね。

真樹　だから俺に言わせると、「男とは何か?」ってなると歴史上の人物を言うしかねえんだよ、吉田松陰や西郷隆盛とかな。自分が死ぬのを覚悟して、先の日本を考えた幕末の志士たちよ。そういう英傑たちのところで止まっていて、そのあと日本では男っていうのは出てこないんだよな、この100年くらい。

——はぁ~、100年も出てきてませんか。

真樹　そういう男たちと比べると、格闘技の世界っていうのは自分のことしか考えない奴が多いと思うな。

強さと男らしさっていうのはなんにも比例はしないんだよ

男の中の男っていうのは人のことを考えなきゃいけない。いまはこれが絶対的に違うから、俺はこういうことを聞かれても「いねえよ!」って答えるんだよ。いかに人のことを考えて自分が死ねるかってことだ。だから格闘者っていうのは自分が勝ってナンボだろ? そういう意味で一致しない部分はあるよな。まぁ、結論としては男の中の男になるために、そういう気構えを持った格闘家よ、現われよ! っていうことかな。俺からの檄として。

——格闘家は女々しい奴が9割9分ですからね(笑)。

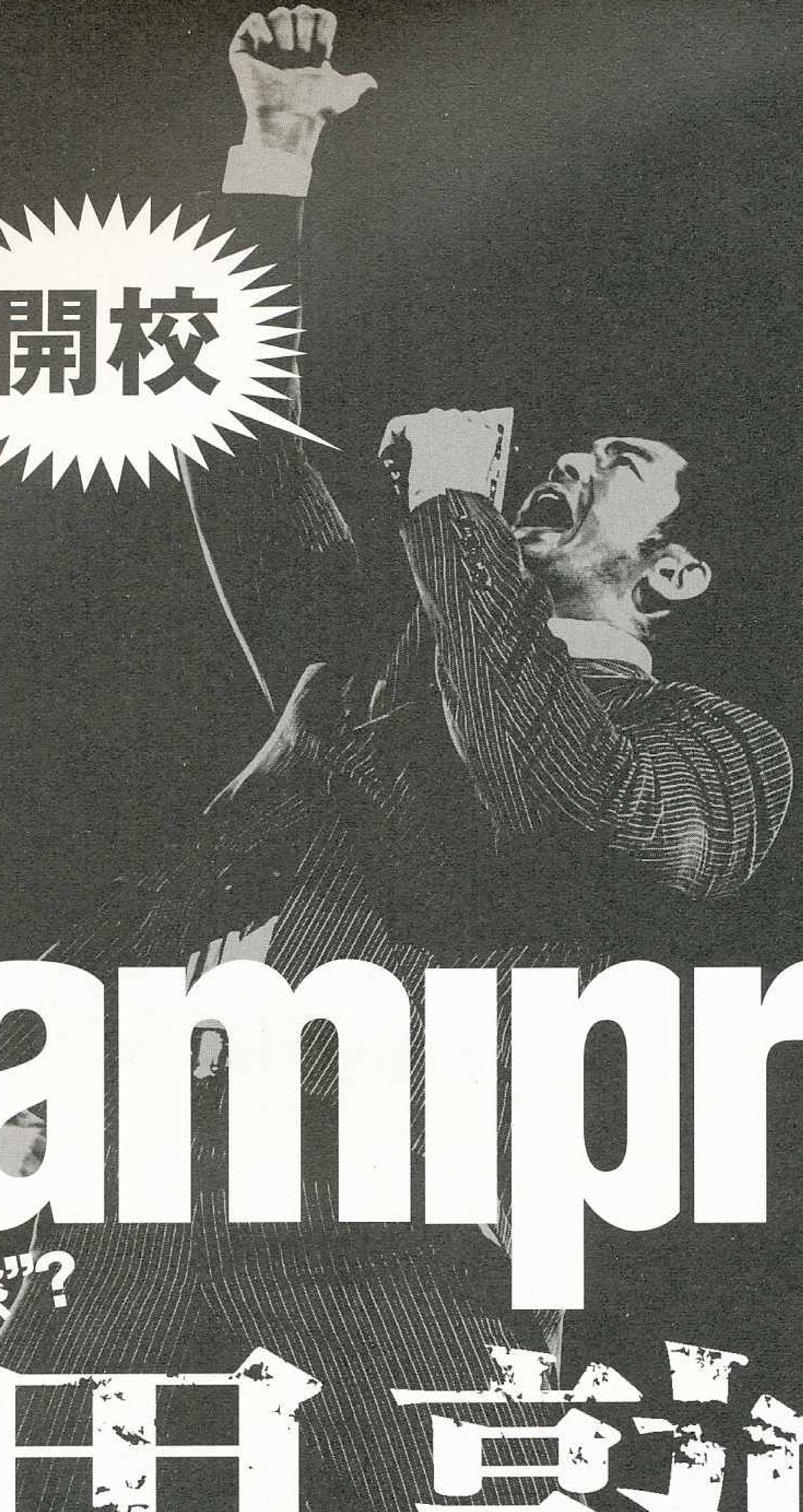
真樹　だから強さと男らしさっていうのはなんにも比例しないんだよ。俺は前から言ってるんだけど、男らしい男ってのはすぐ負けるんだよ。やみくもに真っ向からズーッと突っ込んでくから相手の一発を食らって(笑)。まぁ、こんなとこか。今日の俺の話は取材テーマにあんまり合わなかったんじゃねえか?

——いえいえ、貴重なお話が聞けました!

真樹　俺も納得する男の中の男が出てくるように、09年に期待しようってところだな。

——冬の週末にこんな豪華なクルーザーで朝の6時から飲んでる真樹先生こそ男の中の男だと思います(笑)。今日はありがとうございました!

【09年1月11日／真樹先生の男気全開なクルーザーにて収録】



開校

kamipro “変態”? 男塾

個性豊かな男たちが語る“俺だけの男道”



掟ポルシェ×杉作J太郎



佐伯繁



ジミー鈴木×ターザン山本!

(仁)に畏敬の念を持ってもこうし

ういるもんじゃなさそうですが、先

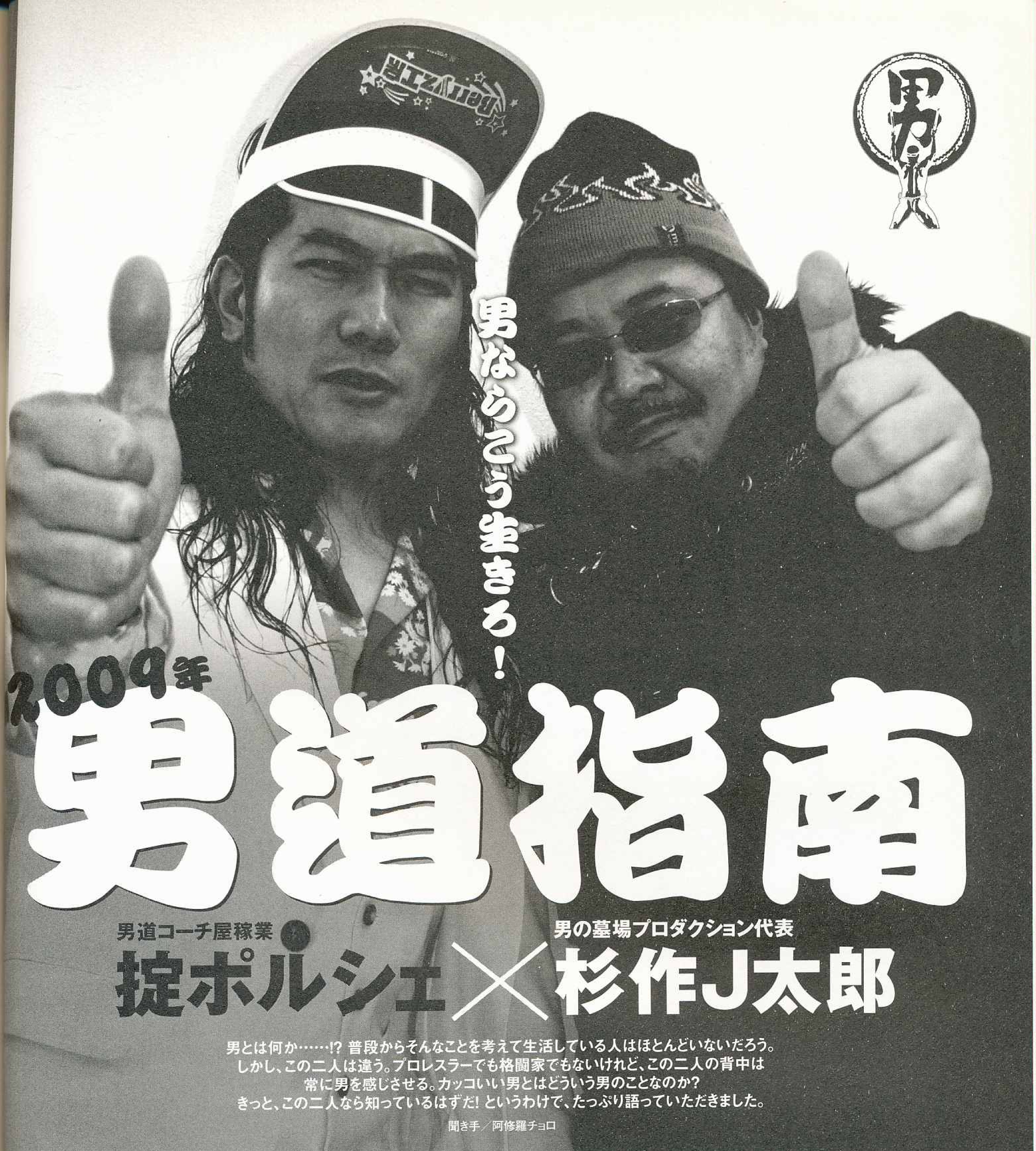
よ、「あぁ、おまえはオカマじゃねえ

「男っていうのはな」と言ったとき

のときの大仁田さんのマイクが素晴

いうのはこうでなきゃいけない」っ

てる楽器はエレクトーンなんです。



男ならこう生きろ！

2009年 男道指南

男道コーチ屋稼業 掟ポルシェ × 男の墓場プロダクション代表 杉作J太郎

男とは何か……!? 普段からそんなことを考えて生活している人はほとんどいないだろう。しかし、この二人は違う。プロレスラーでも格闘家でもないけれど、この二人の背中は常に男を感じさせる。カッコいい男とはどういう男のことなのか? きっと、この二人なら知っているはずだ! というわけで、たっぷり語っていただきました。

聞き手／阿修羅チョロ

――今回、〝男道〟には一家言を持つ杉作さんと掟さんに「男とは？」というテーマで語っていただければと思っているのですが、じつは掟さんが選ぶ08年のkamipro大賞の中で、「男だ！賞」として杉作さんの名前を挙げていたんです。

杉作　えっ、なんでですか？

掟　いや、俺、感動しましたよ。火事に遭った直後、俺が関わってる『申し訳ナイト』っていうDJイベントを代官山のUNITっていうところでやったんですよ。杉作さんも出演されたんですけど、そこで「少ないけど取っといて」ってお見舞金をいただいたんですね。そのお見舞金が、あきらかに数時間前にどっかで仕事をしてきて取っ払いでもらった「杉作J太郎様」って鉛筆で殴り書きしてある封筒なんですよ。

杉作　ええ、まさにそのとおりです。

掟　それを封も切らずにそのまんま渡してくれて。杉作さんは現在、「男の墓場プロ」というのをやられていて映画を作ってるんですけど、ノースポンサー主義というか、基本的には全部持ち出しでやってるんですよね。

杉作　そうそう、貯金の切り崩しでね。

掟　だからいまホントにシャレにならないほどお金がないはずなんですよ。その杉作さんがですよ！　1万円くれたんです。具体的な金額を言うとちょっと嫌らしいですけど、杉作さんの1万円はホントに大きな大きな1万円ですから。

杉作　いやホントですよ！　一緒に活動してる墓場プロの若いヤツなんかには飯代すら出さないからね。ち

「男っていうのはな」と言ったとき どんな無茶でも通ってしまう（掟）

なみに、さっきまで一緒にいた墓場プロの若いヤツが5万入った財布を落としちゃって、いま警察に行ってるんですよ。僕はこの取材の前に飯が食いたかったんで、「俺はラーメン食うけど、おまえは金ないんだよな？ 外で待ってろ」って言ったんです。

掟 ダハハハハ！ それは男じゃないです！

杉作 玉木（竜馬）っていうんですけど、そいつはポケットからモノをボロボロよく落とすんですよ。それでよく怒ってたんですけど、ついに財布落としたから、ここで俺が飯食わせたら痛みがわからないだろうと思って。いま、警察に行ってますけど。戻ってくるのかな？

――幸運を祈りましょう！

掟 話を戻しますけど、杉作さんはその会場まで歩いて来たんですよ。杉作さんの住んでるところから歩いて片道3時間ぐらいかかるはずなのにですよ！「なんで歩いて来たんですか？」って野暮なこと聞いたら「ガソリン代が高いから」って（笑）。それを聞いたら、感動のあまり「いまもらった見舞金、もういまこの場で倍にして杉作さんにあげます！」みたいな気になっちゃいましたもん。そういうことがあって俺の中で2008年の「男だ！ 賞」は杉作さんにしたんですけど。

杉作 ありがとうございました（頭を下げる）。

――掟さんもロマンポルシェ。としてライブ等では「男とは何か」という説教をずっとやってきたり、〝男〟についてのこだわりはかなりありますよね？

掟 最初は、普通にこだわりを持ってやってたんですけど、最近はもっと素直に笑えるように、男度をドンドン薄めていってる最中なんですよ。

杉作 それはまた、どうしてですか？

掟 最初は濃度が高すぎたんで、「これ本気で言ってるんじゃないか？」って思われるようになっちゃって。こっちは笑ってもらいたくて、サービス業としてやってるのに、そのへんをわかってもらえないというか。

杉作 あ〜、そうなんだ。

掟 そもそも、なんで「男とは何か」みたいな説教をするスタイルに行き着いたかというと、俺がバンドを始めた97年ぐらいにいろんなものに影響を受けてるんですよ。

杉作 なんの影響が大きかったんですか？

掟 たとえば、ちょうどその頃、大仁田厚さんがリングに復帰して、そのときの大仁田さんのマイクが素晴らしかったんですよ。

――1回目の復帰のときですか？

掟 そうですね。「二度とリングには帰ってこない」と言って引退したのに2年でいきなり復帰したんで、後楽園は満場の嘘つきコール。そこで大仁田さんはマイクを握ってこういったんですよ。「確かに俺は嘘つきじゃ！ だがな、男っていうのはな、一生に一度ぐらい嘘つかにゃいかんのよ！」と。それってよく考えるとなんの理由にもなってないって話で。

杉作 確かに無理がありますよね。

掟 そのとき、大仁田さんの話を聞いて思ったのは、「ああそうか、男であること自体がすでに理由なんだな」ということで。「男」って何かをごまかすために提示する言葉なんだ、と。「男っていうのはな」って男が言うときは、だいたいは理屈で通らないことを無理矢理通す前振りなんですよ。男を売りにしている人ほど、よく無茶苦茶なことを言うじゃないですか。



本宮ひろ志のマンガ『男樹』と大きくプリントされたTシャツを着ていた時期もある大仁田。男をアピールして無理を押し通し続けた涙のカリスマには熱狂的な信者がついた。

杉作 「俺は男だから」とか、「男っていうのはこうでなきゃいけない」ってときはたいてい人の道に外れてるようなことしてますからね。

掟 人としては間違ってるけど男としてはOKだ、みたいなね。でも、その辻褄の合わないことをシレッと力技で通そうとするときの男って、無闇に図太くてカッコいいんですよね。それを意図的に模倣すれば新しいエンターテインメントとしていけるんじゃないかと思ったのが、説教の発端の一つで。逆に、辻褄が合ってることをただやるだけでは男として恥ずかしいんじゃないの？ ともいえる。自分のバンドの場合、テクノポップみたいな音楽ですけど、テクノっぽいおしゃれな服着て、涼しい顔でまんまやっていいのか？ っていうのがあって。テクノポップってナメられがちじゃないですか。クラスの中の勉強できるチームっていうか、喧嘩の弱そうな草食動物系の男子とかが好きになる音楽だから、肉食系の暴力的なヤツらに100パーセント、ナメられる。

杉作 スノッブな感じがしますよね。ポコチンもソフトな感じがしますし（笑）。

掟 亀頭の先端がピンク色っぽい音楽って言うか（笑）。テクノってだけでナメられがちなんで、じゃあ合間のMCだけでもナメられないようにしようと思って。

杉作 テクノでそんな男らしい人たちいないもんね。

掟 テクノだと思われてない人たちの中にはいたんですよ。70年代のNYパンクのバンドでスーサイドっていうのがあって。スーサイドは使ってる楽器はエレクトーンなんです。でも、エレクトーンでピコピコした音楽やってるくせに、客をブン殴るんですよ！

杉作 それは暴力的ですね！

掟 音楽と行動が合ってない。このように「えっ、なんで⁉」って思ったときしか、琴線に触れないんですよ、俺。二律背反するものが無理矢理なかたちで一緒くたに提示されないと、全然ピンとこないっていうか。映画を観てても、話の筋が普通だと帰りたくなるし。その点、杉作さんの映画は「なんで？」って部分だらけなんで素晴らしいですよ。

杉作 確かにソフトな人が怖いことやってるほうが怖いですよね。怖い人が怖いことやってるのは、それはホントに怖いんだとは思いますけど（笑）。吉田拓郎がすぐ殴るとかいったら怖いもんね、やっぱり。

掟 「お〜、順子」なんて歌ってた長渕剛が、いまやあんなおっかない人になってるし。当時はナメられたと思うんですよ。長髪で痩せてていかにもフォーク歌いそうで。でも心の奥底ではいまのマチズモな長渕剛がいたわけですからね。そういう意外性があったほうが男としては魅力的というか、おもしろみがありますよね。

杉作 だから大逆転ができるってことですよ。「男の」っていうのがつけば。だから僕らも「男の〟墓場プロ」と名乗ってるから、何があったって……まあ、極端なこと言ったらお金払わなくてもいいわけですからね。

掟 杉作さんの映画に出る人はみんな男ですよ。出演者は基本的にノーギャラですから。オール友情出演を

極端なことを言ったら、〝男の〟とつけば金を払わなくてもいい（杉作）

強いられるという（笑）。

杉作　出演者にお金を払ってるとね、ホントにえらいことになるからね。

掟　杉作さん以外の人が同じことをやったらブン殴られかねないですけど、杉作さんの場合は「杉作さんならノーギャラでもしょうがない」ってみんな言ってくれますから。やっぱりそこは凄いと思うんですよ。

――掟さんは杉作さんの映画にもよく出演されてますけど、杉作さんの作品自体には男気は感じます？

掟　杉作さんの描いてる漫画がそのまま映画化されてる感じですよね。だから随所に男ならではの気の利いた台詞があって。俺も出演してる『任侠秘録人間狩り』での好きなシーンなんですけど、ひなびたヤクザの組があるんですよ、組員全員予備校生みたいな。そこでみんな鍋食ってるんですよね。その鍋の中身がうどんとソーセージだけなんですよ。

杉作　そうそう（笑）。

掟　そんな粗末な鍋食ってんのに、飯島洋一さんが演じる名の通った元ヤクザは、それを見て「おっ！　うまそうな鍋じゃねえか」って言うんですよね。これはね、本心じゃないと思うんですよ。いまどきヤクザだって儲からない渡世で、「こんなシケたもん食ってんなよ」って言っちゃいけない。かといって代わりに自分がうまいもん食わせてやるだけの金もない（笑）。相手も自分も傷つけない、やさしい言葉が「おっ！　うまそうな鍋じゃねえか」なんですよね。男心っていうのはそういう細やかな気遣いの上に成り立ってるんだと思いますよ。

杉作　これは若い人には難しいでしょ。「うまそうな鍋じゃねえか」って言うことによって自分は金は出さないっていうね（笑）。

掟　「何、まずそうなもん食ってんだよ、俺が食いに連れてってやるよ！」って言えないからこそなんですよ。ヘタにおごられたりするとね、面目が保てないこともあるじゃないですか。一応ヤクザですよ、全員が予備校生みたいな組とはいえ。「おごってやるよ！」なんて台詞は大方侮辱でしかない。だったら一つの鍋をみんなでつついたほうが、盃を分けたのと同じような気持ちになれるじゃないですか。分けた盃が不恰好であればあるほど、絆というのは固くなるわけですよ。……っていうところまで考えたうえでの「うまそうな鍋じゃねえか」っていうね、そういういい嘘が入ってる。男はみだりに真実だけ口にすればいいってもんじゃない。いい嘘をつけるようでなきゃ一人前じゃないんですよ。

杉作　結局、男はどれぐらいうまく嘘を通すかですよね。ホントのことなんか誰も言ってないでしょ。男らしいと世間で言われてる人はみんな嘘ついてますよ！　高倉健さんや渡哲也さんとかもね。

掟　健さんも「不器用ですから」とか言いながら、裏では器用にエアブラシ吹いてきれいにガンプラとか作ってますよ、きっと。

杉作　嘘ついてない人は普通に生活してるでしょ。男も女もない、むしろフェミ男みたいな男じゃないですか。だいたいね、洋画なんかでも男らしい人とかいるじゃないですか。戦争ものに出てくるときのスタローンとか真っ黒のサングラスとかしてますけど、見えにくいよ！

掟　そもそも、戦闘にサングラスは向かないですよね（笑）。

杉作　絶対向いてない。負けますよ、あんな濃いサングラスして人と闘ってたら。見えてないもん！　だから嘘ついてるんですよ。我慢してるんです。

掟　やせ我慢ですよね。ちょっと不便でもカッコいいほうがいい。



杉作J太郎監督・男の墓場プロダクション作品『任侠秘録人間狩り』は飯島洋一主演の任侠モノ。掟ポルシェも出演している。ボンクラ男子の生き様を世に問う衝撃の作品。なぜか編集部の坂井ノブ（スモーノブ）も出演。

杉作　そうそう、電車に乗ったほうが早いけど、走っていく、みたいな。

――ガソリン高いから歩く、と（笑）。

杉作　そういうことです。男の映画といえば、『ダーティハリー』ってあるじゃないですか？　あの映画の中で、主人公のハリー（・キャラハン）が警察署で怒られるシーンがあるんですよ。何本目かはわかんないですけど。あれ全部似てますから。

掟　みんなほぼ一緒の話だけど、ちょっとだけ変えて別物のように見せかけるのは男らしいです（笑）。

杉作　それで「ちょっとコーヒーでも飲みに行こうか」って、警察署にいるのに飛行場まで飲みに行ってるんだよ！　けっこう遠かったと思うんだよね、飛行場。そうするとやっぱり行く理由があるわけですよ。

掟　そこで事件が起こるわけですね。

杉作　そう。ハイジャックが起こるわけですよ。それで「立ち入り禁止ですよ」って言ってるのに札つき刑事のハリーがパイロットの格好して乗り込んでくっていうワンエピソードのためだけに飛行場にコーヒー飲みに行くんですよ。

掟　御都合主義も大上段からやられるとたまらないですよね（笑）。

杉作　全部そうだと思うよ、『ダーティハリー』って。コーヒー飲みに行った場所で必ず事件が起こるんですよ。わざわざ郊外のドライブインでコーヒーを頼んだら普段はブラックなのに砂糖が入ってて、「砂糖が入ってたから文句言いに戻って来たぜ」って、ちょっと前のＷＷＦみたいなこと言って（笑）。

掟　あきらかに事件が起こるところにやってくる、と。

杉作　悪いヤツが籠城するとかね。もう無理があるわけですよ。でも、男の映画はそれでいいんです。〝男の〟っていうのがつくと、それが通っちゃう。あれ『ダーティハリー』じゃなかったら通らないよ。

掟　それに、コーヒーを飲みに行くっていう理由が男らしいじゃないですか。しかもブラックですよ。

杉作　ブラックのほうが飲みにくいもんね（笑）。

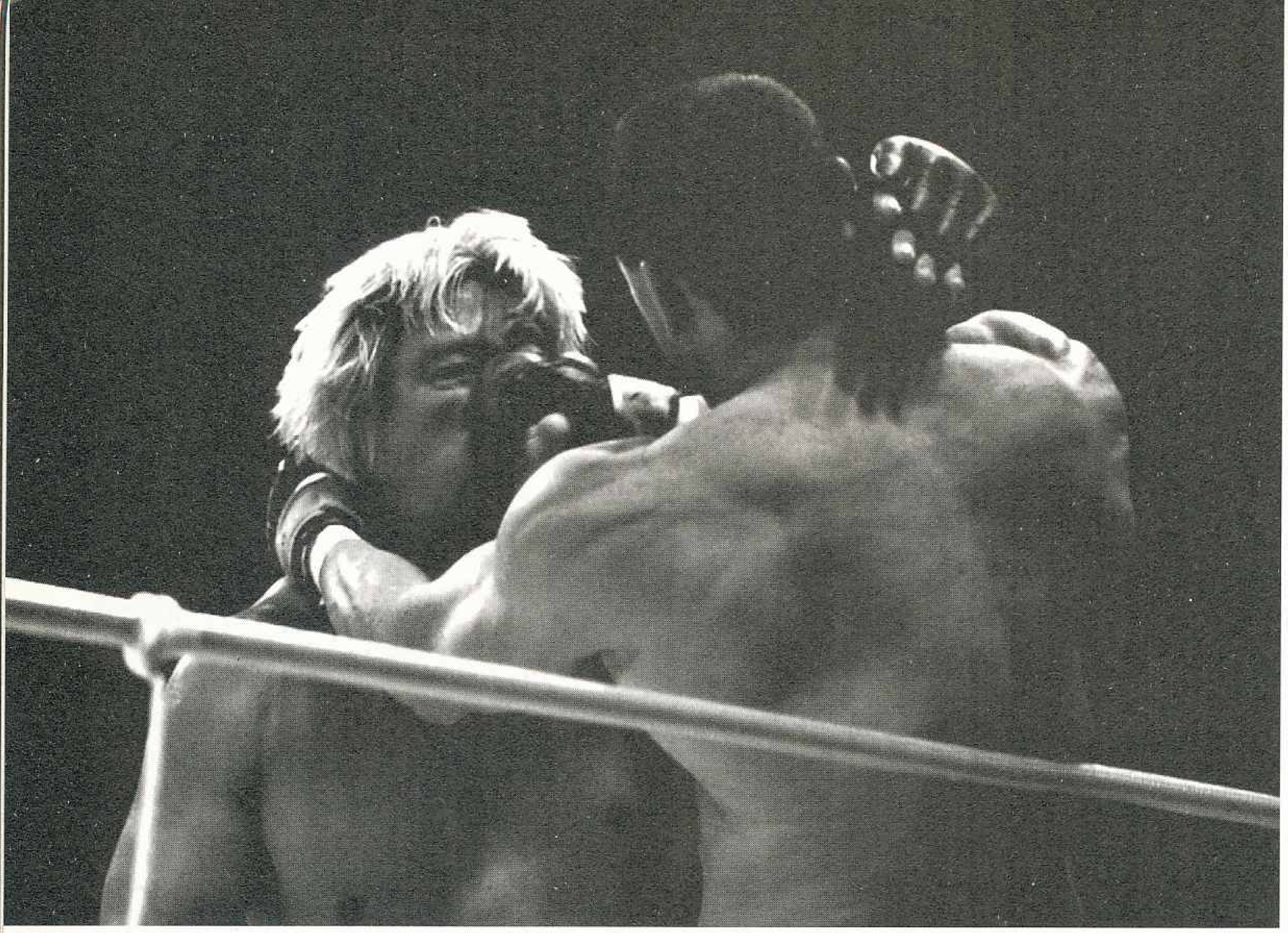
掟　砂糖入れたほうがおいしいんですから、本来。「苦いのがいい」なんて嘘なんですよ。でも甘いの飲んでると「子どもか！」って言われるから、しょうがなくブラックにしてるんです。やせ我慢ですよ。そういうのもすべて『ダーティハリー』から学べるっていうお話でした。

――ありがとうございました（笑）。

掟　男といえば、かつてロマンポルシェ。のプロモーションビデオを作ったときに、各界の男と言われる人たちに話を聞きに行ったことがあって。そのラインナップが真樹日佐夫先生、宮戸優光さん、あとビル・ロビンソンだったんですよ。

――『ｋａｍｉｐｒｏ』でもおなじみの男らしい方たちばかりですね。

掟　で、それぞれに「男とは何か」っていうのを聞くと、真っ先に出てくるのは「男っていうのは……女の逆で」って、みんな必ずそこから入るんです。べつに言うに事欠いてるわけじゃなくて、男と女の生き方の違いを言いたいんだと思うんです。女性というのは合理的ですよね、男より



もはるかに。理にかなわないことはしないし、男にもさせたくない。でも男というのはそうであってはいけない。実利とかけ離れた、男という名の荒唐無稽な理念を追求しなくてはならない。そうすることでしか同性からのリスペクトを集めることはできないっていうことじゃないかと。

02年6月23日、さいたまスーパーアリーナで行なわれた『PRIDE.21』のメインイベントがこの一戦。試合開始のゴングと同時に両者がお互いの首根っこをつかんで顔面パンチを連打。いまだに語り継がれる伝説の名シーンだ。結果は1R 6分10秒、グラウンドパンチでドン・フライがTKO勝利を収めている。

杉作　男っていうのは、あまり理にかなってないことばかりしがちですからね。

掟　「より理にかなってないほうが勝ち」みたいなところがありますからね。格闘技でも男を感じる試合ってあるじゃないですか。高山（善廣）さんとドン・フライの試合はホントに凄かったですよね。俺、試合中ずっと涙が止まらなかった。

杉作　ありましたねぇ。

掟　お互い片手をホールドした状態で、右手でおもいっきり殴り合う。で、絶対避けないっていう、お互いの男を試し合うみたいな試合で。本来なら「ディフェンスしろよ」って話じゃないですか。格闘技の試合なのにまるでいいプロレスを観てるようで、もの凄く感情に迫る試合だったんですよ。こういう理にかなわないことをあえてやってみせて観客を納得させるのがプロレスラーって職業だし、男ってことなんだなって。あの試合からはいろいろと教わりましたね。

――あの試合でフライは〝PRIDE男塾塾長〟と言われるようになりましたし、敗れたとはいえ高山選手も評価は落ちてないですからね。

杉作　やるだけならできるかもしれないけど、それで客を納得させるのが最後の男の完成形みたいなところはありますよね。だから、いまは試合をやった人の話じゃないですか。僕、試合をやってない人で涙が出たことがあるんですけど、オーエン・ハートが亡くなったあとに、相手が誰だったか忘れましたけど、相手がリングで待っていて、対戦相手のゴッドファーザーがいつもと同じ感じで出てくるんですよ。それで向き合った瞬間にゴッドファーザーがつらそうな顔してね、「とてもじゃないけど今日は試合なんかできない」って。キャラとして売春婦みたいな女をいっぱい連れてるんですけど、「いまから二人で飲みに行ってオーエン・ハートの話でもしよう」って、ガチッと握手して女たちと去って行くんですよ。あれは泣けましたねぇ。

――まさに男の世界というか。

杉作　試合は一瞬もやってないんですよ。それでも客が納得したっていうのはね、普段からのキャラクターもあると思うんですよ。だから日常からの積み重ねがじつは男は大事でね。ムチャクチャなことやるからこそってことでしょ？　凄いチンチクリンな作業とか壮大なことをやるのが男ですよ。だって男の映画だけでしょ？　宇宙に出てったりとか未来に行ったりとか。あと人を100人とか200人殺したりするのは。

掟　「俺の映画のほうがより多くの人間が死んでるよ！　どうだ！」ということを誇示するためですよね（笑）。

杉作　こないだテレビで黒澤明の『影武者』を初めて観たんですけど、最後に何千人も死んでるんだよね。見渡す限り、馬と人が死んでたけど、

実利は追わず、無茶なことでも自分が思ったこと通すのが男（掟）

女性映画はやらないと思うよ、あんな残酷なこと。

掟　「人だけじゃねぇぞ！　うちは馬まで死んでんだぞ！　どうだ！」と。

杉作　そうそう。だから黒澤明っていうのも男らしいね。男は軍団みたいなのがあるじゃないですか。女性で軍団ってあんまりないですよね。男は無理を通すために軍を作らなきゃいけないんですよ。石原軍団とかね。

掟　たけし軍団とか。

杉作　あれって群れてるわけじゃないんですよ。無理なことをやるから、一人じゃ無理っていうだけでね。あらためて思いましたけど、凄いですよ、黒澤明って。『影武者』のエンドロールに出てきた名前なんて日本ではありえないぐらい豪華ですよ。プロデューサーの名前が最初に出てくるんですけど、（フランシス・フォード・）コッポラと（ジョージ・）ルーカスが同時に出ますからね。コッポラ、ルーカス、そして監督・黒澤明っていったら、なんでもやれますよね。こないだショーケン（萩原健一）がラジオで言ってたけど、姫路城のシーンを撮りたくて、新幹線を20分止めたらしいですから。

掟　他人の交通よりも自分の映画優先！　男らしい！

杉作　「プワ～ン」って新幹線の音が入るから。前の日に撮影したら音が入ったんですって。それで「ダメだ」と。で、次の日に「20分止めるから、

おまえらちゃんとやってくれ」って、ホントに止めちゃったんですけど、アフレコだったらしいんですよ。

掟　せっかく止めたのにアフレコ（笑）。

杉作　いや、最初からアフレコなんですよ。

掟　いらない努力に見えて、でもその「プワ〜ン」が一瞬現実に戻しちゃう。それが、役者さんの顔にも出ちゃうのがわかってる。

杉作　そうだね。それはやっぱり男の世界でしょ。だから男の世界は最後は悲劇で終わりますよ。部隊が全滅するのは男の世界でしょ。部隊が全滅しないと納得いかないような行動してるもんね、男は。女性の部隊が全滅したらかわいそうじゃないですか。

掟　そうですね、ハロープロジェクトは解散してほしくないみたいな気持ちですよね。

杉作　そうそう。

掟　男のグループはパッと解散してくれて次に行ってくれたほうがありがたいというか。

杉作　それがベンチャーズとかに限って解散しないんだよね（笑）。

掟　全然男らしくない（笑）。

杉作　男のグループは解散したって聞いても悲しくないですよね。取り分で揉めたのかとかね。やっぱり女性のグループは、なるべく解散してほしくないし、悲劇で終わってほしくないですよ。その点、男性は悲劇が絵になるでしょ。だから男性映画って悲しい結末が多いんだと思いますよ。男のお笑いだって、たいてい最後は悲劇に終わりますからね。「いいかげんにしろ！」みたいな（笑）。

つまり、男の好きな娯楽は最後は悲劇なんですよ！（杉作）

――それって悲劇なんですかね（笑）。

杉作　悲劇でしょ。だから、男のお笑いの最後は「ええ〜っ？」で終わるんですよ。もしくは「うわーっ！」とか「悔しいです！」みたいな。

掟　えっ、それも悲劇？

杉作　（気にせず）こんなこと言うと女性に怒られるかもしれないけど、ディズニーとか女性が好きな映画はたいてい最後はハッピーエンドですよ。で、「悔しいです！」で終わるのが男の世界ですよ。つまりね、男の好きな娯楽は最後は悲劇なんですよ。だから西郷隆盛も坂本竜馬も途中で死んだから伝説になって男に好かれるんでしょ。あれが最後、明治になって総理大臣とかになってたら、あそこまでの評価は……あそこまでって、僕も『篤姫』観ただけだからよくわかんないですけど（笑）。

掟　『篤姫』でようやく日本史を知ることができたと（笑）。

杉作　そうそう（笑）。最後まで描かれるのは途中で暗殺されたり死んだ人ですから。やっぱり男はそういうの好きなんですよ。男は勝った人より負けたほうが好きなの。よく滅びの美学って言うけどね、そんな感じですよね。プロ野球やボクシングなんかでもそうじゃないですか。プロレスなんかとくに負けたほうに感情移入しますよね。こないだの1・4ドームでも秋山（準）に負けた中西（学）のほうが感情移入できましたし、タッグマッチですけど、負けた三沢（光晴）さんのほうが感情移入できた。だから、ノアに感情移入できましたよ。



おきて・ぽるしぇ■1968年5月3日、北海道出身。テクノポップバンド、ロマンポルシェ。のボーカル&説教担当。ステージ上から「男とは?」を熱くアジテートする。JPOPクラブイベント『申し訳ナイト』でDJとして活躍中。ご存知のように本誌でもコラム『萌え萌え女々苑』を連載中。

すぎさく・じぇいたろう■1961年9月26日、愛媛県出身。『ガロ』で漫画家として活躍、また『トゥナイト』などではちょっとエッチなタレントとしても出演、LL COOL J太郎としてラッパーとしても活動、一時期はFMWにも深く関わっていたが、最近は男の墓場プロで映画制作を行なう。

それほど長生きしないのは男にとって必要なこと！（掟）

掟　いまはノアのほうが分が悪いですもんね、テレビ中継も終わるし。

杉作　頑張ってほしいですよ。ここからですよ、ノアは！　そのためにノアって名前がついてたかもしれない。

掟　ここからさらに方舟が出るんですか（笑）。

杉作　さらに！

掟　脱出！　なんか景気悪そう（笑）。

杉作　寅さんなんかもそうでしょ。寅さんって50回近くやってるけど、一回もファ○クまでいってないですからね。それだけチャレンジしてファ○ックにたどり着かなかったらたいていの男はホモになりますよ！　それでもホモにならずに頑張った一人の男がいた、と。

掟　『男はつらいよ』って、ホモにならなくてよかったっていう映画だったんですね（笑）。

杉作　簡単にファッ○できてたら、男子の共感はそこまでいかないですよね。

掟　「なんだよ、全然つらくねぇじゃねえかよ」って。

杉作　そういう意味でも、男の映画っていうのは悲劇のほうがいいんじゃないですかね。ハッピーエンドで終わらないから続編もあるわけですし。

玉木　お疲れさまです！

杉作　お、戻ってきた！　彼がさっき話をしてた玉木です。

掟　財布は見つかりました？

玉木　はい、ありました！

杉作　中身はどうだったの？

玉木　盗られてなかったです。拾ってくれたのが凄くいい人で、「お礼もいらない」って名前も名乗らなかったみたいで。

掟　世の中捨てたもんじゃないですね。

杉作　最後にいい男の情報が飛び込んできましたね。

掟　男は「礼なんかいらねえよ」と。

杉作　これこそが男ですよ！

――男は悲劇が似合うということでしたけど、ハッピーエンドでしたね。

杉作　あ、そうか！　おまえ、もう一回、財布落としてこい！

玉木　そ、そんなぁ……。

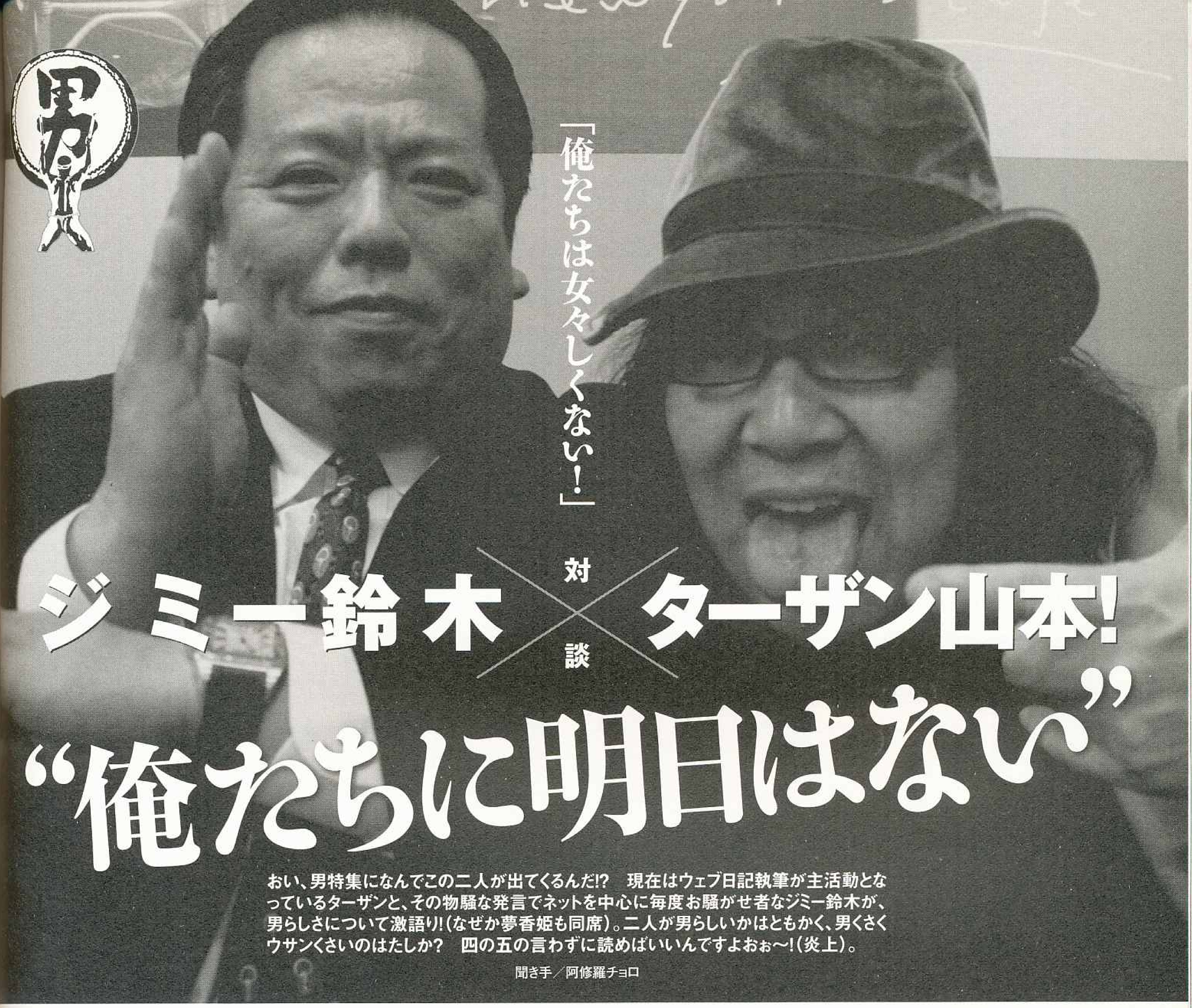
杉作　ちょっと無理がありますけど、こんな感じでお開きにしましょうか？

掟　無理を通すのも男ですから！

【09年1月7日／都内・『kamipro』編集部にて収録】



左の青年が5万円入りの財布を落とした男の墓場プロダクション所属の大学生・玉木竜馬。杉作監督を慕って墓場プロの門を叩いた。現在、プロレス&格闘技界とも縁がある某アイドルに熱烈な片思いをしているらしい。



「俺たちは女々しくない！」

ジミー鈴木 対談 ターザン山本！

“俺たちに明日はない”

おい、男特集になんでこの二人が出てくるんだ!?　現在はウェブ日記執筆が主活動となっているターザンと、その物騒な発言でネットを中心に毎度お騒がせ者なジミー鈴木が、男らしさについて激語り！（なぜか夢香姫も同席）。二人が男らしいかはともかく、男くさくウサンくさいのはたしか？　四の五の言わずに読めばいいんですよおぉ〜！（炎上）。

聞き手／阿修羅チョロ

ターザン　チョロ！　なんだ、今回のテーマは？

――今回は〝男〟特集でして、ここ最近のマット界は、男を感じさせる選手が減ってるじゃないか、と？

ターザン　そんなもん、一人もいないよぉ！　……で、誰が出るん？

――天龍さん、前田さん、髙田さんの男気あふれるエピソードとか……。

ターザン　（さえぎって）3人とももう終わってるじゃない！

――いや、3人ともまだいまの選手にないカリスマ性がありますよ。

ターザン　男というのは矛盾と混沌に満ちあふれた現代に生きてないとダメだよ！　過去の栄光とかは一切関係ない。いまの時代の空気の中でそれを確実にシュートしてないと男とは言えないよ！

――と、『週刊プロレス』編集長という過去の栄光にしがみつきながら、ネットの日記で「食糧を恵んでくれ」と女々しいアピールしてる人が言っています。

ジミー　そうそう。あれはよくないよ、山本さん！

ターザン　あんなもん、フェイクですよぉ！

ジミー　あれはフェイクなんだ（笑）。

ターザン　日記に書いてることなんて、あれはみんなフェイントなんだよ。そんなフェイントに引っかかるほうが悪い。

ジミー　でも、「旅行に連れてって」とか「しゃぶしゃぶが食いたい」とか毎日のように書いてるじゃないですか。ああいうのもフェイント？

ターザン　俺がほしいって言ったらホントに来るんだよ！　一番驚いたのは「風呂入りたい」って書いたら銭湯の回数券が来たもんな。

――「驚いた」って、自分でほしいって要求してるくせに。

ターザン　いや、ほしいというより必要だったの。「必要だなあ」ってつぶやいただけ。自分もやってみりゃいいんだよ。チョロ！　おまえも書いてみろよ！

――参考になります！

ジミー　でもさ、人に「なんかちょうだい」って言えばもらえるってうらやましいよなぁ。

ターザン　「家が寒い」って書いたらヒーターを送ってくる人もいるし、このあいだは「キャバクラ行きたいな」って書いたら招待してくれたよ。その日のキャバクラ代は6〜7万もかかったよ〜！（なぜか得意げ）。

――まだ、そんな奇特な方がいるんですね。それにしても、ジミーさんはターザン日記をよく読まれてるんですねぇ。

ジミー　うん。毎日読んでる。

ターザン　おまえも暇だよなぁ。あんなもん読まなくていいんだよ！

――山本さんはプロレス雑誌の仕事が皆無でおなじみですけど、ジミーさんも最近はプロレス仕事は激減したみたいで、航空会社で働いたりして、いろいろと大変みたいですね。

ジミー　そりゃ大変だよ。プロレスじゃあ全然食えないから。

――そのへんの事情は山本さんと同じくブログでよく書かれてますけど、ジミーさんのブログって、いろんな問題もあって、しょっちゅう閉鎖や復活を繰り返してますよね。

ターザン　彼は、なんか知らないけ

人生のクライシスはもう11年前に起きてるわけですよ!（ターザン）

どノアのことを異常に執念をもって書くんだよ。ノアはプロレスマスコミ的には聖域で触れちゃいけないアンタッチャブルな団体なのにね。

ジミー　そんなのみんなチキンだから書かないだけでしょ。

ターザン　チキンじゃなくても書かないよ!　俺はちょっぴり書くけど。

ジミー　書くって言ったって俺から言わせりゃサビ抜きじゃん。

――でも、ジミーさんは、ここ最近はなぜかノアのことをメチャクチャほめまくってるんですよね。その裏側で何があったのか、ごくごく一部では話題になってるみたいですけど。

ジミー　（急に顔色が変わって）そのネタは今日はダメよ。なぜかっていうと、手の平返したのはガチンコかフェイクかって聞かれたら俺は答えようがないわけ。もし「フェイクだ」って俺が答えたとしたら嫌な思いする人もいると思うし。で、逆に「ガチンコだ」って言ったら、こっちも嫌な思いをする人がいる。だからグレーゾーンにしといたほうがいいわけ。謎にしといて「想像にお任せします」の世界にしておかないと。

ターザン　なんだよ、それ!　しょっぱいなぁ、おまえ!　で、テーマはなんだっけ?

――「男の中の男」です。

ターザン　それはハッキリしてるよ。答えはもう一つしかない!

――なんでしょうか?

ターザン　いまは100年に一度の経済危機で、トヨタや日産も売り上げが落ちてきて、派遣切りとかいろいろあるじゃない?　要するに大企業にくっついてた下請け企業も、フリーターで生きていた人たちも、地球上全部が苦しくなったわけですよ!　そんな中で平気な顔をして生きていけるのが男ですよ!

ジミー　いまや、苦しいのはプロレス界だけじゃないからね。

ターザン　こんなときにさぁ、社会状況と同じように気持ちがショボ〜ンと沈んでいったらそれは男とは言えない。このドン底の中でどうやってタフに生きていくか、あるいはこういうときこそ自分の生きるベクトルをハッキリとつかんでいくというか。それができるヤツが男だよ!

――で、自称・男の中の男の山本さんは大丈夫なんですか?

ターザン　俺なんかは11年前にもう人生のクライシス（恐慌）が起きてるわけですよ!　俺はみんなより完全に時代を先取りしてるから。

――クライシス先取りですか。

ターザン　取材拒否された、会社辞めた、カミさん逃げた……それはもう一気にビッグバン的に人生のクライシスが起こったわけよ!　みんなは免疫ないだろうけど、俺はもの凄い免疫力が高いよ!　だから、今頃になってジタバタしてる人を見て「ざまあみろ!」と思ってるわけよ。

ジミー　山本さんは10年ぐらい前から「プロレス大氷河期が訪れる」とか一番最初に言ってたからね。俺はそれに逆らいたかったんだけど。

――でも内心はそういう予感もどっかであったんじゃないですか?

ジミー　そんなことは絶対信じたくなかった。でも山本さんが氷河期とかどうのこうのって言ってからずいぶん長い時間が経ってから苦しくなった。それまでは踏んばってたけど。

ターザン　そんなもん『週刊ゴング』と『週刊ファイト』が潰れた時点でもうこの世界は終わりじゃない!

ジミー　終わったね……。だから俺なんか日本からお金もらえないから、いろんな国からもらって生きてるよ。

ターザン　ジミーは世渡り上手だからな。食っていくためにはどうすればいいかということだけは昔から天才的だったから。

ジミー　いや、全然世渡り上手じゃないですよ。ケンカしまくって負けまくって、ずっと必死こいて生きてるだけだから。

ターザン　いや、ジミーはケンカしてない。AがダメだったらB、BがダメだったらCに行こうって考えまくって30年間この世界でしぶとく生きてきたトカゲの尻尾みたいな男だよ!　ある意味、おまえは男だ!

ジミー　「ある意味」って、なんかトゲがあるよなぁ……（不服そうに）。

ターザン　ジミーはアメリカに住んでて組織にも属してないわけじゃない?　バックボーンもない中でプロレスの写真を売ったりスクープネタの情報を売って生き抜いてきた。本来なら、権力と闘ったり向かっていくのが男の姿なんだけど、ジミーは違うかたちで成功を収めたわけよ。それはそれで男だよ。違う?

ジミー　いや、俺だって闘ってきましたよ!　だってギャラの話とか、いっつもケンカですよ!　使うほうは安く使ったほうがいいんだから。

ターザン　だいたいジミーは頭の中はアメリカ人だから。なんだかんだいって日本人はお金の話はしない。彼はそれをズケズケ言うわけですよ。

ジミー　だって、食えねえじゃん、言わなきゃ。自分で自分を守るしかないんだから。

ターザン　俺なんかはお金の話は全然しないんだけど、ジミーは「人生はビジネスだ」とか「ビジネスはマネーだ」って思ってるからさ。そういう意味では、非常に男だと思うよ。

――でも、山本さんも『格闘二人祭り』のギャラの話とか女々しいこと言ってるじゃないですか。

ターザン　バカだなぁ、小銭ならいいわけですよ。かわいげがあって。

ジミー　なんか人のこと金の亡者みたな言い方するじゃん。ひでえなぁ。

ターザン　違うよ。おまえの生き方が正しいと言ってるわけ。あのね、この世界は最初から金にならないんだから。金がほしかったらほかの世界に行けばいいのに、プロレス界にしがみついてる連中ばっかりでしょ。

ジミー　そうですよね。でも金になったなぁ、昔は……（懐かしそうに）。

プロレス絶頂期の年収は、15万ドルぐらいだった（ジミー）

ターザン　彼は日本のマスコミ連中に比べるとホントに大、大、大金持ちだったから。（突然）おまえ、年収なんぼだった?

ジミー　え?　いつの話?

ターザン　プロレスで一番よかった時期。

ジミー　絶頂期は、年間だったら15万ドルぐらいかな。

ターザン　じゃあ、1800万ぐらいか。1800万ということは月収約150万だろう。フリーでそんなに稼ぐ人いないよ!　『週プロ』とか『ゴング』でもいるわけがない。

ジミー　俺、絶頂期は『FRIDAY』も頻繁にやってたし、『週刊プレイボーイ』の仕事もけっこうもらってたし、そういう時期もあったよ。それが今年はついに1000万を割っちゃったからね。大幅に割った。

ターザン　俺なんか、いま年収200万で生きてるからね。もう200万あれば充分生きていけるよ。

――たかりながら生きてるわけですからね。

ジミー　夢香姫とか女性との食事で割り勘は男らしくもなんともない。

ターザン　いまはレスラーもワンマッチ1～2万で試合に出てるわけよ。メジャーでやってた連中もちっちゃい会場に出てるし。あれなんか見てると悲惨だし、寂しいよ。でも、いま一番食えないのは長州力だろ。パチパチパチ!（手を叩いて喜ぶ）。

——山本さんよりははるかに食えてると思いますけど。長州さんは最近、西口プロレスにも出たみたいですね。

ターザン あ、そう。ホント、落ちぶれたというか……。そんなのもう俺のライバルでもなんでもないよ!

——さすがに長州さんは取り巻きにたかったりしませんけどね。

ターザン いや、人生においても俺のほうが全然格上だよ! 俺の勝ちだ～～ッ!(無邪気にピースサイン)。

——(無視して)ジミーさんはここ最近は韓国のプロレス団体に関わったりもしてるみたいですけど、プロレスで一発逆転もまだ狙ってるわけですよね?

ジミー いや、プロレスの逆転はあるかもしれないけど、プロレスマスコミの一発逆転はない。だから新しい仕事見つけたんだよ、俺は。

ターザン 偉いよ。そうやって考え方をチェンジして……ジミーこそ男の中の男ですよ! 要するに、みんなマーケットがないところにしがみついて生きてるわけでしょ。それは男とは言えない! この業界で生きていけないと思ったから、おまえはさっさと転職した。偉いよ!

ジミー この歳で経験のない業種への転職はきついよね。でも、明かしてないけど、最近のプロレスラーはバイトしてるみたいね。

ターザン みんなしてますよぉ! 女子プロレスラーだってコンビニとかで仕事してるじゃないの。それと同じようなことを男のレスラーがいまやってるわけ。でも食えないからってそれやってしまったら終わり。バイトするならプロレスは捨てて、ほかの仕事をやればいいんだよ。

ジミー 全然恥じることじゃないと思うよ、ほかの仕事をするのは。働くことは尊い。

ターザン 男は生きるためになんでもやらなきゃダメなんだからさぁ、何も恥じることはないんだよ!

——山本さんも、生きるためにお布施を要求してますしね。

ターザン (無視して)男っていうのはそうやって過去に見切りをつけるんだよ!

——女性関係とかも一緒ですかね?

ターザン いや、それはダラダラがいいわけですよぉ!

——未練がましくしてますもんねぇ。

ジミー いや、女性関係はスパッといかないとダメだな。俺なんかはスパッといったよ。昔は楽しかったなぁ……(しみじみと)。

ターザン ジミーはタイでよく遊んでるからな。

——井上譲二さんに、あるムック本でタイでの女遊びネタを書かれたりしてましたよね。

ジミー あれは事実無根だよ! 俺が行くのは純粋なマッサージだから。

——まあでも、女好きっていうのも、ある意味、男らしさの象徴というか。

ターザン 万国共通、男はみんな女好きだよ!

ジミー でも俺も最近は行動を起こさなくなってきた。

ターザン だって、こんな太ってたらモテないよ。横綱みたいだもん。

ジミー なんだよ、それ! そんなこと言うんなら意地でも金星(※業界用語で、いい女)連れてこようかってなるよな。

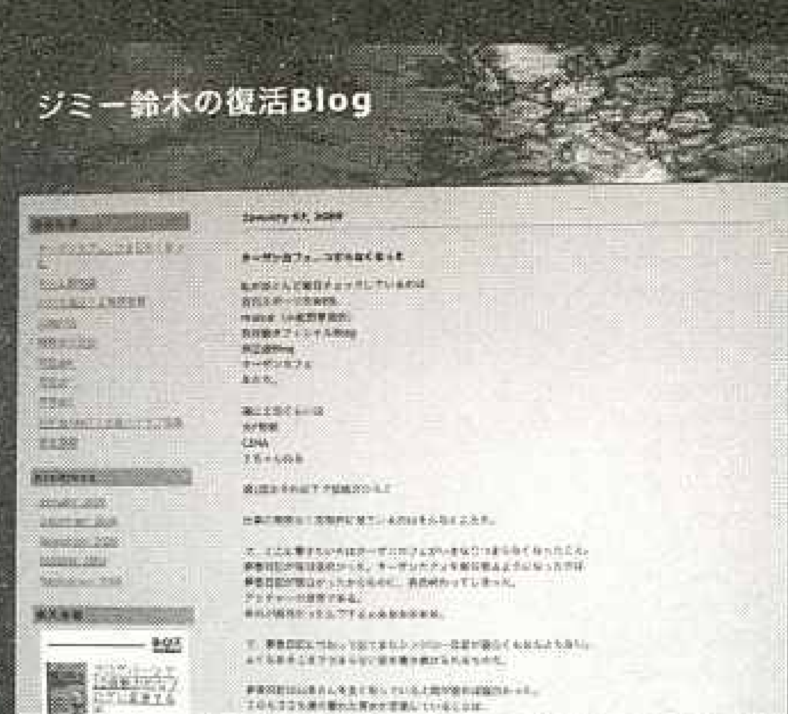
——山本さんはモテてるんですか?

毎度おさわがせします!
ターザン&ジミー日記とはなんだ!?



最近は基本的に自画自賛、年寄りの愚痴、物乞いが主な内容であるターザン日記(正式タイトルは「煩悩菩薩日記」)。そのほかにも女流作家ふうの夢香姫のコラムや、「ひとこと塾」塾生の湊クンによる『シンジロー日記』が連載中、ターザンワールドを堪能できる。

『ターザンカフェ』
http://www.ibjcafe.com/talk/content/tarzan/



2ちゃんねるに実名で降臨するなど、マスコミの中でもネット活動に人一倍熱心なジミーによるブログ。物騒な発言によって一時閉鎖と復活を繰り返す。なお、ジミーは熱心なターザンウォッチャーでもあり、その日記の感想がブログにもたびたび登場している。

『ジミー鈴木の復活Blog』
http://blog.livedoor.jp/jimmysuzukiusa/index.rdf

男ってのは過去に見切りをつけなきゃダメなんだよ!(ターザン)

ターザン モテるとかモテないとかもう興味ないよぉ!

——夢香姫がいれば充分だと?

なぜか同席した夢香 ううん、私より馬のほうがいいみたい。

ターザン ………(なぜか無言)。

——なんか触れてはならないみたいなんで話題を変えますが、いまのマット界で「こいつは男だ!」って思うような人は誰かいます?

ターザン そんなもん、鈴木みのるですよ! アイツは世の中がどうなろうと関係なしにとにかくプロレスを楽しんでる。もう団体がちっちゃいとか大きいとか関係ないわけ。自分が出ていくところがメジャーというか、「俺がメジャーだ」と思ってるわけよ。アイツはいまの時代の究極のスーパーヒーローですよ!

ジミー 俺から言わせると、西村修と渕(正信)さんも男だよね。

——西村さんが全日本に入ってからは、よく二人で飲みに行ったりしてるみたいですね。

ジミー そうそう。やっぱ男は酒飲んで、星キメなきゃ。それに、俺なんかもそうなんだけど、ジェームズ・ボンドが彼らのヒーローなんだよ。ジェームズ・ボンドのムービーから男たるもののヒントを得ながら、男であり続けるために、一生懸命実践してる二人は男だなと思うよ。

ターザン もう一人いる。やっぱり、男っていうのは成功しなきゃいけないわけ。ドン底のプロレス界で唯一全国を巡業して赤字を出していないドラゴンゲートの岡村(隆志)社長は成功者ですよ。あの人は男だよ!

ジミー ドラゲーは木戸(亨)専務による部分も大きいと思うけどね。

ターザン 岡村社長は馬場、猪木を超えたよ。経営者として。

——馬場、猪木を超えましたか!

ターザン 完全に超えてる。岡村社長っていうのはこの世界で初めてホントのビジネス感覚を持ってプロレス団体を成功させた人だと思う。だって、俺、『週プロ』辞めて10年以上経ってるのに、岡村社長は年2回のお中元とお歳暮を欠かさずに送ってくるんだから。

——肩書きがなくなったら、そういった贈り物も減っていった、と?

ターザン もう、ドーンとなくなったわけですよ! 『週プロ』を辞めたらサーッと消えたわけ。でも、岡村社長はいまでも年2回送り続けてくる3人のうちの一人。それは男の中の男だ、と。

——お中元とお歳暮をくれるから男だ、と。

ジミー 俺も似たような経験してるよ。というのは、日本のプロレス媒体の第一線を退いたとき相手にしてくれなくなったところがいくつもある。そんな中で手の平を返すことなく、逆にいいスタンスでずっと付き合ってくれてる人間たちって、やっ

ぱりドラゲーなんですよ。あとは武

なるんだけど、「北斗がいての自分」

ずっと会ってないじゃん。二度と会

みんな下がります」って言って然る

ターザン山本

ジミー鈴木／ターザン山

ぱりドラゲーなんですよ。あとは武藤敬司も手の平返さなかった。そういった人たちは男だと思うよな。

ターザン　武藤はプロレスがムチャクチャ好きだから。ヒザなんてもうボロボロになってもやってるわけでしょ。武藤も男の中の男だよな。

ジミー　だから、全日本はよく経営危機だって言われたりもするけど、武藤は投げないからね。そういう意味では武藤が言ってる〝プロレスLOVE〟はガチンコなんですよ！

ターザン　会社たたんじゃえば自分だけなら食っていくのは全然できるわけ。それなのに社長として会社の面倒見てるってところが男だよな。そういう意味では神取(忍)も男だよ。

——は？　それはネタじゃなく？

ターザン　ネタじゃないよ！　神取は自分が芸能とかで稼いだお金を全部LLPWに奉仕してるわけ。それは議員になる前からだよ。

——神取さんもプロレスLOVEがあるわけですね。

ターザン　ハートというか心意気だよ！　そういうものが一番美しいわけ。男というのは利害を超えた美徳がなきゃいけない。そういう行為とハートを持ってるのが男だよ。もう一人挙げるとしたら……。

——どんどん増えますねえ。

ターザン　やっぱりね、あげまんをつかむのが一番の男だよな。

ジミー　どういうことですか？

ターザン　そんなもん決まってるじゃないか、佐々木健介だよ！　北斗はあげまん女王と思わない？　健介は、ある意味、北斗の力で有名になったわけ。普通なら「俺が俺が」ってなるんだけど、「北斗がいての自分」っていまは完全に割りきってる。

ジミー　「そうですね」ってニコニコできるのが健介のいいところだね。俺は、健介ってカルガリーの修行時代から礼儀正しいいいヤツという印象だけどね。彼が先輩にかわいがられるのはとってもわかるよ。

ターザン　WJが潰れて一皮剥けたね。要するに持ってた貯金を全部金網マッチ（『X－1』）で使ってドン底に落ちたんだよ。北斗が必死になって「持っていかないで」って言ったのに健介は金を出した。これは男ですよ！　で、すっからかんになったところで逆に自由になったわけ。男ですよ、健介は！　……あとは俺ぐらいじゃない？（真顔で）。

——（無表情で）夢香さんという究極のあげまんもいますしね。

ターザン　男っていうのは、自分の信念とか生き方を曲げるというのはダメだよ。それが、プロレス界なんて、ケンカしてもすぐ仲直りしたり、食えなくなったら握手したりとか、ホントくだらなすぎるよぉ！

——山本さんは信念を曲げたことはないと？

ターザン　だって、天龍や長州とはずっと会ってないじゃん。二度と会ってないもん！　前田日明ともほとんど会ってないじゃない？

——会えないともいいますけど。

ジミー　でも、仲田龍と握手してるじゃん。

ターザン　いや、龍ちゃんはSWSができて全日本が困ったときの戦友だから。龍ちゃんと天龍、長州とは、また別の話だよ。



じみー・すずき■1959年、東京都出身。大学2年時（79年）の初渡米と同時にプロのカメラマン兼ライターとしてデビュー。82年にテキサス州サンアントニオに留学し、プロレス取材活動を本格的に開始。『週刊ゴング』、『週刊ファイト』などを中心に世界を"股"にかけた活動を続けていたが、プロレス不況の煽りを食らい、現在は航空会社に勤務。

たーざん・やまもと■1946年、山口県出身。『週刊プロレス』編集長として80年代末から90年代半ばにかけて、プロレス界に絶大なる影響力を持つ。しかし96年に『週プロ』編集長の座を追われると、妻子にも逃げられ、どん底にたたき落とされる。01年に私塾「一揆塾」を立ちあげるが、現在は休止状態。08年は2冊の本を執筆するが売り上げは……。

ジミー　まあでも、俺から言わせたら仲田龍も男の中の男だよ。

ターザン　どういう心境の変化だ、それ？（笑）。

ジミー　いやいや、なんでかっていうと日本テレビが3月で放映打ち切りになるってことで『週プロ』にコメントを求められたとき「次の契約更改でギャラが上がる選手がいる」って仲田龍は言ったんだよ。「当然みんな下がります」って言って然るべきのところ、自分の給料を削ってでも上がる選手を作ろうっていう心意気は、これは男の中の男でしょ！

ターザン　なんだよ、気持ち悪いなぁ。昔はボロクソ言ってたのに（笑）。

ジミー　いまはそう思ってるから。

ターザン　へぇ～。（唐突に）じゃあ、もう終わりにしようか。

ジミー　「じゃあ」って、なんですか⁉　それに山本さんばっか、しゃべってるじゃん！

ターザン　しゃべらない、おまえが悪い！　全然、男らしくないよ！

ジミー　だって、俺がなんか言おうとすると山本さんが邪魔するからしゃべれないんだよ！

ターザン　だから、みんな嫌がるんだよね。俺の一言で世界が決まっちゃうもんな（満足げ）。

——え～、とりあえず、2009年のお二人のご活躍を期待してま～す。

ターザン　おまえなんかに期待されなくても、俺は自分の好きなように生きる。俺は俺で生きるから、おまえらはおまえらで勝手に生きろ！

——あ、そうですか。とりあえず生きてってくださいね。ジミーさんの2009年の抱負は？

ジミー　また旅しまくるよ。旅しなくなったら俺は人生終わりだと思ってるから。死ぬまで、ずっと世界を飛んでいたいんだよ。飛行機のビジネスクラスやファーストクラスに乗って旅してるのが一番の幸せだから。

ターザン　わかった。おまえはずっと飛行機に乗ってろ！　以上!!

ジミー　どんな締めですか、それ！

【08年12月27日／都内・水道橋の喫茶店にて収録】

ターザン山本　またしても破局か⁉

ここ1年のターザンを語るうえで欠かせない人物といえば、28歳年下の恋人とされる古関夢香さん（通称というか自称・夢香姫）。『ターザンカフェ』内に掲載されたターザンと夢香姫の日記は、いろんな意味で反響を呼び、『62歳のボクに28歳年下の彼女ができたのだ！』（ロコモーションパブリッシング刊）なる共著を出版するなど、商業媒体での活躍がほぼ皆無だった08年のターザンにとって、唯一にして最大の話題がこの夢香姫とのバカップルとしての活動だった。

しかし、DREAMの会場にプレスパスで夢香姫を入場させ、サダハルンバ谷川に「おい、谷川！　彼女、34歳！」と、28歳年下の彼女を自慢していたこともいまは昔。大晦日に一緒に映画を観に行って以来、一切連絡は取っておらず、現在は音信不通状態になっているというのだ。

そもそもこのカップル、本当に恋人関係にあるのか、以前から懐疑の目が向けられていた。毎日アップされる夢香日記や、本誌127号でのターザン山本&古関夢香インタビューを読んでもわかるとおり、夢香姫からターザンへの愛というのは、まったく感じられないのだ。

その代わり嫌というほど感じるのは、夢香姫の自己顕示欲と自意識過剰ぶり。ターザンとの関係は、ターザンとともに自分が雑誌やラジオなどのメディアに出られる、本が出版できるなど、打算的なものではないのか。共著さえ出してしまえば、〝表面上〟の恋人関係を解消するのではないのかと『ターザンカフェ』の熱心な読者からは、以前からささやかれていたのだ。


そして事実、共著『62歳の～』が出版されて以降、二人の関係が急速に疎遠になったことが日記からもあきらかになる。ターザンという恋人がいるはずなのに夢香姫は、以前いた職場の上司と平然と温泉旅行に行き、あまつさえターザンの文章講座『ひとこと塾』の幹事長であるにもかかわらず、別の文章講座に通い始めたのだ。

こうして恋人関係解消は時間の問題と思われる中、大晦日、夢香姫は日記上で「ターザンワールドからの卒業」を表明する。これ以降、夢香姫からターザンへの連絡は一切なし。「さよなら」さえも言わずにフェードアウトという、衝撃の結末。ターザンはまたしても恋人に逃げられてしまったようなのだ。

しかも、この夢香姫と付き合ってから、それまでターザンの周りにいた人たち（元文章講座の生徒たち）は、いっせいにターザンから距離を取り出した。ターザンはそれら旧取り巻きを切り捨ててでも28歳年下の恋人を取ったはずなのに、結局、夢香姫にも去られ、そして誰もいなくなった状態になってしまったのだ。

なお、この対談は夢香姫の卒業宣言がアップされる直前である12月27日に収録されたもの。この対談の席に呼んでもいないのに夢香姫は同席している。これはもちろん「恋人の職場についてきちゃった」という憎めない理由ではない。ターザンがひさびさに商業媒体に出るので、自分も一緒に出たい、また3カ国語を操るトライリンガルであり世界を飛び回る国際派であるジミーと再会したいという、じつに現金な理由であろうことが、いまになってみるとよくわかるのである。アチャー。

はたして、09年のターザンはどうなるのだろうか……。



男特盛 佐伯繁

ボリュームたっぷりの男気エピソード大放出!

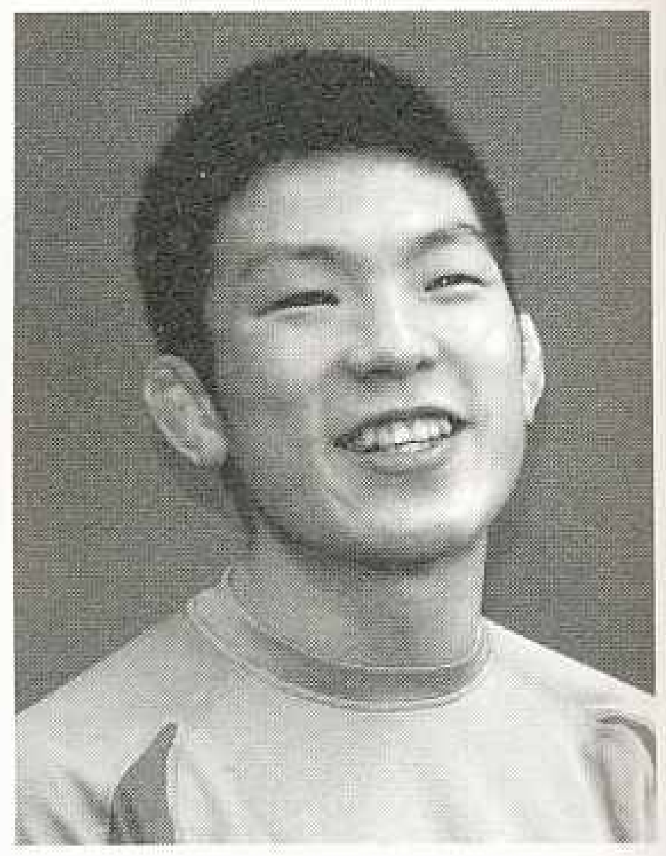
マット界の男気あふれる男たちのエピソードを紹介する今回の"男特集"。
そのトリを務めるのはこの男、DEEP佐伯繁代表だ。
格闘技界には「佐伯さんのためなら!」と言ってはばからない
選手が多くいるというが、はたして佐伯繁は本当に男なのか?
その真実を解明すべく、佐伯代表ゆかりの人物に裏づけ調査を敢行!
最後には本人による自画自賛(?)インタビューも収録!!

構成/阿修羅チョロ

佐伯繁 “男”エピソード・ファイター編

1 Episode 「菓子を盗み食いするのはどうかと思う」

DREAMの大黒柱 青木真也



佐伯さんが素敵な男だなって思うのはやさしさですね。それに情がある。たぶん、それはボクだけじゃなくて、佐伯さんと付き合いのある選手はみんな言うと思いますよ。

佐伯さんはDEEPの代表だったり、DREAMでは広報をやったり、M—1チャレンジではチーム・ジャパンの監督を務めたりしてますけど、立ち位置的にはプロモーター側の人じゃないですか。普通はファイターとプロモーターって、どうしても話が合わない部分が出てくるんですけど、佐伯さんは結果的に選手側に立ってくれるというか。そういうところが選手からの信頼が厚いところでしょうね。

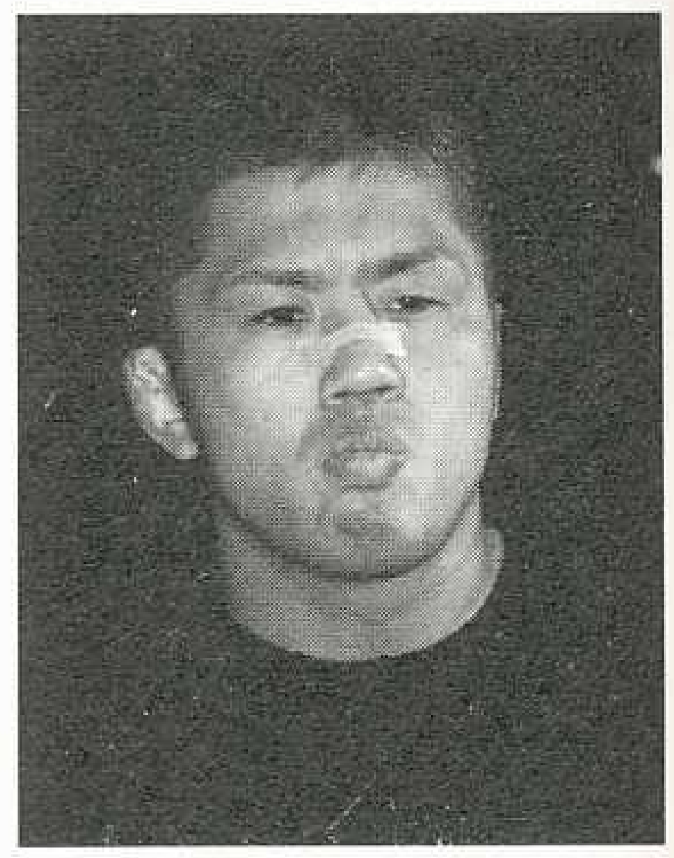
それに佐伯さんって、選手を食わせてあげようっていう気持ちが凄く強いんですよ。そこがほかの団体のプロモーターとの一番の違いなんじゃないですか。ボクはそういう世界とはちょっと違うところにいたので、佐伯さんといえば、そこの部分を強く感じますね。

そうそう！ 佐伯さんっていいところばかりじゃないですからね。つい先日メチャクチャ、ヒドイことされたんですよ！

ある人から大きな箱入りのモナカをもらったんですけど、それをDEEP事務所に置きっぱなしにして外出したんですよ。時間にして3時間ぐらい。で、戻ってきたらモナカの封が開いてて。しかも、よく見たら2個ぐらいしか残ってないんですよ！ 事務所には佐伯さんしかいなかったんで、「このモナカ、俺のだって知ってて食いましたよね？」って聞いたら「そうだがや。しょうがないじゃん、食いたかったんだもん」って開き直って言うんで、「あ、そうですか。もういいです」って言ったら、結局、残ってた2個もペロリとたいらげちゃいましたから。そういうところは、ちょっとどうかと思いますけどね！

2 Episode 「僕には外見がカッコよく見えますね」

DEEPの鬼 滑川康仁



佐伯社長って見てくれというか、あの体型は普通に見たらカッコ悪いじゃないですか（笑）。でも僕はメチャクチャ、社長の外見がカッコよく見えるんですよ。

僕はだんだん歳を取ってきてから人の見方が変わってきて、いまは人の表面じゃなくて人間力っていうのに興味があるんです。『ハッスル』の社長の山口（日昇）さんは以前、誌面でリングスロシアのおっさんたちを人力（ひとぢから）という言い方をしてましたけど、社長の人力もハンパじゃないですよ。

社長と話をするとツバを飛ばしまくるんで、よく服を汚されるし、社長の家の便所はウンチだらけで凄く汚いんですけど（笑）、僕から見ると、あの人は凄くカッコいいというか憧れですね。将来的には社長のお役に立ちたいっていう気持ちもあるんですけど、いまはまだ僕にそういう実力がないんで何もできないですけどね（苦笑）。

社長のことを「やさしい」って言う人が多いじゃないですか？ でも、僕はしょっちゅう叱られるんですよね（苦笑）。たまに「これはちょっと理不尽なんじゃないの」って思うこともあるにはあるんですけど（笑）、だいたいは怒られても納得できるというか。

それと社長が凄いのは、とにかく計算が速いんですよ。数学的な計算じゃなくて、先の読み方が速いんです。僕は考えるのが遅くて躊躇しちゃうほうなんですけど、困ったときに社長に振ると、すぐに計算して答えが返ってくるんで。そこが男として憧れるというか「スゲーな」って思うところですね。

あと、社長に男を感じるのは普通の人以上に女好きってところですかね（笑）。それと、糖尿でかかりつけの先生から「食生活は気をつけてください」って何度も言われてるのに、あまり気にせず食べまくるっていうのもある意味、男らしいのかもしれないですね（笑）。

3 Episode 「利益を優先せず選手のことを考える人」

ピラニアUFCファイター 長南 亮



佐伯さんっていうのは、ホント見たまんまの人だと思いますよ。どっちかというとキャラ的には〝男〟っていうより〝トトロ〟の部類に近いんじゃないかと思うんですけどね（笑）。

もちろん、人としては凄くお世話になってる方だし、やさしいところもあるし、その反面、厳しさもしっかり持っている方だとは思うんですけど、俺のイメージする〝男〟ではないです。

格闘技関係者の中では、選手の話を凄く聞いてくれるし、自分の言ってることも理解してくれるし、そういうところは素晴らしいと思います。……ただ、自分よりも強い関係者には弱いんですよね（笑）。みんなそうだと思うんですけど、佐伯さんは人と揉めるのが好きじゃないみたいで。そのくせ揉めても問題なさそうなところでよく揉めてますね。「なんでこんなことで？」っていうタイミングで、いきなり怒りだしたり。相手を選んでなんですけど、たまにドSになるのがおもしろくて（笑）。自分ですか？ 俺は直接怒られたことは一度もないですね。

でもマジメな話を言うと、佐伯さんがいなかったら日本の格闘技界は大変なことになると思いますよ。この業界には、自分の利益を優先せず、選手のことを考えて行動するっていう佐伯さんみたいな人はほとんどいないんで。だいたいの人が、いい車に乗ったり、いいものを着たりとか、いいものを食ったりしたうえで、業界のことを考えるっていう感じで。そういう中で、佐伯さんは贅沢も何もしないで選手のことを一番に考えてくれますからね。まあ、昔、お金があった時期にさんざん贅沢はしてきたんだと思うんですけど（笑）、そういうことにあまり価値を置いていないみたいで、自分のイベントに関わってる人たちのためにっていう気持ちが大きい人ですね。

そういった部分は尊敬できるんですけど、ただやっぱり〝男らしい〟とは思わないです（笑）。

佐伯繁“男”エピソード・関係者編



4 Episode

「業界で一番“格闘技LOVE”のある人物です」

DREAMイベントプロデューサー

笹原圭一

佐伯さんの男らしいところですか? やっぱり、お金がなくなっても格闘技イベントをやり続けてるってところじゃないですか（笑）。

佐伯さんの名前はDEEPが旗揚げする前からよく耳には入ってきましたけど、当時は「PRIDEをブッ潰す!」みたいなことを言ってたんで、どっちかというと、いや、あきらかに敵でしたね。「名古屋のお金持ちが新しいイベントを立ち上げる」とか「一発目はグレイシーを呼ぶらしい」みたいな話が入ってきて、「クソッ、何者だ!?」みたいな感じで思ってましたね（笑）。

旗揚げ戦は当然ノウハウもないし、経費もいっぱい使っていたみたいで、○千万の赤字を出したらしいんですけど、佐伯さんは全然平気だったみたいですからね。どこの業界もそうだと思いますけど、お金持ちが新規参入してきても、一回大きな赤字を食らうとやっぱり長続きしないじゃないですか。その点、佐伯さんは格闘技やプロレスが好きだったっていうのが一番の原因なんでしょうけど、それでもずっとやり続けて、PRIDEがこういう状況になっても、いまだにDEEPは健在じゃないですか。なので佐伯さんの当初の目標は、ある意味達成されてるわけですよ。だから、僕なんかはPRIDEがこうなったのは佐伯さんの怨念のせいなんじゃないかと思ってます（笑）。まあでも、どんな苦境に立たされても逃げずにやり続けるって、やっぱり男らしいって思いますよ。

個人的には、この業界で一番格闘技LOVEがあるのが佐伯さんだと思いますし、谷川さんも「佐伯さんって、ホントに格闘技が好きだよねぇ」って言ってましたから（笑）。

佐伯さんは面倒見がよくて、痒いところにも手が届くし、最後まで守ってくれる人なんで、選手からの信頼が厚いのはよくわかります。日本人選手はもちろんですけど、日本でデビューさせてもらったってことでゲガール・ムサシにまで慕われてますからね（笑）。

佐伯さんと一緒に仕事をするようになって、けっこう経ちますけど、ケンカしたり揉めたりした記憶はないです。PRIDE時代、佐伯さんが会場で某関係者と大喧嘩してるのは見たことありますけど（笑）、僕は佐伯さんのことが凄く好きですし、男としても魅力のある人だと思いますね。それに、ああいうタイプは女にもモテますよ。凄くマメだし、見てくれはああいう感じですけど、逆に安心感もあるだろうし、女の人は惚れると思いますね。実際にモテてるみたいですし、佐伯繁お盛ん伝説はよく聞きますからね。詳しくは言えないですけど（笑）。

最後にマジメなことを言わせていただくと、僕は佐伯さんとは運命共同体だと勝手に思ってるし、これからもずっと一緒にやり続けていくことになると思うので「今後もよろしくお願いします!」って感じですね。

©DEEP事務局



5 Episode

「一番信頼できるのは絶対逃げないところです」

DEEP事務局

木下雄一

佐伯さんのことは2001年1月のDEEP旗揚げ戦の頃から知ってるんですよ。あの大会では5000万以上赤字が出たってことですけど、まだあの頃の佐伯さんは余裕がありましたね。僕は当時UFC—Jに関わってたんですけど、旗揚げ戦は勝手に観に行って、選手が泊まってたヒルトンホテルに勝手に泊まってDEEPにつけて帰ってきたんですけど、何も言わずに払ってくれましたからね（笑）。

僕が仕事としてDEEPを手伝うようになったのは4回目からなんですけど、その頃はすでに佐伯さんはお金はなくなっていたんで、残念ながら金持ち時代の恩恵はまったく味わってないんですよ（笑）。ただ、その頃も佐伯さん自身は金持ち体質が抜けなくて、どこに行くのもタクシーだったりしてましたね。

なんだかんだ、旗揚げからもう8年経ちますけど、それでも続けているっていうのは、やっぱり佐伯さんは格闘技が好きなんだと思いますよ。最初の頃は格闘技以外にも仕事をしてましたけど、いまは格闘技を生活のすべてにしちゃいましたからね。

もう付き合いは長いんですけど、本気で揉めたことはないですね。ただ、事務所のペットボトルを誰が片づけるかとか、どうでもいいことではよくケンカしますけど（笑）。

この人は凄いって思うのは、なんでも自分でやることじゃないですかね。会場のイス並べとかもやってますし、あとは凄いマメだなというのは感じますね。午前中以外は何時に電話しても通じるし、会見中でも「かけ直す」とか言って普通に電話に出ますからね（笑）。

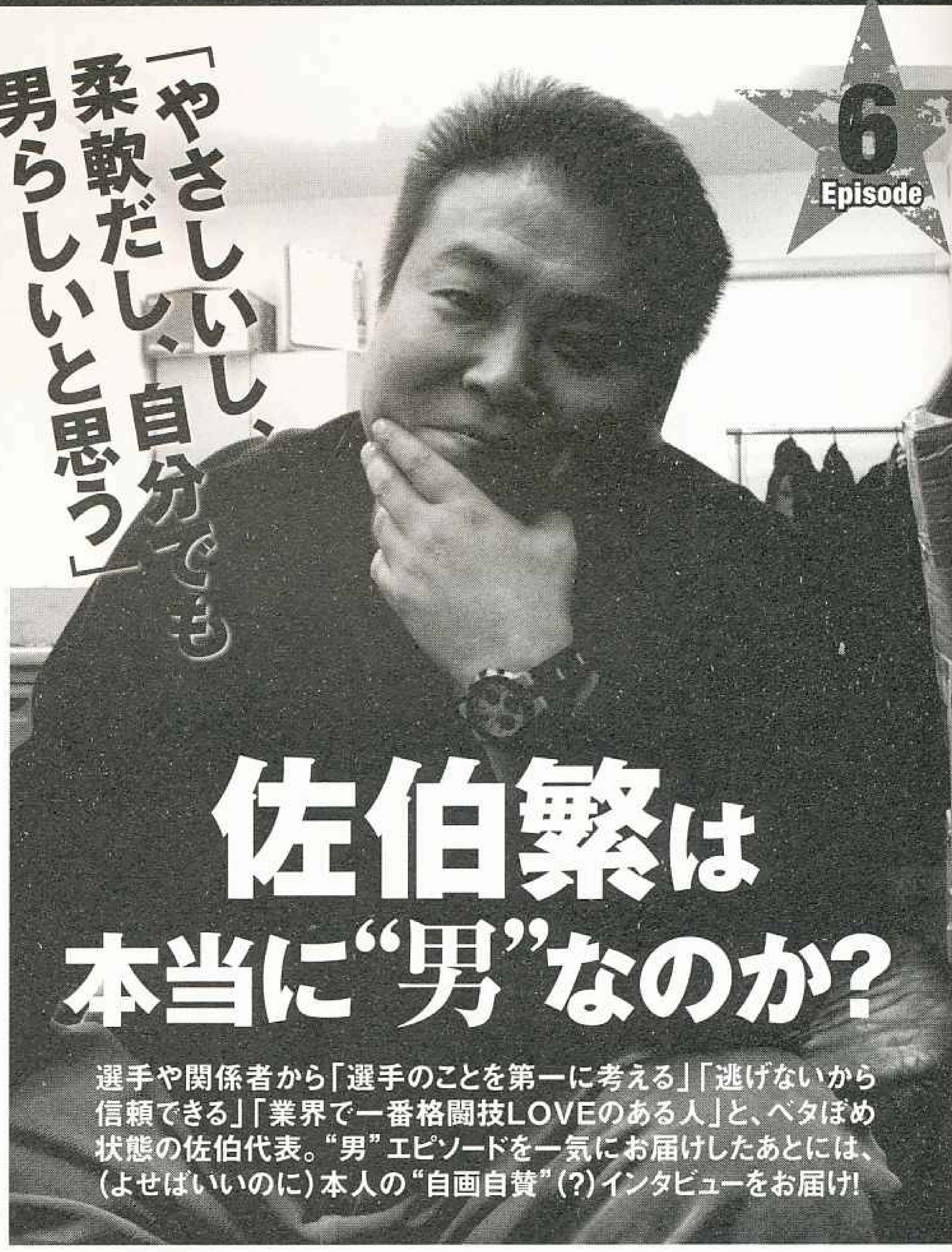
選手の信頼が厚いっていうのもわかりますね。長南がUFCに行きたいって言ったときも、自分の団体のチャンピオンなのに本人の希望を尊重して快く送り出したり、DEEPの枠がいっぱいで試合が組めないってなったら、ZSTやパンクラスとかで試合を探してあげたりしますからね。

それに佐伯さんって絶対逃げないんですよ。一緒に仕事をしててもそこが一番信頼できるというか。この業界は逃げるか、ケツふきまで全部振られちゃうことが多いですから（苦笑）。選手からの信頼もそうですけど、これだけいろんな団体だったりイベントと付き合っているっていうのは、やっぱり人間的な魅力も大きいからでしょうね。

ただ、身近にいて心配なのはやっぱり食生活ですよね。酒を飲まないからっていうのもあると思うんですけど、疲れたりイライラしたりするとメシを食いに行きますから（笑）。ラーメン屋で食べてから、隣の店に行ってカツ丼食べたりって普通にしてますからね。まあ、そういうところも全部引っくるめて〝男〟だなっていうのは凄く感じますね。

佐伯繁“男”エピソード・自画自賛編

6 Episode



「やさしいし、柔軟だし、自分でも男らしいと思う」

佐伯繁は本当に“男”なのか？

選手や関係者から「選手のことを第一に考える」「逃げないから信頼できる」「業界で一番格闘技LOVEのある人」と、ベタぼめ状態の佐伯代表。“男”エピソードを一気にお届けしたあとには、(よせばいいのに)本人の“自画自賛”(?)インタビューをお届け!

——今回の特集で佐伯さんの男っぷりを表わす話をいろんな人にうかがったんですよ。

佐伯　お〜、いい企画だねぇ！(満足げ)。

——佐伯さんに対して、おちゃらけたキャラクターという認識を持ってる読者も多いと思うんですけど、選手&関係者の話を聞くと、なかなかいい〝男〟エピソードがあるんですよね。

佐伯　そうでしょ。見た目的にいって、おちゃらけてるイメージとか、「何も考えてないんじゃないか」って思ってる人が多いんじゃない？

——佐伯さんのことをあまり知らない人は、そう思うかもしれませんね。

佐伯　でも、実際には仕事に凄くこだわりを持ってるし、意外とやさしいところもあるから。でも、やさしいからといってなんでも笑っていられるかっていったら違うんだな。けっこう厳しく選手とかにも怒ったりもするから。道理に関してはかなりこだわりはあるよ。

——筋が通ってないことに対しては、ハッキリとノーと言える男なんですね。

佐伯　そう。ただ、そういう部分もある一方で柔軟性も凄くあると思う。自分は100人以上の会社を経営してたこともあるからな。そういう経験が、いまの人間関係とかにも活きてるとは思う。ただ、格闘技の世界は一からやり始めたわけだけど、常識が通らないこともいっぱいあるんだわ。

——ある意味、特殊な世界なんでしょうね。

佐伯　その中で生き残っていくためには、いろんなものを守らなきゃいけないから、意外と厳しい部分もあると思う。悪いけど、ヘラヘラしてたら、この世界ではやっていけないから。

——まあ、そうでしょうね。

佐伯　ただ、基本的には凄くわがまま。

——性格的にはわがままですか？

佐伯　だって、わがままじゃなかったら、人に雇われてやってるよ。あーだこーだ言われたくないから自分でやってるわけだから。そういう意味では人に怒られるのは得意じゃないな。

——「佐伯さんのために」と言ってる選手も多いですけど、選手からの信頼が厚い理由はご自身ではどう判断されます？

佐伯　それが最近わからなくなってきた。よく「選手のことをよく考えている」とか言われるんだけど、俺っていったいなんなのかなぁ……。

——自分の考えがわからなくなってきた？

佐伯　青木とかよく言うけど、「UFCがどうのこうの」とか、「ケニー・フロリアンがどうした」とかさ。ケニー・ロジャースならわかるけど(笑)、誰の話をしてんだよって俺は思うんだわ。基本的には24時間生きてる中のほとんどは格闘技のことを考えてるよ。飲みに行ったって話題は格闘技のことになっちゃうから。

——笹原さんが言ってましたけど、佐伯さんは、この業界で〝格闘技LOVE〟が一番ある、と。いかがでしょう？

佐伯　ただ、それが格闘技LOVEなのか、よくわかんない。ひょっとしたら格闘技じゃなくて、やってる人間が好きなのかもしれない。

——自分に関わっている選手がやっている格闘技が好きなんですかね？

佐伯　そういうこと。格闘技よりも、選手との人間関係のほうが好きなのかもしれないな。頑張ってる選手が強くなったりとか、結果を出してくれたり、感動させてくれたりするでしょ。そういうのがあるから、格闘技に関わってるのかなぁって最近思うようになったね。

——純粋な格闘技好きではないんですか？

佐伯　そう言われたら、俺はキックもほとんど観ないし、UFCも観てない。ホントに好きだったら観るんだろうけど、そこまでの気持ちはないから。ただ、一つ言えるのは、信念として、自分と向き合ってくれた選手は最後まで面倒を見たいなっていう気持ちはあるよ。

——男ですねぇ。そんな佐伯さんから見て、〝男〟を感じる選手&関係者は誰になります？

佐伯　そうだなぁ……、やっぱり、榊原(信行)さんには男を感じたな。プライベートはよくわからないけど、ビジネスに対する器の大きさは凄く感じるね。

——具体的に言いますと？

佐伯　たとえば、一回駄目になった相手だったり、嫌いな人間でもビジネスとして割りきって受け入れることができたり、いつも冷静だしね。あの人は男として憧れるね。スタイルもいいし。とにかく人間としての大きさは凄いね。山口(日昇)さんなんかもそういうところはあるんじゃない？

——山口さんもそうかもしれないですけど、ファッションとかも含めて、榊原さんの影響を受けてる人は多い気がしますね。

佐伯　そうだよな。俺はそういうのは体型的にもマネできないけど(笑)、やっぱり榊原さんみたいに器の大きい人間になりたいね。

——あと、佐伯さんは意外とモテるという話もうかがったんですけど。

佐伯　こんなデブがモテるわけない。最低でもマメでやさしくなければ人間として失格だよ。ただね、女性にはキツいこと言えないんだわ。

——選手には言えるけど、女性には言えない？

佐伯　そうなんだよなぁ……(しみじみと)。やっぱり選手にも言えないな。男って意味では、俺がいままで歩んできた人生を振り返れば、かなり男だなって自分でも思うんだけどな。

——波瀾万丈にもほどがあるというか(笑)。

佐伯　そうそう(笑)。いまは金もないから、団体の代表とはいえ、パンフレットとかの原稿書きから事務所の掃除まで自分でやってるからな。ホント、人生の波瀾万丈っぷりを考えたら、男としてトップクラスだと思うよ。

——確かにそれは言えますね(笑)。今後も佐伯さんの男っぷりにさらなる磨きがかかることを期待してます!

榊原さんは男として憧れるね！ビジネスに対する器の大きさを感じる

けるって、やっぱり男らしいって思いますよ。

やることじゃないですがね、会場のイス並べ

kamipro SHOPPING

Back Number

[kamipre特選劇場]

130号はズバリUWFを大特集!! 当時の“U”関係者が続々登場!!



No.130 垣原×金原×高山対談

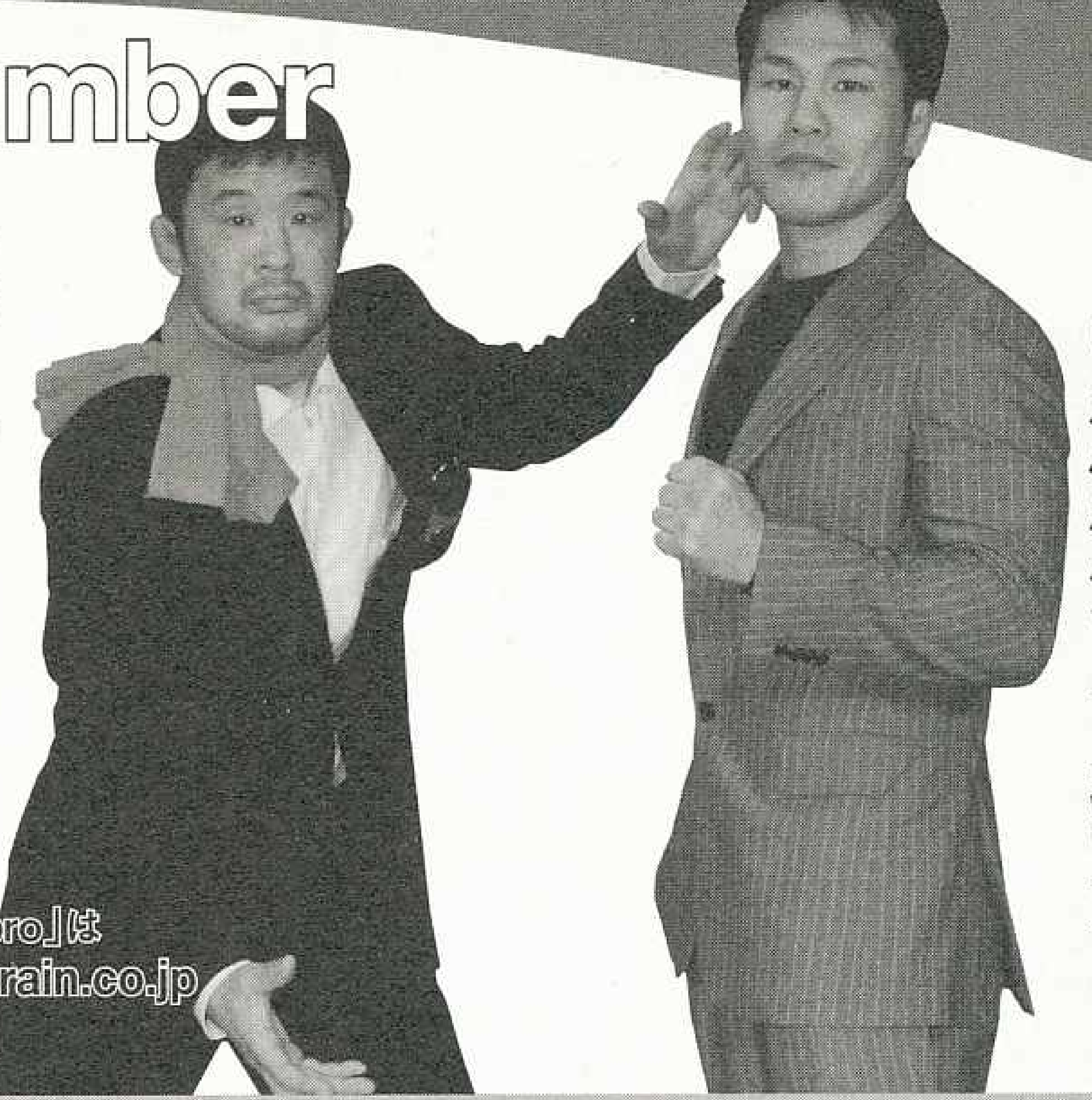
特集主義第5弾は桜庭和志vs田村潔司という因縁の対決が実現したことから、UWFを大特集! 田村、桜庭とともにUWFインターナショナルで青春時代をすごしたミヤマ☆仮面（垣原賢人）、金原弘光、高山善廣が一堂に会し、Uインターの伝説を大放談!



更級四郎インタビュー

MMAの最高峰、PRIDEまで脈々と続くUWFの源流、第一次Uも徹底解剖! 当時のUWFの外部ブレーンとして深く関わっていた更級四郎氏を直撃し、UWFのプロパガンダのためにゴーストライターとして『ケーフェイ』を書いたことなど、当時のUWFの真実をおおいに語ってもらった。

特集主義第5弾はUWF特集!!



“MMAの源流”を探れ!!

注 **No.92** 以降の「Kamipro」は
http://www.enterbrain.co.jp
でお買い求めください。

元祖! 紙のプロレス Back Number すべて50%OFF!!

No.14 ~~780yen~~⇨390yen
特集 **神秘とは何か?**
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます! 遠藤幸吉インタビュー

No.15 ~~780yen~~⇨390yen
特集 **インディペンデントの逆襲**
あんた誰? 山口昇試練のインディー・レスラー10番勝負! K-1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

No.17 ~~780yen~~⇨390yen
特集 **実況パワフル北朝鮮**
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&長島勝司・村松友視・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」 ~~1260yen~~⇨630yen
97年当時のパンクラシストが勢ぞろい!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレスRADICAL Back Number No.16➡No.87

「紙のプロレスRADICAL」のバックナンバーは電話で注文できます!
03-5368-1797 [販売元] ㈱ダブルクロス（平日13:00～19:00）

No.16 1999.03 780yen
格闘ノストラダムス!
[表紙:前田日明] 前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.32 2000.10 840yen
“新”プロレスとは何か?
[表紙:小川直也] 田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ラッシャー木村

No.34 2001.01 840yen
『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
[表紙:小川直也] 田村潔司に快勝! ノゲイラインタビュー／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ボブ&オバチャンチン

No.35 2001.02 840yen
純プロレスを徹底検証!
[表紙:サクマシン(イラスト)] ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／杉浦貴

No.36 2001.02 840yen
燃えよ、闘魂の火種!!
[表紙:橋本真也(イラスト)] ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言

No.38 2001.05 840yen
小川直也は是か非か?
[表紙:髙田延彦(イラスト)] 忘れ物の正体は。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

No.39 2001.06 840yen
前田日明は是か非か?
[表紙:前田日明] 前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.40 2001.07 880yen
地上最強のプロレスとは?
[表紙:アントニオ猪木] 蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

No.41 2001.08 880yen
“最後の黒船”WWF来襲!!
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史

No.42 2001.09 880yen
アントンパワー大爆発!!
[表紙:アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／“ヒャッホーの真実”辻よしなり／高山×宮戸×金原

No.43 2001.10 880yen
聖戦『PRIDE.17』迫る!!
[表紙:桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

No.44 20001.11 880yen
サク連敗と『PRIDE』の未来
[表紙:桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々! シーザー武志／怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴

No.45 2001.12 880yen
一寸先はハプニング!!
[表紙:アントニオ猪木(ホームレス姿)] 悪魔の書、現る! ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談

No.47 2002.02 880yen
WWE日本侵攻、5秒前!
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア] “天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!／噂の馳浩がミスター高橋本を語る!

No.48 2002.03 880yen
桜庭、満開の日は近い!
[表紙:桜庭和志] 奇跡のメガトン対談! 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に! 金原弘光

No.49 2002.04 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!
[表紙:ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田／菊田早苗とは何者か!?

No.50 2002.05 880yen
50号記念企画てんこ盛り号
[表紙:桜庭和志] 「地方発世界」開始! 小川&橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁!

No.51 2002.06 880yen
揺るぎなきプロレスの確立
[表紙:橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子／ 武藤敬司人生相談

No.52 2002.07 880yen
戦慄の『LEGEND』前夜!!
[表紙:橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／ロシアン・トップチーム

No.53 2002.08 880yen
『Dynamite!』ド直前号!
[表紙:桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×箕輪輪育久／独占肉弾スクープ! マック・ガファリ

No.54 2002.09 880yen
『Dynamite!』を大総括!
[表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] “首の皮一枚”ホイス&エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

No.55 2002.10 880yen
髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
[表紙:髙田延彦] 「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白!／金原が『PRIDE』参戦!／メガトン級の男、ボブ・サップ!

No.57 2002.11 840yen
驚ガクの6周年記念号
[表紙:高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる“U”が始動!! 田村／ミスター高橋×大槻ケンヂ

No.58 2003.01 880yen
夢の対談、大連発号!
[表紙:武藤敬司&船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×高阪／宮戸×安生×鈴木健

No.59 1999.03 840yen
最後の皇帝、『PRIDE』上陸
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

No.60 2003.02 880yen
『PRIDE』は変貌&再生する!
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

No.61 2003.04 880yen
ゼロワンvs新日5.2戦争!
[表紙:橋本真也&小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

No.62 2003.05 880yen
ミルコの首をカッ斬ってみろ!
[表紙:ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場! 佐々木健介／現役復帰? 船木誠勝／ヒョードルが藤田を一刀両断!

No.63 2003.06 880yen
マット界、超絶リボーン!!
[表紙:橋本真也&小川直也(イラスト)] 「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!

No.64 2003.07 900yen
PRIDEミドル級GP直前!!
[表紙:桜庭和志] “異次元格闘技戦戦”田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

No.65 2003.08 880yen
皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
[表紙:ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上! ヒョードル／ミルコついに皇帝戦へ／闘魂ストーカー、イズマイウ

No.66 2003.09 880yen
ミルコ『武士道』電撃出陣!
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー／マッハを破った男、長南亮登場!／『東スポとは何か?』

No.67 2003.10 880yen
ミルコvsノゲイラ、迫る!!
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー! ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

No.68 2003.11 880yen
大晦日・格闘技大戦決定!!
[表紙:髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦／曙とは何者か!?／桜庭和志

No.69 2003.12 900yen
『ハッスル1』開催ド直前!
[表紙:橋本&小川] 出てこい! 泣き虫! 橋本&小川／『泣き虫』著者、金子達仁登場!／田村潔司／美濃輪育久

No.70 2004.01 880yen
04年末の格闘戦争を大総括!
[表紙:ミルコ・クロコップ] シウバに近藤有己が宣戦布告!／健介&北斗WJの真実を語る!／紙プロ大賞&語録発表

No.71 2004.02 880yen
『ハッスル2』で大フィーバー!
[表紙:ハッスルイラスト] 『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ／川田利明初登場!／猪木vsアミン戦の真実

No.72 2004.03 840yen
『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
[表紙:ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／山本KID徳郁

No.73 2004.04 880yen
最も過酷な道を行く男!!
[表紙:小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

No.74 2004.05 880yen
感じろ、ハッスル魂!!
[表紙:小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／ミック・フォーリー

No.75 2004.06 880yen
英雄誕生の気運高まる!!
[表紙:小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也／奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統

No.76 2004.07 880yen
プロレス爆発へ最後の挑戦!
[表紙:桜庭和志] 小川の“盟友”と“宿敵”が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

No.77 2004.08 880yen
小川vsヒョードル決定!!
[表紙:小川直也] 「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ

No.78 2004.09 840yen
PRIDE GP徹底総括号
[表紙:小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／谷川貞治

No.79 2004.09 840yen
髙田総統がビターンと降臨
[表紙:髙田総統] キャプテンに休息無し! 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さんも推薦『曙は是か否か?』

No.80 2004.10 880yen
守護神ミルコが外敵狩り!
[表紙:ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー／ハッスルお家騒動、小川直也／「袋とじ企画」グリズリー岩本

No.81 2004.10 880yen
究極のSADAME、迫る!!
[表紙:桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ／新日本でハッスル成功! 小川直也／ 草野仁

No.83 2005.01 880yen
ミルコ激白! 打倒皇帝!
[表紙:ミルコ・クロコップ] 04年『PRIDE男祭り』を大総括／05年ハッスル大進撃発表! 小川直也／橋本×船木対談

No.84 2005.02 880yen
RTTが皇帝に宣戦布告!!
[表紙:セルゲイ・ハリトーノフ] “殺人落下傘”が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／田村潔司がPRIDE GPを語る

No.85 2005.04 860yen
『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
[表紙:前田日明&髙田総統] PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、髙田／パンクラス2大王者対談 髙坂剛×近藤有己

No.86 2005.04 860yen
PRIDE GP直前大解剖号
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散を語る!!

No.87 2005.05 860yen
PRIDE GP開幕&大総括!
[表紙:吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝×宇野薫／金原弘光×池田大輔

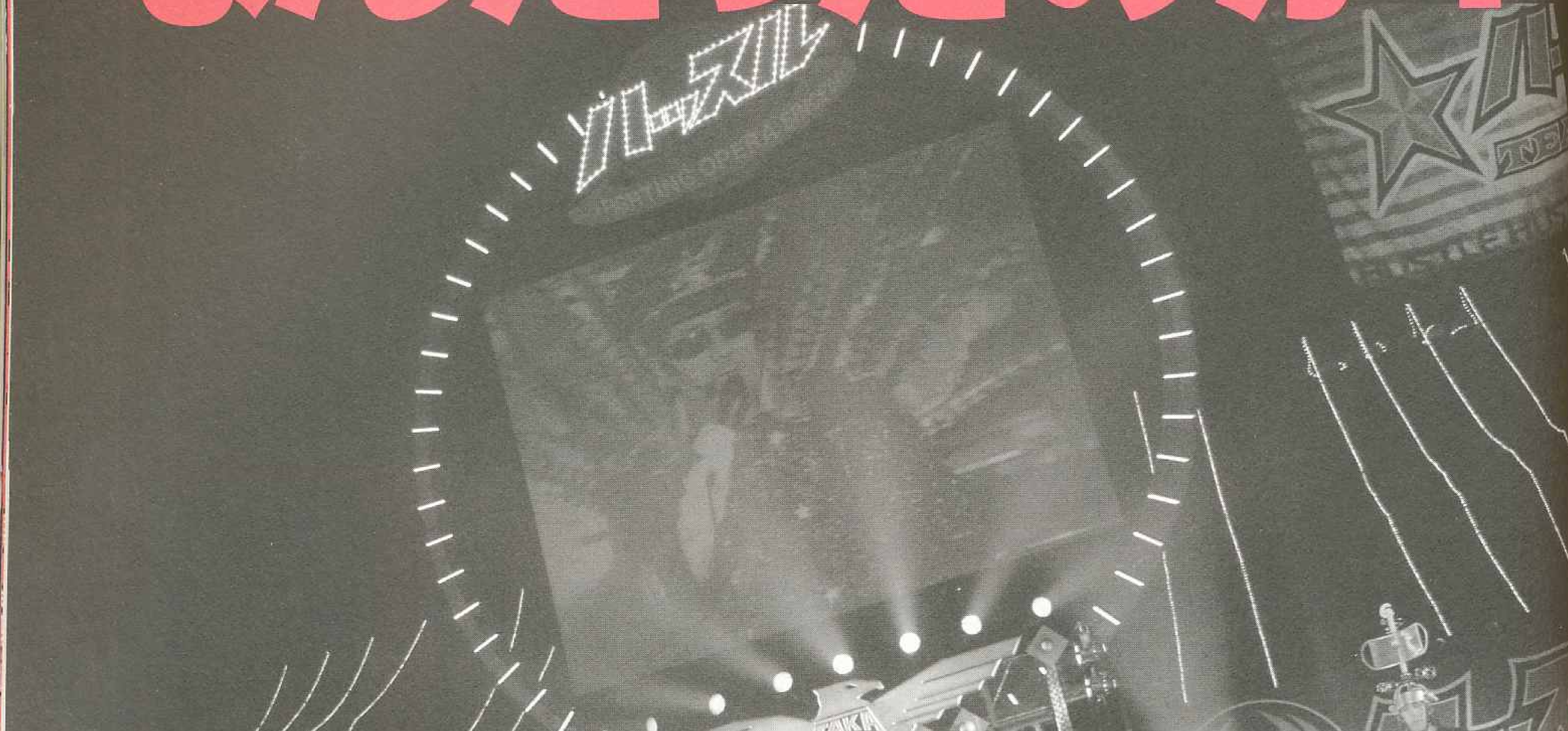
通販方法 No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。❶電話注文⇨03-5368-1797（平日13:00～20:00） ❷メール注文⇨kapra@kamipro.com

※通信方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

ハッスルの“急所”を突いた脅威の大晦日番組

『ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!! 大晦日SP』

スガッスルとは、なんだったのか？





きくち・なるよし■1963年生まれ。音楽家、文筆家。ジャズ・ミュージシャン活動の一方、音楽、料理、ファッション等の著作多数。08年のインタビュー登場数は9回と、『kamipro』論客としても絶賛活躍中。格闘技批評に『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍〜僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった〜』(白夜文庫)。

音楽家であり、文筆家

菊地成孔

**08年の大晦日テレビ戦争を制したのは、まさかの『スガッスル』!?
なぜ松本人志は『ハッスル』のパロディを仕掛け、そして上回ってしまったのか？
さらに『Dynamite!!』の田村vs桜庭まで、菊地氏が大晦日決戦を大総括!!**

聞き手／ジャン斉藤　大会撮影／平工幸雄（『ハッスル』）　乾晋也（『Dynamite!!』）

『ハッスル』はバラエティ番組でもできるというパンドラの箱を開けてしまった

――今日は、大晦日決戦についてうかがいたいんですが、じつは菊地さんが一番評価しているのは『ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!! 大晦日SP』（日本テレビ系）での『ハッスル』のパロディ、『スガッスル』だとうかがってます。

菊地 まあ「一番評価してる」ってほどの大げさな話でもないですけどね（笑）。あれはよかったですよね。今年は大晦日にカウントダウンライブの仕事があったんで、スタジオだとかクラブを移動しながら、そこのテレビでちょこちょこ観てたんですよ。で、山口日昇さんと松本人志さんは同い年だから、感受性も近いのかな、と。でも、なんで急にあんなことになったんですかね？

――理由までは把握してないんですが。

菊地 ワタシは『ハッスル』は観てないんですが、視聴率はどうだったんだろうか。ちと、厳しかったんじゃないですか？

――3・4パーセントと07年よりも数字を落として、『Dynamite!!』のほうも初めて民放1位から陥落しましたね。今回は総合1位は『紅白』で、民放1位が『ガキの使い』です。

菊地 なるほど。『スガッスル』が勝った、と（笑）。バラエティ番組が、プロレスの……というか『ハッスル』のコンテンツで格闘技番組を倒したという微妙な構図ですね。でも、出来はよかったですもんね。観てて「インリン様出てくるんじゃないのか？」ってワクワクしてたの（笑）。

――僕らも事前に「それぐらいやりかねない」って話をしてたんですよ。

菊地 「それにしても、なんでいま突然これをやるかな？ 天才の気まぐれかな？」とか思いながら観てたんですが、「あ、そうか。どっちも吉本（興業）だよな」とも思ったんです。パワーバランス微妙ですよね。それとも気軽にちょっと振ったら大当たりになっちゃったイメージですかね。

――トップのバラエティ番組のポテンシャルを見せつけたというか。

菊地 「バラエティでもできました」じゃないけど、要するに「やっちゃった」わけよね。パンドラの箱を開けたというか。松本人志ってエゲツない人ではあるけど、悪意のある人ではないですよね。ただ、潜在的な攻撃性が、突如コントロールを失なって大誤爆するような人でもある。彼が『ハッスル』に、意識的に嫌がらせする必要も気持ちもまったくないと思うんですが、やはり大晦日の獲物を争ってるわけだから。

――完全に同時間帯ではなかったですが。

菊地 そのことをもってして、露骨なアゲンインストではないということなんでしょうが。とはいえ、〝ナナメ真裏〟みたいなもんでしょ。やったことは「『ハッスル』と同じことを『ハッスル』より上手にやった」と。安生（洋二）が泰葉相手に一生懸命いい仕事をしたのに、立つ瀬がなくなっちゃう。天才・松本の幼児的な〝いちびり魂〟と言いますかね。相手の構造的な急所を笑いながら、エゲツなく突いてしまう。一方で彼は凄く大人だから、ちゃんと相手をリスペクトもしてて、「こっちはシャレですから」と思っているけど、結果「やっちゃう」わけです。「プロレスラーが一人も出なくても『ハッスル』は成り立つんじゃないの？」という、一番ヤバい問いをねえ。と、オーちゃん（小川直也）の肩書きは度外視で進んでますが（笑）。

――「芸能人を入れる」というのは一長一短の部分ですね。

菊地 プロレスラーと芸能人という一種の双生児的な存在を同時にリングに上げ、バランスをとる、と。大げさに言うと、それが『ハッスル』の構造で、プロレスのルネサンスもしくは先祖返りとして非常によくできているんで、全日本プロレスにまで採用していますが、「両方上げることに意義があるのはわかるけど、芸能人だけでオレはいいし、そっちのがおもしろくね？」。さらには「プロレスラーだけだったら観ないわけだから、芸能人のが上？」と思わせてしまう構造的な急所もはらんでるわけですから。

――最大の長所が最大のウィークポイントでもあった、と。

菊地 柿ピーというのは、柿の種とピーナツが両方あってうまいんだと言われている状況に、柿の種だけ入った袋を作って「ホラ」と出したような話ですよ。じつに松本人志っぽいとも言えるし、同時に「なんで？」とも言えますね。「なんで？」も、松本人志の属性ですけどね。

――『ハッスル』の急所を突いたのが、なぜか松っちゃんだった。

菊地 松本人志って、幼児的な天才にあり



スガッスルとは？

『ガキの使い』第1部の『山崎vsモリマン』の最中、プロデューサー・菅賢治氏が菅総統として、『ハッスル』のパロディ『スガッスル』を突如開催！ 佐々木健介、武藤敬司も登場。とくにマスクマンのダイナマイト四国に扮したココリコ・遠藤章造vs小川直也では、遠藤の元妻の千秋が乱入するハプニングで、見事にプロレスの肝を表現してみせた。

08年大晦日テレビ戦争、各局の視聴率結果

NHK	35.7%	19時20分～21時25分	『第59回NHK紅白歌合戦』第1部
	42.1%	21時30分～23時45分	『第59回NHK紅白歌合戦』第2部
日本テレビ系	12.3%	18時30分～19時	『ガキの使いやあらへんで!! 大晦日年越しSP!!』第1部
	10.0%	19時～20時20分	『ガキの使いやあらへんで!! 大晦日年越しSP!!』第2部
	15.4%	20時20分～24時20分	『ガキの使いやあらへんで!! 大晦日年越しSP!!』第3部
TBS系	9.0%	18時～19時	『プロボクシングWBA世界フライ級タイトルマッチ』
	11.8%	19時～21時	『Dynamite!!～勇気のチカラ2008～』第1部
	12.9%	21時30分～23時	『Dynamite!!～勇気のチカラ2008～』第2部
	8.4%	23時～23時24分	『Dynamite!!～勇気のチカラ2008～』第3部
フジテレビ系	4.4%	19時～23時45分	『FNS 2008年クイズ!!』
テレビ朝日系	8.7%	18時～20時24分	『大みそかドラえもんSP』
	7.5%	20時30分～23時30分	『Qさま!! 大みそかだよ! プレッシャーSTUDY』
テレビ東京系	3.4%	21時30～23時30	『大晦日ハッスル・マニア2008』

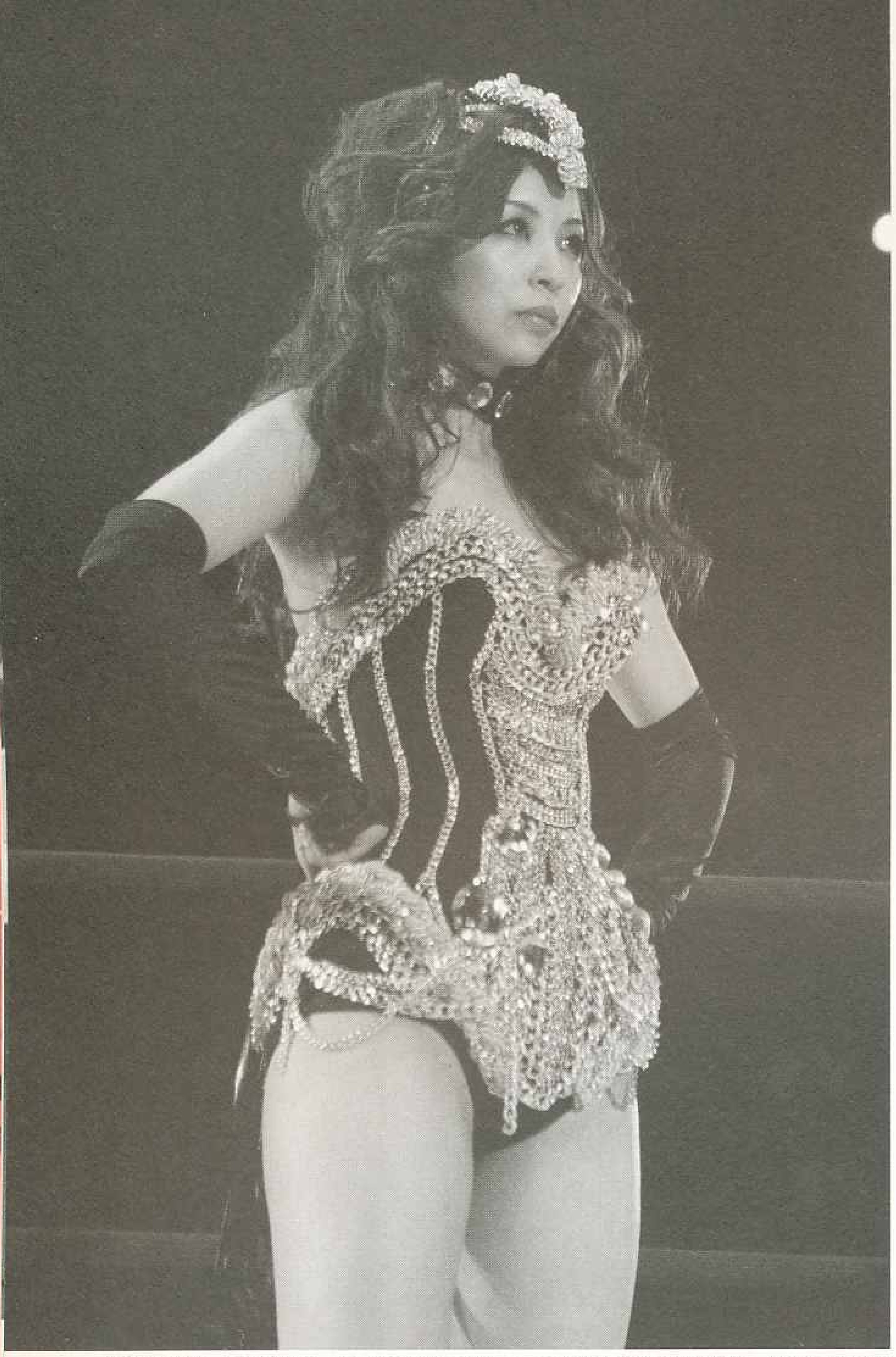
格闘技&プロレス中継の瞬間最高視聴率

TBS系

18.1%　キン肉万太郎vsボブ・サップ
『Dynamite!!～勇気のチカラ2008～』第2部

テレビ東京系

10.2%　泰葉vsアン・ジョー司令長官
『大晦日ハッスル・マニア2008』



芸能人プロレスの先駆者、インリン様が元『ハッスル』社員との熱愛騒動後に、08年5月の『ハッスル・エイド2008』で引退。プライベートのイジリも上等の『ハッスル』だが、インリン様に関しては虚構の世界のままでドラマが終結を迎えた。

がちですけど、〝突如として何かに牙をむく〟ときがあります。『大日本人』という映画は、アメリカへ牙をむく映画だったんですけど、しかし、本人が意図的に攻撃しようとすると腰が抜けるんですよ。社会派、つまり大人としての松本人志というのは弱いです。『プレイ坊主』(『週刊プレイボーイ』の人生相談)とか『伝説の教師』(日本テレビ系、ドラマ初出演作品)とかですね。むしろ彼の攻撃性が効果的に炸裂するのは意図していない、そんなつもりはないときです。だから、今回は対抗意識も悪意もないですよ。「オレらもやってみようで、アレ」っていうぐらいでしょう。ただ、泰葉に対して千秋を置いたってのは凄いよなあ。泰葉起用がイージーに見えちゃうもんねえ。

――番組中、最も衝撃的な仕掛けが、マスクマンのダイナマイト四国に扮したココリコの遠藤の元妻である千秋を突然登場させたことでしたね。あれは遠藤に知らせてなかったシュートな場面だったようですし。

菊地　ああいう人間の内面に迫るエグさこそ、本来の『ハッスル』がやらなきゃいけない仕事ですよね。その点では昨年、インリン様をイジリきれずに引退させてしまった段階で多くの人がどこかで見切ってしまったと思うんですよ。「清濁併わせ呑み、どんなことでもやるエゲツない団体であり、山口さんは確信犯の天才で、どんな不義理もやる悪魔のような人だと思ってたら、意外とそうでもないのかな」というふうに。

――本質までは踏み込みきれなかった、と。

菊地　インリン様の引退試合のときはあまり意識されず、アイドル視してた人が残念がったくらいでしたが、長い目で見ると今回のように「千秋が乱入してくる」というシチューエーションが出ることによって逆説的に証明されてしまった。泰葉とインリン様、そして千秋と対置すると、山口さんと松本人志の〝女性〟に対するすべてが見えてくるような気がしますね。ただ、しつこいようだが、なぜいま松本人志が『ハッスル』に勝負を挑んだのかはわからない。外側には必然性もタイミングもまったく読めない(笑)。

――ホントの敵はむしろ『Dynamite!!』ですから。

菊地　もし、敵対関係を設定するなら、「格闘技に数字を獲られている」ということだけですよね。そこで自分たちがやるとしたら『ハッスル』しかない。それだけでしょう。

――そういうテンションでやってたなら、なおさら脅威ですね。

菊地　「パロディする者は、パロディした対象にやられるんじゃなくて、自分をあとからパロディする者にやられる」という典型的な構図ですね。しかも、今回は『山崎vsモリマン』がスペシャル枠でもたなくなったから、加えただけですからね(笑)。

――あくまで付属的な企画でしたね。

菊地　それがそのまま、いつもの松本脱構築でもあるんだよね。だって、『山崎vsモリマン』というメインイベントが途中でいったん中断されて、違う興行が始まるっていうありえない話だった。それがもう一回メインイベントに戻るっていう構造も凄いし(笑)。常に悪夢的なんだよね、松本ワークは。

――「小川直也が出るらしい」って話は聞いてましたね。

菊地　なるほど、まずオーちゃん(笑)。

――小川の使い方も贅沢でしたし。ぞんざいとも言いますけども(笑)。

菊地　いやあ、贅沢だった。千秋に魔法の杖で倒されるっていうのは。小川は『ハッスル』でも『スガッスル』でもプロレスがヘタだったと判明したのも素晴らしかったです。

――『スガッスル』でもしょっぱかったですか(笑)。泰葉に対して、安生がバッグンのうまさを見せたのとは正反対でしたよね。

菊地　で、本人はとくにそのことを気にもしてないっていう。芸能人なのか格闘家なのか、『スガッスル』によってさらにわからなくなる。やっぱ大器ですよ(笑)。

――一方の『Dynamite!!』のほうはいかがでした?

菊地　同じように、クラブの控室にあるテレビをちょこちょこ観てましたが、メインの桜庭vs田村戦のときに出番直前で、着替えてる最中に観たんですけど、第一印象では「道場っぽいな」と思いました。

――道場で行なわれてるスパーリングに近い試合ですか。

菊地　で、『kamipro』読者にどのぐらい届く名詞なのかワタシもはかりきれませんが、スチャダラパーの方とかTOKYO No.1 SOULSETの方とかと同じ控室で一緒に観ていてですね、皆さん格闘技好きなんですよ。それで、こんな話はどうでもいいんですが。ワタシ、格闘技ファンのタレントさんたちには『kamipro』に出てる人だと思われてまして(笑)。

――『kamipro』の論客がいるぞ! って(笑)。

菊地　向こうはヒップホップで、こっちはジャズで、同じ音楽業界とはいえ基本的にはあんまり絡まないんです。物書きとしても、ワタシの本は専門書が多いんで。とはいえ、ワタシの本業をご存知ない方でも、ワタ

スガッスルとは、なんだったのか?

インリン様をイジリきれず、引退させてしまった段階で見切られてしまった

子どもっぽく底意地の悪い桜庭に対し大人の田村が〝懲罰の拳〟を下した

シのことは知っているんです。『kamipro』を読んでるので（笑）。初対面の方に話しかけられるときに「菊地さん、こないだの『kamipro』の秋山の話……」とか言われることが凄く多いんですね。

――ワハハハハ！

菊地　だから、いくら着替え中とはいえ、音楽家は格闘技好きな方が多いので、ヘタなこと言って見切られるとヤバいじゃないですか。だから、凄い深い独り言みたいな感じを装いながら、「ああ、道場っぽいね」とつぶやいたりして（笑）。ただ、そのときは一瞬しか観れずに、家でゆっくり観直したら、「道場」と言ってしまうにはハードな試合でしたね。道場のハードなマッチというか。

――あと今回は、試合数が17試合とかなり多かったんですけど。

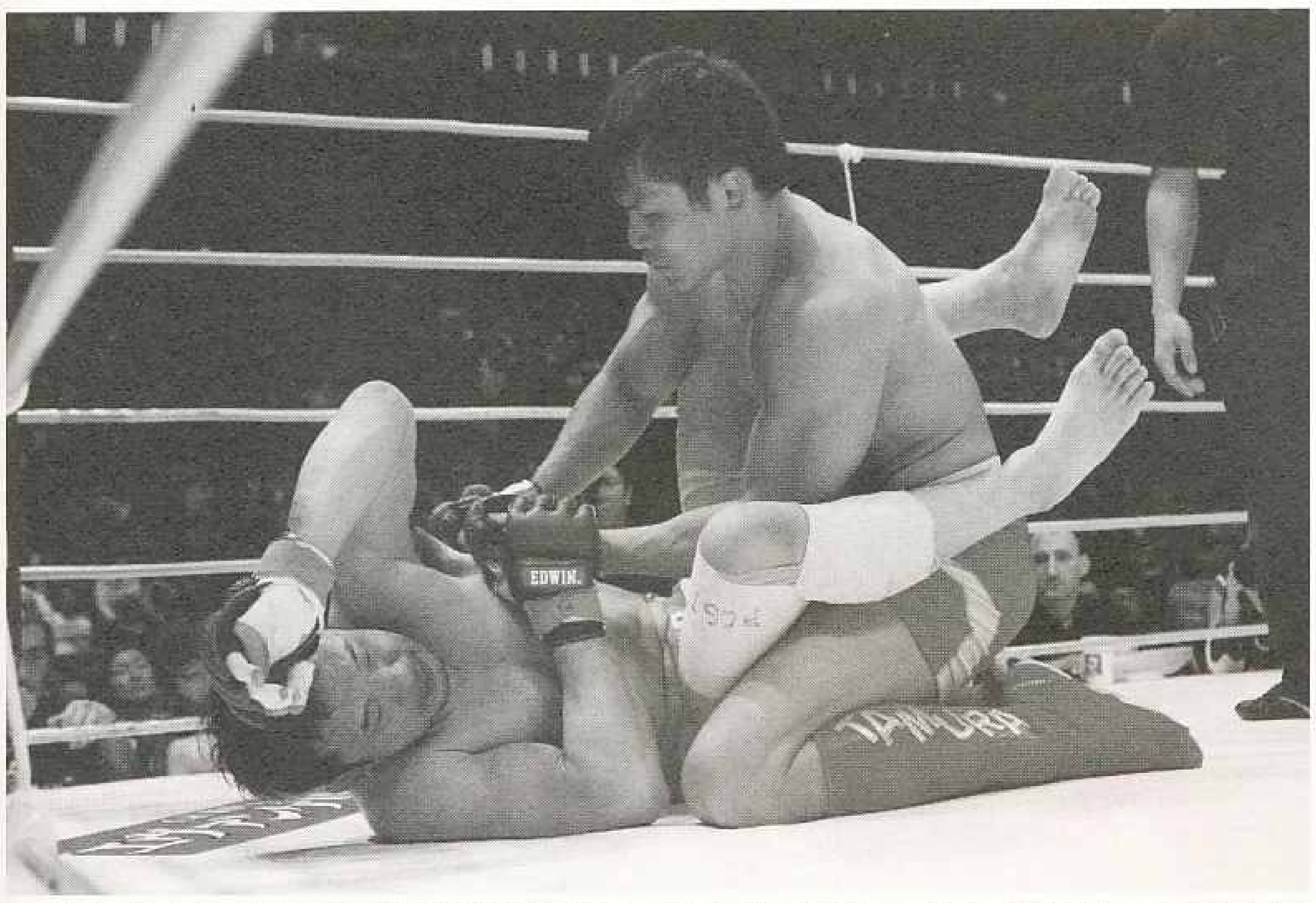
菊地　地上波は最初、魔娑斗の過去の試合からスタートして、K―1だと思って観てると、グジャグジャっとなってきて、最後には「来年もDREAMをよろしく」と言われるというグラデーションがかかった大会なわけですけど、「PRIDE帝国が崩壊したあと、次の帝国がすべてを見事に統一した」といった感じには見えませんよね。『戦極』は別の星にあるみたいなイメージだとして。

――ヒリヒリした対抗勢力という感じはないですね。

菊地　ですからいきおい、「この世にあるものも全部、谷川さんとFEGが握ってる、完全なニューオーダー（新秩序）」というふうに見えるわけじゃないですか。ただ、この新統治下で不安定だった世界が一つになり、この状態が半永久的に続くだろう、「盤石だ」という感じではない。なんと言いましょうか、ビュッフェみたいなさ。豪華ないろんな料理を、とーちゃんやかーちゃんがムチャクチャ乱雑に皿の上に乗せてるという。

――大会の前半に限って言えば、あまり食い合わせはよくなかったんですよね。

菊地　「一つの局でK―1もDREAMも観れてバッチリ！　現状最高だよ！」って人はあんまりいないんじゃないかな。「もっと気持ちよく観れるように整理してくんね？」という声が多いのでは。



田村が上の体勢から、桜庭へひたすら鉄槌を下し続けるという膠着した試合だったが、菊地氏が田村の“懲罰の拳”と評したように、二人が積み上げた歴史のぶんだけ、ファンが裏読み可能なじつに濃厚な一戦でもあった。

――会場には「MMAだけ観に来た」お客さんが多かったし、ライブ的にはK―1のムードは出したくなかったようですけど。

菊地　K―1勢がことごとく旧PRIDE勢に負けて。「PRIDEがどんだけ強かったか？」っていうネガティブアプローチみたいな大会になっちゃって。ワタシ、UFCは全部観てるんですが、UFCでは逆にPRIDEがそれを食らっちゃってる感があるので、見事なシンメトリーというか。

――むしろ会場は「K―1が負けた、谷川ざまあみろ」ってムードでしたね。K―1的にはドラマができるから、谷川さんにはおいしい話なんですけど、ファンからすると「谷川の顔を潰してやった！」って感じで。

菊地　ああそうか、なるほど。じゃあ、旧帝国民が新統治下で鬱屈しているという状況なんですかね。だとしたら、まさに黒魔術ですよ。だって顔は潰れてないもんね、ほとんど。ミルコ帰国でホンマン戦、勝ったが手術で長期療養とかさ、真っ黒（笑）。ご自分でも最後のマイクで「黒魔術を担当します」と言われてましたけど。

――ついに公の場で言いましたね。

菊地　「あ、ついに自分で言った。でも自分で言ったら終わりなのではありませんか（笑）」と思いながら観てましたが。「谷川の顔が潰れた、ざまあみろ」って思ってる素直な人たちに対して、エグゼクティブがリアルヒールになるっていう構図はシンプルすぎて黒魔術めいてないですよ。とはいえ、ご本人はまだ全然黒いけどね。たぶん、『スガッスル』の件も、少し嬉しいんじゃないかと思いますよ（笑）。

――何を言われようが、「おいしいな」って思ってそうですね。あと、試合後に田村vs桜庭戦に誰も触れなかったのは不思議だったんですが。

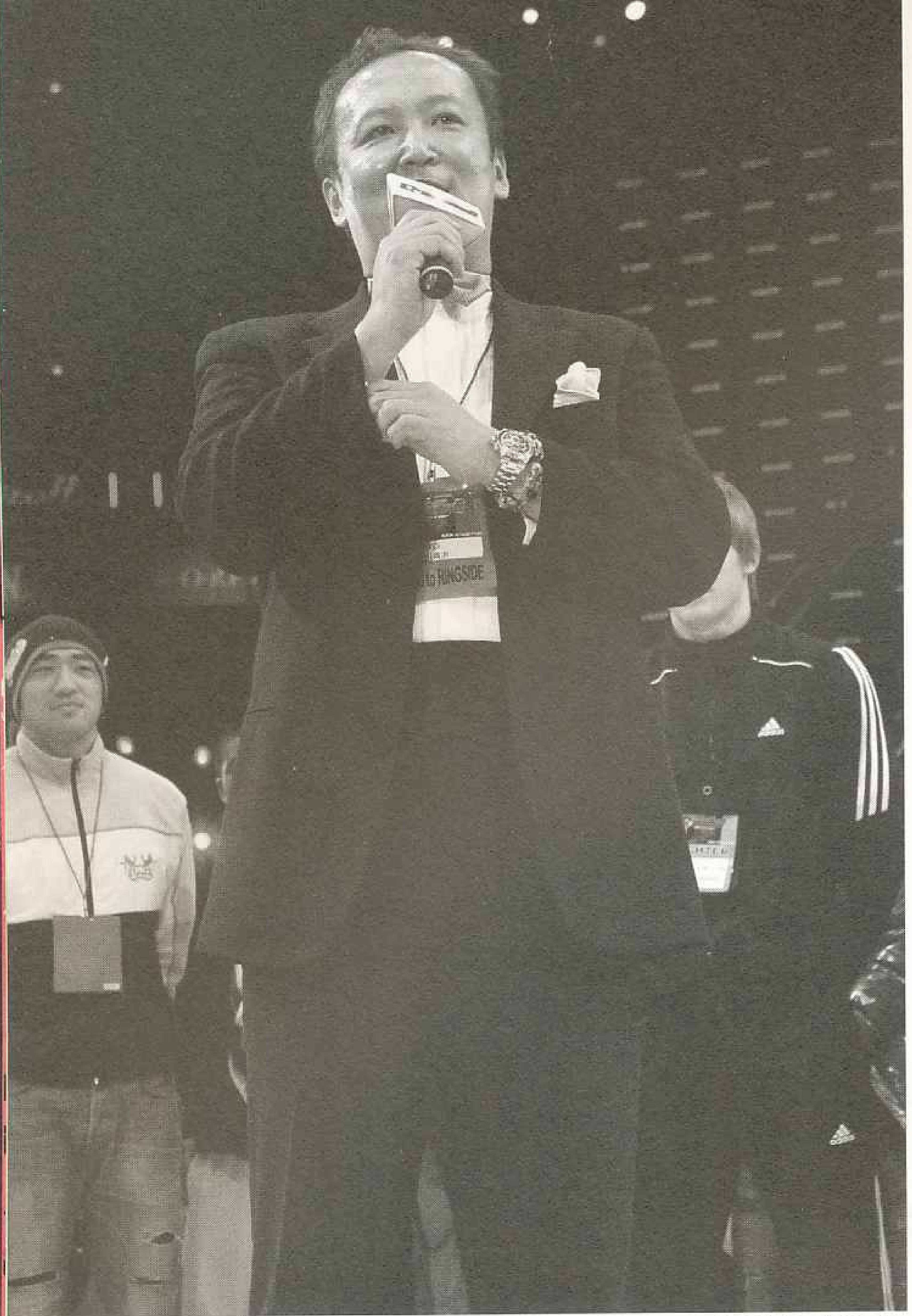
菊地　あの試合で、「田村は身内相手になれば、鬼人のように怖く強くなる」ってことがまたしても証明されましたよね。船木（誠勝）戦の田村もよかったけど、あの怖さはめったに出さない。外の人とやらせたときとの態度とは全然違って、同じ道場にいた人間、個人的な思いがある人間への非情な感じの差が凄い。要するに家族愛です。私はそういう田村が好きですけどね。あのタイミングで試合を受けるのも、桜庭に往年のグリップ力がなくなって、抜けちゃうとかも全部見切ってると思うんですよ。これは「だから、いまなら勝てる」とかいった、つまらん打算という意味ではないですよ。家族愛の苦渋ですよ。

――田村は終始、冷静な感じでしたね。

菊地　田村と桜庭がイメージする〝家族〟が、UWFを指すのか、Uインターを指すのかはさだかではありませんが、いま仮に高田（延彦）を親とする兄弟関係にすると、桜庭が〝同い年の次男坊〟、田村が〝同い年の兄貴〟という特異なキャラクターを設定し、それがこの二人の因縁を発生させているのは自明ですよね。同い年の弟は、同い年の兄への愛憎から、おちょくったり挑発したりもするけど、強弱ではなく。というか、それも強弱ですが、「そのときになったら、弟はなんもできない」ってことも、兄はわかってたと思うんです。田村のほうがずっと大人で、誰も信用してないし、誰にも甘えてない。U―FILE CAMPって凄く大人の団体ですよね。ヘタな夢も見ないし。

――凄く現実的ですよね。

菊地　その点、桜庭は凄く子どもで、高田にもバラさん（榊原信行、元PRIDE代表）にも甘えてる。そうやって甘やかされたり、厳しくされたり、文句言ったり、出ていったり、戻って泣いたりしてる子どもそのものです。田村は泣かないし、誰にも頼らないし、ビジネスライクな対応もできる。自分で出



ある意味、『Dynamite!!』の裏ハイライトとも言えたのが大会後、ファンが谷川代表へ大ブーイングを浴びせたシーン。だが、当のサダハルンバは笑顔で「ブーイングありがとうございます！」と開き直るのだから、さすがだ。しかも最後には「“黒魔術”を担当していきたいと思います！」と公の場で堂々「黒魔術」宣言！　09年もやっぱりこの人だけはあなどれない。

した店が傾いたり、立て直したり。日本人が桜庭を大好きなのは、桜庭の純粋さであり、何よりも子どもっぽさです。そこに〝善良〟というオマケをくっつけたんでグレた。ワタシは『kamipro』誌上で、言い続けてますけど、桜庭のルックスから〝善良〟というレッテルを貼るのは、底意地の悪い桜庭への拷問だと思います。「僕は本当は悪い子なんだ」と思ってる子どもに「君はいい子」って言い続けたら、飛び出さざるをえない。

――その桜庭の性格の悪さって、秋山戦以降は鳴りを潜めてたんですけど、青木（真也）と絡んだあたりからよみがってきて。タブーの領域だった秋山（成勲）を挑発したり、性格の悪さが戻ってきたな、と思ったところで今回の試合だったんで。

菊地　ああいう子どもっぽくて底意地が悪い人は、叱られたがっていますから、周期的に罰を与えれば生き延びます。今回、田村が上から鉄槌ばっかりだったじゃないですか？　あれは懲罰の拳です。お兄ちゃんが怖い顔して、ずっと叩いてる。弟にせがまれるままに、とも言えます。だから、試合後に苦かったのは勝った田村で、負けた桜庭はニコニコで大満足だったと思いますよ。先に家を出て、いろいろあって、独立して自分の店を持った立派なお兄ちゃんがビシビシ叩いてくれたんだから。桜庭はスッキリしちゃって、田村のほうはまた苦渋に満ちちゃってね。家族のことだから情熱的になったけど、やったことは不本意なわけです。あらゆる意味で。

――「伝わらない試合して、すいません」と責任感を感じてましたから。あとは誰一人、二人の親戚が来てなかったのも凄いなって。髙田も、バラさんも姿を現わさなかった。最も親戚や親は、裏では「もうやることないのに」って口を揃えてる感じもしましたけど。

菊地　今回が最後の兄弟ゲンカなのにね。PPVでは音声で拾われてましたけど、試合後に桜庭が嬉しそうに「もう一回、もう一回」って言うんだよね。で、田村はウザそうに「時間があったら、時間があったら」って言うのよ（笑）。苦くていい兄弟ゲンカじゃないですか。事の是非はともかくとして。それでいて桜庭に子どもがいて、田村にいないというのは、ちょっとできすぎな話ですね。

――そういう意味では、秋山（成勲）って大人ですか？

菊地　いや、秋山は子どもっぽいですよね。苦渋あるけどね。

――秋山は1・4『戦極の乱』に来るかなと思ってて、計算高い男だったら来るはずなんですけど、結局来なかったのもさすがだな、と。

菊地　正月はハワイに行ってたらしいから、「ハワイ、サイコー！」なんじゃないですかね。あの人、日にも焼けたいだろうし、あの島は最高でしょう（笑）。個人的には、秋山は〝最強の韓国人〟としてぜひUFCに行ってほしいですけど。パンツに韓国の国旗を入れてもらって、UFCで爆発的に活躍した韓国人はいないから、実現したらこんなおもしろいことはないと思うのですが、まあ行かないですよね。

――そこもまた秋山らしいですけどね。

菊地　いずれにせよ2009年はいろいろ再編成して、もっと座りのいい感じになればいいとは思ってる人が多いと思いますが、そう簡単にはならないような気がします。いつの間にか実現した巨大な谷川ニューオーダーは、さっき言ったようにブュッフェスタイルなんでね（笑）。そういえば、武蔵のあのやられっぷりは素晴らしかった！　さすが名優だなと思いましたね。個人的には、武蔵がパソコン買ってからどうなったかと思って、興味深く観たんですけど（笑）。

――菊池さんがかつて本誌で提唱されてた、「パソコンを持っていない」自分の評価に無自覚な武蔵が、パソコンを購入してブログも始めたあとにどう変わったのか、と（笑）。

菊地　あの遠慮ない大ブーイングは、「武蔵がパソコンを持った」ことを受けてのものだと思いたいです。客のほうも、武蔵がパソコン持ってない時代なら、「しょうがねぇな」って思ってたのに、いまや「パソコン持ったならガンガンいくよ」っていう敵意を感じましたから。「おまえはおまえの評価がわかってんだろ？」って。まぁ、そのことを武蔵がどう思ったかは、まったくわかりませんでしたけど（笑）。

――武蔵が試合後のコメントで「嫌な空気」って言ってたのも凄かったですけど。

菊地　それに、今回のムサシ対決って、そもそも名前を賭けていたわけじゃないんですよね。一方は芸名でしかもBパターン、一方は本名が「ムサシォン」。勝っても負けても名前にはなんのペナルティもプライズもない。ホント黒魔術ですよ（笑）。なんにせよ、とんでもない不景気ですんで、09年は誰ももっとスカッといきたいですよね。旧帝国民の方はイライラしてないで、ブュッフェを楽しみましょう。今年もよろしくお願いします。

――よくわかりました。今回もありがとうございました！

【09年1月5日／都内・菊地氏の事務所にて収録】

スガッスルとは、なんだったのか？

いつの間にか実現した巨大な新秩序は谷川さんによるビュッフェスタイル

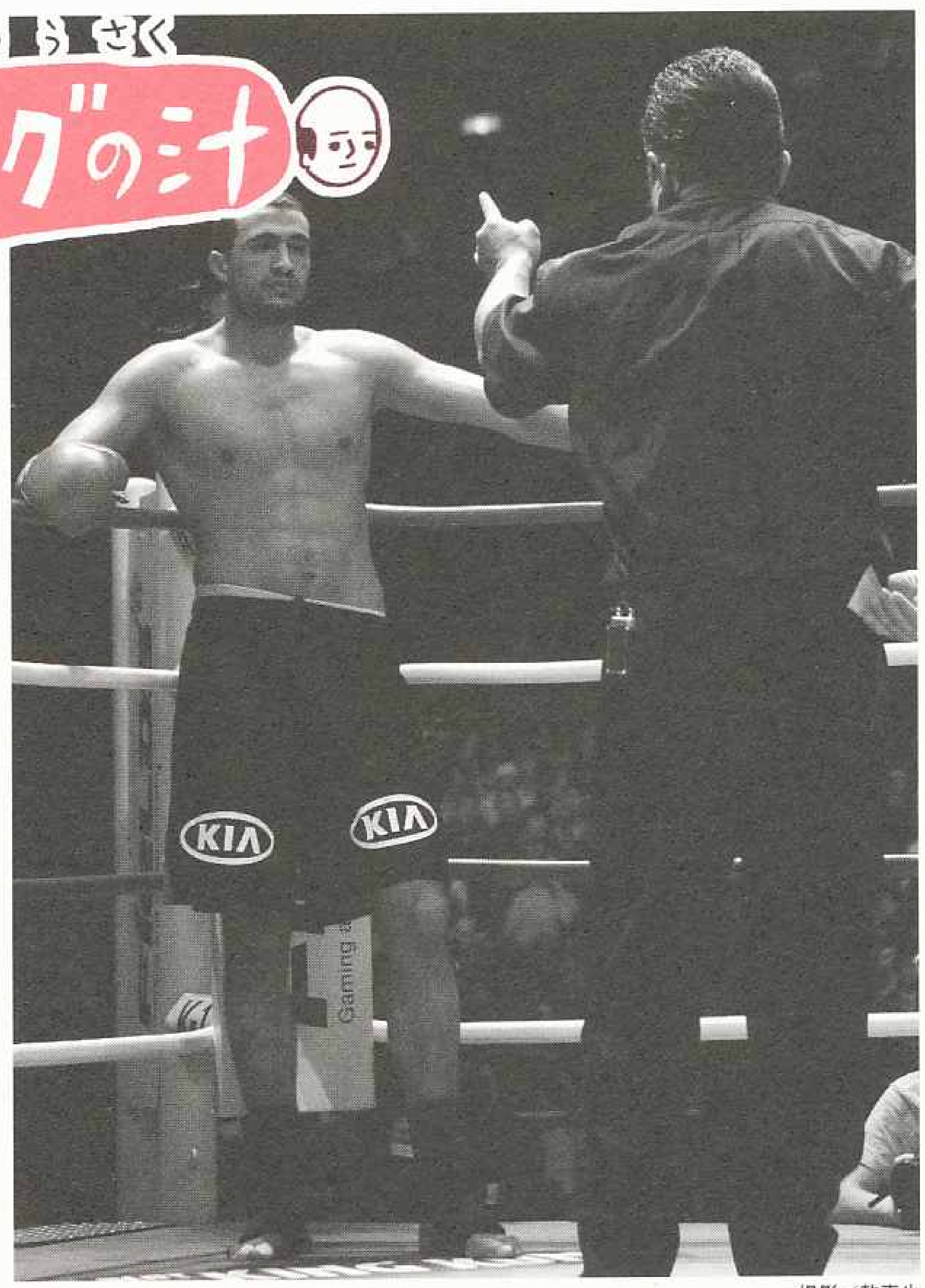


第38回

「志村うしろ!」のように「北岡呼吸!」と
ドキドキした五味戦ゴング前

花くまゆうさく

豆リングの汁



撮影／乾真也

バダ・ハリの反則で魔裟斗が「今後、出場停止させないとダメですよ」と正論言ったので、そんなことちっとも思ってなさそうな谷川Pが仕方なく「そうですね」と言ったのが、K－1WGPのハイライトだったが、それから数週間で大晦日に出場させる谷川Pは、TBSに捧げる視聴率にとり憑かれているのか。

持ち駒選手総動員して、あいかわらずの階級無視のマッチメイクや、ルール異なる選手を闘わせ、選手が築いてきたものを1日で台なしにしても「いい試合だあ」とかノンキに言えば、平気みたい。

UFC観た数日後に、このどうかしてるTBS版『Dynamite!!』を観たのでひどくガッカリした。

世界クラスの実力ある人は、こんな大会より、UFCでやってほしいとつくづく思った。こんな大会で全盛期すごすのもったいないよ。

そして、そんな『Dynamite!!』のあとに『戦極』観たら、凄いまともな大会に見えて、癒されちゃいました。サンチアゴ&北岡選手お見事、おめでとう。

石井加入を機会に
TUFも放送してください



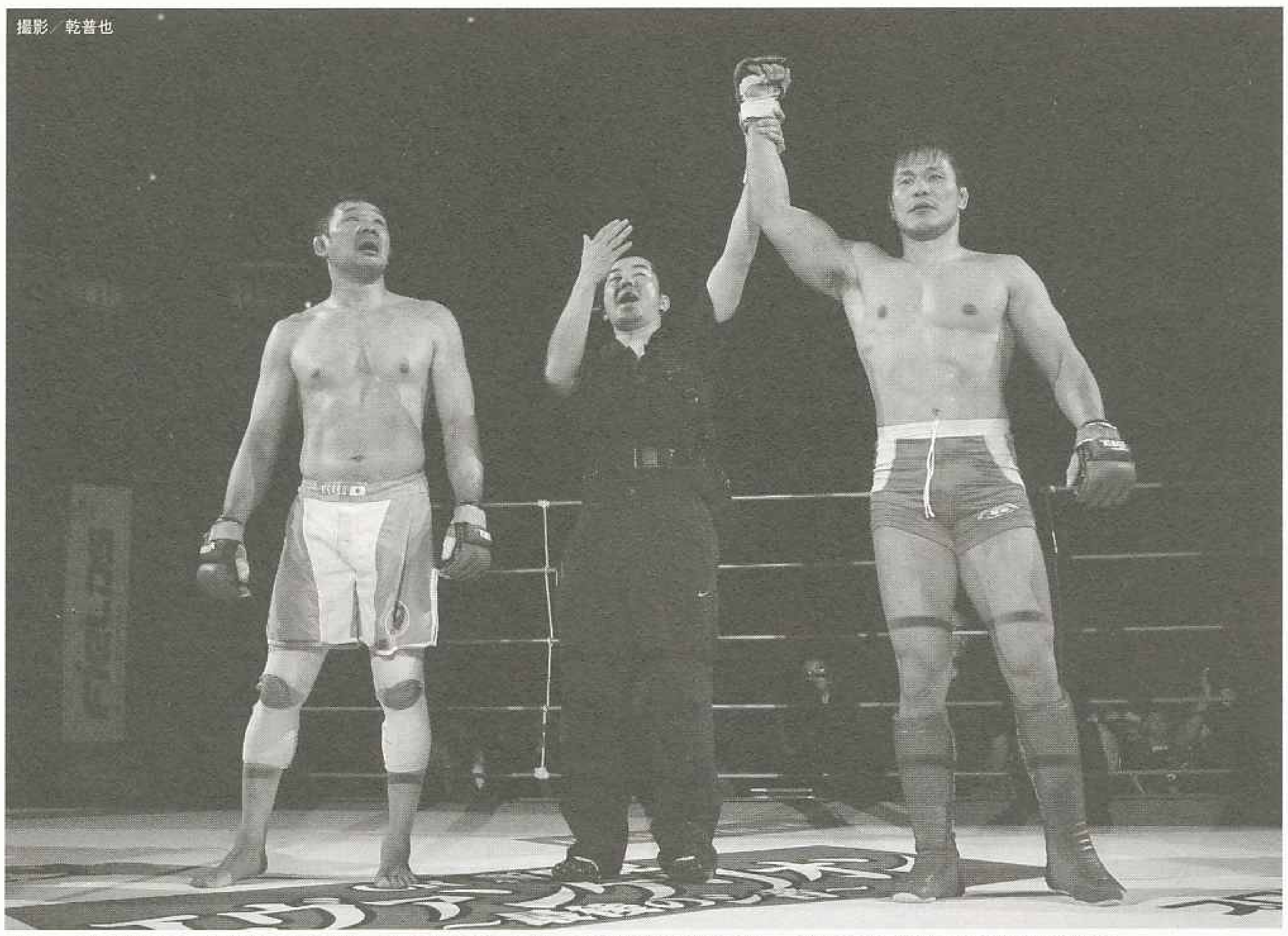
Hanakuma Yusaku
◎こないだ映画観たら、タクタロフが出てた。

椎名基樹のサムライ三昧

第33回

『Dynamite!!』と玉袋筋太郎御大

撮影／乾善也



プロレス&格闘技はテレビ観戦がほとんどという椎名さんだが、田村vs桜庭戦を"拝み"に会場へ。田村の判定勝ちという結果に何を思う?

みなさん、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

新年の御来光の前に、もういっちょ「ありがたいもの」を拝見しようと、大晦日の『Dynamite!!』を観戦するために、ひさびさにさいたまスーパーアリーナまで足を運んだ。出かける数時間前まで微熱があり、こりゃヤバイなと思っていたら、家に帰ってきた途端、発熱、もとい、初熱。初喉の痛み、初リンパの腫れも伴い三が日はベッドですごした今年厄年のオレであった。モウ〜嫌!

『Dynamite!!』の会場喫煙所で玉袋筋太郎御大と一緒になる。しばし談笑。御大が「やっぱ観に来た?」と言うので「拝みに来ました」と答える。「オレもだよ、でもコレで最後じゃねえか? こういう気持ちで観に来るのも」と御大は言う。なるほど、むやみに熱くなった季節の最後を見届けに来ているのだなあと、あらためて思う。惜別の思いを込めて、感謝の念を込めて、もうとっとと整理をつけなくてはという自戒の気持ちを込めて。

「このあいだの『UFC92』は観ました?」と振ると御大は「もちろんだ」と首を縦に振る。かつてのPRIDEのスターたちの壮絶KO負けを思って、お互いに苦笑い。「メインのフォレスト・グリフィンの試合、凄いレベル高かったですね」と言うと御大いつものべらんめい口調で「凄かったよ。何が格闘王国日本だよ〜」とおもしろいことを言うので声を上げて笑ってしまう。自嘲的な言い方に笑ってしまったのだが、またべつに「オメーもきっちり観てるなあ、好きやねえ」という何か嬉しい気持ちも混じって笑ってしまった。御大とは佐山式敬礼で別れる。

それにしても昨年の年末から年始にかけて、格闘技の幻想が瓦解する1ヵ月であった。

まずは、ボクシングの話題で失礼であるが世紀の一戦となった、マニー・パッキャオvsオスカー・デラホーヤ。身長差10センチ以上。適正体重(筆者勝手な判断であるが)フェザー級とウェルター級の体格差のある闘い。小さなパッキャオがスーパースターのデラホーヤをボコボコにしてしまった。ボクシングの階級の幻想がガタガタと崩れた。17階級4団体68人の最強の男は多すぎる。IWGP構想はボクシングのようにタイトルの価値を高めるためベルトを統一するというコンセプトだったが、現在のボクシングこそタイトルが乱立している実態が露呈したと言っていいかもしれない。階級の体重差1200グラムなんだぜ!!

かくしてスーパースターの座を奪ったパックマンであるが、そうなると残念で仕方ないのが、1月4日のタイトルマッチで微差で敗れたライト級チャンプの小堀選手。この試合までほぼノーギャラで、タイトルを守ればアメリカでドン・キングプロモートのもと、試合する予定だったという。そーなれば同級王者のパッキャオと統一戦をする公算も大きかったと思うのだが。それは日本ボクシングを変えるような快挙だったのに残念。テレビ解説を務めた内藤チャンプも小堀選手を評して「こんな日本人いませんよ」と言っていた。本当にそのとおりだ。

前記した『UFC92』ラスベガス大会。PRIDEの象徴であった、ヴァンダレイ・シウバとアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラが壮絶KO負けを喫した。ショックであったが、試合途中から「こりゃ負けだわ」と覚悟する内容だった。

ヴァンダレイの、相手のパンチに合わせて4発のフックを放ついつもの戦術は、リアクションムーブで完全にテレフォンに見えた。圧力をかけて前に出ていたが、先にジャブを2発当てられた時点でボクシング技術に差を感じる。KO負けへジリジリと近づいているように見えた。

ノゲイラも同じく、ジリ貧となりKOされた。ノゲイラの打撃は、相手のミアに比べ防御が甘く連打されると真っすぐ下がり、何度もアッパーを食らった。パンチの種類も少なく顔面へのワンツーしかない。それでもヘビー級でノゲイラのレベルに寝技がある選手はいなく、いままでそれで奇跡のような大逆転を演じてきたのだが、ミアが寝技で一本取られたり、そーじゃなくても圧倒されるようなことは、とても想像できず、最後は「打つ手なし」となってKOされてしまった。

PRIDEの幻想は崩れた。いや幻想という言葉は合わないだろう。ヴァンダレイやノゲイラは、ある一時世界のトップにいたことは間違いがない。ただ、時が流れたのだ。格闘技において全盛期のなんと短いことだろう。そして、一度勢いが落ちたとき、それを取り戻すことが、なんと困難なことだろうと思う。北岡に足関で一本取られた五味にはとくにそれを思い知らされた。

そして、幻想瓦解シリーズの中でも、もっとも「こりゃ大丈夫か?」と思わざるをえない深い傷が、大晦日のK−1勢の総合勢に対する大惨敗ではないか? K−1ルールで本職がまさかの3連敗。さらに総合ルールであるといえ体格差があれだけありながら、ミノワマンにあっさり負けてしまったK−1のニューカマー、エロジマン。K−1の存在意義すら見いだせない。とくにバダ・ハリの敗戦はみっともないことこのうえない。大晦日のお祭りを成立させるための、いたずらなマッチメイクが大変なことになってしまった。

しかし、これでいいのだ! 幻想はバンバン壊すべきなのだ。破戒なくして妄想なし(マーシーイズム)、もとい、破壊なくして創造なしである。

そして、最後に田村vs桜庭。本当にただ「ありがたいもの」を拝むだけになってしまった。まだ感想はない。

DDT外伝 by高木三四郎社長

リングを捨て町へ出よう!?

部屋とYシャツと両国国技館 第8回

『2009年8月23日にDDTプロレスは両国国技館を押さえた!』

昨年12月28日のDDT後楽園大会の試合後にDDT両国国技館進出を発表しました。「なんでこの不況に?」「本当にDDTが両国をやって大丈夫なのか?」といった街の声を聞きますが大きなお世話です(笑)。「大丈夫なのか?」と思うならチケットを一枚でも買ってください(爆)。

まあ確かにいままで後楽園規模をイッパイにするのが関の山だったDDTがいきなり大田区体育館とか代々木第二とかを飛び越えて両国やるんですから不安は不安なんでしょう。景気も悪いし。

でも景気がよいときにやっても仕方がないと思うんです。景気が悪いときこそ、勝負に出なきゃいけないんですよ。

自分で限界を作っちゃえば、そこまでしか到達はできないんです。でも限界を超えて、リミッターを外して大きな目標にあたらないと未来は見えないと思います。

実際にこのDDT両国進出の報道を聞いて「勇気づけられました」「自分も限界を超えて頑張りたいです」といった声を聞くことが多いので、そういった意味ではすでに両国をやる意味はあったかな、と思います。プロレスはもともと人々に勇気や希望を与えるジャンルだったと思います。戦後、疲弊しきった日本国民に活力を与えたプロレス。いま、こういう時代だからこそ再びプロレスで勇気を与えなくてはと思ってます。

具体的にというか漠然と両国に向けての動きも見えてきました。やっぱり目標があるのと、ないのとでは大きく違いますね。

正直、DDTの選手もそうなんですが、「最近のプロレスラーって夢があるのかな?」と思うことが多々あります。ただ単にリングの上で試合ができればよいのか? ギャラをもらってそれで食えてるだけでよいのか? 疑問だらけでした。

不可能だと思えることに挑戦することが夢なんじゃないかな。そしてあきらめなければ夢は絶対にかなうと自分は信じてます。

両国国技館という大きな夢に向かってスタッフ選手、そしてお客さんも巻き込んで一致団結して必ず成功させたいと思います。すでに内容面で案はいくつかあるのですが、よその団体にパクられるのもイヤなので情報は小出しにしたいと思います(爆)。現時点で発表できるのは、マッスル坂井が全面的に演出を務めるということぐらいです。

で、先日、両国の座席表を見たのですが「大きい」(笑)。いや~、テンション上がりますよ。これから両国の座席表を売れた順に塗り潰していこうと思います。全部塗り潰せたらいいなあ。

皆さま、8月23日のDDT両国大会、ゼヒよろしくお願いします!



昨年12月28日のDDT後楽園大会でHARASHIMA相手にKO-D無差別級王座を防衛した三四郎は全選手をリングに呼び寄せると「心の中に限界を作っていたら先には進めない」と8・23両国大会の開催をサプライズ発表。やれんのか? やってやるって!

Sanshiro Takagi ◎DDTプロレスリングの社長兼レスラー。1970年1月13日、大阪府出身。趣味は高級時計収集。更新頻度もかなり多めで好評の高木三四郎の「新宿御苑ではたらく社長レスラーのブログ」アドレスは→http://blog.livedoor.jp/t346/

金ちゃんのどこまでやるの?



第31回 田村さんと真剣勝負したい!の巻

『kamipro』読者の皆さん、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします!

08年の年末は10数年ぶりに田舎に帰ったよ。例年は一応、大晦日に急なオファーが来ても大丈夫なように、年末はスタンバイしてたんだけど、今回はそれもねえだろうなってことでね(笑)。

だから今年は初めて、俺とカミさん両方の実家に正月に行くことにしたんだよ。で、大晦日はカミさんの実家に行ってて、例年大晦日は『ガキの使い』の「笑ってはいけない~」シリーズを楽しみにしてたんだけど、義理の兄ちゃんの子どもが周りにいるから、集中して観られないので、今年は『Dynamite!!』観たんだよ(笑)。『ガキの使い』のほうは自宅に帰った後、じっくり観ようと思ってね。

だから桜庭と田村さんの試合は、地上波で結果を知らないまま観たんだけど、ちょっと残念な内容だったね。噛み合ないというか、もったいなかったな。

二人ともプロ意識が高い選手だから、「これぞプロだ!」というような試合を期待してたんだけどね。ちょっと動きや展開がなかったから、あれはどっちが悪いというわけじゃないけど、俺から見たら田村さんがちょっと守りすぎだよね。ああいう闘い方をされると、下になった選手としてはつらいよ。まあ、サクも下からすぐ立つとか、違うことをすればよかったけど。そういう意味ではお互いが噛み合なかったよね。

その代わりじゃないけど、田村さんの弟子(中村大介)と所英男くんの試合がよかったよ。田村さんの代わりに弟子がいい試合をしたよね。あのバンバン極めにいく姿勢がいい。まあ、レガースを履くのはどうかと思うけど(笑)。みんなが、ああいう試合を心がければ格闘技ももっと盛り上がるし、いい試合も増えると思うんだけどね。まさか田村さんがああいう固い試合をするとは思わなかったよ。

あと田村さんとサクの試合を観たら、やっぱり先輩後輩に見えちゃうんだよね。あれは、なんだろうね? 桜庭のほうが有名で、格闘技界の実績でもはるかに田村さんを超えたはずなのに、やっぱり並ぶと先輩後輩なんだよね。そういう見えない壁みたいなものも打破しなくちゃいけないんだろうね。だって、前にDREAMでやった船木さんとミノワマンの試合なんて、先輩後輩の関係がモロに影響してたじゃん。だから、難しいよね。

そういう意味で、俺も田村さんとやってみたいよね。桜庭は「田村さんの顔面を素手で殴りたい」って言ってたけど、それを言ったら、俺は桜庭の1000倍くらいは殴りたくなるようなことされてるから(笑)。

サクも大変だったと思うけど、俺はもっとひどかったから(苦笑)。サクが入門してきたときは、田村さんもだいぶ丸くなった頃だったからね。

ホント俺は自分でもよく我慢したと思うよ。自分が忘れっぽいというか、根に持たない性格だったからよかったけど、根に持つタイプだったら、ノイローゼになってるか、もしくは取り返しのつかない行動にでてたかもしれないからね。

まあ、昔のことだし正月からそんなこと言ってもしょうがないけど、田村さんと一度はバーリ・トゥードでやってみたいね。今年は田村さんと闘えるように実績作って頑張りますよ。

毎年、俺はこのコラムで「今年こそは『Dynamite!!』に出られるように頑張ります」とか書いてるからさ、そろそろ、この毎度おなじみのセリフを打破しないとね(笑)。

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

ブッカーKの ぶっかけ!

格闘裏情報

第34回

私だけが知っている

年末興行の功罪とファイトマネーの世界基準

いまや年末恒例となった大晦日格闘技イベント。じつは日本の大晦日格闘技イベントは、多くの選手、とくに外国人選手からすれば、それに出場することは長らく垂涎の的でした。何しろ通常のファイトマネーより上乗せされることが通例になっていたからです!

大晦日のイベントは、テレビ局が主催となって総力を挙げてバックアップするため予算面で通常のイベントよりもかなり大きなお金が動いていました。しかし、その反面でそれに見合った対戦カードの提示が必要でした。次第に大晦日基準がそれ以降の契約更新時にファイトマネーの高騰を招いてしまった。

これが団体の経営を圧迫し、MMAシーンの未来を曇らせた。それはいまの日本格闘技界の現状を見れば明らかでしょう。

日本の場合、ファイトマネーだけではなく、選手の待遇面でもずいぶんと主催者は譲歩してきました。たとえば、UFCは選手一人につきセコンド一人の渡航費しか支払いはしません。タイトルマッチのときは二人までというルールは、ズッファ社以前のSEG時代からいまも変わりません。ところが、PRIDEは、ホイス・グレイシーのセコンドを15人も認め、15人ぶんの渡航費や滞在費を支払ったのですから。しかも、その半分はビジネスクラスですよ! 要求するほうもするほうですが、支払うほうも支払うほう! 外国人選手が日本行きを夢見ていたのは、ファイトマネーはべらぼうに高く、そしてどんなワガママでも主催者が聞いてくれていたからです。

私はあいだに入る立場でしたが、私としてはハードな交渉になるならやめたほうがいいと思っていましたが、飛び越えて話をされてしまったり、歯止めが効かない状態でした。

PRIDEが招いたファイトマネーの高騰ですが、いまではだんだんと落ち着きを取り戻しています。まあ、トッププロモーションのUFCがそんなに大金を払っていないこともあります。

『THE ULTIMATE FIGHTER(TUF)』がときどき話題に上がりますが、いまのチャンピオンのラシャド・エバンスも前チャンピオンのフォレスト・グリフィンも『TUF』に出るもっと前からMMAデビューしてたし、私が日本デビュー前にショーグンをブッキングしたIFCの2003年のトーナメントにグリフィンは出てたし、ラシャドもGladiator ChallengeというKing of The Cageの下部組織から上がってきた選手。それらのベースがあって『TUF』というTVメディアと一緒に作り上げるプロモーションを通して現在があるのです。

通常の選手がUFCのレギュラー大会なりUFNに出場する場合3000~4000ドルのスタート。しかもそれは20~30パーセントの税込みです。そのうえ連敗したり、試合がつまらなかったりすれば、契約期間中でもファイトマネーのダウンが提示される。このUFC基準であれば、市場の安全は守られると私は確信しております。

日本の格闘技界も大晦日というお祭りに惑わされることなく、安全な市場を確立すべきなのかもしれません。

Booker K ◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

kamipro Moveで好評連載中!

ニュース特選!★kamiの1週間

傑作編

年末年始の興行ラッシュ! 大晦日視聴率戦争はどうなった?

(1.6更新分より)

松 あけましておめでとうございます!

竹内 今年もよろしくお願いします。

松 さあ、年末年始の大会を振り返ろうか。

竹内 一番のサプライズといえば、『ターザンカフェ』内の「夢香日記」終了だな。

松 世界で一番どうでもいいことだろ!

竹内 あの「日付以外、すべてがウソ」みたいな日記、貴重じゃないか。この連載の代わりに『kamipro』ケータイサイトで「夢香日記」を始めてもいいくらいだ。

松 サイト閉鎖に追い込む気か! そんなくだらない話はおいといて、大晦日の『Dynamite!!』は素晴らしい大会だった。

竹内 青木vsアルバレス、所英男vs中村大介など、ハイレベルなMMAと、川尻、ムサシ、アリスターがK-1ルールでK-1ファイターを撃破した「勇気のチカラ」マッチもよかったよな。

松 ただ、大会直前でカード変更、カード中止が相次いで、かなりドタバタしたよな。

竹内 まあ、カードが決まらないのは、DREAM名物ってことでいいんじゃない?

松 いいわけないだろ! マーク・ハントと対戦予定だったジェロム・レ・バンナが欠場し、メルヴィン・マヌーフが急きょ出場。また目玉カードの一つだったJZカルバンvsヨアキム・ハンセン戦も、ハンセンの体調不良で試合当日に中止になった。

竹内 事態を重く見た主催者側は大会を3月に延期することも検討したという。

松 それはIGF広島大会だよ!

竹内 そうだっけ? ズンドコつながりで、ゴッチャになっちゃって……。

松 ゴッチャにするな! そういったドタバタも試合内容が救ってくれた。

竹内 視聴率がもうちょっといってたらな。

松 大晦日で格闘技番組が始まってから、初めて民放1位の座を明け渡したけど、今年は裏番組も強力だったからな。

竹内 やっぱり『ハッスル』に数字を奪われたかなぁ。

松 『ハッスル』は去年より数字を落としてるだろ!

竹内 でも、『ハッスル』の視聴率はあのフジテレビに次ぐ、民放第5位だぞ。

松 民放5位って、最下位のことだろ!

竹内 そうなの!? サンボ浅子のサンボ世界選手権3位みたいなものか。

松 どうでもいいたとえを出すな! 年明けには1月4日に『戦極の乱』が開催された。

竹内 いや~、北岡悟は凄かったなあ。

松 あの五味隆典に秒殺勝ちだからね。

竹内 とにかく北岡の気合いの入り方はハンパじゃなかった。

松 入場のときの顔なんて、もうイッちゃってたもんな。

竹内 あの凄い表情で、また『戦極』の地上波ゴールデン放送が遠のいたかもな。

松 失礼なこと言うな!

竹内 あと『戦極』で驚いたことといえば、あの石井慧が登場したことだよな。

松 うん。これまでIGFや『ハッスル』の会場には来たけど、リングに上がってマイクで挨拶までしたのは初めてだ。

竹内 「皆さんこんばんは、石井です。せ~の、ダイナマイッ!」

松 だから、それは石井違いだって!

竹内 とにかく09年は石井に注目だな!

松 いいかげんにしろ!

◎『kamipro Move』で毎週火曜日更新の人気連載「ニュース特選! Kamiの1週間」。このコーナーではプロレス&格闘技好きなカントリーロックバンド「アニーラッズ」のボーカルの松さんとギターの竹内さんが、1週間のマット界で起こった気になる出来事を語りまくり! 興味を持った方は『kamipro Move』にレッツ・加入!!

掟ポルシェの萌え萌え女々苑



イラスト◎ゴローちゃん

旧『紙のプロレス』ファンの終着の浜辺ページ『萌え萌え女々苑』。今回のゲストはHG、RGに続く『ハッスル』期待の新星・KGさん！　逆から読むと〝おい金沢！〟的な新時代の女必殺拳に迫る！

掟　テレビで『ハッスル』を観たんですけど、KG選手は得意な空手技のキレといい、ルックスといい、近い将来絶対スターになれますよ！（キッパリ）。

KG　あ、ありがとうございます！（笑）。

掟　KGというリングネームの由来は、「空手ガール」の略なんですよね？

KG　そうです。お父さんが極真をやってたんで、その影響で私も始めて。そのあと伝統空手に変わって初段を取りました。合宿で突き3000本とか、すっごいキツくて、腕が上がらなくなって。涙を流しながら「もうヤダ、もうヤダ」って言いながら必死でやってましたね。

掟　いや、どうりで技がキレイなはずですよ！　ちょっと聞いた話では、KG選手は子どもの頃はかなり貧乏で、〝ハード・ゲイ〟のHGならぬ、〝ハード・貧乏〟のHBだったとか。

KG　そうなんです。自分のお母さんはフィリピン人で。それで、お父さんと離婚をして、お母さんが女手一つで育ててくれて。そういうのもあって、小さい頃は凄い大変でした。学生時代も夏休みのあいだにはバイトを3つやったりして、食費や交通費を自分で稼いでました。

掟　寝る時間もないじゃないですか！

KG　ほんっとになくて。牛丼のすき家と八百屋さんとビラ配りを同時にやってたんですよ。すき家は深夜のバイトで、ホントに寝てなくて、フラッとして、ごはんが入ったお釜に頭を「ゴーン！」とぶつけて、それで周りの人から「大丈夫？」とかよく言われてましたね（笑）。

掟　よかったですね、頭が炊き立てのホッカホカにならなくて（笑）。

KG　米粒だらけになっちゃいますよね（笑）。

掟　でも、ビラなんて配らなくていいんですよ。俺も子どもの頃、新聞配達やってましたけど、北海道だったんで、毎日雪に穴掘って埋めてましたもん。

KG　アハハハハハ。

掟　すぐクビになりましたけどね！

KG　そりゃあ、なっちゃいますよね（笑）。美容室のビラ配りをしてたんですけど、もらってくれる人ともらってくれない人がいるじゃないですか？　私は相手の目をジッと見て、「お願いします！」って凄い近くまで行くんですよ。そしたら、もらってくれるんで、それを何回もやってましたね。

掟　俺もジッと見られたかったですよ！　この人は髪ボサボサだからとか、そういうのを見定めてからビラを配るわけですか？

KG　いや、関係なく。もらってくれるなら誰でもいいっていうか。

掟　モト冬樹さんみたいな髪型をしてる人にも？

KG　渡しました（笑）。

掟　嫌がらせですよ、それ（笑）。で、KGさんの好みのタイプはどんな人ですか？



けー・じー■本名・近藤朱里。1989年2月8日、神奈川県海老名市出身。『ハッスル』オーディションを経て08年10月26日の栃木大会でデビュー。小さな頃からマラソン、ダンス、水泳、陸上、テニスなど、さまざまなスポーツを経験。特技の空手では全国大会にも出場経験あり。『ハッスル』では、ほんこんがマスターを務める喫茶店『ともだち』の看板娘としても活躍。キックデビューも狙ってるって！　164cm、51kg。ブログアドレス→http://ameblo.jp/aaabbbcccdddabcd/

KG　え～と、優しくてもダメなところはちゃんと叱ってくれて。で、いろんなことを教えてくれる人ですね。

掟　大人の人がいいってことですね。二人きりのときは甘えたりもするけど、普段は自分の悪いところをバシバシ指摘してくれるような人がいい？

KG　そうですね。でも、言いすぎたら、「ゴメンな」って言ってほしいです。私、けっこう落ち込みやすいんですよ。っていうか、私、凄い泣き虫なんですよ！

掟　泣き虫KG！　いいキャッチフレーズですね。泣きながら空手で相手を倒すっていう。『殺し屋1』みたいですけど（笑）。

KG　いいかもしれない（笑）。

掟　芸能人では、誰が好きですか？

KG　大竹しのぶさんです！

掟　（好みのタイプの芸能人を聞いたのに、取り違えた回答が返ってきて）えっ？

KG　（気にせずに）一度舞台を観に行ったんですよ。そこで、キ●●イの役をやってたのを観て、すっごい感動しちゃって。

掟　き、キ●●イの役ですか？

KG　それを観てからキ●●イの役をすっごいやりたくて！

掟　あ～、キ●●イの役って制約がないから、やってて楽しいんですよね。

KG　以前私、演技の勉強で、自分でストーリーを作って一人芝居を5分程度やったことがあるんですよ。「なんでもやっていい」って言われて。で、やったのが女の人と同棲をしている男の役で、女の人が別れ話を持ちかけてきて、その女の人が寝てるあいだに刺し殺すみたいな（笑）。もう解放感が凄くて！

掟　刺す解放感！（笑）。

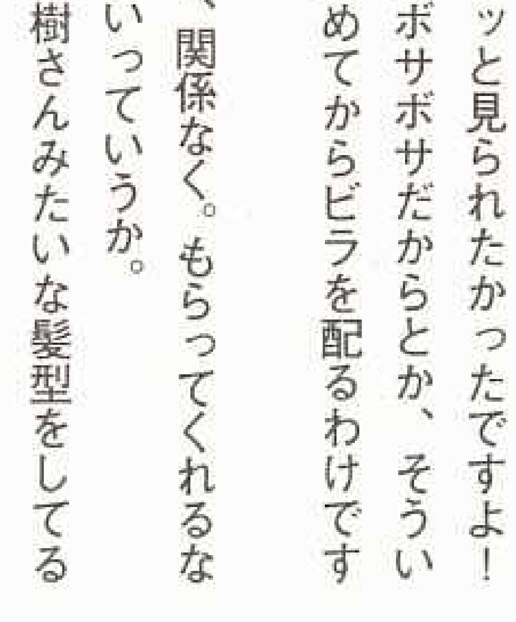
KG　「自分のモノだ！　自分のモノだ！」って言いながらズブズブ刺してるのをビデオで撮って、あとで自分で観て楽しくて楽しくて（笑）。

掟　現実では無理ですけど、芝居だったらいくら殺してもいいですからね。

KG　私も刺したいっていうか、解放したい！　自分を解放したいんです！　……わかんないですけど（笑）。

掟　あー、けっこう普段はいろんなことをため込んじゃうタイプなんじゃないですか？

KG　あ、すっごい溜め込みますねぇ。溜めて溜めてストレスになって、何かモノを凄くいっぱい食べちゃったりしますね。凄い嫌なことがあったとき、ピザ屋さんに電話をして、ホール1個頼んで、それを泣きながら一人で全部ムシャムシャ食べちゃったりとか（笑）。



空手殺法を武器に活躍中のKGは1・30新宿FACEで旗揚げのケータイ小説『ラブ＆ハッスル』舞台版にも出演。ヒロインの親友役としてハッスルするぞ！

掟　36センチのLサイズを一人で!?

KG　全然食べれちゃいますね。チョコレートとかアイスクリームとか、一日3個とか平気で食べちゃいます。

掟　『ハッスル』でデビューしてからは、ピザ1個とかアイスを一日3個とか、ある程度、お金を気にせずに食べられるようになったとすればいいことです！

KG　いや、いまも貧乏ですよ（笑）。道場に来るのにもけっこう交通費がかかるし。

掟　そこは●セルでなんとかしましょう！

KG　（キョトンとして）えっ、●セルってなんですか？

掟　無賃乗車のことです！　大丈夫ですよ、JRもかわいい子には優しいから見逃してくれます！

KG　いやいや、それは犯罪ですから（笑）。でも、あいかわらずお金はなくて、喫茶『ともだち』以外にも、たまに派遣のバイトに行ってますし。最近は工場の軽作業とか、マンガ喫茶の受付をやったり。

掟　山口社長、給料上げてあげて！　今後プロレス一本で食っていけるよう祈ってます！

Okite Porsche ◎掟ポルシェ■掟ポルシェのバンド『ロマンポルシェ。』が、またまた東京でライブパフォーマンス！　2・6（金）19時～＠新宿ロフト（03-5272-0382）。ゲストはスウェディシュポップアイドルのバニラビーンズ、Ordinary Venus（Chapon＋GOATBED）、他。タイトルは『合法ライブ』。べつにやましいことは何もない！　はず！　関西方面は2・15（日）神戸VARIT（078-392-6655）でもライブイベント出演！　その他の情報は掟ポルシェblogを死ぬ気でチェック！　【http://blog.excite.co.jp/porsche/】

佐藤譲 入場曲五十三次

イラスト◎エロコエロオ

第11回 ジャンルを支えるキモンスター

Yuzuru Sato◎1976年、静岡県生まれ、千葉県育ち。クラブミュージックなど音楽の解説を書いたり放送作家をやったりしています。今年もいろんな興行でいろんな入場曲を深読みしたいと思いますのでよろしくお願いします。

『ハッスルマニア』で泰葉さんを目撃してきました。

「何が起きるかわからない」が売りの泰葉さんでしたが、試合はアン・ジョー司令長官や清水マネージャーの活躍がありエキサイト。肝心の泰葉さんも意外なほど誠実かつ従順に試合作りに徹し、結果、当初の予想を裏切るきわめて真っ当なプロレスが展開されたのでした。

ところがそれだけでは終わらないのがやっぱり泰葉さん。

試合後のリサイタルでは満を持して本性を発揮。年の瀬の寒い中、学園祭の女王だった時代から続く水浴びパフォーマンスを披露し、(ダメージのせいか)ジャイアンばりのボエ〜声で涙の大絶唱。

肝心の歌、歌えてねっす！

そんなツッコミすら許さない、情念が煮詰まったような禍々しいオーラ。もちろん目は完全にトンでます。あれは北岡さんと同じ目です。そう、驚くほどおとなしかった試合はすべて歌を歌うため。新曲『お陽様よほほえんで』のパフォーマンスで私はそんな彼女の歌にかける執念にあらためて戦慄させられたのでした。

『お陽様よ〜』では作詞作曲編曲すべてを彼女が担当し、プログレやフュージョンを取り入れた80年代サウンドを展開。歌詞では「コーヒーカップやテーブルも小道具と知った時 この舞台の幕を下ろす自作自演三文芝居」と離婚については辛辣に語り、「ここにある正義だけが正しいとは限らない」「許してあげよう自分の心も」と自分の行動は弁護し肯定する図々しいほどの自己愛に満ちた、素の彼女の気持ち悪さが伝わる曲です。

そして歌を歌うため、小朝さんとともに行なった金屏風の離婚会見でイメージ転換を図った泰葉さんでしたが、元々「東大の安保闘争を見て革命家になりたい」と語り、嫁ぐ際「初めて人のために生きるのね」と母に言われるほど奔放な方。溜まったマグマは田上さんのように休火山化することなく、ますます噴火し続けます。

小朝さんには「切腹しろ！ 私が介錯してやる」と脅迫メールを250通も送り、ブログ『泰葉の革命プロジェクト』では田淵久美子や谷村新司に暴言を吐きまくり炎上&閉鎖。また、記者会見では血糖値が下がると角砂糖をなめ登場し、会見を開いておきながらカメラマンに「撮るな」と罵倒。小朝さんについて「許せない。家族にも勘当してもらい、これからは私は歌手でやる！」と意味不明な解答。『ゴッドタン』(テレビ東京)では最もキモい芸人をキモンスターと称してましたが、こちらも身の毛もよだつ暴走者という意味でキモンスターと呼ぶべきでしょう。

そんな自らの引き起こした騒動のせいで歌手活動に暗雲が立ちこめる中、歌う場を求めハッスルのリングに上がる泰葉さんは、確実に音楽に取りつかれた人であり、一般の方から見れば変態、あるいは怖い人にしか見えません。

ところが、結果的にはそんな泰葉さんが番組の最高視聴率を記録。彼女がハッスルを救ったかたちとなりました。

奇しくも逆境の風吹く年末年始の格闘技興行で光ったのは、北岡さんや青木さんなど、やはり格闘技に取りつかれたキモンスターの面々。かつて大量離脱で危機に瀕した全日を、四天王が身を削って支えたように、逆境にあるジャンルや団体を支えるのは、ジャンルと心中するまでにその魅力に取りつかれた「異形のモンスター」の見せる肯定力なのでしょう。

困難な事態に直面してもブレずに我が道を進めるキモンスターたち。しぶとい生命力でジャンルを支える彼らに、今年こそお陽様がほほえんでほしいものです。

鉄火場ゴングショー

賭博とは極上のプロレスである

田中太陽の十一本場

麻雀でプロレスをする

Taiyou Tanaka◎日本プロ麻雀協会所属のフリープロ。〝観戦記の鬼〟として一部の麻雀ファンのあいだで根強い人気を誇る。

「人生は全勝できない。8勝7敗でよしとせねば」

ギャンブル小説の大家、阿佐田哲也氏は人生をこのように語ったという。生涯を通じてギャンブルと関わった氏らしい、いかにもな人生観といえるが、じつは阿佐田氏とプロレスのあいだには微妙な関係があるのだ。

60年代末に『麻雀放浪記』を大ヒットさせたことにより、阿佐田哲也は麻雀に携わるものすべてにとっての英雄となった。この名声をもって氏が次に手がけたのは、〝麻雀プロ〟という新たなジャンルのプロデュースであったのだ。

当時の麻雀ファンといえばその大半がギャンブル好き、ごくごく一部に麻雀を〝競技〟としてとらえたマニアックな愛好家がいるのみという二極化状態であったが、阿佐田氏が目指したものはその中間だった。ファンに見せるため、あるいは読ませるための〝商品として成立する麻雀〟を作ろうとしたのである。

それまで〝麻雀プロ〟という言葉は単にギャンブルで生活している人間を指すものでしかなく、今日におけるスロプロ、パチプロと同義であった。が、そんな中で阿佐田氏は、麻雀に携わることで収入を得ることができる〝麻雀タレント〟を新たに育てようと試みたのだ。

このとき氏が、市井の〝麻雀プロ候補生〟たちを口説くために多用したといわれる殺し文句が「麻雀でプロレスをやらないか？」であったと言われている。

麻雀でプロレスをやるとはいったいどういうことか？

現代の感覚でいうならば、真剣勝負ではないエンターテインメント、すなわちショーとしての麻雀をやっていこうという意味合いになるだろうか。しかしながら当時におけるプロレスというジャンルの位置、並びに氏が実際にプロデュースしたものの内容を鑑みるに、阿佐田氏は麻雀で〝プロレスラー〟を作ろうとしたのではないかと筆者には思えてならないのだ。

真剣勝負を超えたものがプロレスであり、プロレスの中には真剣勝負も含まれていると語ったのはジャイアント馬場である。阿佐田氏が作ろうとしたのもおそらくはそういった世界なのであり、氏が〝麻雀プロ〟として選んだ人間もそのような要求に耐えうる超人ばかりだった。そして彼らは、世に〝麻雀ブーム〟なるものを巻き起こしたのだ。

そこで具現されていたものはショーでも真剣勝負でもない、まさしく〝プロレス〟としか呼びようのない高度なエンターテインメントであった。が、ご存知のとおりプロレスは相手がいなければ成立しない。阿佐田氏の概念と思想は、それまで既得権益をほしいままにしていた麻雀関係者たちから猛反発を食らったという。

麻雀でプロレスをやる資質を持たない者たちは、当然ながら阿佐田氏に付き合おうとはしなかった。「勝利のためにベストをつくすのがプロの麻雀である」という誤解のもと、相手を失なった〝麻雀プロレス〟は徐々に失速していったのだった。

現代においても〝麻雀プロ〟を名乗る集団は存在し続けているが、その実態は単に競技麻雀を行なうだけのクローズドサークルにすぎない。かつて確かにプロレスであったこのジャンルは、いまやガチンコエンターテインメントとしても成立しえない無益な世界と化してしまっているのだ。

かつてプロレスを模倣することで成功し、プロレス的なものを排除することで死亡したのがこの〝麻雀エンターテインメント〟というジャンルなのである。そしてプロレスと麻雀、この二つが再び良い時代を迎えることを、筆者は願ってやまないのであった。

カミプロブックスシリーズ

kamipro books

しんにほんぷろれすがくしゅうちょう

新日本プロレス学習帳

全国書店にて
絶賛
発売中!

"業界の盟主"新日本プロレスの魅力を凝縮したインタビュー12連発



kamipro編集部 編　定価=本体 1,600円+税　B6変型判 320ページ



時間割

☆一時間目／不道徳
講師=鈴木みのる&獣神サンダー・ライガー

☆二時間目／医学
講師=小林邦昭

☆三時間目／覆面
講師=平田淳嗣

☆四時間目／女性
講師=金本浩二

☆五時間目／道場
講師=山本小鉄

☆六時間目／移籍
講師=新倉史祐

☆七時間目／マイク
講師=田中秀和

☆八時間目／食欲
講師=中西学

☆九時間目／学校
講師=天山広吉&金原弘光

☆十時間目／米国
講師=マサ斎藤

☆十一時間目／格闘技
講師=永田裕志

☆十二時間目／プロレス
講師=中邑真輔

『kamipro』誌上に掲載された新日本プロレス育ちのレスラー&関係者のインタビューが一冊に! ファンを熱狂させてやまない、ライオンマークのおもしろさの秘密を講義形式で徹底解明! これを読めば由緒正しき老舗プロレス団体の過去・現在・未来がまるわかり!

※新日本プロレスを楽しく学べる「復習ドリル&成績診断表」付き

eb! enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表) [通信販売のお問い合わせ先] http://www.enterbrain.co.jp/



こ れはいきなりハッピー・ニュー・イヤーってヤツだろ？　ユーはどんな正月をすごしたんだい？ え？ センゴクを観に行った!?　それはナイスな感性だ。そんなオレもセンゴクだ。そして、今年は絶対にセンゴクを全部観に行くぜ!!　なぜかって？ それは、カズノリ・ヨコタのマイクにシビれたいからさ! アッハッハッハ!　それじゃあ、今月もヨコタに負けずにスタートだ!

130号へのお便り紹介

谷川貞治の秋山成勲に仰天サヨナラ宣言!! これはおもしろかった！ こういう昔のファイトのような企画（インタビュー）は最高だ！ あと、仲野の新日道場話もめちゃめちゃおもしろかった。

【三重県・ジャクチョンさん・会社員・35歳】

D サダハルンバというヤツはなかなかおもいきったことをしたみたいだな。しかし、オレ的にはインタビューにもっと「ンア～」ってヤツを使ってほしかったな。あれがあると、なんだか心が休まるんだ。

船木誠勝「劣等感と強さの探求で駆け抜けた日々」がよかった。誰もが思っていたことを船木自らの口で聞けたのはよかった。正直になった船木。時代を感じる。そしてMADNESS。

【山口県・松江巧さん・自衛官・30歳】

D マッドネス……。それがマサカツのキャッチフレーズってわけか。オレも昔はジャマイカのマッドネスって言われたもんさ。かつては何人のボーイを恐怖のどん底に陥れたことか。OH～、ユーは嘘だと思ってるのか？ え？ このトークには興味がないって？

菊田早苗の波瀾万丈人生がよかった。



菊田さんがそんな大変な人生を送っていたなんて、思いもよりませんでした。もう二度と悪口なんて言いません。

【大阪府・オードリー優勝さん・会社員・26歳】

D 波瀾万丈人生だなんて、軽々しく口にするもんじゃないぜ。オレが認める波瀾万丈人生は、猪木の炊き出しに並ぶ編集者のような人生だけだ。これ以上の波瀾万丈人生はないからな！

金原弘光×高山善廣×ミヤマ☆仮面の「よみがえれ！ UWFインター伝説」がおもしろかった。このシリーズは毎回楽しみにしています。上下関係の厳しいプロレス界で垣原さんがやさしい先輩で慕われていたというのはいい話ですね。あと、垣原さんが奥さんに怒られているポイントが自分と同じなので共感を覚えました。僕も座ってトイレしてます。

【神奈川県・廣木和宜さん・会社員・43歳】

D インターというところは相当ヒドいところだったようだな。とくに、タツオ・ナカノというヤツは厄介なボーイに聞こえるな。しかし、そんなプロレスラーっぽい話は最近のボーイたちからは聞こえてこないぜ。最近聞いたのは、カメラマンのシゲオ・キクチのフレンズが正月に新宿でケンカをおっぱじめたという話くらいだぜ。

BJ・ペンがよかった。日本人選手の青木選手は評価しているが、五味選手に対しては前と違う意見ですね。一度は拳を合わせ、世界のトップにいる選手から「MMAへの興味が薄れたのでは」と言われると、世界もそういうふうに観てるのかと思わされます。この記事を五味選手が見たらどういう反応するか見てみたいです。

【福島県・紺野春樹さん・会社員・29歳】

D タカノリ・ゴミはいったいどうしちまったんだい……。キモ強のサトルにも負けたそうじゃないか。ハッキリ言って、オレはファイヤー・ボーイだったタカノリに早くカムバックしてほしいくらいだ！ 朝8時まで飲みたいときは、オレが付き合ってやるからよお。

MIKUさんのインタビューがよかった。こんだけ活躍している人なのに、PRIDEの選手とかを全然知らないというのが信じられない。やっぱりこのくらい無頓着な人のほうが強いのかなあと思いました。

【埼玉県・勝村鉄平さん・学生・22歳】

D あのガールはミクというのかい!? な、なかなかキュートじゃないか。ボーイフレンドの話をしていたが、いまはフリーなのか？ ん？ なぜそんな質問するかって？ ……それは察してくれよお（ポッ）。

今号はひさしぶりによかったのでペンを取りました。かなり読み応えがあっ

驚かないが、「ヨコハ、センゴクボーズデショ？」という呼びかけにはシビれたな。

130号
おもしろかった記事
RANKING

NO.1 よみがえれ! UWFインター伝説
NO.2 更級四郎
NO.3 堀辺正史
NO.4 北岡悟
NO.5 船木誠勝

130号はUWFブックだと聞いたが、やっぱりトップを飾ったのはUWFインターレジェンドみたいだな。キンチャン&タカヤマ、次はオレも仲間に入れてくれよな!　ところで、最近サトル・キタオカが必ずランクインしてないか? 『kamipro』を読んでるボーイズ&ガールズは、じつはキモいヤツが好きってことなのか? まったく、ユーたちの嗜好はよくわからないぜ!

緊急企画

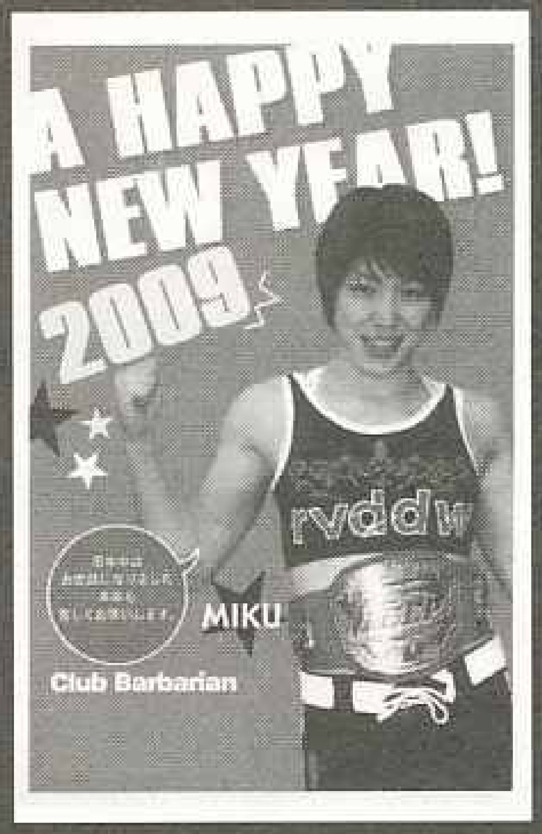
あけまして年賀状

ジャパンには「ネンガジョー」という習慣があるらしいな。どうりで年明けに『kami-pro』編集部にたくさんハガキが届いてたワケだぜ。よくわからないが、おもしろいネンガジョーを集めておいたぜ！　おっと、あんなヤツからも届いてるぜ!!





コイツはあの有名なイノキってヤツじゃないのかい？ 今年もネクロブッチャーを活躍させてくれよ！



これはオレの好きなMIKUからの年賀状じゃないか！ 送り先はヨシユキ・マシモとヨシユキ・オオカワ。来年はオレにもくれよお。



これはタコヤキクンというヤツのネンガジョーだな。オレもこの読者ペイジをもっとほめてほしいぜ！



ダイスケ・セキモトはなぜか毎年律儀に『kami-pro』にネンガジョーを出してるみたいだな。もの好きなヤツだぜ。



これはドームをいっぱいにしたというニュージャパンの面々じゃないか。テンザンにヨロシク伝えてくれよ！



これはRGの卑怯さが伝わってくるネンガジョーだぜ。子どもを使って営業なんて、まったくナンセンスだな!



おおおおお! これはトルシエを唯一動かせる男、ミスター・サカキバラからじゃないか! 元気にしてるかい?



去年のウエディングフォトを使ってくるとは、まったく新年からおめでたいな。今年は活躍してくれよ!

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
Check it out!!

"読者ペイジ"
ジャクソン

た。当時高3で、爆笑問題のラジオで前田の5分間レギュラー番組をいちいち録音していた自分。マルチ商法の勧誘並みにUWFの素晴らしさをムキになって力説していた自分。いろんな自分を思い出した。心の琴線に触れる号でした。ありがとう、本当に！

【東京都・小澤暁人さん・会社員・35歳】

D ユーにとって、UWFは青春だったんだな……。ちなみに、オレの青春はセイコ・マツダだ。オレの周りのヤツらはアキナ派が多いらしいが、ふざけんなって感じだぜ!!（怒）。

いろいろ波紋はあったけど、結局視聴率10パーセント獲った泰葉は凄いと思った。でも、ダウンタウンのほうに出てもよかったんじゃないかとも思う。

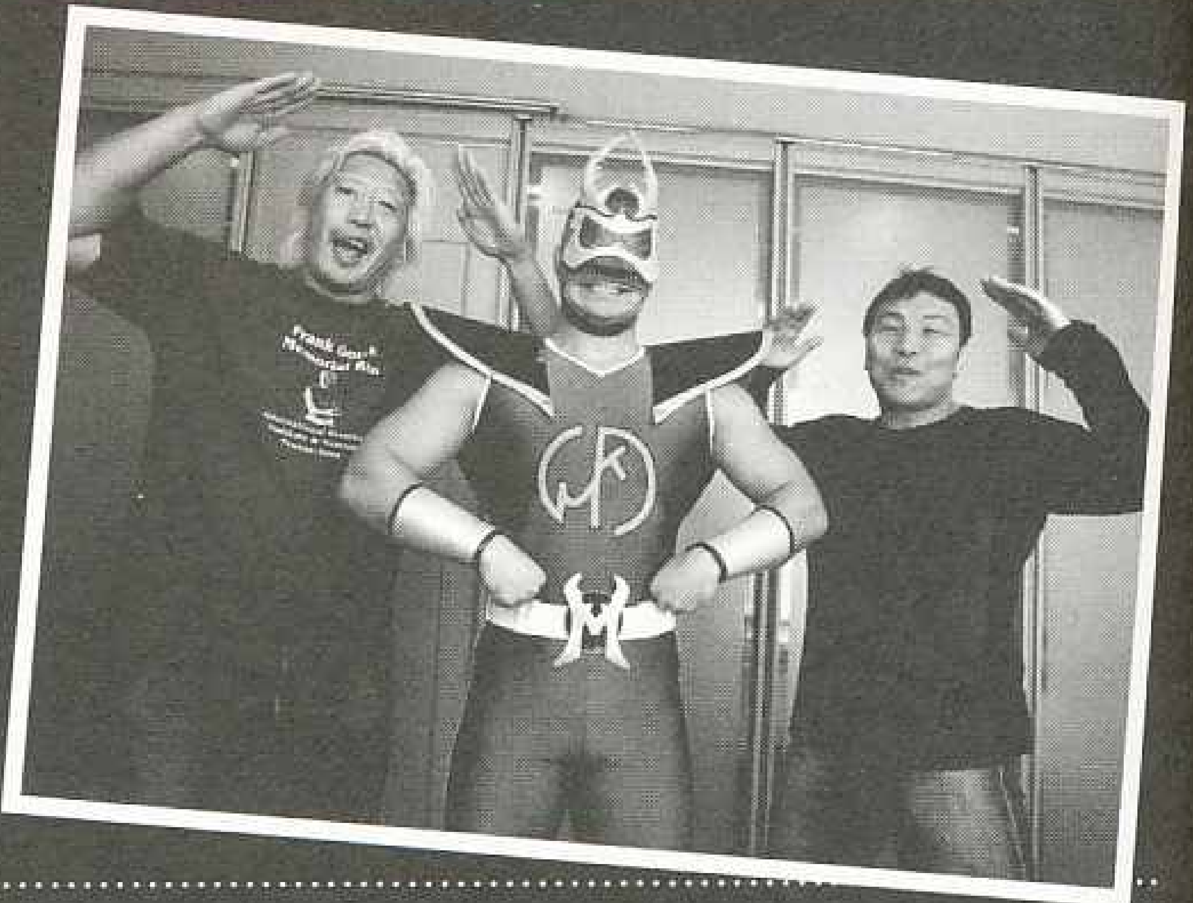
【千葉県・スガッするさん・会社員・30歳】

D 視聴率10パーセントだって!? オレ、泰葉と試合したかったぜ……。そしたら超有名人になってただろ？ 勝ったらリング上でオレの歌を披露できたかもしれないしさ！ ……え？ あれは泰葉が勝つに決まってるだろって？ OH！ 一歩間違えればやられ損になってたってわけか。罠にはまるところだったぜ！

仲野信市さんのインタビューを読むと、やはり新日本出身者にハズレなし！ と痛感します。どこの世界に酒飲みに行くのに1週間仕事を休むのを覚悟する大人がいるでしょう？ 素敵です。でも、口の中にウンコするのは明らかに虐待だと思います。

【宮城県・毒柴さん・変態宮城県支部長・37歳】

D こりゃ、とんでもない男がいたもんだな。酒飲むのに1週間欠勤か。しかし、それはいい手だな。このシンイチ・ナカノってヤツが上司だったら、月に4回飲むだけで1ヵ月欠勤できるぜ！



堀辺師範のインタビューがよかった。『ハッスル』であんなにチャラチャラしている安生が命を懸けてヒクソンに道場破りに行ってたことが信じられません。カッコよすぎです。凄くファンになってしまいました。今度『ハッスル』の会場で安生コールをしてみようと思います。

【埼玉県・松下稔さん・学生・24歳】

D ドージョーヤブリというのはジャパニーズ独特のカルチャーなのかい？ それがカッコいいっていうんだったらオレもやるしかないな。でも、オレは確実に負けるだろうけどな。アッハッハー！

ジョシュ・バーネットがよかった。アメリカと日本の総合格闘技誕生の違いをくまなく理解している外国人選手はジョシュだけか？（笑）。

【大阪府・松本雅之さん・会社員・42歳】

D ジョシュというヤツは知ってるぜ！ 自分のことをケンシロウだと思ってるクレイジー・ガイだろ？ アイツのインチキ日本語トークはもう驚かないが、「ココハ、センゴクボーズデショ？」という呼びかけにはシビれたな。

UWF特集と聞いて「いまさらなあ〜」と思ったのですが、更級四郎さんのインタビューには驚かされました。あの佐山サトルの相談相手とは凄いじゃないですか。それにしても、トップレスラーって孤独なんですね。

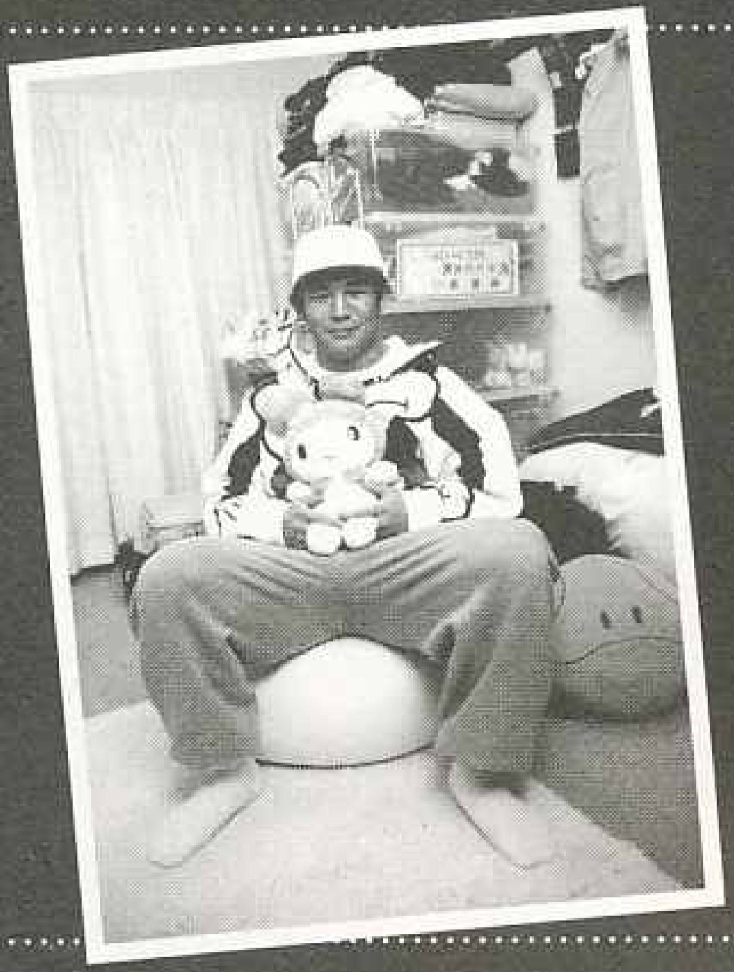
【兵庫県・春名義行さん・会社員・42歳】

D そうだぜ。トップの人間はいつだってツラいんだ。オレもバンドのリーダーだけど、練習するぞって言っても、誰も来ない日もあるもんな！ アッハッハッハ!!

北岡悟選手のインタビューがおもしろかったです。パフォーマンスと同じくらいシュミも強烈でした。あと、好きな女優のシュミは自分と一緒でした。

【広島県・岡部怜央さん・学生・17歳】

D サトルと同じシュミだなんて、さてはユーもマイルームにマイメロディのドールを置いているのかい？ そうならちょっと仰天だぜ。なぜって？ オレもマイメロディのドールを持ってるからさ！



UWF特集もよかったですが、『やれんのか！』の舞台裏を語った笹原EPと篠田氏のインタビューがよかった。篠田氏を空港に送っていった気合いの入ったタクシーの運転手がいなかったら『やれんのか！』が実現していなかったと聞いて感動しました。ぜひその運転手を見つけ出して表彰してほしいと思います！

【神奈川県・岡田おかださん・会社員・36歳】

D 不景気、不景気って言ってるけど、あんないい話を聞いたら、世の中捨てたもんじゃないぜって思うよな！ 今号は「男特集」だとか言ってるけど、このスーパードライバーも取材するべきだったぜ！ そしてもちろんオレもな!!



大阪府・剣洋人さん／オレのお気に入りのタツヤ・カワジリのイラストがようやく来たな。今年はブレイクしてくれよ!



東京都・サカモトカズヤさん／これは『Dynamite!!』で闘ったサクタムだな。タムはウルトラマンなのかい? グッドセンスだぜ!

今月のトップ賞!



埼玉県・超人とおるさん／おおおおおおおおおお! やっと来た! オレはこういうのを待っていたんだ! チョウジントオル、ユーとはベストフレンドになれそうだ。しかも、マッチョに描いてくれるなんて、かなりのやり手じゃないか! まったく、おまえってヤツは。ハッキリ言って、ほかのボーイズ&ガールズも、こういうイラストをしっかり送ってくれよ! アッハッハッハ!



おハガキ募集!!

おハガキ、どんどん送ってくれよ!
ケータイからでもOKだぜ!!
どんな意見、感想、苦情、抗議、
お悩み、ダメだしでも、ぜーんぜんキャッチするから安心しろって！ 待ってるぜ!

こんな情報も24時間どんとこい!
ってヤツだ。
- 譲ってほしいもの
- タレコミ情報
- 選手に対するコメント、試合の感想
- その他、オールOKだ!!

以上、すべてのお便り・
イラストのあて先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「あなたが好きだから」係まで。

携帯サイト『kamipro Move』からの投稿もできるぜ。

団体INDEX

※50音順及びアルファベット順

■アパッチプロレス軍
☎03-3623-2744
〒130-0011 東京都墨田区
石原2-4-4 2F
http://www.apache-pro.com/

■大阪プロレス
☎06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区
恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■沖縄プロレス
☎098-861-9779
〒900-0014 沖縄県那覇市松尾1-3-1
エスプリコートビル5階
http://okinawa-prowres.jp/

■キングダム・エルガイツ
☎042-376-1639
〒206-8585 東京都多摩市
関戸4-8-18 TOHO聖蹟桜ヶ丘ビル
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■健介オフィス
☎048-982-0960
〒342-0041 埼玉県吉川市保1-4-12

■新日本プロレス
☎03-6407-3111
〒153-0042 東京都目黒区
青葉台4丁目4番5号
渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
☎03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区
花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏真陰流 興義館
☎050-3599-7872
〒113-0033 東京都文京区
本郷3-6-13 太平ビル2F
http://homepage2.nifty.com/seikendo/

■仙台ガールズ・プロレスリング
みちのくプロレスと同じ
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
☎03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区
九段北1-5-10 岳南九段ビル6F
http://all-japan.co.jp

■大日本プロレス
☎045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区
岡野1-13-5 横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■髙田道場
☎03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6
ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■日本修斗協会
☎03-5984-3209
〒176-0012 東京都練馬区
豊玉北1-6-13 カエサル江古田B1-101
http://www.alles.or.jp/sshooto/

■ハッスルエンターテインメント
☎03-3221-2431
〒102-0075 千代田区三番町6-1
渡辺ビル2階
http://www.hustlehustle.com/

■バトラーツ
☎048-963-0005
〒343-0046 埼玉県越谷市弥生町9-8
http://www.bat-com8000v.jp

■パンクラス
☎03-5986-2260
〒171-0021 東京都豊島区
西池袋5-26-13 パラスト池袋702号室
http://www.pancrase.co.jp

■CHICK FIGHT SUN
ZERO1と同じ

■フーテン・プロモーション
☎03-5698-5224
〒124-0006 東京都葛飾区堀切
2-41-10
http://fu-ten.jp/

■プロレスリング・ノア
☎03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
☎022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市
若林区土樋236
愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.jp

■DRADITION
☎03-3402-2474
〒107-0062 東京都港区
南青山4-2-4
シャトー青山第3-204号室
http://www.muga-world.jp/

■ユニオンプロレス
☎03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区
新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://union.ne07.jp

■ワールドビクトリーロード
☎03-3369-2211
〒160-0023 東京都新宿区
西新宿2-6-1 新宿住友ビル35階
http://www.sengoku-official.com/pc/

■DDT
☎03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区
新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
☎052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市
中区松原1-2-23 第3栄ビル3F
http://www.deep2001.com

■DREAM(DREAM事務局)
☎03-5775-5065
http://www.dreamofficial.com/

■DRAGON GATE
☎078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区
北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
http://www.gaora.co.jp/dragongate

■FEG(K-1事務局)
☎03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区
神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/feg/

■GCM COMMUNICATION
☎03-3556-6201
〒102-0093 東京都千代田区
平河町1-4-3伏見ビル4F
http://www.g-c-m.net

■IGF
☎03-5159-3380
〒104-0061 東京都中央区
銀座1-15-2 銀座スイムビル3F
http://www.igf.jp/

■IWAジャパン
☎03-3352-3366
〒160-0022 東京都新宿区
新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JEWELS
☎03-5458-2536
〒150-0042 東京都渋谷区
宇田川町12-3-1103
株式会社マーヴェラスジャパン

■JWP
☎03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
☎043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市
中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
☎048-297-9587
〒333-0832 埼玉県川口市
大字神戸162

■NEO
☎044-422-8344
〒222-0002 神奈川県横浜市
港北区師岡町879
http://www.neoladies.com

■RIKIPRO
☎03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区
久が原3-31-1(RIKIPRO道場内)
http://www.rikipro.com

■U-FILE CAMP
☎044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市
多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■U.K.R
☎044-833-4130
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■U.W.F.スネークピットジャパン
☎03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区
高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■VALKYRIE
☎03-3556-6201
〒102-0093 東京都千代田区
平河町1-4-3伏見ビル4F
http://valkyrie.livedoor.biz

■WWE JAPAN
☎03-5456-6050
http://wwe.co.jp

■ZERO1
☎03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区
芝2-8-13-2F
(株)ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
☎03-5388-0808
〒151-0053 東京都渋谷区
代々木2-23-1
ニューステイトメナ-833号室
http://www.zst.jp

お 詫 び

『kamipro』No.130にて掲載しましたDVD『やれんのか! 大晦日! 2007』(東北新社)の紹介記事の中にて、一部事実関係の誤りがありました。

101ページ内の文章中に「しかも、煽りVや入場シーンまでキッチリと収録されている」と書かれていた箇所がありましたが、実際のDVDには煽り映像と入場シーンーンは特典映像の中に一部収録されているのみとなります。皆様には、誤解を招く表現となってしまい大変申し訳ございませんでした。あらためて深くお詫び申し上げます。

また、本件に関する問い合わせは、以下までお願いいたします。

東北新社DVDお客様センター　TEL.03-5217-0161

『kamipro』編集部、東北新社

マット界の周辺情報をお届け!!

kamipro Info

DVD

ライト&ミドル級GPのクライマックスを収録!!

『戦極』が第五陣、第六陣のDVDを同時リリース!!



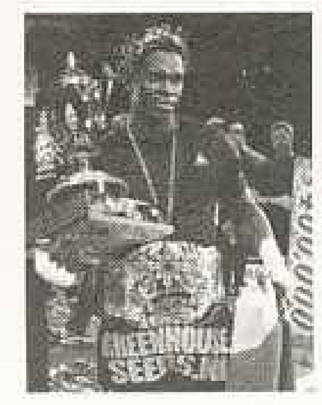
08年に旗揚げした『戦極』が、ライト&ミドル級GPのクライマックスを収録した第五陣、第六陣のDVDを同時に発売! ライト級"S4"の北岡、光岡、横田、廣田の激闘、衝撃のマイク合戦、そして中村、佐々木、サンチアゴらが繰り広げたミドル級の熱戦を収録! もちろん、ホジェリオ、五味、連続参戦したキング・モーの試合も『戦極』のDVDで堪能せよ! シャキーン!!

★「戦極」第五陣、第六陣(ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン)
★定価／各5,040円(税込) 2月13日発売 ★収録時間300分

DVD

スピーディな攻防で名勝負続出!!

08年のK-1 WORLD GPの激闘をDVDに完全収録!!



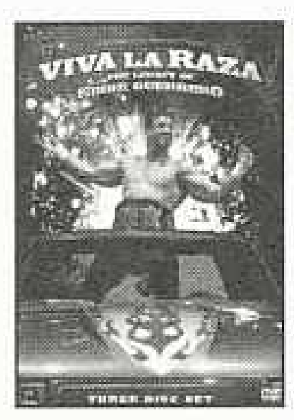
テイシェイラ、ジマーマン、サキといったフレッシュなファイターが登場し、スピーディな攻防でKO決着が続出した08年のK-1 WORLD GP。決勝では反則決着に終わったものの、名勝負を連発してオフィシャルホームページのファン投票ではブッちぎりのMVP票を集めたバダ・ハリ、そして3度目のGP制覇に成功したボンヤスキーらの激闘を完全保存!! 激闘の数々をDVDで振り返れ!

★「K-1 WORLD GP 2008 COMPLETE BOUTS~激闘完全版~」(ポニーキャニオン)
★定価／10,080円(税込) 2月18日発売 ★収録時間470分(3枚組)

DVD

夭折したWWEのスーパースターのハイライトを収録

天才レスラー、エディ・ゲレロの勇姿を目に焼きつけろ!



05年に38歳という若さでこの世を去ったエディ・ゲレロのDVDが登場。WWEのスーパースターであったエディのハイライトとも言える『レッスルマニア20』をはじめとした名勝負の数々、さらに彼と親交の深かったWWEのトップレスラーたちが"人間エディ・ゲレロ"を語るインタビューなど、貴重な映像を収録! その長さは500分という超大作!! このDVDを観てエディを偲ぶべし!

★『WWE レガシー・オブ・エディ・ゲレロ』(東宝ビデオ)
★定価／9,240円(税込) 1月23日発売 ★収録時間500分(3枚組)

DVD

ノアvs新日本、武藤vs棚橋など、豪華な面々が登場!!

新日本プロレスが早くも1.4東京ドーム大会のDVDを発売!



今年でドーム大会20周年を迎える新日本プロレス。09年の1.4 東京ドーム大会は武藤敬司 vs 棚橋弘至のIWGPヘビー級タイトルマッチをはじめとし、プロレスリング・ノアとの対抗戦、海外からはカート・アングル、ケビン・ナッシュ、ルチャリブレのスーパースターであるミスティコらが来日するなど、豪華な顔ぶれが勢揃い!! 4万人の観客動員を記録した新日本プロレスの底力を見よ!

★『新日本プロレス レッスルキングダムIII in 東京ドーム』(ビデオ・パック・ニッポン)
★定価／7,140円(税込) 2月27日発売 ★収録時間200分

BOOK

ミスター・ポーゴの自伝が登場!!

日米で暴れまわった極悪レスラーがマット界の舞台裏を赤裸々に語る!!



新日本プロレスでデビューし、日本や海外で凶器を使った"極悪レスラー"として活躍したミスター・ポーゴの自伝が登場!! 全米マットでリック・フレアー、ハーリー・レイス、ザ・ファンクスらと抗争し、日本ではFMW、W★ING、IWAジャパン時代にデスマッチで非道の限りをつくしたポーゴが、30年以上のレスリングキャリアの中で見てきた舞台裏を赤裸々に明かす!

★「ある極悪レスラーの懺悔」関川哲夫著(講談社)
★定価／1,680円(税込) 1月26日発売

GYM

U.W.F.スネークピット・ジャパンが『kamipro』キャンペーン!!

ジム創設10周年記念! いまなら入会金が半額!!


伝説の"キャッチ・アズ・キャッチ・キャン"最後の伝承者、ビル・ロビンソンが教えるU.W.F.スネークピット・ジャパンが『kamipro』キャンペーンを実施中! いまなら「『kamipro』を見たよ」と伝えるだけで入会金20,000円が半額に! 最近では所属選手の井上学がパンクラスのフェザー級王者となるなど、勢いに乗るスネークピット。キミもビル・ロビンソンの弟子になろう!

★「U.W.F.スネークピット・ジャパン」★HP/www.uwf-snakepit.com
★東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F ★問／03-3337-1889

『kamipro』読者&
『kamipro Move』ユーザーが選ぶ

kamipro Award 2008



さぁ、毎年恒例のkamipro Awardの季節がやってまいりました!
DREAMと『戦極』の2大イベントのスタート、
さらには石井慧の総合格闘家転向と話題盛りだくさんだった2008年。
さまざまな名場面が誕生し、話題の中心となった人がいました。
その中から『kamipro』読者&『kamipro Move』ユーザーがガチで選んだ順位を発表!
それではkamipro Award、いってみよう!

(この結果は、読者ハガキ&携帯サイト「kamipro Move」での投票、下半期の結果をポイント化し、集計したものです)



Best Fighter

kamipro Award 2008

MVP
青木真也
642pt

有言実行のDREAMの大黒柱がブッチギリで年間MVPに輝いた!

2008年kamipro大賞MVPは、DREAMの大黒柱として縦横無尽に活躍したワオ木さんが受賞! 4.29『DREAM.2』では、『やれんのか!』より因縁の続いた『HERO'S』絶対王者J.Z.カルバンに劇的勝利。ライト級GPこそ涙の準優勝となったものの、9.23『DREAM.6』では階級を飛び越えて魔王・秋山成勲に宣戦布告! これは魔王の“黒の駆け引き”により実現に至らなかったが、『Dynamite!!』ではエディ・アルバレスとの幻のライト級GP優勝決定戦が実現、見事な勝利を収めた。本誌でも表紙登場回数&インタビュー回数でともにトップに君臨。とにもかくにも08年はワオ木さんの年だった! 09年も生きのこれこれ、バカサバイバー!

3rd 魔裟斗 182pt



MAXを背負いし“反逆のカリスマ”が5年ぶりに悲願のトーメナント制覇!

「ずっと続けたことがこのベルトにつながったと思います」。K-1MAXをその誕生から一身に背負い続け、5年ぶりに王座奪還をはたしたK-1ファイターが、3位入賞。プロレス&MMA専門誌でK-1ファイターが年間ベスト3に食い込むのは、MVP級の活躍あってこそだろう。世界トーナメント決勝では、新進気鋭のアルトゥール・キシェンコに延長判定の末に勝利、優勝した瞬間にはリングで男泣きで目を光らせた“反逆のカリスマ”。準決勝の佐藤嘉洋戦での判定をめぐって一部からは疑問の声が上がったものの、それを補ってあまりある感動の優勝シーン、そしてその鬼気迫る闘いぶりが今回の結果につながった模様。ぜひとも09年は本誌にも登場してほしいものだ。

2nd 北岡悟 195pt



祝『戦極』ライト級GP優勝! 奇跡のキモ強ファイターが大躍進!!

『やれんのか!』で「きたおかさとし」と名前を間違えられたこの男が、年間ベストファイターの2位にまで成り上がるとはいったい誰が予想できたであろうか? 早くからその関節職人ぶりもさることながら、試合前後のどうかと思うトランスぶりに注目した本誌は、“キモ強ファイター”というどうかと思うフレーズで大プッシュ! 北岡はまるでその期待に応えるように、強さもキモさも回を追うごとにエスカレートさせ、『戦極』ライト級GPで他の選手を寄せつけずに優勝! おそらくこの投票数は、それだけでなく1.4『戦極の乱』での五味戦勝利も加味されたものだろうが、08年は“北岡の戦極”であったことは確か。その一挙手一投足から目が離せないキモ強ファイター、09年はどんな“北岡ワールド”を炸裂させるか!?

5th ゲガール・ムサシ 142pt



若きDREAMミドル級王者はMMAとK-1の二刀流ファイター!

『HERO'S』でもPRIDEでもない新しい舞台DREAMにふさわしい、フレッシュなファイター、ゲガール・ムサシ。DREAMミドル級GP決勝戦では、大本命のホナウド・ジャカレイにカウンターの前蹴りで鮮烈KO勝利! そして『Dynamite!!』では同じ名前というだけでマッチメイクされた武蔵に、体重差をはねのけて完勝、宮本武蔵ばりに二刀流(MMA&K-1)の使い手であることを証明した。無限の可能性を秘めた若き王者はどこまで駆け上がるか?

4th 川尻達也 175pt



一歩踏み出す“勇気のチカラ”でDREAM二本目の大黒柱に!

「やるに決まってるでしょう!」。『やれんのか!』の開催発表会見でそう吼えた男が、やってくれました! ライト級GPでは1回戦こそ不完全燃焼に終わったが、その後は、宇野への宣戦布告にアルバレスとのMMA史上に残る乱打戦と、裏MVP級の活躍を見せた川尻。そして『Dynamite!!』では一歩踏み出す“勇気のチカラ”でK-1ルールに初挑戦、キック界の超大物・武田幸三から本人もビックリするほどのKO勝利を収めた。青木に続くDREAM二本目の大黒柱として、今年はさらなる飛躍に期待!

Worst Fighter



1	秋山成勲	420pt
2	五味隆典	224pt
3	ミルコ・クロコップ	216pt
4	バダ・ハリ	140pt
5	TBS	102pt

上半期に続いて魔王がブッチギリのトップ! しかし、上半期はファンの期待の裏返しという部分もあったが、お茶を濁しに濁した下半期はファンの失望が入り混じっているのは否めない。2位の五味と3位のミルコは、期待が大きかったぶん、ファンの落胆も大きかったか。上半期ワースト2位だったTBSは5位に交代。旧PRIDEファンのアレルギーも薄れてきた?



10th ジョシュ・バーネット 32pt



9th 田村潔司 42pt



8th 佐藤大輔 64pt



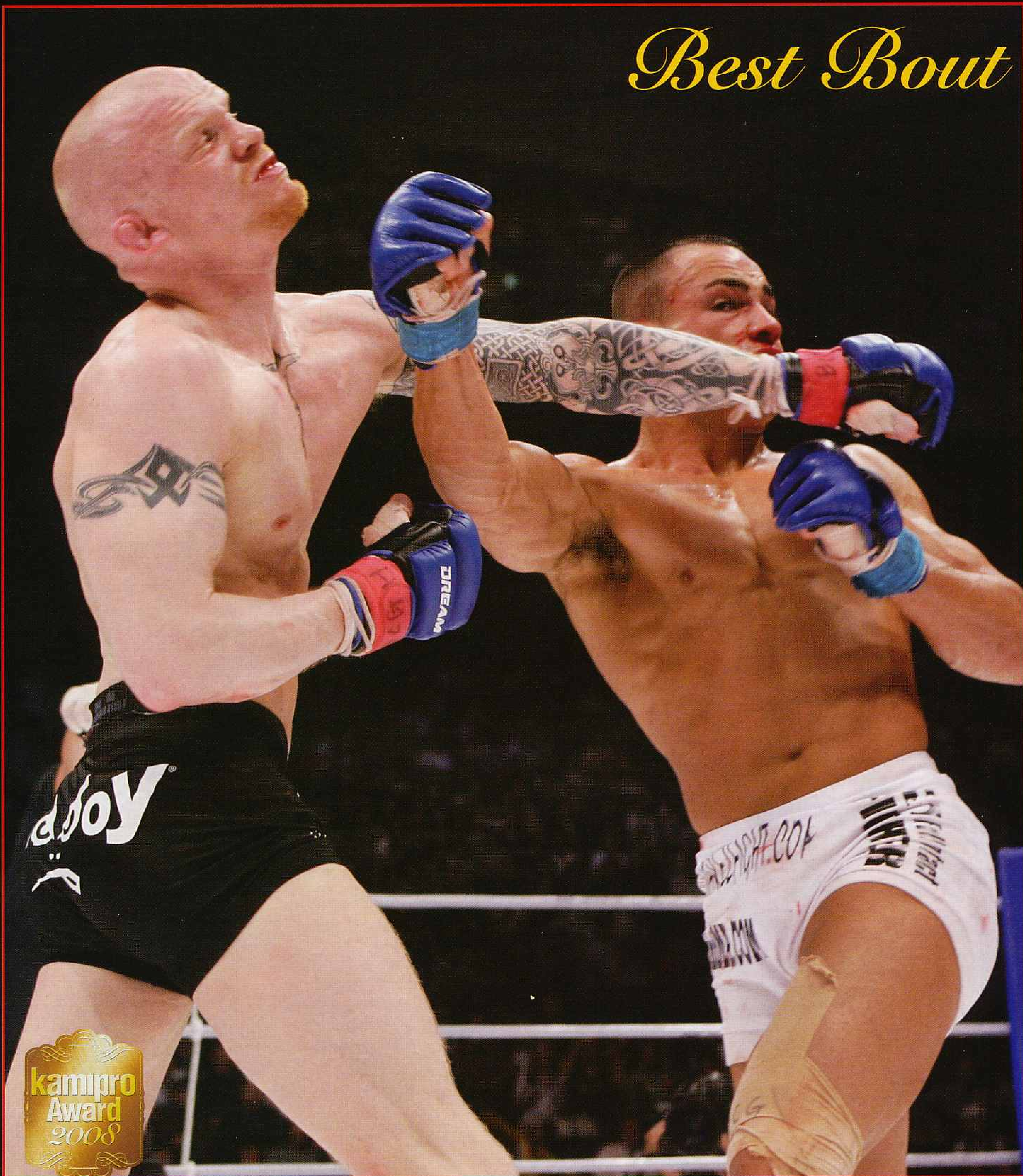
7th ジェイソン“メイヘム”ミラー 78pt



6th 宇野薫 135pt

『HERO'S』の砦を守ろうとした宇野、おバカキャラでブレイクしたメイヘム、今年も煽りVで神の仕事を見せた佐藤大輔、そしてUの魂を見せた田村とDREAM勢が名を連ねる中で、『戦極』から唯一ランクインしたのはジョシュ。3、2、1、センゴク! センゴク!

Best Bout



1st

エディ・アルバレスvsヨアキム・ハンセン

▶5.11『DREAM.3』さいたまスーパーアリーナ

386pt

MMAでスタンディングオベーション！ガイジン同士の死闘は二人が勝者!!

“事実上の決勝戦”とも言われた、DREAMライト級GP2回戦のガイジン対決がベストバウトを獲得！　アルバレスの拳が猛威を振るえば、ハンセンも負けじと関節技を仕掛けるハイレベルな攻防に場内は大熱狂！　この死闘を制したアルバレスは、試合後にマイクでハンセンから「いままで闘った中で一番強かった!」という称賛を送られると、「この試合は二人とも勝者です」と、なんとも泣かせるセリフ。極東の島国でアメリカ人とノルウェー人が作り上げた名勝負、地球に生まれてよかったー!（織田裕二調）。

3rd
青木真也vs宇野薫
▶7.21『DREAM.5』大阪城ホール

284pt

止まらないバカサバイバーが『HERO'S』のプリンスを撃破!

DREAMライト級GP準決勝で、新旧日本人トップランカー同士の対決が実現! 宇野はこの一戦の前に、交通事故により帰らぬ人となった恩師・守山竜介氏のことが胸に去来したのか、入場時から号泣。『HERO'S』vsPRIDEの側面も持つこの一戦に、並々ならぬ気合いを見せる。しかし、試合は『HERO'S』王者カルバンをも完封した青木が得意のボディシザーズを駆使して宇野を翻弄、完勝とも言っていい内容で判定勝利を収め、世代交代を印象づけた。



2nd
青木真也vsJ.Z.カルバン
▶4.29『DREAM.2』さいたまスーパーアリーナ

337pt

"三度目のやれんのか!"で決着! 青木が因縁のカルバンに完全勝利!!

"ミスターやれんのか!"と『HERO'S』絶対王者の激闘が2位にランクイン! 『やれんのか!』ではカルバンの負傷により直前に消滅。仕切り直しの3.15『DREAM.1』はカルバンの反則攻撃で、青木が続行不可能となり没収試合。そして半年間で異例となる三度目のマッチメイクとなった運命の対決は、MMAの最先端を突っ走る技術の攻防の末、青木がカルバンに激勝! この勝利によってPRIDE消滅からの1年を清算した青木は、人目をはばからず感涙したのであった。



5th
エディ・アルバレスvs川尻達也
▶7.21『DREAM.5』大坂城ホール

142pt



魂揺さぶる果たし合い! 日米屈指の殴り者対決!!

ライト級GP準決勝として行なわれた日米殴り者対決は、予想どおりの激しい打撃戦に! お互い下がらずに真っ向から拳を交錯させる姿に、場内は大熱狂。最後は右アッパーからの鉄槌でアルバレスがTKO勝利となるも、この一戦により眼球を損傷して決勝戦を棄権することに。敗北を喫したものの、「"クラッシャー"川尻、おそるべし!」を印象づける一戦となった。

4th
宇野薫vs石田光洋
▶5.11『DREAM.3』さいたまスーパーアリーナ

224pt

宇野が石田を返り討ち! 『HERO'S』の誇りを見せた!!

ライト級GPでの宇野の主催者推薦という扱いに対し、強く不満を表明した石田。『HERO'S』とPRIDEというバックグラウンドも含め、対抗意識をむき出しにした二人の激闘は、宇野がスリーパーによるギブアップで一本決着! すると石田の盟友・川尻がゴンタ顔で宇野に対戦表明! 試合前後を含め、ヒリヒリした格闘技の魅力が凝縮した濃厚な一戦であった。





Worst Bout

1 **秋山成勲vs外岡真徳** 285pt
▶9.23『DREAM.6』/さいたまスーパーアリーナ

2 **レミー・ボンヤスキーvsバダ・ハリ** 218pt
▶12.6『K-1 WORLD GP 2008 FINAL』/横浜アリーナ

3 **吉田秀彦vsモーリス・スミス** 162pt
▶6.8『戦極～第三陣～』/さいたまスーパーアリーナ

4 **田村潔司vs桜庭和志** 68pt
▶12.31『Dynamite!!』/さいたまスーパーアリーナ

5 **ボブ・サップvsキン肉万太郎** 62pt
▶12.31『Dynamite!!』/さいたまスーパーアリーナ

"黒い駆け引き"を展開し、強敵を避けて総合デビューとなる空手家・外岡を"チョイス"した魔王が、またしてもワースト。2位にはバダ・ハリの暴走により前代未聞の反則決着となったK-1GP決勝戦。田村vs桜庭戦は、二人に思い入れのない者にはやはり不完全燃焼に映ったか。そして本日苦デビューとなったキン肉万太郎が5位。



10th ヴァンダレイ・シウバ vs キース・ジャーディン
▶5.24『UFC84』米国ネバダ州ラスベガス MGMグランドガーデン
52pt



9th 田村潔司 vs 桜庭和志
▶12.31『Dynamite!!』さいたまスーパーアリーナ
54pt



8th 川尻達也 vs 武田幸三
▶12.31『Dynamite!!』さいたまスーパーアリーナ
59pt



7th 青木真也 vs エディ・アルバレス
▶12.31『Dynamite!!』さいたまスーパーアリーナ
65pt



6th 魔裟斗 vs 佐藤嘉洋
▶10.1『K-1 WORLD MAX 2008 世界一決定トーナメント決勝戦』日本武道館
105pt

K-1MAXの日本人頂上対決が6位。7～9位には年間ベスト興行の『Dynamite!!』から3試合が並んだ。海外からはUFCでシウバがPRIDE時代のように激勝した一戦がランクイン。

Best Event



kamipro Award 2008

1st

5.11 『DREAM.3』

▶さいたまスーパーアリーナ

宇野薫vs石田光洋、エディ・アルバレスvsヨアキム・ハンセン、
川尻達也vsルイス・ブスカペ、ジェイソン"メイヘム"ミラーvs柴田勝頼 ほか

522pt











助走期間終了！ 名勝負続出！ ついに夢の舞台がエンジンフル稼働!!

3月の旗揚げ戦、4月の『DREAM.2』と助走状態だった夢の舞台が、「3のつく数字のときはおもしろくなります!」とばかりに『DREAM.3』で大爆発! 年間ベストバウトに輝いたアルバレスvsハンセンなど、ライト級GP2回戦を中心に行なわれた今大会が、ベスト興行1位を獲得した。ガイジン同士の格闘史に残る一戦のほかにも、試合前後を含めてファンの注目を集めた宇野vs石田、"サイコスター"メイヘムの日本デビュー、そしてKID階級と呼ばれるフェザー級の開戦(山崎剛vs昇侍)など、新たな"夢"が見られる場として、目に焼きつく場面の多い大会となった。

3rd

7.21

『DREAM.5』

▶大阪城ホール

青木真也vsヨアキム・ハンセン、秋山成勲vs柴田勝頼、エディ・アルバレスvs川尻達也、青木真也vs宇野薫 ほか

323pt

ライト級GPは大ドンデン返し! ハンセンがリザーバーから優勝!!

3月の旗揚げ戦と同時にスタートしたライト級GPの決勝戦が行なわれた『DREAM.5』。さまざまなドラマを紡いできたGPは、そのファイナルの舞台でもリザーバーのハンセンが優勝という、観る側の想像を凌駕するドラマチックな結末に。なお、今大会では魔王・秋山がDREAM初降臨、狂犬・柴田勝頼を一蹴。地元凱旋にもかかわらず全身にブーイングを浴びた魔王は、DREAMならぬ悪夢を思わせるような不敵な笑みを見せて、あらためてその存在感を示した。



2nd

12.31

『Dynamite!!』

▶さいたまスーパーアリーナ

田村潔司vs桜庭和志、青木真也vsエディ・アルバレス、武蔵vsゲガール・ムサシ、アリスター・オーフレイムvsバダ・ハリ、川尻達也vs武田幸三 ほか

490pt



UWF最終章をはじめ全18試合! 格闘技の祭典はまさに激闘除夜!!

オープニングファイトも含め全18試合、7時間を超えるロングラン興行となった年末恒例の格闘技の祭典。魔裟斗、山本KID、魔王・秋山ら注目選手が不出場だったにもかかわらず、桜庭vs田村のUWF最終章、MMAの最先端を披露した青木vsアルバレスなど、熱戦につぐ熱戦でおおいに盛り上がった。とくにK-1ファイターがK-1ルールで総合ファイターに負けていく場面は、今年の格闘技界の流れに影響を及ぼすこと必至。さまざまな意味でファンの記憶に残る大会に。

5th

10.1

『K-1 WORLD MAX 2008 世界一決定トーナメント決勝戦』

▶日本武道館

魔裟斗vsアルトゥール・キシェンコ、魔裟斗vs佐藤嘉洋、アルトゥール・キシェンコvsアンディ・サワー ほか

82pt

K-1MAXの立役者・魔裟斗が5年ぶりにMAX王者に返り咲き!

立ち技系からは唯一、魔裟斗が涙の優勝をはたしたK-1MAXの決勝大会がベスト5入り! 魔裟斗は戦前から挑発合戦を繰り広げてきた「日本人ナンバー2」の佐藤、そしてキシェンコをともに延長戦の末に破って悲願の王座返り咲き。K-1 MAXを背負い続けた"反逆のカリスマ"を超満員の観客は万雷の拍手で祝福、これ以上にないハッピーエンドで大会は幕を閉じたのだった。



4th

6.15

『DREAM.4』

▶横浜アリーナ

メルヴィン・マヌーフvs桜庭和志、ホナウド・ジャカレイvsジェイソン"メイヘム"ミラー、ゼルグ"弁慶"ガレシックvs金泰泳、ゲガール・ムサシvsユン・ドンシク、青木真也vs永田克彦 ほか

102pt

ミドル級GP2回戦は衝撃の結末! 桜庭、猛獣の凶拳の前に沈む……

ミドル級GPの2回戦が行なわれた今大会。メインで待っていたのは桜庭にとっては悪夢の結末だった……。マヌーフを迎えた桜庭だが、全盛期のシウバを思わせる猛獣の攻撃の前にわずか90秒で撃沈。その残酷な現実に会場には戦慄が走った。また、ライト級GP最後の一戦として行なわれたのは青木真也vs永田克彦。青木はレスリング五輪メダリストをグラウンドでも圧倒、底知れぬ強さを見せつけた。





Worst Event

1 3.15『DREAM.1』 540pt
▶さいたまスーパーアリーナ
青木真也vsJ.Z.カルバン、川尻達也vsブラック・マンバ ほか

2 5.18『戦極～第二陣～』 112pt
▶有明コロシアム
ジョシュ・バーネットvsジェフ・モンソン、ホジャー・グレイシーvs近藤有己 ほか

3 6.8『戦極～第三陣～』 105pt
▶さいたまスーパーアリーナ
吉田秀彦vsモーリス・スミス、トラビス・ビューvs藤田和之 ほか

4 12.6 K-1 WORLD GP2008FINAL 58pt
▶横浜アリーナ
レミー・ボンヤスキーvsバダ・ハリ、レミー・ボンヤスキーvsグーカン・サキ ほか

5 8.24『戦極～第四陣～』 24pt
▶さいたまスーパーアリーナ
五味隆典vsハン・スーファン、北岡悟vsクレイ・フレンチ ほか

ワースト1位となったのは旗揚げ戦にもかかわらず、メインの青木vsカルバンの不完全決着により、先行きに暗雲が立ち込めた『DREAM.1』がブッチギリ。しかし『DREAM.2』からのリカバリーぶりは凄かった。そしてなんと『戦極』からは一挙に3大会が……。これは期待値の高さの裏返し。もしくは『戦極』ボーズの呪いなのか? シャキーン!!



10th

10.26『ハッスル・ツアー2008 ～10.26 in TOCHIGI～』

栃木・宇都宮市 清原体育館

川田利明vs坂田亘
ボノちゃんvsボブ・サップ
ほか

22pt



9th

3.5『戦極～第一陣～』

国立代々木競技場 第一体育館

ジョシュ・バーネットvs吉田秀彦
五味隆典vsドゥエイン・ラドウィッグ
三崎和雄vsシアー・バハドゥルザダ
ほか

42pt



8th

5.24『ハッスル・エイド2008』

有明コロシアム

インリン様vsボノちゃん
坂田亘vsボブ・サップ
川田利明vsHG
ほか

62pt



7th

5.24『UFC84』

米国ネバダ州ラスベガス MGMグランドガーデン

B.J.ペンvsショーン・シャーク
ヴァンダレイ・シウバvsキース・ジャーデン
LYOTOvsティト・オーティズ
ほか

66pt



6th

4.29『DREAM.2』

さいたま スーパーアリーナ

桜庭和志vsアンドリュース・ナカハラ
田村潔司vs船木誠勝
青木真也vsJ.Z.カルバン
ほか

72pt

海外からはペンが王座に返り咲いたUFC、『戦極』はその記念すべき船出となった第一陣、『ハッスル』からはインリン様の引退マッチが行なわれたマニアと、地方大会としては空前の盛り上がりとなった栃木大会がランクイン! とっちぎ、とっちぎ!

識者・関係者が独断と偏見で選ぶ
kamipro Award 2008

［アンケート項目］
①あなたが考える2008年のMVP
②あなたが考える2008年のベストバウト
③あなたが考える2008年のベストイベント
④個人が一方的に贈る賞
⑤2008年、一番「男だ!」と思った人

石井史彦

米国カリフォルニア州サンノゼ在住の本誌アメリカ駐在員。AKA（アメリカン・キックボクシング・アカデミー）でデイビッド・カマロに師事し、柔術も練習。取材の強みは海外選手とのネットワークにあると自負。

①ブロック・レスナー
②ジョルジュ・サンピエールvsジョン・フィッチ（8・9『UFC87』米国ミネソタ州ミネアポリス ターゲットセンター）
③9・20ストライクフォース『PLAYBOYマンション』米国カリフォルニア州ビバリーヒルズ PLAYBOYマンション
④日陰の王者で賞→リョウト・マチダ
⑤青木真也

【総括】①MMAキャリアわずか4戦でUFCヘビー級王座を獲得したことは、驚くべきこと。UFC参戦後1勝1敗でのタイトル挑戦を疑問視する声も聞こえたが、試合ごとにMMAファイターとして確実に進化を遂げていることは間違いない。2008年はまさしくブロック・レスナーの年だった。②神の階級と言われるウェルター級の頂上対決。5分5Rの25分間は、試合というよりWARと表現したほうがピッタリくる攻防だった。GSPは素晴らしいテクニックとスピードを、フィッチは折れない心と心肺能力の高さを見せつけてくれた試合だった。③間違いなく全世界の諸兄がお世話になったことがある『PLAYBOY』誌の創設者、フュー・ヘフナー所有のPLAYBOYマンションで行なわれた豪華イベントの第2回大会。今年は三崎選手と石田選手が日本から参戦。初めての金網で揃ってTKO＆一本勝ちを収めてくれたことが選んだ理由です。④MMA無敗であるにもかかわらず、なぜかタイトルマッチを組まれない悲運の実力者。ライトヘビー級で彼ほどのオールラウンダーはおらず、しかも空手をバックボーンとした闘いぶりは、ライトヘビー級のGSPとも言えるくらいのものは間違いなく持っている。今年こそ〝日陰の王者〟を返上するチャンスを与えてほしいものです。⑤日本人でこれほどまでに全世界のMMAファン、ファイター、コーチから注目されているファイターはいない。08年は7週間に一度の驚異的なペースですべてタフな試合を行ない、極めにこだわる姿勢には〝男〟を感じざるをえない。

乾晋也

09年、年明け早々インフルエンザにかかってしまい、いきなり5日以上も寝込んでしまった『kami-pro』常連スポーツカメラマン。今回のkami-pro大賞は意識が朦朧とする中、布団の中で選出。

井上崇宏

ペールワンズ総帥。本誌の人気企画『変態座談会』のレギュラーメンバー。高田延彦にあくなきこだわりを持ち、本誌では桜庭番も務める。また、山本小鉄のモノマネは絶品であり、あまりにも似すぎていることから一部では「井上小鉄」と呼ばれることもある。

①石井慧
②エディ・アルバレスvsヨアキム・ハンセン（5・11『DREAM.3』さいたまスーパーアリーナ）
③3・15『DREAM.1』さいたまスーパーアリーナ
④早く戻ってきてちょうだい賞→エメリヤーエンコ・ヒョードル
⑤魔裟斗

【総括】①忘れがちですが、北京オリンピックで金メダルを獲った選手だし、2008年後半マット界をおおいに盛り上げた人なのでMVPをあげたいと思います。②フルラウンド、殴り合いと寝技の攻防を展開し続けたアグレッシブなこの一戦は、カメラマンを最も〝疲れさせた〟一戦であり、最も撮りがいのあった試合でした！③旗揚げ戦ということで、大会前の期待感が一番大きかったイベントということで。④『アフリクション』なんて放っておいていいから、早く戻ってきて日本で試合してほしいです。⑤また優勝しちゃったし、試合もおもしろい闘いばかりだったからなあ。魔裟斗は男だよ！

掟ポルシェ

ロマンポルシェ。の活動のほか、コラム、俳優、DJ、次世代アイドル、バニラビーンズのプロデュースも行なうなど多岐に渡って活躍中。

①？
②武田幸三vs川尻達也（12・31『Dynamite!!』さいたまスーパーアリーナ）
③12・31『Dynamite!!』さいたまスーパーアリーナ
④好きで好きでたまらんで賞→柴田勝頼
⑤嶋田隆司（ゆでたまご）先生

【総括】①すいません、パッと名前が浮かびませんでした。②K-1ルールは他流試合のためにある。③『ハッスル』栃木大会もよかったです。④柴田!! 好きだ!! 愛おしいよ!!⑤一人『やれんのか！ 大晦日！ 2008』。※2009年に期待することは、ニッポン独自のまったく新しいルールの制定。たとえば試合直前のコイントスでMMAルールかK-1ルールなのかが決まるとか、もっとムチャクチャなフォーマットにしてほしい。

①ネクロ・ブッチャー

②ザ・グレート・サスケ&サバイバル飛田&ウルトラマンロビンvs佐藤秀&佐藤恵&メフィラス星人（12・12みちのくプロレス 後楽園ホール）
③8・15 IGF『GENOME6』両国国技館
④かわいいで賞→モンターニャ・シウバ
⑤杉作J太郎

【総括】①2008年は俺んちが火事になり、家で寝っころがってサムライTV観るどころじゃなかったので、プロレス&格闘技への興味も激減。唯一会場まで観に行ったのが、格闘ホームレス（ルックス上そう見えがちなだけで家はある模様）ことネクロ・ブッチャーの試合だけ。主戦場がIGFになってからもやっちゃいけない系本気グーパンチを主体にした雑なプロレスで俺に大人気！ と思ったら、本国で出演したミッキー・猫パンチ・ローク主演のプロレスムービーがカンヌ映画祭で金獅子賞を受賞！ このままいくと2009年は世界のネクロ・ブッチャーになってしまい、プロレス人気下火な日本では試合を観られなくなるかも、とちょっと心配です。あと、かわいいで賞は、悪の軍団とともに小川直也をボコボコにし、試合でさんざん極悪の限りをつくしておきながら、ラストの全選手入場でリングの外に向けて坂本ちゃんばりのお手振りでキャッキャとかわいく愛嬌を振りまいていたモンターニャさんに。「おまえ自分のポジションわかってないだろ！」と言いたいところだが、そこまで愛らしい態度をとられると逆にこれも新時代の個性!? と思えてくるから不思議。見た目おどろおどろしい大巨人、でもハートはなぜかキュートでガーリー！ 一編集長が生前「モンターニャ・シウバには殺しがある」と言ったのと全然違った意味で、今後シウバの魅力に殺される人が続出!? また、制作費オール持ち出しで映画を撮り始めて以来ド貧乏になったものの、俺んちが火事になったとわかった直後、「ガソリンが高いから」と言って数キロ先のイベント会場に徒歩で現われ、何も言わず見舞金を1万円おいてそのまま、また



①ネクロ・ブッチャー

も言わず見舞金を1万円おいてそのまま、また徒歩で帰っていった杉作さんには男を感じました。もうね、俺に息子が生まれたらJ太郎と名づけたいぐらいですよ！

小佐野景浩

『週刊ゴング』編集長を経て、現在はフリーとして『Gスピリッツ』やサムライTV『S-ARENA』などで活躍する熱血プロレスティーチャー。

①武藤敬司
②諏訪魔vs棚橋弘至（4・9全日本プロレス後楽園ホール『チャンピオン・カーニバル』優勝決定戦）
③10・13新日本プロレス 両国国技館
④心があれば夢はつかめるで賞→ドラゴンゲート
⑤小橋建太

【総括】①2008年前半は新日本で中邑真輔がIWGP統一、ノアでは森嶋猛がGHCヘビー級、全日本では諏訪魔が三冠ヘビー級王者になって「いよいよ新時代到来か!?」と思われたが、終わってみればオイシイところをかっさらっていたのが武藤。武藤としてIWGP王者、別人格のグレート・ムタとして三冠王者になってしまったのだから凄い。しかも「試合という舞台で自分が主人公になりきる」と言うだけに、武藤としてもムタとしても、どんな試合でも相手は誰でもいいというぐらい自分の世界を作ってしまう。この46歳の天才児が文句なくMVPだ。②全日本と新日本の次期エースが真っ向からぶつかり合った試合。へんな駆け引きなしにお互いの「勝負しよう！」という気迫と技がまっすぐにぶつかり合った気持ちのいい試合だった。全日本のファンが気持を一つにして諏訪魔を支持して会場の盛り上がりも最高潮！③武藤vs中邑のIWGP戦、田中vs永田の世界ヘビー級戦、天山vs飯塚のチェーン・デスマッチ、全日本から小島、KAI、大和のF4登場……とバラエティに富んだマッチメイクで飽きることなく楽しめた。ひさびさに「両国のビッグマッチだなあ」とハッピーな気分になれた大会だった。④プロレス不況と言われる中で08年も盛況だったドラゴンゲートは称賛されてしかるべき。今年は3月22日に両国国技館に進出するのだから脱帽だ。かつてのCIMAの「技やない、力やない、デカさやない……心や。心があれば夢はつかめる！」がついに現実のものとなる。⑤これはプロレスに人生すべてをかけている小橋でしょう。07年12月に腎臓がんを克服して復帰し、昨年8月には特別出場ではなく、シリーズ全戦出場。だがマシンガンチョップの影響か、9月には両ヒジ手術でドクターストップがかかり、再起を目指している。ここまでプロレスに打ち込む男は見たことがない！

金沢克彦

1961年12月生まれの「アラフィフ」で、記者キャリアはもうすぐ24年になる。元『週刊ゴング』編集長。現在の肩書きはスポーツライターなのだが、テレビでプロレス解説ばかりやっている。通称＝GK。

①田中将斗（2年連続！）
②カート・アングルvs永田裕志（1・4新日本プロレス『レッスルキングダムⅡ』東京ドーム）
③10・24&25『プロレスエキスポ 2008』 両国国技館
④K-1ルールなのに3タテで賞→川尻達也、アリスター・オーフレイム、ゲガール・ムサシ
⑤中西学

【総括】①2年連続で田中将斗に贈呈！ 昨年は新日本プロレスとの対抗戦が勃発し、ZERO1のエースとしてついにメジャーシーンへ登場。中西戦、金本戦、真壁戦、永田戦と、どれもこれもが素晴らしい試合だった。当初、全日本から参戦してきた武藤、小島よりも田中をはるかに格下と見ていた新日首脳陣、テレ朝関係者もビックリ仰天。何よりも凄かったのは、12・6名古屋大会でのタッグマッチ（田中&大谷vs永田&金本）。試合中、突如プッツンした金本が4点ポジションにいる田中の顔面を二度も蹴り上げる暴挙へ。しかし、顔を腫らしながらもカムバックしてきた田中は、見事に宿敵・永田を完全ピンフォール。これにて、"田中将斗、世界最強説"が誕生したわけだな、俺の中では！②グラウンドレスリングの攻防で東京ドームを大爆発させた名勝負。試合後、興奮状態のカートはこう言った。「私のレスリングキャリアでベスト3に入るエキサイティングな試合だった。ショーン・マイケルズ、クリス・ベノワ、そしてユージ・ナガタがその相手だ！」。世界最高のレスラーからお墨付きをもらったのだから、ユウタンも本望だろう。③日本プロレス史上に残るスッカスカの両国国技館。プロレスファン（FBIジャパン）が大赤字覚悟でやり遂げた興行。だけど2日間＝3大会のすべてを放送席でしゃべりまくったオイラは、充実感と名残惜しさで胸がいっぱいになった。ダニー・ホッジのアップルクラッシュにも震えたね。④大晦日『Dynamite!!』で絶大なインパクト。MMAの野性味とスキルアップが、スポーツ的K-1を凌駕してしまった。⑤99年の『G1クライマックス』で左脚ふくらはぎ筋肉断裂状態のまま出場し初優勝してしまった中西。昨年の4・6ZERO1（JCBホール大会）の田中戦では、試合中、右上腕二頭筋を断裂しながら終始暴れ回った。いやはや野人だ。60億分の1の奇跡というよりも、60億プラス1の奇跡だな。



菊池茂夫

パンクを中心になんでも撮っている。通称「入れ墨ハゲ豚野郎」（笑）。今年も写真集『ROCKER'S TATOO』の新作を発売する予定。

①田村潔司
②川尻達也vsエディ・アルバレス（7・21『DREAM.5』大阪城ホール）
③12・31『Dynamite!!』 さいたまスーパーアリーナ
④「おまえがUだ！」賞→中村大介
⑤川尻達也

【総括】①UWF世代の自分には、vs船木、vs桜庭は涙なしには観れなかった。②2008年一番血がたぎった試合だった。アルバレスが次戦を試合棄権になった時点で引き分けになったと思う。③マッハvs柴田、中村vs所、川尻vs武田はとくによかったと思う。④vs所戦はUの理想形だったと思う。現在の総合のルールであんな試合を観れたのが嬉しかった。⑤男なら何ごとにおいてもまっすぐしばき合いが基本でしょう。vs武田、vsアルバレス、石田vs宇野戦後のリアクション、どれも最高だった。今年もおもいっきりしばき合ってほしいです。2008年は結局ゴネたり、試合をやらなかった選手ばかりが話題になって、世間一般に届く試合がなかったような気がする。総合の世界でも魔裟斗のようにジャンルを背負う覚悟と責任感を持つ、絶対的な顔になれる選手が出てこないと廃れていくのは時間の問題だと思う。リング内よりもリング外が大切に見える選手ばかりになっちゃったら、かなりNO FUTUREだと思う。

菊池 孝

記者歴53年、プロレス記者歴48年だが、この気楽な稼業はやめられない生涯一現場記者。

①佐々木健介
②カート・アングルvs永田裕志（1・4新日本プロレス『レッスルキングダムⅡ』東京ドーム）
③3・2ノア 日本武道館
④約8年間もの長ーいあいだ眠っていたで賞→シャドウWX
⑤武藤敬司

【総括】①3メジャー団体の頂点を二度制圧という日本マット界初の快挙を達成した実績を評価②本物のレスラー同士が一分のスキも見せず、ドームの大観衆を関節技の攻防で魅せ、大技の応酬で沸かせたパーフェクトな試合。最近、急増しているエセレスラーには到底マネのできないファイトだ。③森嶋が三沢を破って、GHCヘビー級王座初戴冠を達成したメインイベントが新時代の到来を思わせた。試合内容もパワー&迫力満点でJジュニアヘビー級にさらわれず、メインが見事に締めくくった試合だった。④山川竜二とともに大日本を背負っていたWXは長いあいだ鳴かず飛ばずだったが、ようやく長い眠りから覚めた。これほど長期にわたって寝たフリをしていたレスラーも珍しい。⑤武藤あるいはムタとして新日、全日両団体のトップに君臨したばかりかインディーや『ハッスル』まで出場して観客動員アップにつなげたが、どの団体でも武藤らしくムタらしく確立した個性を発揮した。それらをひょうひょうとこなした懐の深さに感心した。

菊地成孔

音楽家、文筆家、慶応義塾大学文学部非常勤講師。気がつくと『kamipro』セミレギュラーの45歳。

①真鍋朝行（『THE OUTSIDER』第四戦に参加、アマチュア）
②中村啓記vs渋谷莉孔（10・29『THE OUTSIDER』第弐戦 ディファ有明）
③7・19『THE OUTSIDER』第参戦 ディファ有明
④「UFCに韓国人選手として上がってほしいです」賞→秋山成勲
⑤すみません、思いつきません。「男だ」というのが、それほど貴重でよいこととは思えないというのもあります。

【総括】文科系ヲタ（A系）極北の『マッスル』、ストリートルーディ（B系）の極北『THE OUTSIDER』（AとBは言わずと知れた同種別族ですが）、統治がいまだ整っていない"大帝国後の大帝国"FEG、内藤大助という至宝をほぼ偶然に手にしたTBSボクシング班、とうとう禁断の近代化に乗り出すか否かが問われる日本相撲協会、"現代日本のリアル"をエゲツFCなど、WOWOWで観るUFCなどなど、生々しく映し出す、素晴らしい団体が群棲する我が国の格闘技界は非常に豊穣だと思いますが、今年に限って申し上げるならば、ワタシは一切合切全額を『THE OUTSIDER』にBETさせていただきます。まだ4回しか大会を行なっていない（ちなみにワタシは初回以外すべて自費で会場観戦しています。重ねてちなみに、ワタシは新宿歌舞伎町クラブハイツで行なわれる喧嘩のイベント『頂点（てっぺん）』も観戦しているうえで書いています）若く、そして不安定な団体ですが、「すでに豊かなはずなのに、どうしてもものが足りない。そしてやっかいなことにそれがなぜか、どうしてもわからない」といった欲求不満を一撃でアップセットするタイプのマグマに満ちています。和彫りと和彫りが闘い（MVPの真鍋選手は、この団体には珍しい「タトゥーなし、ヘアセットなし、タンニングなし」ですが）、多くのシートが出場者の属するチームメイツで埋まり、毎試合後に前田日明が表彰するといったこの団体の風景は、ネットに書かれる文字の情報がもたらす想像をはるかに超えた実質とオーラを持っています。とくに第弐戦のプヲタ格ヲタゼロの、怒号と殺気が延々と飛び交い続ける「とても日本とは思えない、しかし日本としか言えない」会場空間は忘れられません。前田日明独特の空間創造力と言えるでしょう。

小松伸太郎

ペールワンズ所属。本誌『プロレス探検隊』のメンバーとしても活躍。

①武藤敬司
②ルーベン・ウォーパスvs田村和宏（6・23 IGF『GENOME5』北海道・月寒アルファコートドーム）
③6・17鈴木みのる20周年自主興行『風になれ』後楽園ホール
④ベストキャッチフレーズ賞→クリスタル主婦
⑤ターザン山本！

【総括】①IWGPのベルトが似合っていたから、文句なし。出てきただけで場を華やかにさせるナチュラルボーンなスター性に、あらためて感服してしまいました。②モンターニャ・シウバをはじめ、IGFに参戦する外国人選手はとても魅力的な素材が多いですが、中でもネイティブアメリカンの血を引くというウォーパスの、トマホークチョップ一発で相手をKOした試合には衝撃を受けました。③非常に居心地がよかったので。④ターザンギャルドの社長・山崎二三代さんのかつてのキャッチフレーズ（現在は返上）に敬意を表して。⑤なんだかんだで、昨年1年間も『ターザンカフェ』で楽しませてもらいました。

佐藤譲

ライター、放送作家、企画屋。本誌で格闘家と入場曲の数奇な因縁を綴る『入場曲五十三次』を連載中。音楽の解説をしたり、番組を作ったり、ゲームを作ったり、節操なしを絵に描いたような仕事をする人。

①青木真也
②青木真也vs宇野薫（7・21『DREAM・5』大阪城ホール）
③12・31『Dynamite!!』さいたまスーパーアリーナ
④ど根性で賞！→魔裟斗
⑤インリン様

【総括】①停滞ムードがただよい、苦しい状況の続いた2008年の日本の格闘技界で、最もハード・ワーキングだった青木さんにMVPを贈りたくなるのは自分の中で至極当然な気持ちでした。②そんな青木さんが宇野さんに実質的に何もさせないで勝利したライト級の闘いが個人的にはベストバウト。青木さんの三角絞めへ誘導するトラップがズバリと決まったとき、日本の格闘技界における世代交代のスイッチがカチリと入った気がしました。そうした意味も含めてのベスト。③2008年の下半期は景気悪化に拍車がかかり、年末には一時代を築いた芸能人が36歳で孤独死するという、非常にショッキングかつ今後の世相を象徴しそうなニュースに本当に心が折れまくりだったのですが、「意地でも格闘界を盛り上げるんだ」という、ある種バカポジティヴな気持ちが『勇気のチカラ』などのタイトルからも透けて見えた『Dynamite!!』のなりふりかまわないアッパーさとスカっとした闘いっぷりに、なかば無理矢理に気持ちが高揚させられたことが嬉しかった。来年はハードな状況を踏まえながら、受け手をポジティヴにしてくれる作品やアーティスト、イベント、闘いが心をつかんでいくのだなあと思いましたし、それを楽しみたい、多くの人とシェアしたいと思いましたし、それがイベントや格闘家を含むアーティストが心をつかむのではないかと思います。④「あきらめたらそこで試合終了だよ」という『スラムダンク』の名言を現実の世界に落とし込んだような壮絶な闘いっぷりを見せた魔裟斗さんにただただ涙。⑤後半は『ハッスル』を観るたびにインリン様の不在を強く感じました。演出がやや不足していたからこそ彼女の人間力がひしひしと伝わった、身体を張ったラストスタンドは、どのハッスラーよりも誇り高く高潔でした。男とはかくありたいものです。

椎名基樹

ライター。本誌にコラム『サムライ三昧』を執筆中。『変態座談会』メンバーとしても知られる。

①マニー・パッキャオ（ボクシングWBC世界ライト級王者）
②フォレスト・グリフィンvsラシャード・エバンス（12・27『UFC92』米国ネバダ州ラスベガスMGMグランドガーデンアリーナ）
③12・27『UFC92』米国ネバダ州ラスベガス MGMグランドガーデンアリーナ
④うっとり賞→青木真也
⑤石井慧

【総括】①2年連続でボクサーでごめんなさい。でも、今年パックマンを観ずして誰を観る？②レベル高ッ！　重量級でこの動き。MMAの進歩を痛感。③PRIDE幻想完全崩壊の大会。MMAの最新のレベルを目のあたり。④前記したようにMMAのレベルが上がったということは、逆に言えば闘い方が似通ってきたとも言える。その中で唯一無比のファイトスタイルで極めまくった青木。凄すぎる。DREAMライト級トーナメントの素晴らしさを見ても軽量級は世界基準。な、だけに青木をUFCで観たいと思ってしまうのは人情。⑤石井のチョイス、態度はじつに男らしい。

ジミー鈴木

本名・鈴木清隆。1959年、東京都出身。ダラスをベースにプロレス専門紙誌の米国通信員としてカメラマン＆ライターとして活躍。現在はプロレス関連の仕事のほか航空会社でも働いている。

①武藤敬司
②リック・フレアーvsショーン・マイケルズ（3・30 WWE『レッスルマニア24』フロリダ州オーランド シトラス・ボウル）
③3・30 WWE『レッスルマニア24』フロリダ州オーランド シトラス・ボウル
④頑張ったで賞→ブロック・レスナー
⑤仲田龍取締役（プロレスリング・ノア）

【総括】①文字どおり身を削ってボロボロになりながら武藤としてIWGP王座、ムタとして三冠王座……日本プロレス界における最高の王者を務め続けた武藤敬司は、心技体すべて素晴らしい。文句なしに日本プロレス界のナンバーワン。世界的に見てもMVPだろう。40代後半にさしかかりながらも毎日のハードなトレーニングを欠かさず、素晴らしいシェイプを保ち続けている武藤はプロレスラーの鑑と言える。②プロレスの仙人といえるフレアーと達人であるHBKがフレアーの引退を賭けて、7万4635人の大観衆の前で繰り広げた一戦は、プロレスの教科書のような試合だった。二人の繰り広げる「間」はまさに妙技。年間最高試合にふさわしい職人芸プロレスと言えた。③『レッスルマニア』以上のプロレス、いや総合格闘技や立ち技、ボクシングをも含めたリングイベントは世界に存在しないと断言できる。2008年の『レッスルマニア24』も、もの凄い大会場で空前の規模、そして最高の内容のイベントだった。世界中のどれだけ多くの人間が注目したかも含めてケタ違いのスケールである。④天性のものだけで勝負しているようなイメージの強いレスナーだが、鍛錬に重ねる鍛錬がなければUFCの頂点にはたどり着けなかったはず。賞賛に値する。⑤日本テレビの放送が今年3月で打ち切りになるという中、「契約更改でギャラが上がる人も下がる人もいる」と発言。常識的に見れば全員ギャラダウンがあたりまえの中「よくぞ言った」と言える。これはイザとなれば自分の給料を削ってでも頑張った人間に払うということだと受け取れる。「ガラドラ」こと仲田龍取締役は男の中の男だ。

高崎計三

有限会社ソリタリオ代表。〝絶体絶命〟っぽい人とか会社とかがあると、俄然気になるようになってしまった38歳。ちなみに正義感はあまり持ち合わせてない。さて次はどこに……。

①青木真也
②山本元気vs桜井洋平（11・8全日本キック 後楽園ホール）
③12・31『Dynamite!!』さいたまスーパーアリーナ
④09年は頼むよ賞→山本〝KID〟徳郁
⑤魔裟斗

【総括】①はベタすぎだしみんな選ぶだろうけど、やっぱりこれしかない。いろんな選手が駆け引きや話題性で自分の商品価値を上げようと企む（今年に関してはそれで失敗したのが秋山成勲だろう）中、ただひたすら試合をすること、そして勝つことでのみアピールしていった姿勢は素晴らしい。彼がいなかったら昨年の日本総合は……と考えると、ゾッとする。今年にも期待！　②おそらくエディ・アルバレスvsヨアキム・ハンセンが票を集めるんだろうが、昨年（前田尚紀vs梶原龍児）と同じく、これはオレが書いとかないといけないだろう、と。試合決定からの盛り上がり、両選手の入場、試合内容……とすべてにおいて、ここ数年で味わうことのなかったほどの興奮度だった。なんだかんだ言って、立ち技はしぶといですよ。③これがなければいくつかのイベントが団子状態だっただろうが、最後の最後に真打ち登場！　ま、もともとこういうアンケートって、後半のほうが有利ではあるんだが。④まさか昨年、KIDの試合が一度も観られないとは夢にも思わなかった。このへんも昨年の日本格闘技が苦戦した理由の一つだったりするわけだし、09年はぜひ視聴率もマネーも稼いでほしいものである。⑤途中まで書いて、「あっ、魔裟斗もMVP級の活躍だったよな」と思い至ったらちょうどこんな賞が（笑）。ホント、総合が青木真也なら、立ち技は間違いなく魔裟斗でしょう。それに魔裟斗の場合、すでにネームバリューが完全にできあがってしまってるだけに、よけいに大変だっただろうと思うし。でもMAXの最大の問題は、〝ポスト魔裟斗〟がいないことなんだよなあ。〝有力候補〟クラスでもいいんで、今年は出てきてほしいものです。



高橋ターヤン

ボンクラ。開き直ったり泣いて謝ったりしながら溜る仕事をこなす『映画秘宝』所属ライター。毎回開催場所が変わる流浪の文科系格闘技トークイベント『格闘秘宝館』主宰。ほかに某世界的企業にてSE仕事もしてます。

①青木真也
②エディ・アルバレスvsヨアキム・ハンセン（5・11『DREAM・3』さいたまスーパーアリーナ）
③8・9『UFC87』米国ミネソタ州ミネアポリス ターゲットセンター
④2008年最優秀MMA映画賞→『ネバー・バックダウン』
⑤エメリヤーエンコ・ヒョードル

【総括】①今年、彼以上に日本の格闘技界のことを考え、彼以上に対世間に取り組み、彼以上に過酷な試合を重ね、彼以上にイベントを背負ってきた選手を僕は知らない。実力はもちろんだが、あらゆるファイターを凌駕する意識の高さはもっと評価されていいだろう。②戦前は地味な強豪外国人同士の潰し合いとされ、派手な煽りもなく、メイン前のハシ休めくらいに思われていたが、全局面において殴り続けるアルバレスと、打・投・極を体現するかのようなハンセンの死闘は、その試合内容だけで会場にいたすべての観客を感動の渦に巻き込んだ。試合後、観客が感動を伝える唯一の手段としてひたすら拍手し続ける様子も感動的だった。③神の階級のチャンピオンvs無冠の帝王！　レスナー大爆発！　ケンフロが新鋭フエルタを圧倒！　判定

試合が揃いも揃ってこんなにおもしろい大会も

【総括】選考理由なんてべつにないよ。すべて

った一人で再燃させにかかったこの男。グラン

て「ヅァア！」。近代MMAにおいては異質と

CK GIRL』は最高でした。ありがとう『S

ました。そうした意味も含めてのベスト。③20試合が揃いも揃ってこんなにおもしろい大会もなかなかないでしょ！　ほかにも『UFC92』、『UFC84』、『DREAM・5』も素晴らしかった。④今年は北米のMMAファイターが出演したり、MMAブームの余波で、MMAを題材にした映画が大量に公開されたが、ほとんどの作品はZ級の駄作ばかり。そんな中で唯一映画としてほめるに足る出来だったのが『ネバー・バックダウン』。物語は、MMAが流行中の高校に転校してきた元アメフト選手がその高校の番長にボコボコにされ、MMAを学んで番長が仕切る地下MMA大会に殴り込む話で、たとえるならMMA版『ベストキッド』。不思議な東洋人に格闘技を教わるのではなく、ジムで格闘技を習うというのが非常に現代的。もちろん映画ならではの誇張もあるが、『MTVアワード』の最優秀ファイト賞を受賞したファイトシーンの迫力も素晴らしく、現役MMA選手がまったく参加していないにもかかわらず、このクオリティというのは賞賛に値する。09年には日本でもDVDリリースされるのだが、劇場公開されなかったのが悔やまれる逸品だ。

度はじつに男らしい。

ターザン山本！

葛飾区在住。古関夢香さんの恋人（？）。昨年は、『遺言』（ダイヤモンド社）、『62歳のボクに28歳年下の彼女ができたのだ！』（ロコモーションパブリッシング）を出版。その売れゆきは「売～れて～るよぉ」（ターザン談）だそうです。

①石井慧
②内藤大助 vs 山口真吾（12・23ボクシングWBC世界フライ級タイトルマッチ 両国国技館）
③アメリカ大統領選
④大バッシング賞→星野仙一
⑤三浦和義

【総括】選考理由なんてべつにないよ。すべて気分と気まぐれさ。思いついたままを挙げただけのこと。石井、内藤、オバマ、三浦、星野と並べていったら、だいたい男という生き物の〝運命〟というものが見えてこないかい？　見えてくるでしょう。この5人、みんな頑張ったんじゃないの？　でも、一寸先は闇さ。死んじゃった人もいるしね。アチャーだよ。石井は金メダルで錬金術をやった。内藤は宝くじを当て続けている男。オバマは行きはよいよい帰りは怖いだ。三浦はアメリカとたった一人で闘った男。星野は長嶋、王になれなかったということだ。どっちに転んでも男ほどせつない存在はない。だったら高見の見物をするのが一番か。ガ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ。

田中太陽

日本プロ麻雀協会所属のフリープロ。〝観戦記の鬼〟として一部の麻雀ファンのあいだで根強い人気を誇る。すっかり定着した秋山成勲の〝魔王〟の名づけ親。

①青木真也
②宇野薫 vs 石田光洋（5・11『DREAM・3』さいたまスーパーアリーナ）
③5・11『DREAM・3』さいたまスーパーアリーナ
④地獄十字賞→チョン・ブギョン
⑤アリスター・オーフレイム

【総括】年間MVPは文句なしの青木真也で。PRIDEの消滅、およびUFCの台頭によって失なわれつつあった日本MMAの〝熱〟を、たった一人で再燃させにかかったこの男。グランプリ優勝こそ逃してしまったものの、大晦日に強豪、エディ・アルバレスをすんなりしとめたことで〝残念男〟イメージはほぼ払拭か。個性的なファイトスタイルや特異なキャラクターのみならず、MMAそのものを盛り上げようとする姿勢とプロ意識もまた高く評価されてしかるべき。ベスト興行には『DREAM・3』を。事前には〝谷間興行〟などと揶揄されたりもした大会だったが、フタを開ければ名勝負連発。セミのヨアキム・ハンセン vs エディ・アルバレス、メインの宇野薫 vs 石田光洋はどちらも年間ベストバウト候補となりうる神試合であったし、そのほかにも中村大介 vs チョン・ブギョンの〝十字職人対決〟、たった一試合でファンの心をわしづかみにしたジェイソン・ミラーの初来日戦など、重要な試合多数。全体的に地味ながらも、初期『PRIDE武士道』シリーズを彷彿とさせる良興行となった。年間ベストバウト賞にはハンセン vs アルバレスこそがふさわしいのかもしれないが、あえてサイドストーリー込みでの宇野 vs 石田としたい。戦前、年下にして後輩であるところの石田に推薦出場をさんざ批判され、煽りVでは「尊敬してないです」とまで言い放たれながらもまったく舌戦に応じようとはしなかった宇野が、いよいよの本番にてド凄い〝殺し〟を見せたこの一戦。己の言動によって平衡を失なってしまった石田と、リング外のいざいざをまったく持ち込まぬまま美しく勝利した宇野のあいだにちらりと見えた〝人間力の差〟、試合後に勃発した川尻との遺恨そして「ヴァアー！」。近代MMAにおいては異質と言えるほどに人間臭さただよう、忘れがたき名勝負であった。今年もっとも男を感じさせてくれた選手は、難しいが土壇場でアリスター・オーフレイムか。DREAMファンからの注目度がそう高くない中、コツコツと実績を積み上げ、ミルコ・クロコップへの挑戦権を獲得。試合では残念なトラブルこそあったものの終始ミルコを圧倒し、「オーフレイムって誰？　強いの？」程度の認識しかなかったファンにも存在感を充分にアピール。そして大晦日には〝MMAの公敵〟バダ・ハリをなんと相手の土俵で見事にノックアウトする快挙！　上昇過程の困難さと有言実行ぶりを評価し、彼を2008年の〝男〟代表としたい。最後に個人表彰だが、これは「もう一度観たい」という願望を込めつつ〝韓流地獄十字〟ことチョン・ブギョンに贈りたい。一昨年の大晦日『やれんのか！』にてさっそうと登場し、あの青木を寸前まで追い詰めるという衝撃のデビューを飾った選手だが、昨年は0勝2敗と振るわず。しかしながら佇まいと試合運びがじつに印象的であり、個人的にはどうしても気になる選手なのだ。「しょっぱい試合」として不評であった石田光洋戦では、判定で敗れこそしたものの終始オーラで相手を圧殺。初のKO負けとなった中村大介戦ではダイナミックな腕十字の取り合いを連発、見ごたえのある勝負を演出している。現状デビュー3連敗中であり、次の試合があるかどうかも微妙な選手なのだが、少しのきっかけをもってブレイクする可能性は高い。2009年の活躍がもっとも期待される選手として、いまのうちにこっそり名前を挙げておきます。

魔裟斗でしょう。それに魔裟斗の場合、すでに

中川画伯

犬＆姪っ子に夢中。フリーのイラストレーター。31歳。

①青木真也
②所英男 vs 中村大介（12・31『Dynamite!!』さいたまスーパーアリーナ）
③4・25『SMACK GIRL』後楽園ホール
④モスト痛そうで賞→邪道の逆水平チョップ
⑤大石真丈

【総括】①まさに大車輪。1年間通して格好よすぎ。②素晴らしかった！　Uはおまえたちだ！　田村潔司選手には中村大介イズムを見習ってほしい。③DREAM、『戦極』、『ヴァルキリー』、『ジュエルス』ってみんなリボーン！でイッキシンテン（山本憲尚-ism）頑張ってました。そのほかにも新日本プロレス両国大会、甲子園』、『THE OUTSIDER』旗揚げ戦、『K-1『プロレスEXPO』、いろいろおもしろい大会はあったけど……やっぱり『SMACK GIRL』は最高でした。ありがとう『SMACK GIRL』！　さようなら『SMACK GIRL』！　こんにちは『ジュエルス』＆『ヴァルキリー』！④邪道（新日本プロレス）の逆水平チョップはヤバいよ！　相手の胸骨をヘシ折らんばかりだよ。逆水平でフィニッシュでもいいんじゃない？　っちゅうぐらいの説得力。チョップとかラリアートを何かの一つ覚えって感じで連発する試合あるじゃん？　あんなの退屈じゃん？　あんなのは邪道と比べたらプロレスダンスだよ、キミィ〜。やっぱり一発の重みでしょう。⑤〝男〟とか〝女〟とかもう21世紀なのに、まだそんなコト言ってんの？　古いよ〜！　なんて思いつつ、『CAGE FORCE08』徹肌ィ郎戦での大石ジャッカル選手は最高に格好よかったです。まさに「男だ」でした。ガムシャラに前へ前へ出る姿勢を見習いたいです。それはもう。

発！　ケンプロが新鋭ノエルダを圧倒！　判定

橋本宗洋

フリーライター。本誌執筆のほか『kamipro』携帯サイトでコラム連載中。昨年はDEEPメガトンGP、トークイベント『格闘秘宝館』と人前に出る機会が増えた。今年もご要望があれば、たいがいのことはします！

①青木真也
②宇野薫 vs 石田光洋（5・11『DREAM・3』さいたまスーパーアリーナ）
③12・31『Dynamite!!』さいたまスーパーアリーナ
④ベストプロデューサー賞→佐伯繁DEEP代表
⑤緒形健一（シュートボクシング）

【総括】①文句なしで青木。アンタ偉すぎるよ！　②普段のキャラとはうって変わってケンカを仕掛けた石田。受けて立った宇野。劇的な決着と、そこから新たに生まれたドラマ。おそろしく濃密な試合だった。そしてこの日、アルバレス vs ヨアキムとこの一戦から、真の意味でDREAMがスタートしたという意味でも忘れられない。③大会前はなんだかんだ言われたし、いろいろあったが、終わってみれば素晴らしいイベントだった。青木がアルバレスと〝世界2位決定戦〟に挑むというシビアなMMAマッチがあり、MMAファイターがK-1ルールで激勝し、中村と所が時空を超えた至高の〝極めっこ〟を見せる。そのうえ田村 vs 桜庭まであったんだから……。超ド級にハイレベルな〝バラエティ色〟あふれる大会。ブーイングを浴びながら微動だにせず、最後は拍手をかっさらった谷川さんもお見事。④格闘技の危機が叫ばれる中で後楽園ホール、新宿FACEを中心に格闘技の土台をしっかり支えた功績を見逃すわけにはいかな



い。ゲガール・ムサシだって、この人の決断がなかったらDREAM王者になってなかったんだし（当初、DEEPミドル級トーナメントに出場予定だった）。めっちゃくちゃ大会開いて、だけどジムの掃除も自分でやってるらしいっすよ、佐伯さんって。⑤試合直前に再発した首の負傷がありながら、大一番『S-cup』では普段以上の鬼神のごとき強さを発揮。準決勝のルイス・アゼレード戦では、誰もが失神KO負けかと思ったダウンから蘇生して大逆転勝利。その闘いぶり、覚悟の深さは〝男〟としか言いようがない。こういう男がいるから、どれだけウンザリするようなことがあってもこの世界から離れられないわけである。

原タコヤキ君

『kami-pro.com』の人気ポッドキャスト、『mimipro』のカリスマ司会者。ギター（始めて1年）と自転車（始めて2年）と加圧トレーニング（始めて4カ月）をこよなく愛する38歳。

①青木真也
②田村潔司 vs 船木誠勝（4・29『DREAM・2』さいたまスーパーアリーナ）
③10・26『ハッスル・ツアー2008』栃木県宇都宮市清原体育館
④山本小鉄にソックリで賞→井上崇宏さん
⑤桜庭和志

【総括】青木真也選手はボク的にはあまりノレないキャラではあったのですが、DREAMを一人で引っぱっていく様を、こんなにも見せつけられりゃあ、もう脱帽するしかありません。最高です！　あと、マッスル坂井さんもMVPもの。もっともっと評価されてしかるべき才人。イベントとしては、『mimipro』の相方・八木賢太郎さんと観に行った『ハッスル』栃木大会は本当に素晴らしかったです！　完全に山口日昇さんの手のひらで転がされました。ベストバウトは佐藤大輔氏の煽り込み。連合赤軍とUWFを重ね合わせた、氏の映像作品は〝秀逸〟という言い方ではあまりにも陳腐。感動で震えました。ボクが一番〝男〟を感じたのはサク。どれだけ負けが込んでも、サクは〝されど我らがスーパースター〟。井上崇宏氏の山本小鉄さんのモノマネは10年前から知っているので、2008年のブレイクには感無量って気がします！（小鉄調）

花くまゆうさく

マンガ家。『kami-pro』にて『豆リングの汁』を連載中。柔術は黒帯の腕前。

①青木真也&北岡悟
②MIKU vs 滝本美咲（8・17『DEEP 37』後楽園ホール）
③とくに思い浮かばず
④2008格闘技ワースト賞→TBS放送版『Dynamite!!』
⑤とくに思い浮かばず

【総括】①去年は順当にこの二人。おかしな日本よりUFCでやってほしい。②ほかにもあると思うけど、思い出す時間がないので。③思い出す時間がないので。④UFC観たあとに、これ観たらひどく落ち込んだ。世界クラスの実力ある人はこんな日本より、UFCでやってほしい。⑤思い出す時間がないので。

平工幸雄

プロレスを撮り始めて20年以上の超ベテランカメラマン。今日もリングサイドで撮影するナイスミドル。

①グレート・ムタ
②KENTA vs 丸藤正道（10・25ノア 日本武道館大会 GHCジュニア&世界ジュニアヘビー級選手権 ダブルタイトルマッチ）
③6・17鈴木みのる20周年自主興行『風になれ』後楽園ホール
④C人（新人？）賞→ザ・モンスター℃
⑤ゼウス

【総括】①三冠王者、そしてIWGP王者として縦横無尽に活躍し、圧倒的な存在感でマット界を盛り上げた②デジタルカメラでよかったと思わせた一戦。アナログだとフィルム交換の時間がもったいない（目が離せない）。③鈴木の波瀾万丈な20年間が凝縮された大会。メインの高山善廣戦での壮絶な意地の張り合いには興奮を覚えた。④いつの間にやら会場人気ナンバーワンになっていたモンスター。こういうブレイクの仕方はいままでに見たことがない⑤初登場のブーイングから、短時間にファン心を声援に変えて男泣きのハッスル卒業。

布施鋼治

昨年タイの空港占拠に巻き込まれながら、焦ることなく現地での生活を楽しんでいた45歳。

①青木真也
②魔裟斗 vs 佐藤嘉洋（10・1『K-1 WORLD MAX 世界一決定トーナメント FINAL8』日本武道館）
③12・31『Dynamite!!』さいたまスーパーアリーナ
④ひとりぼっちで頑張ったで賞→中村元気（タイのルンピニースタジアムを主戦場にする和製ナックモエ）
⑤北岡悟

【総括】初の書き下ろしを出したり、事務所を引っ越ししたり、信用していた人に裏切られたりするなど個人的にいろいろあった2008年。格闘技界を見渡してみれば、総合は青木と北岡が、立ち技は魔裟斗と嘉洋が引っぱった1年だったと思います。MVPは1年間に渡ってハードな試合を続けながらそのつど結果を残し、さらに業界を刺激するメッセージを発信し続けた青木で決まりでしょう。ベストバウトは文句なしに魔裟斗vs嘉洋。どちらともデビュー当初から見続けている私にとって、この一戦がMAXの世界一決定トーナメント準決勝というメジャーな舞台で実現したことは非常に感慨深いものがありました。しかも両者ともベストパフォーマンスを見せてくれたじゃないですか。試合中、私は何度もガクガクと震わせながら、失禁しそうになりましたよ、マジで。

堀辺正史

日本武道傳骨法創始師範。鋭い分析力、ユーモア溢れる解説で格闘技の醍醐味をお届けする〝青春の大発見者〟。

①青木真也
②田村潔司 vs 桜庭和志（12・31『Dynamite!!』さいたまスーパーアリーナ）
③12・31『Dynamite!!』さいたまスーパーアリーナ
④とくになし
⑤該当者なし

【総括】①2008年を象徴する選手を一人挙げろと言われたら、やはり青木選手しか思い浮かびませんね。PRIDEが消滅して以降、格闘技人気が低迷する中、ようやく新しい人間が出てきたな、という感じです。ただ、青木選手は万人に受け入れられるキャラクターではありませんが、強くて、結果を出してるからこそ認められるんですよ。この青木選手の言動だけをマネて、実績が伴なわない選手が増えてしまうことは危惧していますね。②これは試合内容うんぬんじゃないんですよね。この一戦を観ることはUWFの顛末を知ることであり、大河ドラマの大きな山であるわけです。ですから、ほかの試合とは歴史の重みが違う。だから、どんないい試合でもこの田村vs桜庭戦には勝負にならないと思います。③今年は「これだ！」という大会がなかったように思います。だから『Dynamite!!』というのも、このあいだ観たばかりだから覚えてるというだけで、べつに最高によかったわけじゃない（笑）。09年は心に残るイベントに期待したいですね。⑤いまの格闘技界は「男だ！」と言えるような選手が少ないことが問題なんだと思います。いい選手は何人もいるんですけど、PRIDEには「男だ！」と言いたくなる選手、試合がたくさんありましたからね。それと比べるとやはり見劣りしてしまう。09年は「いでよ、男！」がテーマだと思いますね。



松林貴

先日、本誌・松下ミワが91年の『USA大山カラテvs正道会館』や92年の『格闘技オリンピック』をまったく知らないことに驚愕するも、当時の松下はまだ小学生だったと聞いて、逆に己が〝消え去るのみ〟の老兵なのだと痛感。ところが年齢に反して、今年のテーマとして突如〝エロ探究〟をブチあげた本誌調教師。

①ダナ・ホワイトUFC代表
②エディ・アルバレス vs ヨアキム・ハンセン（5・11『DREAM・3』さいたまスーパーアリーナ）
③8・29『K-1甲子園 KING OF UNDER18 FINAL16』ディファ有明
④谷川貞治FEG代表
⑤ランディ・クートゥアー

【総括】①MVPは前年と同じくやっぱりこの人。〝世界最高峰だった場〟で闘っていたファイターたちでさえもなかなか勝てないという、まさに「世界最高峰の舞台」を着実に築いていることを心からたたえましょうよ、皆さんも。②GSP vs マット・セラ戦か、BJペン vs ショーン・シャーク戦かで悩んだが、わずかに残っている日本びいきの心が芽生えてこの一戦に。「MMAはここまで進化した」という好例の闘いだった。試合後の「この試合は二人とも勝者だ」と言ったアルバレスの感動マイクも込みでベストバウトに。③昨年は「格闘技観戦の原点に」を私的テーマとしてK-1興行を積極的に観戦していたら、WGPシリーズではなくこの大会にビンビンきちゃいました。過度な演出もせず、観客が一体となって会場を盛り上げていた感じがグッド。会場を包む空気から92年の『第1回トーワ杯カラテジャパンオープン』を思い出したこともあり、ある意味では原点に返れた……？④個人的に贈りたい賞もMVPのダナと同じく、2年続けてサダハルンバ〝黒魔術〟谷川氏に。大晦日興行後の「日本でお金をたくさん貯めて、UFCを買えるように頑張ってみたいと思います」という宣言に、期待しま賞。日本の格闘技界低迷によるジェラシーからUFCを腐すだけのネガティブ発言が多い中、こういうポジティブ・シンキングな言葉こそが、さすが「いよっ！　サダハルンバ!!」である。⑤訴訟問題のゴタゴタがあったとはいえ、1年3ヵ月ぶりのオクタゴンで自分より20キロも重く、約15歳も若いレスナーを迎えてのタイトルマッチを受けるなんて、まさに金網の鉄人。そんな状況で敗れてもなお、UFCと地元ラスベガスの観客たちに向けて感謝のスピーチをするなんて、まさに男の鑑！　同年代としてはただただ己を恥じるのみ……。

三田佐代子

サムライTVキャスター13年目。猫が2匹になったこととプロレス検定3級に合格したこと以外はさしたる変化がなかった2008年でしたが、2009年は何かしなきゃいけないと思ってます。目指せザ・グレート・サスケ選手の境地！

①武藤敬司
②中邑真輔 vs 武藤敬司（4・27新日本プロレス大阪府立体育館 IWGPヘビー級タイトルマッチ）
③12・12みちのくプロレス 後楽園ホール
④新人賞→KAI（全日本プロレス）
④高木三四郎

【総括】2008年は結局、武藤、健介、サスケ、高木三四郎といった、ベテラン大活躍の年だったように思います。武藤選手は文句なしのMVP。試合内容も素晴らしいし、「ライバルは過去の俺」という台詞が許される唯一の人だと思

うのです。大晦日の『Dynamite!!』の
優勝するならファンでなくとも認めるべき！③
がベストワン。まさに逆境続きだった08年の
『kami-pro』編集部
は毎試合、驚きの連続。こんなの2000年の

うのです。大晦日の『Dynamite!!』の田村vs桜庭はいろいろな意味で切なくなる一戦でしたが、同じ夜に後楽園で行なわれた『プロレスサミット』に出場し、生涯初の蛍光灯デスマッチで壮絶に自爆していたザ・グレート・サスケ選手も去年は狂い咲きでした。佐藤兄弟との宇宙戦争は地球が静止するその日まで名勝負数え歌としてぜひお願いしたい。新人賞は誰がなんと言おうと全日本のKAI選手！ 見た目もセンスも謙虚なところも素敵。昔からのサムライ視聴者であるあたりもなお素敵です。男だ！ 賞は2009年に両国国技館進出を発表した高木三四郎選手に。「心の中に限界作ったら、先には進めないんだよ！」のセリフには震えました。今年、プロレス界のために何ができるのか、自分自身でも勝負してゆきたいと思います。

師岡とおる

本誌コラム扉絵担当。数々の『kamipro』周辺アートワークのほか、煽りVへの素材提供など、仕事の比重が格闘技に大きく傾きつつあることに一抹の不安を抱くイラストレーター。

①魔娑斗
②魔娑斗vs佐藤嘉洋、魔娑斗vsアルトゥール・キシェンコ（10・1『K-1 WORLD MAX 世界一決定トーナメントFINAL8』日本武道館大会）
③7・21『DREAM.5』大阪城ホール
④ワーストバンプ賞→柔道出身ファイター
⑤青木真也

【総括】①②08年を引っぱったのは確実に青木真也だが、魔娑斗版〝リアル〟風車の理論の2連続でまさかの感涙。プロレスみたいな試合して優勝するならファンでなくとも認めるべき！③凝縮されたコク深い青木物語＋オープニング映像の完成度でマイベスト興行。④青木の対戦要求を切り捨てる秋山、秋山の申し出を受け流す吉田、さんざん期待させたあとUFCをチョイスする石井と、アマチュアイズムあふれる受け身の数々に正直ゲンナリです。⑤物語を作れる選手が減ってきた中で唯一と言っていいほど、年間通して物語を紡いできた青木真也のプロ意識に。

八木賢太郎

フリーライター。ちっちゃい頃の『紙のプロレス』時代からの編集部居候。現在も永久非番中。〝ハッスル事情通〟の肩書きを持ち、『kamipro.com』のポッドキャスト『mimipro』で絶賛活動中。

①アン・ジョー司令長官
②青木真也vs宇野薫（7・21『DREAM.5』大阪城ホール）
③10・26『ハッスル・ツアー2008』栃木県宇都宮市清原体育館
④C賞→モンスター℃
⑤女子スポーツ選手の皆さん

【総括】08年は（というか、08年も）『ハッスル』とDREAMしか観ていないので、基本的にその2団体の中から選出させていただきました。まずハッスル勢からは、MVPにアン・ジョー司令長官。年末の泰葉戦を観て、やっぱり『ハッスル』はこの人なくして成り立たないということを、あらためて痛感したので。イベントとしては、なんといっても栃木大会がベストワン。まさに逆境続きだった08年の『ハッスル』の中で、奇跡的に生まれた大当たり興行。川田父の倒れっぷりにやられました。あと、宇都宮で餃子も堪能したので。個人賞は、ハッスルの会場を一番盛り上げてくれた「Cィー！」に。もはや、なんで「。」がついてるのかも忘れられてる中で、まるで人が変わったように（笑）。突如としてブレイクした℃。次点を選べるなら、「ニセモノでした〜」のニセHGにも賞をあげたい。DREAMからは、青木vs宇野をベストバウトに挙げておきます。08年を振り返ると、いい試合もたくさんあったと思うけど、旧PRIDEの頃のように心からカーッと興奮して観たのは、結局、青木絡みの試合だけだったような気がするので。中でも宇野戦は、テレビ観戦でも充分するぎるほどおもしろかった。あんなに速い三角絞めは、初めて観たんじゃないか、と。いろんな意味で、09年もこの人頼みになるんじゃないでしょうか。最後に「男だ」と思った人ですが、08年は、本当に「男の中の男」と呼べる人は、いなかったと思います、僕は。オリンピックだって、サッカーも野球（ソフト）もレスリングも、みんな女子のほうが男らしかった。日本全体として男が女に押されっぱなしの1年だったと思うので、女子スポーツ選手全員に「おまえら、男だ！」と言ってあげたいです。ちなみに、某バラエティ番組でメイク＆ドレスアップした女子レスリングの伊調千春選手は、まるで女装した男性アイドルのような美しさで、ホントに男らしかった……。

ジャン斉藤

『kamipro』編集部

本誌編集長。〝雀鬼〟こと桜井章一の内弟子を経て、『kamipro』編集部へ。永久電機などアントン関連事業の調査や破綻系興行観戦をライフワークとする33歳。

①秋山成勲
②藤門曄裟vsHIROYA（10・1『K-1 WORLD MAX 世界一決定トーナメントFINAL16』広島県立総合体育館）
③7・21『DREAM.5』大阪城ホール
④来た球を打ったで賞→青木真也
⑤インリン様

【総括】①リング内外の実績をまっとうに評価すれば、青木真也が妥当なんでしょうけど、よくも悪くも魔王を通してプロレス的価値観、格闘技のあり方を考える機会にあふれていたと思います。ただし、純粋におもしろがれたのは柴田勝頼戦まで。②藤門曄裟がいないだけでこんなに『K-1甲子園』の興味が薄れるとは思わなかった。HIROYAくんもいい選手なんでしょうが、「高校生」「魔裟斗が認めた」という見出しがないと厳しいですよねぇ。北岡悟じゃないけど、格闘家・プロレスラーは「どうかと思う」存在感というか、狂気性が必要ですが、その狂気性の一端を担っていた加藤会長のもとへ、藤門曄裟は一刻も早く戻るべき！④ブギョン戦、一回目のカルバン戦と、チャンスを二度も潰してるんですから、冷静に考えると青木の浮上の目はなかったはずなんです。それがまさか魔王とあそこまで派手に渡り合う存在になるとは。彼の天性だと思いますが、青木は仮想敵を定めるのがいつも絶妙で、それが仮に計算だとしたら表現者として一流ですね。⑤最後の最後までハッスラーだった！

堀江ガンツ

本誌編集部。ちっちゃな頃から、変態的プロレスファン＆UWF信者を経て、『kamipro』編集部へ。『変態座談会』主催者としても活躍中。

①青木真也
②田村潔司vs桜庭和志（12・31『Dynamite!!』さいたまスーパーアリーナ）
③7・21『DREAM.5』大阪城ホール
④特別功労賞→ウラジミール・パコージン
⑤『ドン・キホーテ』安田会長

【総括】①あまりにもベタすぎるので、できれば選びたくないぐらいだったが、それでも選ばざるをえない。それぐらい08年の青木は飛び抜けていた。ただ勝つだけでなく、その闘いぶりは毎試合、驚きの連続。こんなの2000年の桜庭和志以来だ。②この二人の闘いは大晦日の15分間だけでなく、10数年にも及ぶもの。その歴史に勝てる試合なんてあるわけない。③大会を重ねるごとに完成度が上がっていったDREAM。その中でも08年を象徴するライト級GP決勝が行なわれた、この大阪大会がベストでしょう。④個人的に08年で最も衝撃を受けた事件。パコージンさんがいなければ、現在の格闘技界はまったく違ったものであっただろうし、90年代のリングスという団体も成り立たなかっただろう。偉大なるロシアの親方に合掌。⑤ズバリ言って、このお方なしで08年の総合格闘技はなかったでしょう。その男っぷりはダントツ。09年もよろしくお願いします！

坂井ノブ

携帯サイト『kamipro Move』やウェブサイト『kamipro.com』担当。ポッドキャスト『mimipro』で番頭役として出演中。ハッスル・オフィシャルウェブサイトでペールワンズ総帥・井上崇宏さんとともに「ヒマでモテないプロレスマスコミ対談」を月一回ペースでやってます。

①北岡悟
②ボノちゃんvsインリン様（5・24『ハッスル・エイド2008』有明コロシアム）
③7・19『アフリクション』米国カリフォルニア州アナハイム ホンダセンター
④凄いで賞→ブロック・レスナー
⑤ニセHG

【総括】①本人の活躍とともに「キモ強い」というキーワードがどんどん大きくなっていき、本人のみならず、（『戦極G！』とか専門誌とか）周囲まで巻き込んで「もう北岡しかいない！」という空気を作った点、そしてしっかりと結果を出した点を評価したい。アンダーテイカー、永田さんと並ぶ顔芸を確立した点も高く評価したい。②世界一哀しい親子対決であり、『ハッスル』で一時代を築いた最大の功労者のラストマッチ。ボノちゃんを投げ飛ばし、ムチを振るい、M字を見せ、そしてボノちゃんのプレスで3カウントを奪われ、カーテンコールに登場するまで流れが完璧すぎた。インリン様がいなければ『ハッスル』はここまで注目を浴びることはなかっただろう。③ヒョードルがティム・シルビアを秒殺KOで下した試合で観客のスタンディングオベーションが凄まじく、またメガデスの生演奏や大富豪ドナルド・トランプやストーンコールドが会場にいたりしてゴージャスかつエキサイティングな空間でした。現場に行ってみて感じたのは、00年代前半の日本のK-1やPRIDEの会場の雰囲気に近かったような気がするということ。日本の総合格闘技黎明期



はTシャツと密接な関係にあったことを思えば、〝Tシャツ屋〟アフリクションの大会があの頃の日本の大会と似た空気なのも納得。④07年の『Dynamite!! USA』で観たときは、まさかこんなに早くMMAの頂点に立つとは思いませんでした。WWEで頂点を極め、NFLで挫折を味わうも、UFCでまた頂点に君臨したこの男の数奇な人生とケタ外れの身体能力は「凄い」の一言。⑤男らしい低い声、男らしいムチムチの肉体、男らしさがあふれすぎてて怖いぐらいな男の中の男。ニセHGの素顔をよく知る某選手によると、「あいつはねぇ、本当に気持ちのいい男なんですよ」とのこと。ど、どんな意味!?

阿修羅チョロ

この号が発売される頃には37歳になってます。いろんな意味で、かなりヤバい気がしています。2009年はいいことがありますように。

①高木三四郎
②ザ・グレート・サスケ&サバイバル飛田&ウルトラマンロビンvs佐藤秀&佐藤恵&メフィラス星人
(12・12みちのくプロレス 後楽園ホール)
③10・6マッスル坂井自主興行
新木場1st RING
④王将で賞→田口隆祐
⑤桜井〝マッハ〟速人

【総括】①08年はレスラーとしての活躍はもちろん、社長業としても、DDT、『マッスル』、ユニオン、クルーザーゲーム、新北京プロレス、ハードヒット、BOYS、でら名古屋プロレスなどに関わり、さらには新宿歌舞伎町のスポーツバー『ドロップキック』に続き、都内・中野にカレー屋をオープン。太田出版からは自伝を発売するなど精力的すぎる活動を展開。今号の〝男〟特集に登場してもおかしくないほど部下からの信頼も絶大な大社長がMVP！②年末恒例のサスケと佐藤兄弟の宇宙大戦争。残念ながらテレビ観戦でしたが、それでもサスケの狂いっぷりはビンビンに伝わってきました。③一大会の中でベストバウト候補が何試合もあった『Dynamite!!』も凄かったと思うのですが、やはり〝一寸先はハプニング〟だらけのマッスル坂井自主興行に一票。④昨年、ふとしたきっかけで自分の将棋熱が再熱したのですが、プロレス界で将棋好きといえば〝ファンキー・ウェポン〟こと田口隆祐がかなりの腕前として有名なんだとか。挑戦させてよ！⑤昨年末、インターネット上を騒がせたマッハのホニャラ騒動（各自調査）。内容はともかく、一番〝男だ〟と感じさせてもらいました。合掌。

真下義之

本誌・おもにプロレス&文化人系担当。某世界的アーティストの内弟子を経て『kami-pro』入り。08年はエスパー清田氏に目の前でスプーン曲げしてもらうというありがたい取材も経験。

①マッスル坂井
②天山広吉vs飯塚高史
(7・8 新日本プロレス 後楽園ホール)
③10・26『ハッスル・ツアー2008』
栃木県宇都宮市清原体育館
④残念で仕方ないで賞→藤門嘩裟&加藤会長
⑤川尻達也

【総括】①08年は『八百長★野郎』（小社刊）監修というリスキーな作業に踏み込んだだけでなく、それを受けたマッスル坂井自主興行では見事に自己表現として昇華してみせた。ベクトルはきわめて特殊だが、その迷いぶりも含めて、現代でこれだけ〝プロレス〟を体現している存在はこの人以外にいない。②〝新生〟新日本プロレスの一つの到達点。悲運の天山劇場、〝いい人〟飯塚のヒールターン、小島聡出現のサプライズと、すべてのドラマが合致！　プロレスの〝肝〟を表現した新日本スタッフワークの最高傑作。③「クソ遠い」栃木の興行に行くこと自体が観客を巻き込んだアングルとして機能し、川田父の心臓発作など観客論主導時代における大ドンデン返しの醍醐味も表現。宇都宮の餃子もサイコーでした。④08年前半、加藤会長のよみがえる大山道場魂とストイックすぎる10代・藤門嘩裟の突き抜けた超スポ根ストーリーに異常なほどの期待がかかったものの、一瞬強烈な輝きを放ったあと、あっけなく崩壊。だが、そこもまた現代的だった。⑤08年後半、愚直なまでに自己の役割に専念したことで、パーフェクトな結果を叩きだした最高の男。

松下ミワ

最近、フランク・ミアがプチブームらしい最年長編集者・真下義之から「フランク・ミワ」と呼ばれたりするが、できるだけ無視するようにしている本誌・元読者ページ担当。

①川尻達也
②エメリヤーエンコ・ヒョードルvsティム・シルビア(7・19『アフリクション』米国カリフォルニア州アナハイム ホンダセンター)
③12・31『Dynamite!!』
さいたまスーパーアリーナ
④話題賞→『戦極』ポーズ
⑤男賞→魔裟斗

【総括】①09年、地上波ブレイクの期待も込めて！　あと、09年は川尻にうっとりしている谷川FEG代表との対談も実現させたいです。②ヒョードルがあまりにも凄すぎた！　もう、ヒョードルにだけは永遠に幻想を続行させてほしいと思います。③この大会で一気に09年マット界への期待が膨らみました。障害や制約がたくさんあった大会だとは思えないほどの盛り上りに乾杯！④手前味噌かもしれないですが、ポーズを考案する松澤さんを見て『kami-pro』ってこんなパワーがあるんだなと思いました。⑤K－1 MAXという看板を一人で背負い続け、しかも優勝してしまうから凄い！　ファイター、主催者、ファン、テレビ局、どの視点から見てもパーフェクトだったんじゃないかと思います。

大川義之

本誌・電気部担当。在韓日本語教員時代に、『kami-pro』で韓国格闘技コラム『インサイドコリア』という月一コラムを寄稿していたが、08年に帰国と同時にダブルクロスに入社。もっぱら電気部で携帯サイトやウェブサイトの更新を担当しています。

①青木真也
②中村大介vs所英男
(12・31『Dynamite!!』さいたまスーパーアリーナ)
③7・21『DREAM・5』大阪城ホール
④カムバック賞→藤原喜明
⑤メルヴィン・マヌーフ

【総括】①08年のMVPはこの人しかいないでしょう。ライト級の強豪ばかりを相手に1年で7試合！　世界の頂点はBJペンと言われますが、08年の活躍では青木選手のほうが遥かに上でした。②タムvsサク戦の実現により、〝UWF最終章〟と煽られる中、両者は打撃をまったく使わずに、激しくも美しい現在進行形のUスタイルを展開。Uの灯を消すどころか、轟々と燃え上がらせた二人には心から脱帽！③ライト級GPの準決勝の2試合はともに劇的な名勝負、そして迎えた決勝戦ではリザーバーのハンセンが青木をKOするという驚きの幕切れ。そのドラマ性は一つの作品を観ているようでした。④07年10月に胃ガンの手術をした組長は、12・18昭和プロレス参戦発表会見で「医者には『絶対出るな』と言われましたが、死ぬ気でやります」とあまりにムチャな復帰宣言。試合でも、すっかりスーパーヘビー級になった初代タイガーマスクの重爆キックを、生々しい手術痕が残るボディに何十発も被弾し、ズタボロになってKO負けするという壮絶さ。試合中、「この人はリングで死ぬつもりなんだ」とさえ思いました。格闘技やプロレスに〝命を懸ける〟という人はいくらでもいますが、その言葉どおりの行為をやる人は初めて観ました。試合をやり遂げ、涙を流す組長を見て、僕も号泣。08年、プロレス&格闘技を観て泣いたのはこの試合だけでした。昭和ってっすげぇ！⑤08年にいつ何時、どんなルールで、誰とでも闘う見事な〝男っぷり〟を見せたのがマヌーフ。かつてはフダつきのワルで刑務所を行き来していた男がリングでの闘いに生きがいを見つけ、たとえKOされても何者にも恐れず立ち向かっていく姿には、心から勇気をもらいました。「マヌーフ！おまえ男だ!!」。



鈴木佑

本誌編集部。08年の印象的な出来事は、母が営むスナックの目と鼻の先で木村健吾が婦人モノのリサイクルショップをオープンしたこと。あと、『kami-pro』入りしたこと。

①魔裟斗
②宇野薫vs石田光洋
(5・11『DREAM・3』さいたまスーパーアリーナ)
③12・31『Dynamite!!』
さいたまスーパーアリーナ
④IGFの裏エースで賞→TRIPLE-P
⑤ニセHG

【総括】①まさか5年ぶりにGP優勝をはたすだなんて。それが真剣勝負の世界においてどれだけの偉業であることか。ジャンルを背負うにもほどがあります。②『やれんのか！』のロゴ入りコートを着込んできた石田に対し、「やってやるって！」とばかりに、永田さんのIWGP王座挑戦時の越中詩郎ばりに入場段階で涙目だった宇野。試合内容はもちろん、主催者推薦枠をめぐる一騒動、さらに試合後の宇野にオラオラモードで詰め寄った川尻の姿を含めて、非常に胸にズキュンときた一戦。③格闘技の祭典では総合とK－1の〝混ぜるな危険〟ぶりが露骨に表出。その化学反応が大会をより一層盛り上げた。K－1勢が自分の土俵で負けていくサマには、格闘技の残酷さをマジマジと実感。④IGFで毎回、アントンの『道』をモチーフにしたナンバーをゴキゲンに歌ってくれる沖縄出身の姉弟ユニット・TRIPLE-P。毎回特別ゲストとして陣取る実況席では、弟のSHUNが「（トム・ハワードの）開いたズボンのチャックが気になりますねー」と、試合そっちのけでトンデモ発言を連発したり、姉のALICEがケタケタ笑いながらひたすら実況席なのもおかまいなしでブログ用の写メを撮りまくるなど、ゲノムっぷりをおおいに発揮。ノンキがあればなんでもできる！⑤今年、『ハッスル』で最も生々（なまなま）しく、かつ生々（いきいき）していたキャラと言えばニセHG。その二丁目受け必至なガチムチぶりや、ぎこちない腰使いには男、否、オスをビンビンに感じた。ちなみに、ニセHGが初めて流暢にマイクでしゃべったときは、漫画『ゴリラーマン』の最終回を思い出しました。



「むしろ、汁レスラーとして出てください！」

「俺も『マッスル』のアイデア出しますよ！」

大槻ケンヂ×マッスル坂井

行こうぜ！“文系プロレス”の向こう側!!

対談

「プロレス界に謝れ！」といつ何時でも既存のプロレスのアンチテーゼとして奇抜なプロレスを展開してきた「マッスル」を、自称・迷えるプロレスファン、大槻ケンヂ氏が初観戦！　マッスル坂井との濃厚きわまりない“文系プロレス”対談がついに実現！

司会／嘉下義之　撮影／タイコウクニヨシ　大会撮影／平工幸雄

――今日は、新春からじつに〝文系〟っぽい対談が実現しました。お二人は初対面なんですか？

坂井 お会いするのは初めてですね。

大槻 ただ、ある焼肉屋さんに、坂井さんが来る、来ないって話があってね。

坂井 あ、中野の焼肉屋さんですか？

大槻 あるプロデューサーが、『マッスル』に通ってて、「坂井さんを囲む焼肉会がある」とは聞いてて。その焼肉屋では会ってないんですけどね。

坂井 ちょっとプライベートでいろいろあったんですよ。……というか、そもそも僕が生まれて初めて買ったシングルCDが、筋肉少女帯の『サボテンとバンドライン』なんですよ！

――じつにいい話ですね！

大槻 ありがとう！ これはね、なぜか新宿の行きつけの散髪屋のお兄さんもそうだったの（笑）。

坂井 なぜか大ヒットした『元祖高木ブー伝説』のほうじゃなく。ただ、まだ家にCDを聴く機械がなくて。その年のクリスマスにCDラジカセを買ってもらう予定だったんです。SONYのドデカホーンを（笑）。

大槻 ドデカホーン！ あのCDを出した頃のプロレス界は、FMWの全盛期だったかな？ 当時のバンドマンたちは初期FMW支持者がたくさんいて、会場にザ・ブルーハーツ（当時）の甲本ヒロトさんや、プライベーツ、アンジー、かまいたちとか。いまレスラーになったクレイジーSKB（666主宰）さんとか。ライブハウスより後楽園ホールで会う確率が多くて。で、九州の鳥栖っていうとこで『炎のバトル』っていうロックとプロレスの合同イベントをやったりね。

坂井 ありましたねぇ！

大槻 上田勝次さんとか、バルタン星人の着ぐるみレスラーや、FMWの練習生でお笑いになる前の鉄拳がいたり。バンドは泉谷しげるさん、ブルーハーツ、筋肉少女帯。で、メインが大仁田厚とサンボ浅子の電流爆破。あれ、何万人来たかなぁ？

――野外フェスの走りって感じですね。

大槻 あの頃、FMWにもガチはあると思ってたんですよ！ ただ、大仁田vsグレゴリー・ベリチェフ（ソウル五輪柔道銅メダリスト）で「勝てるハズはない」と思ってたら、勝っちゃったから、その時点でみんな「おや？」と思ってね。いい時代だ（笑）。

――疑問がもたげましたか。で、坂井さんはCDを買って以降は？

坂井 そのCDを聴ける場所が小学校の音楽室しかなかったんです。そのステレオで聴こうとしたらボリュームが最大になってて、CDを流した瞬間、スピーカーを破壊しちゃって！

――筋肉少女帯でスピーカーを破壊！

坂井 「どうやって聴こう？」と友だちとクラスで話し合ってる場面は見られてたんで、クラスメートにチクられたんです。親も呼ばれて、「弁償する、しない」の話になって、だからCDラジカセは1年くらい無期限延期になりまして。以来、トラウマで筋肉少女帯は買ってなかったですね。腹が立って、パーソンズを買っちゃいました（笑）。

大槻 それはインディーから全日本プロレスに行くような（笑）。

数年ぶりに後楽園に行ったら、もう懐かしくて懐かしくてね



おおつき・けんぢ■1966年2月6日、東京都出身。82年に筋肉少女帯を結成し一世を風靡。ミュージシャンと同時に作家としても活動し、サブカルチャーに精通もする。熱狂的プロレスファンであり、ミスター高橋本以降は距離をとっていたが、『八百長★野郎』（小社刊）のインタビューで『マッスル』の出現で「迷いが晴れた」と告白。

坂井 でも小説やエッセイだけはずっと読んでて、今回の対談にあたってそれを読み返しながら、影響力の大きさを噛み締めましたね。「大槻さんの本を読んで、『ムルギー』（渋谷のカレー店）とか行ったんだよな」とか。あと『のほほんだけじゃダメかしら？』（集英社文庫）の里村明衣子さんへのインタビューとかめちゃくちゃ笑いましたもん。（坂井注＝このあと大槻さんに文庫本にサインを貰おうとしたら、なぜかその本にコンドームがしおりのように挟まってて、見つからないよう必死にごまかした、というしょうもない話を1月11日更新の『kamipro Move』のコラムで書きました）。

――逆に大槻さんが、最初に『マッスル』を観た印象は？

大槻 最初はDVDで観たんですけど、斬新で驚いちゃってね。『ハッスル』みたいなエンタメ系かと思ったら、実験演劇に近いような感じだった。「しかもイタリア人まで！」って。

――イタリア人というか、アントーニオ本多のことですね（笑）。

大槻 とくに鈴木みのる選手が最後に出た回（『マッスルハウス4』）は、「すげえな！」って感動して観ました。

――先日は、初の生観戦もされて。

大槻 う、うん。ただ、自分はまず後楽園ホールに行ったのが、数年前にZERO－ONE（現ZERO―1）を観に行って途中退席して以来でね。

――「この会場にはモテないオーラが充満している」と発言して退席されて、ネットで物議をかもして以来でしたか。

大槻 だから、後楽園が懐かしくて懐かしくて。驚いたのが喫煙ルームができたじゃない？ 変わったね。でも、来てる人は全然変わってないね（笑）。

坂井 それは問題化してるんですよね

オーケンも震撼!!『マッスル・ハウス7』で何が起きたのか？



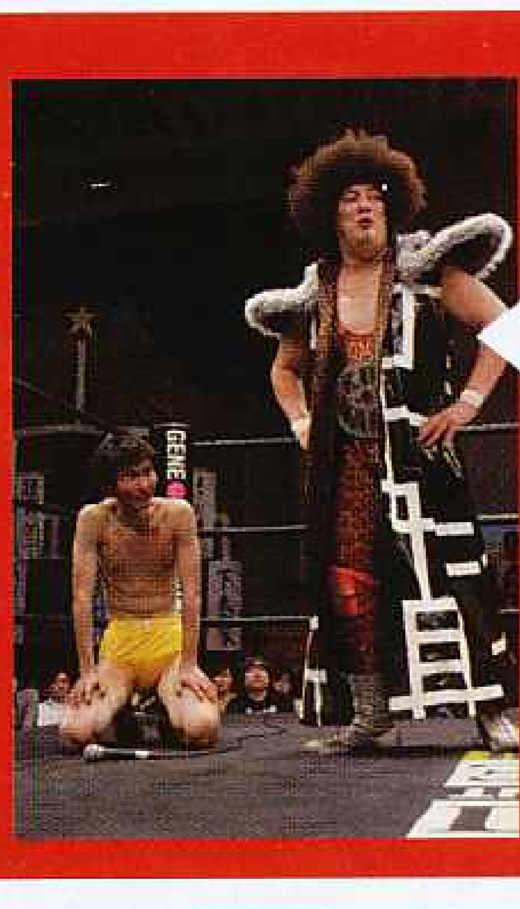
「坂井が行方不明」という事態の中、残されたメモをもとに『キン肉マン』夢の超人タッグ編よろしく、16組参加のタッグトーナメント緊急開催！ ゴー、ゴー、マッスル！



バッファローマンに扮したのは、〝アメリカの路上王〟ケニー・オメガ。ほかにもノアの青木篤志＆男色ディーノ、和田京平＆NOSAWA論外ら濃い面々が続々集結！



トーナメント中に緊急ニュース！ 長井満也とのタッグでの失敗を説教されていた藤岡メガネが逆ギレ。実況陣を人質に後楽園控室に立てこもる異常行動！



ついに坂井が登場。何をやってもうまくいかない藤岡を鬼気迫る表情でビンタ！ さらに現状の不安をブチまけつつ自分の分身・鶴見亜門と凄まじいテンションで怒鳴り合う。

え。若い子がいないというか。

大槻　あと、売店の横にポスターがいっぱい貼ってあるじゃない？　で、「女子プロだ！」と思ったら、JWP、LLPWがいまだにあって。尾崎魔弓さんや、井上京子さん、井上貴子さん、立野記代さんまでいて。自分も人気商売をやってて、こういうことを言ってはいけないと思うけど……、「まだ、やってたんだ‼」と。

——普通はそう思いますよね。

大槻　ただ、音楽を最近聴いてない人は、筋肉少女帯って聞いたら、「まだ、やってたんだ！」と言うかもわからんけど（笑）。

坂井　大槻さんは存在感的に井上京子さんなんかとかぶると思いますよ。

大槻　俺、井上京子なんだ！（笑）。あと、風間ルミさんが熟女連合みたいなチーム（編集部注＝ゲイボーイのチーム『グラマーエンジェルス』のマネージャー）を作ったり、ジャンボ掘さんも復活してたけど……、「その電波はどこに向けてるねん！」って。

坂井　完全にフェティッシュの世界ですから。

大槻　でも、新宿ロフトで「汚い大人にはならないぜ」的な反体制パンクをやってた人が、50歳近くでもまでやってるんですよ。そういう意味では近いのかなって。

坂井　そんなこと言ったら、みんなニューロティカ（結成24年。現在も活動中のパンクバンド）ですよ。

大槻　女子プロはニューロティカ！

——で、今回は途中までタッグトーナメント中心で、通常の作り込んだ『マッスル』とは少し違う大会でしたけど。

大槻　非常にプロレス寄りでしたね。観てるうちに「今回は、よくある興行っぽいな」と思ってたら、オチで『こんな興行よくある』とタイトルが出たから、「そういうことか！」と。あと、悪い言葉で言う汁レスラー？　最近プロレスを観てなかったから、知らない人たちがたくさん出て、吉江（豊）さん、長井（満也）さんとか知ってる人もいましたけど。万国ビックリショーというか、フリークスが続々と出てくる感じで。ただね、虫を撒くのはいかんよ！　あれはダメだよ！

——虫デスマッチで知られる双子・バラモン兄弟が虫を撒いてました。

坂井　あれは本来、ライバルであるべき双子がタッグを組んでいるというよくない状況からアブノーマルなプレイ（虫デスマッチ）に向かってたから、今回は双子を「闘わせる」ことでバランスをとったんです。虫を殺さないだけよかったな、とは思いましたけど。

——大仁田さんもかき回してましたね。

大槻　ただ、大仁田さんって『マッスル』があまりよくわからずに出てたんじゃない？

坂井　僕としては「もっとわからないでほしかったな」と。大仁田さんって、「ワガママで自分が目立つことしか考えない」ってパブリックイメージですけど、それは大仁田さんが作ってきた虚像なんです。甲本ヒロトというスター像を受け入れるキッズたちと一緒で。

大槻　でも、お客は大仁田さんが来て歓迎したものか、ブーイングしたものか迷ってたよね。あの人、いま軸がブレてるもんなぁ……。

控室に立てこもったシーンは、深川通り魔殺人事件がモチーフです



まっする・さかい■本名、坂井良宏。1977年11月5日生まれ。新潟県新潟市出身。有限会社DDTテック代表、早稲田大学第二文学部在学時にDDTに映像スタッフとして参加。04年10月には『マッスル』を旗揚げ。お笑いへの進出、短編映画作品の監督など、その多彩な才能ぶりが注目を浴びる。監修を務めた『八百長★野郎』（小社刊）が絶賛発売中。186cm、120kg。

——大仁田さんと真鍋（由）アナの〝大仁田劇場〟が坂井さんのプロレスの原点なんですが、その説明もなくて。

坂井　大仁田さんに関しては、僕のパーソナルな部分とは切り離したかったんです。僕としては、あのとまどった空気感はガッツポーズしちゃいたいくらい嬉しかったんですけど。

——お客を混乱させたかった？

坂井　ええ。トーナメントの途中、藤岡（メガネ）が控室に立てこもる映像が緊急ニュースで入るんですけど、あれは深川の通り魔事件（81年6月、東京都江東区の商店街で発生した無差別殺人事件。犯人は覚せい剤中毒だった）がモチーフなんです。

大槻　深川通り魔殺人事件！　あれ、川俣軍司（犯人）だったんだ？　わかるかそんなの！

坂井　あの事件って、テレビの視聴者は、犯人の立てこもりニュースが入ってきたとき、あさま山荘事件みたいな動機やパッションがあるのかと思ってたら、犯人が電波系の元祖の方だったんで「ガクッ」とした感じだったじゃないですか。でも、プロレス中継ってそういう、「クウェートで空爆が始まった」とか「ワールドトレードセンターに旅客機が突っ込んだ」とか臨時ニュースを観るのと近いものかなって。

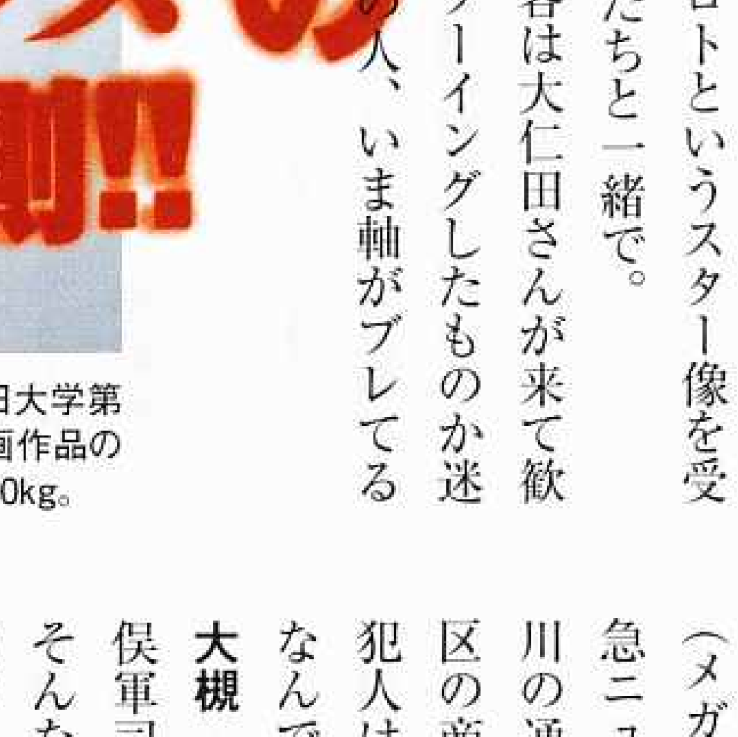
——非日常への願望を表現したというか。

坂井　それを猛烈に感じたのが、大仁田劇場なんですよ。スポーツ中継だと思って観てたら、真鍋さんと大仁田さんが吠え合ってる絡みってビックリするじゃないですか？　レスラーの引退興行も「引退するのにテンション高い」っていう状況とか、そういう記号を羅列してみたんです。ただ、「その構造にお客が気づいたらダメだな」って思って説明はしてないんですけど。

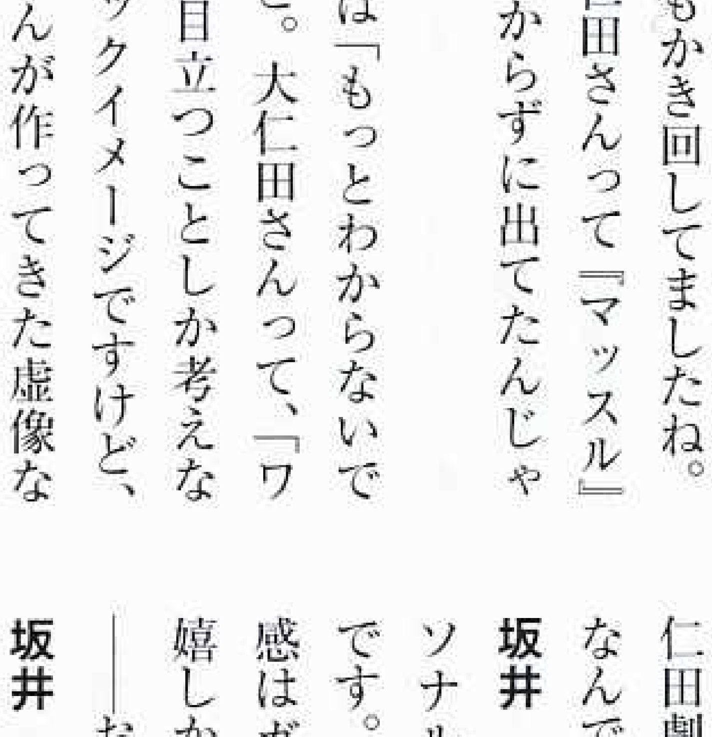
大槻　どこまで演出で、どこまでハプニングか境界がわからなくなってきてる。マイクが入ったり入らなかったり、藤岡さんが放送席に突っ込んで、放送席を破壊したのも「ホントに事故なのかな？」って思ったし。

坂井　さすがにマイクは演出じゃないですけど、『マッスル』は作り方が難しくなってきてますね。

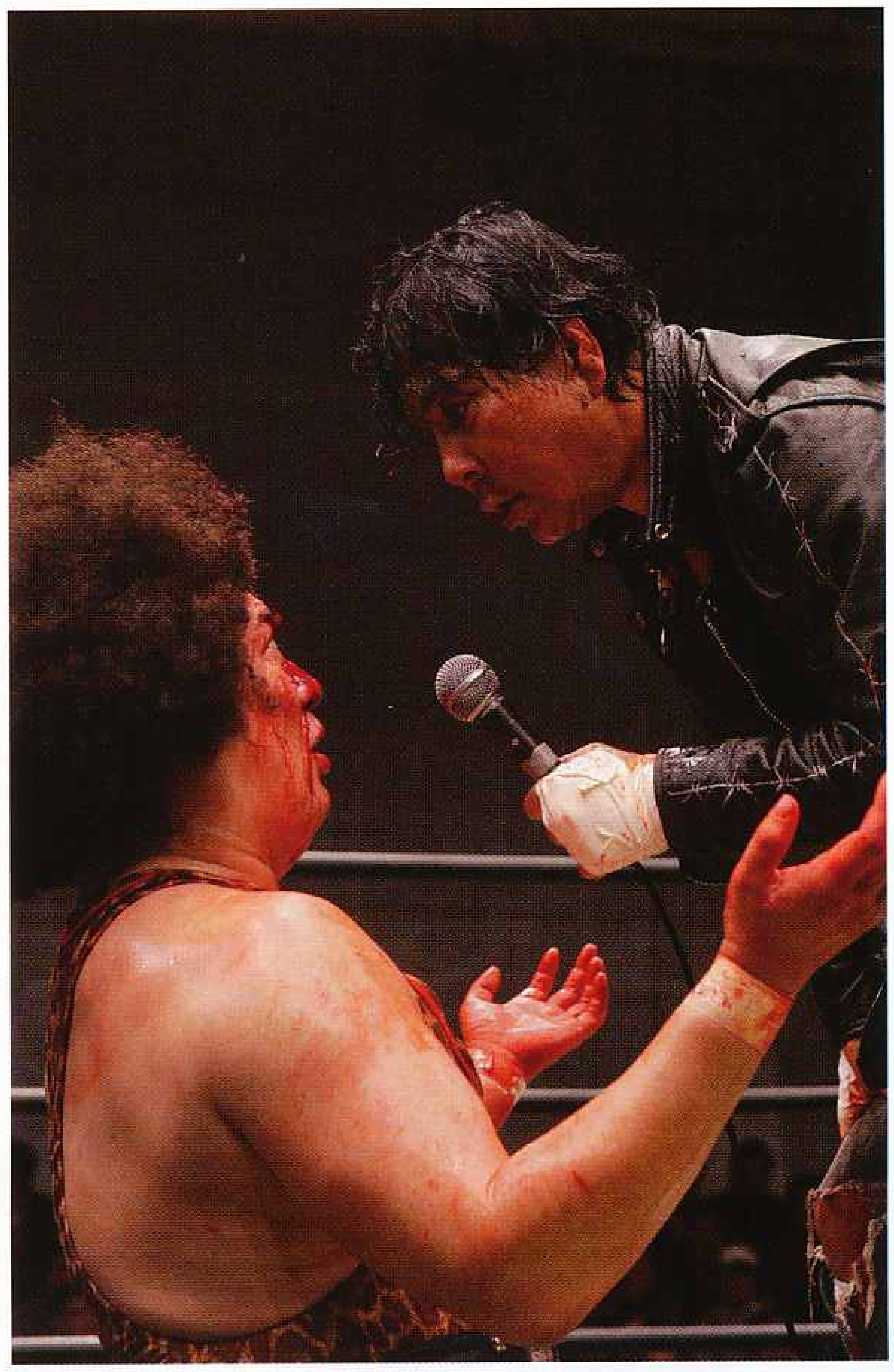
大槻　俺は、途中まで「ハプニングでプロレスをイジる実況がなくなり、ドンドン普通のプロレスになっていく状況にお客がどう対応するのか？」って実験をやってるのかなって思いながら観てたんだけど。ハプニングと演出が坂井さんとお客さんがよくも悪くも断絶し、境界がわからなくなってたよね。大仁田とアントーニオ本多の絡みもどこまで演出かわからなかったし。



終盤は「台本がなかった」だけに、その場の空気次第のフリーフォームな『マッスル』劇場となったが、坂井は『マッスル』の存続、なんと月イチ開催プランまでブチ上げた。



ここへ"邪道"大仁田厚が登場！　5人がかりで大仁田を倒した坂井だが、このあとメンバーを説教する大仁田劇場が展開。そのアドリブ芸のポテンシャルを炸裂させた。



「テンションなら、この人に教えてもらうんじゃ！」と登場した大仁田は、「やめるのか、やめないのか決めろ!」と坂井に憤怒の形相で対峙。だが、おびえつつも坂井も決して"格負け"しないからさすが。

——大仁田さんがマッスルメンバーを正座させて、説教したシーンですね。

大槻　あれは、大仁田さんが凄い。「こいつはこういう対応だな？」とその場で、キャラを立てていったでしょ？

坂井　しかも、そこのツボが全部当たってたんですよ！　事前に「各選手はこういうとこを見せてほしい」とか言ったわけじゃなく。

——説明したわけじゃなかった？

坂井　まったくしてないです！　ぶっつけで、流れを全部ぶっ壊してもらおうと思ってたから。「この人のこういうところを引き出してください」とか言ったわけじゃなくて。でも、僕が各メンバーに対して、脚本やセリフを書くときに考える行数とか、扱いが一致してたから、「なんだこの人は！」って心底驚いて。

——完全にアドリブ芸だったんですね。

坂井　お約束とか台本とか演出とかを一人のワガママな絶対的スターの出現によって、全部フラットにされる悲劇を描こうとしたら、意外と空気を呼んで噛み合ってしまった。でも、「もともとレスラーとして超優秀な人なんだな」って感心しましたね。試合のあとも控室でアドバイスの言葉をたくさんくれたり。

大槻　意外と大仁田さんが欽ちゃん（萩本欽一）だった、というのが判明したよね（笑）。一人一人をちょうどいい感じでイジって。アントンは前川清あたりね。

——坂井さんは『八百長★野郎』（小社刊）での大槻さんのマッスル論はどうでした？

坂井　『マッスル』から、武道の話になるとは思いませんでしたね。

大槻　あの本では「最初、プロレスの要素は"武術"と"武芸"と"武道"を合わせた世界だった」という話をしたんですね。で、"武術"という強さを求める勝負の世界で、やがてK―1や総合格闘技が出てきた。そこでレスラーはPRIDEとかで"武術"に挑戦しようとしたけど、わりと負けちゃった。そのあと、エンターテインメントな領域で、笑いもある大道芸に近い"武芸"のほうに行ったのが、『ハッスル』や『マッスル』ですよね。ただ、もう一つ。プロレスを合気道のような型を重視した"武道"にするっていう手もあるんですよ。凄く観てるわけじゃないけど、いまのノアがやってることは、型を重視した"武道"なんじゃないかなって妄想を。

坂井　何が凄いって、そのプロレスにおける"武術"と"武芸"と"武道"の3つのスタイルを作ったのが、力道山なんです。それをノアは型として残そうとしている。力道山というか百田家の意志なのかもしれないけど。

大槻　力道山の意志!?　「マッカーサーの呪い」みたいでいいなぁ。学研の『ムー』か！

坂井　力道山という一人の天才が作ったものですね。つまりM資金（占領下の日本で連合国軍最高司令官総司令部が接収した財産を、極秘運用しているとウワサされる秘密資金）ですよ！

大槻　M資金！　アナタ大丈夫？　ただ合気道の起源も似た部分があるんですよ。植芝盛平って人がもともと大本教という宗教団体で教えていたもので、それが進化してやがて「それはかからないだろう？」って技もお互いの意思疎通によって「かかり、かけられる」ように発達し、互いにリスペクトの精神が生まれる、と。非常にプロレスと合気道は似てると思うんだよ〜！

坂井　似てると思いますし、逆にアメリカのファンやレスラーにはそこが欠落してますね。そういう部分が日本人のアイデンティティとしてあるから、日本はプロレスがガチンコとして浸透しちゃったと思うんです。新日本プロレスの山本小鉄さん的な道場論も大きかったでしょうけど。

大槻　武道的なものに西洋のエンタメが入って、ゴチャゴチャになって、力道山によって整備されたのが日本のプロレスっていうか。つまり、エンタメ合気道だ！

坂井　力道山というフィルターを通したもの、通してないものはまったく別物ですね。結局、プロレスに対する疑問をさかのぼると、どれも力道山に突き当たりますから。僕らがミーティングしてると、「そもそもタッグマッチって2対2の時点で格闘技としておかしいじゃん？」って話も出るんですけど。アメリカでタッグマッチってほぼメインにならないんですよ。で、「なんで日本はタッグがメインなんだ？」って調べると、じつは日本プロレスが旗揚げする4年前に、アメリカで初めて世界タッグ王座ができてたりして。

大槻　流智美さんか!?

坂井　その王者として、シャープ兄弟が来日してるんですが、それも"NWAサンフランシスコ州認定の世界王者"っていう釈然としない肩書きで。じつはタッグマッチ自体が、そのサンフランシスコ州のプロモーターがエキシビションマッチとして考案した試合形式らしいんです。たぶん兄弟vs兄弟みたいな試合をやるために考案された、しょっきり相撲的なものだったハズなんです。そこに力道山が目をつけた。要は力道山って……（以下、力道山論が延々続くも誌面の都合でカット）。

大槻　はぁ〜。『マッスル』をやってたら、力道山に突き当たるってのは『ムー』だね。ホントに坂井くんはいろいろ考えてるなって思うけど、心配にもなるんだ。『八百長★野郎』でも言ったけど、いまの『マッスル』がやってるのは、現実と虚構の狭間、常識と非常識の世界にラインを引くことじゃないですか。これは作り手として大変な作業でしょ？　壊れちゃうギャグマンガ家、鴨川つばめさん（『マカロニほうれん荘』などの作者）みたいにならないといいなって。

坂井　ああ、桂枝雀さん（二代目、重度のうつ病で自殺）とか。

大槻　なんとか江口寿史（マンガ家、『ストップ!! ひばりくん！』などの作者）くらいで、とどまってほしいなって。連載がラフスケッチみたいになって、休載が増え、「白いワニが見える」ぐらいならいいけど。黒澤明の映画『隠し砦の三悪人』みたいに脚本を合議制にして考えていくってのはどう？

坂井　みんなに話を聞いてもらいながらやってはいますけど……。

大槻　でも基本は一人でしょ？　もっとブレーンを増やしたりしたらいいのに。大変でしょ？

坂井　そうでもないです（小さな声で）。でも最近、僕の中でホントに緊張感がなくなってきてて、3日前まで手をつけないようにしたり。リハの日に自分がいないとか。そうしないと自分を追い込めないというか。

——大槻さんは、どうしてるんですか？

坂井　そうですよ！　絶対、合議制でやらないと思いますよ！

大槻　最近はね、何もやらない方向に行ってるの（笑）。現場では譜面も読めないし、楽器も弾けないし。昔はアレコレ言ってたけど、いまは歳も取って周りのミュージシャンがみんなうまい人なんで、もう「まとめだけやる」ってスタンスですね。

描こうとしたら、意外と空気を呼んで噛
ーテインメントな領域で、笑いもある大
坂井　似てると思いますし、逆にアメリ
大槻　はぁ～。『マッスル』をやってた
「まとめだけやる」ってスタンスですね。



坂井くんが壊れないか心配だよ。合議制にしたらいいんじゃない？

みんなに「自由にやってください」と言ったら「ヤダ」と言われまして

行こうぜ！“文系プロレス”の向こう側!!

坂井　それ、理想ですよ！

大槻　完全に御輿に担がれて。たぶん俺がやってこれたのは、ボーカリストってアレコレ言う人が多いんです。「キーボード、俺の宇宙を包んでくれ！」とか（笑）。でも、ミュージシャンってそういう人にへきえきしてると思うの。そんな中、俺は何も言わないし、大槻というトリックスターがいて、その周りで好きな音楽ができる、と。あとは大槻がへんな歌詞とへんなキャラでへんな歌にしてくれる、と。自由にやらせて、何も言わないんですよ。安生（洋二）、宮戸（優光）あっての髙田（延彦）みたいな。

坂井　……僕はですね、「今回は自由にやってくれ」って言ったら、「ヤダ」って言われたんです。腕のいい職人を集めて「好きにやってください」って言ったら、黙っちゃって。作り込んだ感じから突然、方向性を変えたのがよくなかったのかもしれない。ただ、いままでの台本重視の饒舌な『マッスル』では、このタイミングでは受け入れられないと思ったというか。「よく考えてるね」で終わっちゃうと思ったんで。

大槻　ハードルを下げるには、もっとグズグズな大会でもいいかもしれない。あと、毎回出てくる大物レスラーも難しいよね。今回の大仁田さんはアレルギーがある人もいたけど、無反応の人もいたと思うの。誰が出ても驚かなくなってきてる。たとえばね、最終兵器で前田日明が出てきたら、そりゃ凄いよ！　でも一般的には「あの怖そうでデカイ人、誰？」ってなるでしょ。『マッスル』は今後、そういう恐ろしさとも闘わなくちゃいけないわけで。……あ、『マッスル』に小川直也が出てきたら、どういう反応なんだろうね？

坂井　小川さんは超考えたんですよ！

大槻　岡村靖幸の歌で『あの娘、僕がロングシュート決めたらどんな顔するだろう』って歌があるけど。『マッスルに小川直也が出てきたら、ファンはどんな顔するだろう』って。

——ワハハハハ！

大槻　みんな困る！　小川直也が飛行機ポーズで出てきたら。それ観てぇ！

坂井　ただ、いま僕の中の小川さんって、ムチャクチャ格好いい存在なんです。いま小川道場で本気でちびっこ柔道家たちを育ててるんです。小学校6年の長男と小学校4年の次男を中心にして女の子も入って、『がんばれ！　ベアーズ』みたいな感じで。道場の旗揚げ3年目で、ついに団体戦で神奈川県予選を突破し、初の全国大会になったんだけど、僅差で一回戦負けしちゃってね。

大槻　それって何情報？

坂井　6時台のニュースでたまたま観たんです。で、負けた子どもたちがワンワン泣いてるのを観て、「頑張ったじゃねぇか！」って小川さんがもらい泣きしてて。最後は、みんなでエスティマみたいなワンボックスカーに乗って去っていくんですが、『kamipro』には「ここを伝えなくてどうするんだ！」と言いたい！

——了解です（笑）。最後に大槻さんから今後の『マッスル』にアドバイスを！

大槻　とにかく虫はダメ！　というのと。あとは……、僕もアイデアを考えさせてください！

坂井　やった～!!

大槻　メルアドを教えてください。汁ネタを考えますよ。昔、元FMWの練習生で芸人の鉄拳に「ネタください」って言われて使ってくれてたの。「大橋巨泉のメガネがクラゲだった！」とか、その程度ですが（笑）。

坂井　いっそ、汁レスラーとして出ましょうよ！　体型的にも汁っぽいし、大槻さんならグッズ作ってグッズ収入増やしたりチケットの手売りも強そうだし。もしかして『マッスル』の武道館への道は意外と大槻さんが握ってるかもしれない。

大槻　じゃあ、新日本もFMWもやって失敗したロックとのコラボでもやりますか？

坂井　そこは666の専売特許だから、マズイかもしれない……。それより汁レスラーとして出てほしいですね。台本も書きますよ！　『ニクチョコレートパイン』とか『リンダリンダリングシューズ』みたいな感じで。

大槻　ちょっと、俺をプロレスに触らせないでくださいよ！

坂井　『グミチョコレートパイン』より、おいしそうに食べられますよ。肉とチョコレートとパインなら（笑）。

大槻　普通にプロレスと音楽の合体でさ。ロックファンはプロレスは喜ぶけど、プロレスファンはロックはうるさいからイヤで、盛り下がって終わるしょっぱい興行やりましょう。『炎のバトル2』として（笑）。

——どこまでも夢は広がりますね。今回はありがとうございました！

【08年1月8日／都内・某会議室で収録】

ウワサの『八百長★野郎』をWサイン入りでプレゼント！



対談のきっかけとなった『マッスル』の解読書、『八百長★野郎』（小社刊）を貴重な二人のサイン入りで1名様にプレゼント！　詳しくは、143ページのプレゼント応募要項を参照ッ!!

来たれ、新世紀プロレスリング!
08年の日本マット界を総点検!

東スポ永久保存版

プロレス年鑑'08

絶賛
発売中!!





08年に生まれた数々の
プロレス名勝負から厳選!

「激闘10選」

鍛えられた肉体のぶつかりあい、磨き上げられた技の応酬、そして燃え上がる魂の交錯——ファンの心をつかんだ激闘を東スポがセレクト!! プロレスって素晴らしい!!



格闘技ファン必読!!
石井の素顔に迫る!

「石井慧の真実」

08年格闘技界で最大の話題となった、北京五輪柔道100キロ超級金メダリストの石井の総合格闘技転向。UFC挑戦を表明した「真・破壊王」の実像を東スポ記者が密着取材ノートで明かす!!

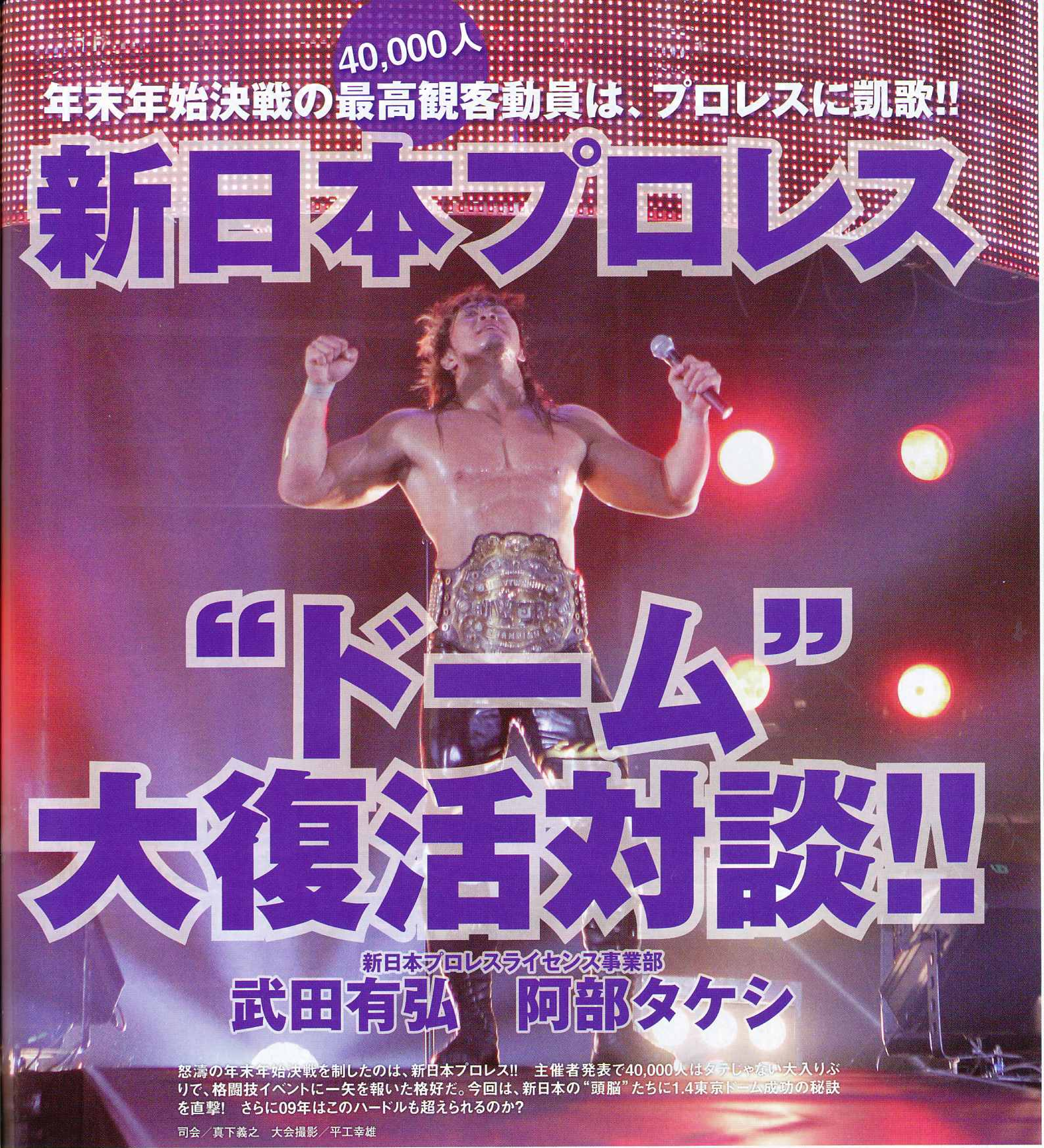
その他にもトップレスラーの思い出のデビュー戦を一挙公開する、特集「オレのデビュー戦」や、08年のマット界の流れが一目でわかる「2008年マット界プレーバック」など、プロレスLOVEあふれる企画が満載!

40,000人

年末年始決戦の最高観客動員は、プロレスに凱歌!!

新日本プロレス

“ドーム”大復活対談!!



新日本プロレスライセンス事業部

武田有弘　阿部タケシ

怒濤の年末年始決戦を制したのは、新日本プロレス!!　主催者発表で40,000人はダテじゃない大入りぶりで、格闘技イベントに一矢を報いた格好だ。今回は、新日本の“頭脳”たちに1.4東京ドーム成功の秘訣を直撃!　さらに09年はこのハードルも超えられるのか?

司会／真下義之　大会撮影／平工幸雄

——阿部さん、武田さん、1・4東京ドームの大成功おめでとうございます！……あら、お二人ともお疲れ気味ですね？

武田　そりゃそうですよ！　昨日大会が終わったばかりですから。それに昨日は、ドームの打ち上げ会場の後片付けが大変で大変で。それで完全に燃えつきました（笑）。

——そんなところで燃えつきましたか（笑）。

阿部　この取材が終わったら、我々もようやく正月休みですから、ドンドンいきましょう！

——まず、1・4東京ドーム大会を振り返ってもらいたいんですが、とにかく凄い客入りでしたね？

武田　確かに1階席とアリーナは埋まりましたけど、まだまだじゃないですか？　ジャンボスタンドは開放しましたけど5分の1程度しか入ってなかったですし。

——まだ、こんなもんじゃない、と。

阿部　満足はしてないですよ。ただ、40000人（主催者発表）のお客さんが来てくれたのは自信にはなりましたし、イベントや告知も含めてプロモーションはいまの戦力では、やるだけのことはやりましたから。

——その甲斐あってか、アリーナ席の入り具合はハンパなかったですね。あんなギチギチのドームのアリーナって初めて見た気がしますし。

武田　アリーナの席はホントに限界まで並べたんですよ。一階のスタンドもパンパンに入ってましたしね。

——年末年始イベントでは最高の観客動員であり、ここ数年のマット界のイベントでも最高じゃないですか

『kamipro』に言われたから、ジャンボスタンドを開放しました（武田）

ね？

阿部　ただ、僕は会場では試合はあまり観れてないんです。演出関係の指示で手一杯で。セミくらいからアリーナで観てたんですけど、お客さんのノリはかなりよかったですね。

――ええ。事前に「招待券はほとんど出さない」とは聞いてましたけど、あのリングサイドの異様な盛り上がりを見るだけで、「実券で来てる人なんだな！」と伝わりましたし。

阿部　あとは限定区域とはいえジャンボスタンドも開けましたけど、あれは開けたことに意義があったというか。

――本誌では、そのジャンボスタンド開放に執拗にこだわってきたんですけど、じつは昨年末に阿部さんから「開放が決まりました！」っていう興奮した電話がかかってきまして。

阿部　そうでしたね。じつは前売りの伸び具合を見てて、年末の時点で「開放できそうだ」ということがわかったから、その瞬間は「大々的にアナウンスしましょう！」ってテンションだったんです。ただ、菅林（直樹）社長は慎重居士というか「石橋を叩いて渡る」タイプなんで、今回は見送らせてもらいました。

――結局は当日発表というかたちで限定区域ながら、開放が決まったんですよね。

阿部　でも、僕の知人からも「あのジャンボスタンドが少しでも入ったことで、未来を感じた」と言われましたし、あそこに人がいるといないじゃあ全然違ったでしょうね。

――これだけ年末年始イベントが乱立する中で、観た人に「試合内容がよかった」と言われても絶対に伝わらないと思うんで、「勝つなら、観客動員しかない」と思ってたんです。

武田　ぶっちゃけ、いろんな場面で『kamipro』さんから何度も言われたんで、それでジャンボスタンドを開放したってのはありますよ！



休憩中の写真ではあるが、それでも大入りぶりが確認できる40,000人（主催者発表）の全景写真。06年は28,000人、07年は27,000人と着実に動員を落としていただけに、この見事な再浮上ぶりは賞讃に値する。

阿部　そうそう。あれは『kamipro』が開放したんですよ！

――そ、そうなんですか⁉　恐縮です……。

武田　「ジャンボスタンドを開放して、圧倒的観客数を見せるのが真の勝利ですよ」と言われたから、「ああ、なるほどな」と。僕はけっこう人の言うことは聞くんですよ（笑）。

――ただ、逆に言うと、これで「またハードルを上げてしまったな」という気持ちはないですか？

武田　どうでしょうね。これでガッツガッツしたら格好悪いですし、個人的には「もう来年はドームはやらなくていいんじゃないか」と思ったりもしますよ。それぐらいドームってホントに難しい会場ですから。

――僕は途中までジャンボスタンドで観てたんですが、ドームのてっぺんから観ていて、あらためて、「こんなに熱を届けるのが難しい会場はないな」って痛感しましたね。

武田　ホント、ドームだけは〝怪物〟なんですよ。普通のアイデアでは簡単に飲み込まれてしまいますから！

阿部　演出で煽ろうとして、「花火をバンバン打ち上げたい」と思っても、会場の制限も厳しいから、あらゆる意味で難しい会場ですね。

――逆に「いま新日本のコンテンツがおもしろい」ということを届けるには、不向きな会場かもしれない。

阿部　おそらくリングサイドとジャンボスタンドで観た人は、全然感想が違うと思いますし、そこで試合の「いい、悪い」を判断をされるのは、選手も厳しいでしょうね。

武田　ただね、周囲の人に「いつかはノアや全日本に頼らずに新日本だけでドームが埋まるようにやりたいでしょ？」とか「他団体の力を借りてまで大変だね？」とか言われるじゃないですか。でも、自分はそう思わないんです。いまの東京ドーム大会は「新日本だけでやるべきものじゃないんじゃないか？」って。

――プロレス界全体の問題というか。

武田　いろんな団体の華やかな選手や、普段の新日本じゃ観れない選手を観れる〝特別編〟だからこそやる価値があるなって。身内だけでお金を稼ぐなら、ドームにこだわる必要はまったくないんですから。

――そんな武田さんは今回、「観客動員では負けたくない」とほかのイベントを強烈に意識されてましたね。

武田　そういう意味では、一つの結果は出せましたよね。イベントとしても、ここ最近ではないくらいの手応えはありましたから。

――ただ、あの会場を観て。失礼な話「まだ、こんなにプロレスファンっているんだな」と思いまして。

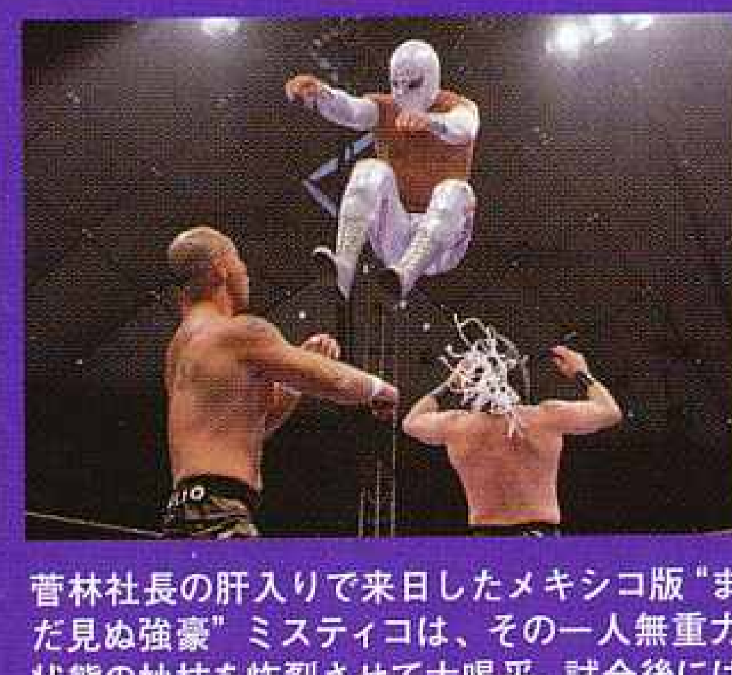
武田　そりゃ、そうですよ！　今回はプロレスファンのみを意識してやりましたもん。

――プロレスファンのみでしたか。あとは、へんな話「キチンと真面目にやってれば、まだプロレスって入るんだな」と痛感したり。

阿部　ああ、そういうことを言ってた人はほかにもいましたね。「真面目にプロレスを表現してれば、お客さんはついて来るんだな」と。

――ただ、いまはアニメでもゲームでもあらゆるジャンルが細分化し、その中のファンだけに向けた閉塞した感じになってるじゃないですか。

これぞプロレス総力戦!!
1.4東京ドーム ダイジェスト



菅林社長の肝入りで来日したメキシコ版“まだ見ぬ強豪”ミスティコは、その一人無重力状態の妙技を炸裂させて大喝采。試合後には超タイガーマスクマニアだったことも発覚！



見てみぃ、このタマらない3ショット！（もう一人の長州力はリングイン済み）。日米レジェンドが結集したこの試合、とくにケビン・ナッシュの存在感は突出していた。



1.4のMVPはズバリ、ノアの杉浦貴！　一番会場を沸かせたと言っても過言ではない脅威の運動量でリード。三沢さんはほぼエルボー一本やりで、中邑真輔らとの格の違いを表現。



勝利の「愛してま～す！」がドームに鳴り響いたメイン。30分超えの長丁場を、武藤の職人芸を受けきった上で逆襲に転じた棚橋。今後の防衛ロードでは“質”が問われる。



08年は、飯塚との友情タッグ分裂から、天コジタッグの再結成まで、怒濤の天山劇場でフル回転！　素の天山に近い物語は、最もプロレス的なスリリングさに満ちていた。

僕らも天山と飯塚の抗争劇は、はてしなく続けてほしいです（阿部）

そんな中、プロレスに興味を持ちそうな人を振り向かせる必要もあると思うんですよ。

武田　そういう話ってよく言われるんですが、たいていは「一般の人ももっと入れなきゃ」「もっと宣伝しなきゃ」「新聞に載せてもらわなきゃ」とか、あやふやな一般論で言われることがほとんどなんです。おっしゃってるのは、格闘技ファンや、昔プロレスを観てた人とかですよね？

——まずは、そこからでしょうね。

阿部　潜在的にプロレスを好きそうな人に向けて球を投げていくってのは、もちろん考えなきゃいけないけど、具体的には難しい作業ですよね。

武田　テレビの視聴率の話だと凄くピンときますけどね。「テレビ番組として一般の人が楽しめるような試合を組め」って言われたらわかりますけど。テレビじゃなく興行論としては、それを言われると具体的な方策としては、わからなくなるんですよ。

——テレビ向けのプロレスっていう意味では『ハッスル』は、泰葉さんを連れてきましたけども。

武田　泰葉さんの試合の瞬間視聴率はよかったんですよね。ただそれが世間にプロレスを届ける窓口になったかどうかは難しいところですよね。

——編集部の結論として、大晦日に一番プロレスっぽかったのは『ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!!』の『山崎vsモリマン』の中で菅プロデューサーが菅総統になってパロディをやった『スガッスル』なんじゃないかって。

武田　『スガッスル』⁉　……それってウチの菅林でもできますね（笑）。

——ワハハハハ！　菅林社長の菅林総統は観たいなぁ！　ただ、プロレスのバラエティ化が『ハッスル』だとしたら、バラエティ番組が『ハッスル』をやったかたちで。凄かったのがココリコの遠藤（章造）の試合の途中で乱入してきたのが元奥さんの千秋だったんですよ。

阿部　へぇ〜〜〜（と感心して）。

武田　それはおもしろい！

——ただのプロレスごっこかと思ったら、プロレスの〝肝〟みたいな部分も表現して、ある部分で『ハッスル』を食ったというか。

武田　今回の『ハッスル』が厳しかったのは興行的な部分とテレビ的なバランスでしょうね。我々も今回は当日に地上波中継がありましたけど、それを両立させるのってもの凄く難しいんですよ。

——『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』も、キン肉万太郎みたいな視聴率を稼げるカードと青木真也vsエディ・アルバレスみたいなお客さんを呼べるカードは違いますからね。

阿部　いまの話を聞くと、『ガキの使い』は確かに凄いなと思うけど、彼らはあくまでもバラエティ番組だし、予算もあるから、ある程度割り切ってなんでもできますよね。

——興行のことは考えずに、あくまで番組に特化できますから。

阿部　それに身内のお笑いタレントにそういうことを仕掛けても、「笑いに昇華できる」という計算が働きますから。そこをプロレスラーに置き換えるというのは、なかなか難しいかもしれない。考えていかなきゃいけない部分だとは思いますけど。

——そういう意味で、今回のドームは残念ながら、網膜剥離で緊急欠場してしまいましたけど、昨年の新日本での天山さんのイジリ具合は、素に近いものがあったような気はするんですよ。

武田　『ｋａｍｉｐｒｏ』は天山が好きだなぁ！　でも、確かにあの抗争劇はお客さんに響きましたね。

——だから、09年は復活に合わせてもう一丁、ダイナミックな天山劇場を観たいですけどね。

阿部　天山にとってもドームは1年の総決算だったから、欠場は残念で仕方がないですよ。ただ、復活までは2、3カ月から半年はかかるんじゃないですかね。僕らとしても飯塚（高史）さんとの抗争劇ははてしなく続けてほしいですけど。

——千秋じゃないですけど、天山の〝元奥さん〟の小島聡が救出に来たところはシビれましたし、あれは最もプロレス的な仕掛けだったなって。

阿部　確かに〝元奥さん〟だ（笑）。08年はホントに見事な復縁ぶりでしたから。ああいうドラマを丁寧に紡ぐことは大事かもしれない。

——あれこそ格闘技ではできないプロレスの強みですし。逆にドームに物足りない部分があったとしたら、ああいうドンデン返し的なドラマがなかったことですね。

武田　ああいうのは昔なら10年に1回くらいで。普通のプロレス団体でいえば、「起こらない」ことなんですけど、そういうドラマが生まれる環境と場は作っていきたいですね。

——08年は武藤さんのＩＷＧＰ劇場もダイナミックに展開されましたが、09年は棚橋弘至と中邑真輔の二人でどのように物語を構築していくのかは非常に問われますね。

武田　武藤さんには1年間お世話になりましたから。昨日の試合後のコメントもバツグンでしたよ。箱根駅伝の翌日に「俺、区間賞だよ。タスキを次に渡したんだから」と（笑）。

——言葉のセンスがズバ抜けてますよね。「棚橋は俺の技をパクるけど、俺は絶対パクらない」とか。

武田　ああいう存在が、いまのところ新日本プロレスには足らないですよね。やっぱり武藤さんって全プロレスラーの中で一番スケール感がある人だと思うんです。で、新日本も一番大事にしないといけないのは、そのスケール感ですよね。いまはこんなご時世ですから、スケール感がないものはスポンサーもつかなければ、お客さんも観たくないでしょうし。だから、今年の主軸になるであろう棚橋と中邑にそれが「ない」と思わせたらダメですね。今年はいかに武藤さん抜きでスケール感を出すのかがキーワードだし、貧乏臭いものは絶対に悪ですから。

——すでに今後の流れも発動してると思うんですけど。

阿部　2月の両国では棚橋vs中邑のＩＷＧＰ戦をさっそく組みましたし、ミスティコも再来日しますし、カート・アングルvsジャイアント・バーナードもありますから。

武田　じつはドームのカード発表をした時点では、けっこういろいろ言われましたからね。

阿部　「なぜミスティコが6人タッグなんだ！」とか。そういう部分はドンドン両国大会のカードに活かして行きますから。

——ホントは90年代の新日本ドーム大会常連だったスティングを呼ぶプランもあったとか？

阿部　スティングはこのところヒザの具合が悪くて、長時間のフライトが無理だ、と。でも本人は完治したらぜひ新日本でやりたいと言ってくれてますし、「メインイベント・マフィア（スティング、ケビン・ナッシュ、カート・アングル、スコット・スタイナー、ブッカーT）を呼んでレジェン



「レスラーの中のレスラー」として、08年はIWGP王座のメインストーリーを牽引した武藤。1.4の棚橋戦では、ほぼ低空ドロップキックとドラゴンスクリューだけで試合を構築する名人芸を披露！

ドと闘わせる」ってアイデアもありましたから。そういう部分も今後は実現できたらいいですね。予算との兼ね合い次第ですけど（笑）。

――今年は、いままでにない大きな仕掛けもありそうですか？　『レッスルマニア』級の第3のビッグイベント」っていうプランのウワサもありましたけど。

武田　これは、そのチームがユークスの中にあって動いてたんですけど……。そのあと動きがパッタリ途絶えちゃってまして、基本的にはペンディング状態ですね。ただ、いろんなプランはありますし。言える範囲で言うと、今年はひさびさに福岡国際センターで大会をやるんですが、東京のビッグマッチと同じようなことを実験的にあえて福岡でやってみようかなって。

武藤さん抜きでいかにスケール感を出せるかが、今年のキーワード（武田）

――両国の熱を地方にも波及させる、と。

武田　とにかく09年は新日本はもちろん、プロレス界全体にお客さんが戻るようにしたいですね。

――事前には谷川（貞治FEG代表）さんの「昔、プロレスというのがあってね」という不用意発言で燃えまくった新日本ですけども。

武田　でも、谷川さんは『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』で凄くいいこと言ってましたね。「我々のスタッフは、格闘技のイベントを世界で一番うまく作れるスタッフだ」って。

――「UFCより、我々のほうが自力は絶対にあると思います」とか。

武田　あれは素晴らしいと思いましたよ。だって、関わってるスタッフが誇りに思えるじゃないですか。

阿部　なかなか興行会社のスタッフって報われないですからね（笑）。会社のトップからああいうこと言われたら、「また頑張ろう！」って気持ちになれますから。「谷川さんはうまいな」と。

――そこも"黒魔術"かもしれないですけど（笑）。

武田　だってね、ウチの映像スタッフなんて年末年始、自分の机の下にダンボール敷いて寝てましたから（笑）。

阿部　それは、僕が煽り映像をダメ出ししたからですけど（笑）。

武田　我々も「プロレスイベントは新日本プロレスが一番うまく作れる」というふうになっていきたいですね。

阿部　まぁ、僕らに与えられた仕事っていうのは、決まったカードにどう興味を引かせるか、会場に来たお客さんをどう感情移入させるかが仕事だと思うんです。もの凄くあたりまえのことなんですけどね。今年のドームも長州（力）さんも参加させた地下駐車場のプロモ映像を入れたり、やろうと思ってたことはだいたいできましたし。

――もっともっと、そういう部分が主軸になってきてもいいんじゃないかな、とも思いますけどね。

阿部　「まだ踏み込めるかな」って手応えもありますんで。期待してほしいですね。新しいことは常にやろうと思ってますし、リングは選手に任せて、僕らはそれにまつわるソフトをキッチリ作っていけたらいいな、と。

武田　偉いなぁ～。阿部さんは。仕事が好きだし、向上心がある！　僕にできることはもうこれが限界。新日本の未来は阿部さんを始め、新日本の若いスタッフが担っていかないと絶対にダメです。今年は若いスタッフがさらに元気のある新日本を作ってくれると思います！

阿部　でも、4月のビッグマッチの時期はＷＷＥの『レッスルマニア25』を観に行って、いろいろ勉強しにいこうと思うんで当日は立ち会えないんですよ（笑）。

武田　マジで？　ちょっと演出どうすんのよ!?

――え～。仲間割れしない程度に09年も頑張ってください！


【09年1月5日／新日本プロレス事務所にて収録】



あべ・たけし■1972年7月16日、東京都出身。99年よりWWE関連書籍に携わるフリーライターとして活動。05年よりユークスの関連会社に所属し、新日本携帯サイト、会場演出や進行などを担当。



たけだ・なりひろ■1971年11月13日、大分県出身。95年に新日本プロレスに入社。02年に武藤敬司らとともに退社、レッグロック立ち上げに携わり、06年に外部ブレーンとして新日本に復帰した。



異物混入 K-1MAXに

話題のコスプレキックボクサー初登場

長島☆自演乙☆雄一郎

コスプレイヤーによるK-1MAX制圧作戦

このコスプレ男が、2月23日に国立代々木競技場第一体育館で開催されるK-1MAXに出場する。
カリスマやストイックな人やヤンキーや現役高校生などさまざまなバックボーンを持つ人が集まるK-1MAXだが、
過去にここまで文化系の匂いをさせた男はいなかった。彼の名は長島☆自演乙☆雄一郎。
インターネット上（とくに2ちゃんねる）などで熱い注目を浴び、
オタクたちがブログに殺到してコメントが27万件もついたこともある。
いよいよメジャーな舞台に進出するオタクファイターをクローズアップしてみたい。

聞き手／坂井ノブ　試合写真／丸山剛史

——初めまして。『kami:pro』という雑誌で立ち技はほとんど扱ってないんですが、長島選手があまりに強烈なんでお話をうかがいに来ました。

自演乙 まぁ、コスプレイヤーがキックしてるんで……。

——コスプレイヤーが先にくるんですね（笑）。ネット上ではコスプレと入場パフォーマンスがムチャクチャ話題になってて、いよいよK−1MAXにも出るということで今後ブレイクするんじゃないかと思うんですが……、DEEP（12・22新宿FACE）でも、『やらないか』（久住小春『バラライカ』のゲイ風味の替え歌。YouTubeやニコニコ動画などで各自調査）で盛り上がってましたね。

自演乙 前回の試合が終わった直後に決めてましたね。100パーセント盛り上がる自信があったから。

——鉄板ネタですか。

自演乙 自分の両サイドで踊ってくれたのはプロのダンサーなんです。

——そうなんですか。打ち合わせとかリハーサルとかは？

自演乙 いや、ほとんどぶっつけ本番ですよ。東京の方なんで。「覚えといてください」って振りだけ指示して。最終的に会場の席の並べ方を見て、アピールの仕方とポジションを決めて。

——最近の入場ではシュートボクシングの風香と並ぶ完成度だと思いました。

自演乙 風香選手はそんな完成度高かったんですか？ 僕の場合は入場を観に来てくれてる人がいるんですよね。

——コスプレで入場して手応えがあったのは、いつ頃からですか？

自演乙 かなり食いつきはよかったと思います、最初から。メディア露出の部分では、初音ミクのコスプレしてからですね。

「コスプレイヤーが格闘技をやってるだけ」という自演乙劇場



2008.12.22 DEEP
『バラライカ』の替え歌『やらないか』でダンサーとともに入場。阿部さんのお面を被った自演乙応援団が多数出現。タイ人のサクシー・ケイリバーを相手に2R 39秒 TKO勝ち。



2008.11.9 NJKF
ボーカロイド・ソフト初音ミクのコスプレでネギを持って登場した自演乙（なぜネギなのかは各自調査）。この大会でNJKFのベルトを奪取した。



2008.6.8 NJKF
アニメ『涼宮ハルヒの憂鬱』の主人公・涼宮ハルヒのコスプレで登場。セーラー服から割れた腹筋と太い足という強烈きわまりないビジュアルでダンス！

YUICHIRO☆JIENOTSU☆NAGASHIMA

女装って言葉は使わんといてほしい!! 好きなキャラのコスプレで入るのが命

——今回は女の子のコスプレじゃなかったので、それはちょっと意外な印象を受けたんですよ。

自演乙 これ、女装って言葉は使わんといてほしいんですけど、女の子のコスプレをしたら、とりあえずイロモノ扱いで沸いてくれますよね。で、わかる人はアニメのキャラの名前を言いながら応援してくれて。自分の好きなキャラクターのコスプレで入るのが命なんです。

——女の子にこだわってるわけではないぞ、と。

自演乙 はい、だから女装とは言ってほしくないんです。僕を応援してくれるのは完全ヲタばかりじゃなくて、ライトな方もいます。女性の方もいるんで。ホンマにいろんな世代からウケてますね。

——確かにいままでキックボクシングとか格闘技の会場に来てなかった人を呼んでますよね。

自演乙 その手応えは100パーセントありますね。よく言われるんですよ、「格闘技には興味ないんです。でも、コスプレイヤーが頑張る姿を観に来ました」って。同じ趣味を持つ男が頑張ってるから応援しようかという感じですね。いままでにいない層を取り込みたいです。自分がきっかけで格闘技に興味持ってくれたら嬉しいです。

——ブログの祭りも凄かったですね。

自演乙 一つのエントリーで70万のアクセスで、コメントが27万件。みんなが応援してくれて。

——祭りってだいたいネガティブな原因で発生する場合が多いですよね。

自演乙 とくに意味があるっていうわけじゃないんですけど、とりあえず（芸能人ブログでアクセス数第1位を独走中の）上地（雄輔）超えっていう感じで。この入場をやったりしてたら嬉しいです。あんな神輿やったすよ。そう思ってたのにあの受け入れられ中で、絶対にアンチがくると思ってたんでようは「……えっ？」て。そこは予想外の嬉しさですね。

——そういう部分とか話題性を期待して、谷川さんもK−1MAXに抜擢したんだと思うんですが、長島さんから見ていまのK−1MAXのレベルってどうですか？

自演乙 レベル高いと思いますね。僕が格闘技を知るきっかけになったのもK−1やし。それは夢の舞台で、凄いんやって思ってましたけど、いまは自分が勝負する場所やと思ってます。技術的にもトップレベルの一流選手ばかりで、その中で自分がどこまで通用するのかっていうのは、一格闘技者としては興味がありますね。

——ちなみにキャリアってそんなに長くないですよね？

自演乙 僕、キックデビューしてまだ1年半ですよ。

——1年半！ ……それでK−1のリングに上がっちゃうのは、凄いですね。

自演乙 はい。しかもデビュー直後に出たのがMARSのトーナメントとかだったんで、実際のところキックは6戦ぐらいしかしてないんじゃないですかね。

——それで日本チャンピオンって、凄いですね（笑）。

自演乙 そうですね、ありえへんでしょ？





秋葉原のメイドカフェ『Maid Station Café（メイドステーション・カフェ）』（東京都千代田区外神田3-10-12 日加石油ビル4F TEL.03-3253-0033）で取材を行なったのだが、メイドさんからサインを求められる自演乙。やはりオタクの聖地での知名度は絶大だ！

入場でコスプレすることによって立派なオタクになっていくんです！

6戦やって、5試合が1ラウンドKOで、あと判定勝ちなんですけど。

――そういう意味では向いてるというか、才能はもの凄くあったんですね。DEEPに出る会見のとき、長島さんが「ヤンキーは大嫌いです」みたいなこと言ってたじゃないですか。

自演乙　はい、嫌いですね。高圧的な人は基本的に嫌いです。

――なんかあったんですか？

自演乙　まあまあ、言うたら中学生ぐらいからイジメられてた……そんな本格的なイジメじゃないんですけど、ライトなイジメですかね、そういうのがあったりしたんで。トラウマというか……。中学校では柔道やってたんですけど、ガチガチに練習やってたわけじゃなくて、登校拒否児だったんで、在籍してただけでした。そうすると「なんでおまえ、学校来ないんや」ってツッコまれるでしょ、それでまた嫌になるんです。

――オタクであることで差別的に扱われたり、ひどい目に遭ったりはしませんでしたか？

自演乙　高校のときには「キンモーッ！」とか言われましたけどね。ゲームに関しても、萌え系の女の子が出てくるゲームは差別的な目で見られてました。とりあえず「キモい」という一言で終わらせられますね。

※メイドさんが飲み物を持ってくる。

メイドさん　あ、自演乙さんですよね！初音ミクになってる……。

自演乙　ああ、そうそう。

メイドさん　知ってます！　ビックリした～。でも顔見てわからなかった。普通の方ですね。

自演乙　そうやろ？

メイドさん　試合よりも入場に力を入れてるんですよね。

――やっぱ秋葉原では凄い知名度ですね。

メイドさん　私、オタクですから。踊ってるんですよね？

自演乙　歓迎されてるわ、俺！　さすがオタクの聖地ですね（笑）。

――リアルな反響ですねえ。K－1MAXに出たらどうなるか想像してます？

自演乙　どうなるんでしょうね？　想像できないですね。ぶっちゃけキックの日本チャンピオンになって、ここまでの反響ある人っていないでしょ？

――確実にいないです（笑）。

自演乙　K－1出て地上波で全国ネットで流れたら……、想像つかないですね。自分が思ってたのは、冷静に見ててこういうキャラクターは絶対アンチが多いやろうなって。もしかしたらテレビに出てアンチが増えるかもしれないし。

――秋葉原には本物のオタクだってことは伝わってると思うんです。

自演乙　まだまだユルヲタですけどね。僕

のコンセプトとして、格闘技のチャンピオ

――いや、どういうサイクルで生活してる

――いいじゃないですか、声もいいし。

にふさわしいコスプレを考えないと。

K—1に出て地上波で全国ネットで流れたら……、想像つかないですね

のコンセプトとして、格闘技のチャンピオンはオマケなんですよ。入場のコスプレをすることによって立派なオタクになっていくっていうストーリーがあるんですね。

——オタク成長物語（笑）。

自演乙　そうです。大きな舞台でやるからこそ、コスプレのための下調べもいっぱいしないといけないし、完成度も上げていかないといけない。ということは必然的にオタクとしてのレベルも上がるでしょ。

——下調べから入るんですか。ただコスプレをやればいいってもんじゃないんですか？

自演乙　もちろん。一応どういう舞台背景があるのかも大事で。原作とかも見ないといけないですし。

——ツッコまれないためにも。

自演乙　穴はなるべく作りたくないんですよね。普段から知ってる作品ばっかりをやってますけど、あえてやるとなったらもう一回下調べをして、ある程度のことは把握しておかないと。「自重しろ」とか言われたくないんでね。

——そういう努力も必要なんだ……。

自演乙　まあ、好きなことなんで。

——格闘技の練習時間とアニメを観てる時間ってどっちが多いですか？

自演乙　どう考えたってアニメでしょう。練習時間そんなに取ったら死ぬじゃないですか（笑）。

——いや、どういうサイクルで生活してるか知らないですけど（笑）。ゆくゆくはこういうことをやりたいなっていう夢とか将来的な希望とかありますか？

自演乙　前から言ってるんですけど、とりあえず格闘技については、K—1でコスプレ応援シートが目標ですね。

——それはかなり現実に近いところまで来たじゃないですか。

自演乙　そうですね、いまプチ応援シートでコスプレができてるんで。もうちょっとお客さんを呼べるような人間になりたいですけど。で、やっぱり声優さんとかになりたいですね。僕の夢は声優なんです。たむらけんじさんが『プリキュア』出たように。僕は単発で終わりたくはない。僕は本人じゃなくて、普通にセリフを言いたい。



YUICHIRO☆JIENOTSU☆NAGASHIMA

ながしま☆じえんおつ☆ゆういちろう■1984年7月2日、兵庫県出身。キックボクシング戦績10戦10勝（7KO）のNJKFスーパーウェルター級王者。コスプレキックボクサーとしてさまざまなメディアで活躍中。この取材後には声優としてもアニメ『地獄少女 三鼎』に出演が決定。

——いいじゃないですか、声もいいし。

自演乙　いやいやいや、BLですか？

——BLじゃないですけど（笑）。

メイドさん　キャ〜、BLだって〜。

——違うから！（笑）。魔娑斗選手とやりたいとか、そっち方面ではないですか？

自演乙　ずっとやりたいと言ってる選手は我龍（真吾）さんですね。

——べつにご本人となんかイザコザがあったわけじゃないんですよね。

自演乙　ないですよ。ただ、ああいう人間はいけない。我龍さんが嫌いなんじゃなくて、ああいうキャラクターが嫌いっていうことですよね。

——我龍さんはヤンキーキャラですけど、オタクvsヤンキーという対立構造は昔からありますよね。あと、魔娑斗選手ってどう見えます？

自演乙　凄いと思います。やっぱり僕はコスプレをやってアニメを好きな人を格闘技の会場に連れてきたいという夢がありますけど、あの方は格闘技に興味のない三次元の女性を会場に連れてきてて、そういうところは凄いと思いますよ。カリスマ性があるじゃないですか。

——見てて凄いなって思いますか？

自演乙　あります。やっぱり超一流ってことじゃないですかね。世界トップレベルだと思います。10月のMAXも凄かったですよ、感動しましたよ、強いなって。佐藤（嘉洋）選手も強いし、城戸（康裕）選手も凄いし。一気に階段を飛び越えるのは無理かもしれないんで、少しずつ近づきたいですね。いま「挑戦したい！」って言うたところで口だけになっちゃうんで。やっぱり一つずつ階段上がって、一つずつコスプレをしていって、しっかりとしたレイヤーになることができてから挑戦しないと。「中途半端なレイヤーやろ」って言われるだけなんでね。その舞台にふさわしいコスプレを考えないと。

——それをK—1MAXでやるとなるとTBSのアニメに限定されますよね。

自演乙　なるんでしょうね。それは予想はしてるんですけど。

——あ、シミュレーション済みですか。

自演乙　もちろん！　いろいろありますよ、「ここの制作会社やと著作権に厳しいやろうな」とか考えてますからね。

——そんなことまで（笑）。

自演乙　当然じゃないですか。そんなことも考えずに言ってるようじゃ、2ちゃんでボロボロにやられますよ。あと、もう一つ野望があるんですけど、ニコ動に載りたいんですよね。

——試合の映像はアップされてるんじゃないですか？

自演乙　そういうんじゃなくて、時報を読みたいんですよ。

——あそこは格闘技が好きな方が多いですよね。ニコニコ大会議の映像もPRIDEの人たちだったりするんで。

自演乙　書いといてくださいね、「目指すは「声優」と「ニコ動に出たい」って。

【09年12月23日／都内・秋葉原『Maid Station Cafe』にて収録】


サラブレ
特集
SS系分類学
サンデーサイレンス
馬券作戦にも役立つ!
競馬界を席巻する
サンデー系種牡馬の見分け方
2008年取材こぼれ話
ブエナビスタ他3歳馬特集
香港国際レースの舞台裏
主要ニュースからデータまで!
特別付録 小冊子
2008 競馬イヤーブック
2008 競馬イヤーブック KEIBA YEAR BOOK
2 2009 February 月号
特別定価 690円(税込)
絶賛発売中!!
全31レース DVD付き
JRA平地&地方交流全GI・JpnI
金杯から有馬まで!!
全部見せます中央競馬
サラブレ責任編集
エンターブレイン・ムック
2008
定価1500円(税込)
映像&美麗フォトで
2008年の競馬シーンを
これ一冊で全部見せます!
1月30日(金)
発売予定!
●全重賞131レースプレイバック●競馬NEWS2008●ターフを去った優駿たち●リーディング2008●JRA賞、NAR賞詳報
全重賞 131レース プレイバック
競馬NEWS2008
ターフを去った優駿たち
リーディング2008
JRA賞、NAR賞詳報
eb! enterbrain 株式会社 エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 電話 0570-060-555(代表) URL http://www.enterbrain.co.jp

末曾有(みぞうゆう)の読者プレゼント

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2009年2月25日以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦2009年最も注目する選手は?⑧石井慧と対戦してほしい選手は?

【宛先】〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部
「踏襲(ふしゅう)」係まで

※応募締切は2009年2月16日(月)当日消印有効

PRESENT*01

1名様



青木真也&北岡悟Wサイン色紙

DREAMの大黒柱・青木真也と『戦極』ライト級チャンピオン・北岡悟のサインが一枚におさまった貴重な色紙を1名様にプレゼント!

DREAM■http://www.dreamofficial.com/　パンクラス■http://www.pancrase.co.jp/

PRESENT*02

セットで1名様

サイン入り



石井慧のサイン色紙&サイン本

[光文社/1,050円(税込)]

今号で表紙を飾った"暴言柔道王"石井慧。UFC参戦を表明して早ければ今秋にもデビューが期待される未来のスターのサインと単行本!

PRESENT*03

1名様



夢枕獏『愚か者の杖 五大陸釣魚紀行』

[徳間書店/2,940円(税込)]

「良かったねぇ～」でおなじみの夢枕獏先生が雑誌「食楽」に掲載された5大陸6カ国をめぐる釣魚紀行!

夢枕獏公式Blog「酔魚亭」■http://www.yumemakurabaku.com/

PRESENT*04

1名様

サイン入り



杉作J太郎『恋と股間』

[株式会社理論社/1,365円(税込)]

男を語っていただいた杉作先生の単行本。思春期まっただ中の悩める中学生から大人になりきれない30代まで読めば心に染みる珠玉の一冊!

男の墓場プロダクション■http://www.otokonohakaba.com/

PRESENT*05

1名様



DVD『極真会館 キョクシン・ウォリアーズ ファミリースペシャル4』

[株式会社クエスト/7,800円(税込)]

オヤジ狩りに遭うサラリーマンを救う極真一家のドラマ、アクション、爆笑ゲーム、極真家族の裏話、試合など内容は盛りだくさんの映像です。

QUEST■http://www.queststation.com/

PRESENT*06

1名様



DVD『新極真会 ブルガリアの神童 ヴァレリー・ディミトロフ』

[株式会社クエスト/5,880円(税込)]

新極真会カラテ史上最強の外国人とも言われる"ブルガリアの神童"ヴァレリー・ディミトロフが華麗なテクニックを惜しげもなく大公開!

PRESENT*07

1名様



DVD『新極真会 第40回全日本空手道選手権大会』

[株式会社クエスト/5,880円(税込)]

新極真会の全日本王座、そしてワールドカップ出場権を懸けた40回目の全日本選手権大会(08年10月開催)の模様を収録!

PRESENT*08

1名様



DVD『KAPAP 2 セルフ・ディフェンスの最適ポジション』

[株式会社クエスト/5,880円(税込)]

イスラエル軍軍事機密の格闘術に、世界中の格闘技を取り入れ改良された実践護身術カパプを宗家アヴィ・ナルディアが紹介!

QUEST■http://www.queststation.com/

PRESENT*09

1名様



DVD『JWP激闘史 団体対抗戦vs全女編』

[株式会社クエスト/5,880円(税込)]

デビル雅美vsブル中野、尾崎魔弓vs北斗晶、ダイナマイト関西vs井上京子など女子プロレス対抗戦全盛期の名勝負を収録!

PRESENT*10

1名様



DVD『初見良昭 口伝その二十』

[株式会社クエスト/5,040円(税込)]

古の技をいまに伝える現代のニンジャ・マスター初見良昭が武道の奥義を弟子たちに伝える模様を映像化したシリーズの第20巻!

QUEST■http://www.queststation.com/

PRESENT*11

1名様



rvddw ジョン・フィッチTシャツ

[リバーサル/5,040円(税込)]

UFCウェルター級では王者GSPに敗れたものの圧倒的な強さを誇るAKAのジョン・フィッチTシャツがリバーサルより発売! サイズはM。

リバーサル■http://www.rvddw.com/

kamipro131 応募券
ていまい

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

kamipro 紙のプロレス
No.131
2009年2月5日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
スズキィ
八木賢太郎（性別判明のため非番）

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登"読者ページ"ジャクソン
高橋くん

編集次長（エロ+バイオレンス宣言!）
松林 貴

デザイン大将
出田さん（TwoThree）

デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木みのる（以上、TwoThree）

トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
丸山剛史

お勘定
工藤ちゃん

もうすぐ節分
入江まるかぶり（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樽本"用紙特性調査中"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

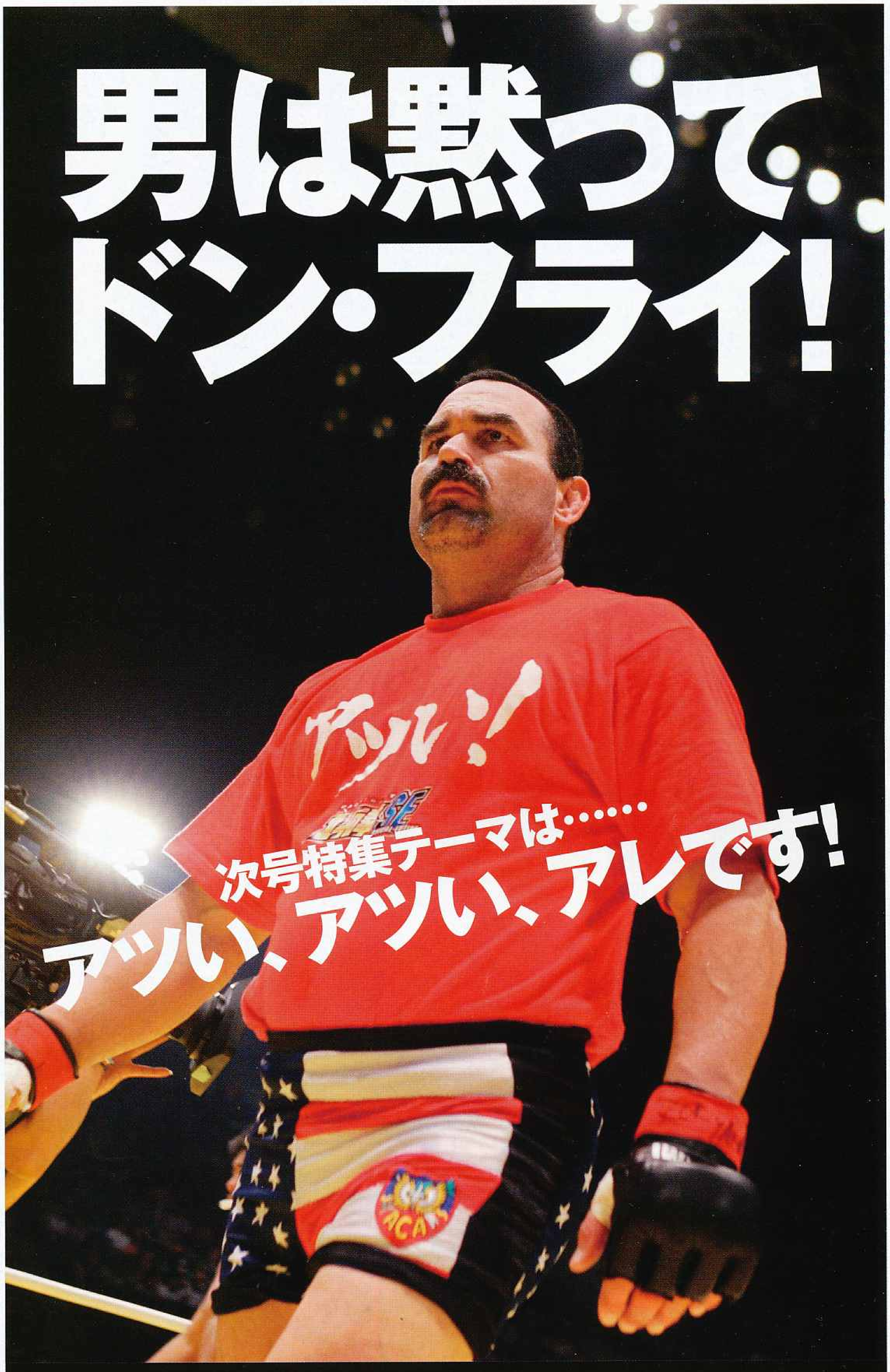
編集チアガール
金川"漫喫泊"奈津子
宮沢美奈

編集チアマダム
廣橋久美子

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport


NEXT ISSUE

沈黙のマット界に波乱の予感!
DREAM、『戦極』最新情報満載!!

No.132は2月21日（土）発売予定!

※地域によっては多少発売日が遅れるっつーの!



ka
No.131
2009年2月5
発行人
浜村弘一
編集人
斉藤慎一
編集統括本部
ジャン斉藤
編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガン
阿修羅チ
松下ミワ
真下義之
大川義之
スズキィ
八木賢太
終身名誉バイ
吉田 豪
助っ人
ジャイ子
能登"読者
高橋くん
編集次長(エ
松林 貴
デザイン大将
出田さん(
デザイン司令
金井ヒサ
デザイン
松坂マツ
谷タニや
廣田ブン
野口ノグ
白木みの
トメさん
はなえちゃ
カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
タイコウク
梅木麗子
丸山剛史
お勘定
工藤ちゃ
もうすぐ節分
入江まる
雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠
助っ人営業
上野宏樹
業務部
樽本"用
編集庶務
原 正典
山内ユリ
終身名誉編
高木由美
編集チアガー
金川"漫
宮沢美奈
編集チアマ
廣橋久美
発行所
株式会社
〒102-8
☎0570
印刷
図書印刷
協力
BUSHI
FightSp
■広告掲載
株式会社
スポーツ
●本書の一
ら文書によ
複写、複製
本書の内容
記の窓口
記載以上の
かじめご了
[カスタマ
☎057
(受付時間
メールアド
●個人情報
本書にお寄
連してご提
ダブルクロ
http://ww
ポリシーの
©2009 E
Printed in

kampro 2009 131
2009年は"世界最高峰"争奪戦だ!
夢を求めるなら世界と勝負しろ!!
2009年2月5日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤慎一　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本／図書印刷株式会社

9784757746442

特別定価：本体895円＋税

雑誌 61956-92 Ⓗ2009.5

Printed in Japan 図書印刷株式会社

eb! enterbrain

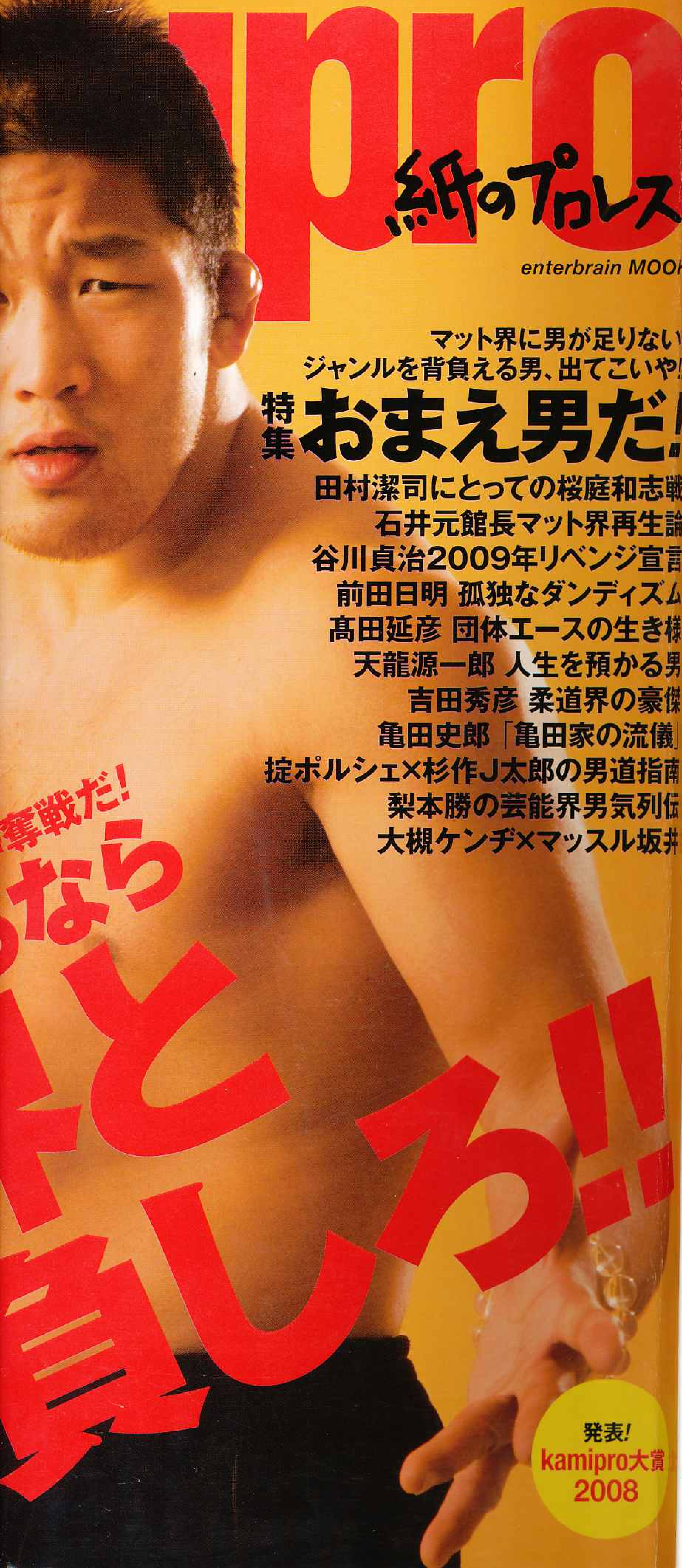
ISBN978-4-7577-4644-2
C9476 ¥895E

1929476008954

闘技&プロレスを徹底特集!!

kamipro 紙のプロレス

enterbrain MOOK



マット界に男が足りない!
ジャンルを背負える男、出てこいや!!

特集 おまえ男だ!

田村潔司にとっての桜庭和志戦
石井元館長マット界再生論
谷川貞治2009年リベンジ宣言
前田日明 孤独なダンディズム
髙田延彦 団体エースの生き様
天龍源一郎 人生を預かる男
吉田秀彦 柔道界の豪傑
亀田史郎「亀田家の流儀」
掟ポルシェ×杉作J太郎の男道指南
梨本勝の芸能界男気列伝
大槻ケンヂ×マッスル坂井

奪戦だ!
…ならとと…負しろ!!

発表! kamipro大賞 2008

kamipro 2009 131 夢を求めるなら世界と勝負しろ!! enterbrain

kamipro 2009 131 2009年は"世界最高峰"争奪戦だ! 夢を求めるなら世界と勝負しろ!!

2009年2月5日 発行人/浜村弘一 編集人/斉藤慎一 発行・発売所/株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)

特別定価: 本体895円 +税
雑誌 61956-92 Ⓗ2009.5
Printed in Japan 図書印刷株式会社